清武町埋蔵文化財調査報告書　第24集

KIYOTAKE　KAMIINOHARU

清武上猪ノ原遺跡

－1－

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書

2008

清武町教育委員会

清武町埋蔵文化財調査報告書　第24集

KIYOTAKE　KAMIINOHARU

清武上猪ノ原遺跡

－1－

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書

2008

清武町教育委員会

耳栓

巻頭カラー　1

埋設土器

掘立柱建物群

序

本書は、清武町船引地区で進められている県営農地保全整備事業に伴い、平成12・13年度事業区で実施した清武上猪ノ原遺跡（第１地区）の発掘調査報告書です。

清武上猪ノ原遺跡（第１地区）では、蒸し焼き料理をしていた集石遺構や燻製の食料を作っていた炉穴など縄文時代早期の“食”に関する様々な遺構や、弥生時代の竪穴式住居跡や古代の掘立柱建物跡など、興味深い考古資料が数多く発見されています。

今後は、これら先人達の残した貴重な郷土の文化遺産を、学校や地域と十分な連携を図りながら授業や体験講座の教材として存分に活用し、21世紀を担う子供たちの豊かな知識と誠実な心の育成に繋げていきたいと考えております。又、一般の方々が直に資料を手にとることのできるような現地見学や歴史講座などの生涯学習の機会も積極的に設け、古の人々の息吹、想い、願いをより多くの方々に感じていただけるよう努めていく所存です。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり多大な御協力をいただきました船引土地改良区をはじめとする地元の皆様に対し、心より厚く御礼申し上げます。

平成20年１月

清武町教育委員会

教育長　神川　孝志

例　　言

1. 本書は、県営農地保全整備事業（船引地区）に伴い、平成12･13年度に実施された清武上猪ノ原遺跡（第１地区）の発掘調査報告書である。
2. 調査における測量･実測については、井田篤、秋成雅博、安楽哲文及び実測補助員が行った。

（以上実測補助員）木谷彰人、田子さやか、田上智也、錦井良子（以上宮崎大学）中嶋亜希子、中村圭一、宮崎真琴（以上宮崎国際大学）　＊50音順

3. 遺物･図面の整理及び報告書作成業務については、平成19年度に清武町埋蔵文化財センターで実施した（概要報告書掲載分など一部については平成13年度に実施している）。

平成19年度　担　　当：井田、秋成

整理作業員：

＊50音順

平成13年度　担　　当：井田、秋成

整理作業員：　＊50音順

4. 本書で使用した写真については、調査に関するものは井田、秋成、安楽が撮影し、報告書掲載遺物については井田、秋成が撮影した。又、空中写真については㈱スカイサーベイに委託した。
5. 放射性炭素年代測定及び樹種同定については、㈱古環境研究所に委託した。分析結果については、本書Ｐ146からＰ152に掲載している。尚、本書で使用している放射性炭素年代測定値については、加速器質量分析法による補正^{14}Ｃ年代である。
6. 石器実測及びトレースについては、一部を民間業者（岡三リビック・アイシン精機）に委託した。なおこれらの委託業務の監修については秋成が行った。
7. 本書で使用した土層及び土器等の色調については、『新版　標準土色帖（1997年後期版）』の土色に準拠した。
8. 本書では、磁北と座標北の２種類の方位を使用している。（座標北を用いる場合のみＧ･Ｎと表示している。）又、標高については海抜絶対高である。
9. 本書に使用した記号は次のとおりである。

ＳＩ：集石遺構　ＳＣ：土坑（炉穴、陥し穴状遺構も含む）　ＳＡ：竪穴式住居跡　ＳＢ：掘立柱建物跡

10. 本書で使用した遺物番号については、各章ごとに表記している。詳細は次のとおりである。

第Ⅱ章　縄文時代草創期・早期包含層出土遺物 No.1～427　遺構内出土遺物 No.1～38

第Ⅲ章　アカホヤ火山灰層上位出土遺物 No.1～73

11. 本書で使用した土層番号については、第3図基本土層図の番号を使用している。
12. 本書の執筆と編集については井田、秋成が担当し、文責については本文目次に記している。
13. 出土遺物その他諸記録は、清武町埋蔵文化財センターに保管している。

目　次

第Ⅰ章　はじめに……（文責）

第１節　調査に至る経緯と調査組織…… 1　井田
1. 調査に至る経緯…… 1　〃
2. 調査組織…… 1　〃
第２節　遺跡の環境…… 2　〃
1. 地理的環境…… 2　〃
2. 歴史的環境…… 2　〃
3. 周辺遺跡…… 3　〃
第３節　基本土層…… 6　〃
第４節　調査の経過と方法…… 6　〃
1. 調査の経過…… 6　〃
2. 調査の方法…… 10　〃

第Ⅱ章　縄文時代草創期･早期についての調査

第１節　遺構…… 11　井田
1. 集石遺構…… 11　〃
2. 炉　穴…… 32　〃
3. 陥し穴状遺構…… 38　〃
4. 土　坑…… 41　〃
5. 遺構内遺物…… 46　井田･秋成
第２節　包含層出土遺物…… 53
1. 土器…… 53　井田
2. 土製品…… 66　〃
3. 石器…… 67　秋成

第Ⅲ章　アカホヤ火山灰層上面の調査

第１節　掘立柱建物跡…… 121　秋成
第２節　竪穴式住居跡…… 131　〃
第３節　アカホヤ火山灰層上面調査出土遺物…… 131　〃

第Ⅳ章　まとめ……

縄文時代早期遺物包含層中の石器について…… 145　秋成
古代の掘立柱建物跡について…… 〃　〃
弥生時代の住居跡について…… 〃　〃

清武上猪ノ原遺跡における自然科学分析…… 146 ～ 151

調査抄録…… 152

挿図目次

第１図　遺跡位置図（S=1/25000）…… 3
第２図　遺跡周辺地形図（S=1/2000）……5
第３図　基本土層図（S=1/30）……6
第４図　遺跡地形図【削平状況及びコンタ図】（S=1/1200）…… 7
第５図　調査区域図…… 9
第６図　縄文時代早期遺構配置図（S=1/1200）…… 12
第７図　SI－49実測図（S=1/30）…… 13
第８図　SI－39実測図（S=1/30）…… 13
第９図　SI－43実測図（S=1/30）…… 14
第10図　SI－32実測図（S=1/30）…… 15
第11図　SI－31実測図（S=1/30）…… 15
第12図　SI－33実測図（S=1/30）…… 16
第13図　SI－15実測図（S=1/30）…… 16
第14図　SI－30実測図（S=1/30）…… 17
第15図　SI－26・50実測図（S=1/30）…… 17
第16図　SI－44実測図（S=1/30）…… 18
第17図　集石遺構実測図①（S=1/30）…… 20
第18図　集石遺構実測図②（S=1/30）…… 21
第19図　集石遺構実測図③（S=1/30）…… 22
第20図　集石遺構実測図④（S=1/30）…… 23
第21図　集石遺構実測図⑤（S=1/30）…… 24
第22図　集石遺構実測図⑥（S=1/30）…… 25
第23図　集石遺構実測図⑦（S=1/30）…… 26
第24図　集石遺構実測図⑧（S=1/30）…… 27
第25図　集石遺構実測図⑨（S=1/30）…… 28
第26図　集石遺構実測図⑩（S=1/30）…… 29
第27図　炉穴実測図①（S=1/30）…… 33
第28図　炉穴実測図②（S=1/30）…… 34・35
第29図　炉穴実測図③（S=1/30）…… 36
第30図　炉穴実測図④（S=1/30）…… 37
第31図　SC－23実測図（S=1/30）…… 38
第32図　SC－9・SC －11実測図（S=1/30）…… 39
第33図　SC－2実測図（S=1/30）…… 40
第34図　SC－13実測図（S=1/30）…… 41
第35図　SC－14・SC －24実測図（S=1/30）…… 42
第36図　SC－25実測図（S=1/30）…… 43
第37図　土坑実測図①（S=1/30）…… 44
第38図　土坑実測図②（S=1/30）…… 45
第39図　遺構内遺物実測図①（土器：S=1/3　石器：S=1/2・2/3）…… 47
第40図　遺構内遺物実測図②（S=2/3）……48
第41図　遺構内遺物実測図③（土器：S=1/3　石器：S=1/2・2/3）…… 49
第42図　遺構内遺物実測図④（土器：S=1/3　石器：S=1/2・2/3）…… 50
第43図　遺構内遺物実測図⑤（土器：S=1/3　石器：S=1/2・2/3）…… 51
第44図　遺構内遺物実測図⑥（S=2/3）……52
第45図　縄文時代草創期・早期遺物分布図（S=1/1200）…… 54
第46図　縄文時代草創期・早期遺物包含層出土土器実測図（S=1/3）……55
第47図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図①（S=1/3）……56
第48図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図②（S=1/3）……57
第49図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図③（S=1/3）……58
第50図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図④（S=1/3）……59
第51図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑤（S=1/3）……60
第52図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑥（S=1/3）……61
第53図　縄文時代草創期・早期遺物包含層出土土器分布図（S=1/1200）…… 62
第54図　縄文時代早期遺物包含層出土土製品実測図（S=1/3）……66
第55図　縄文時代早期遺物包含層出土石器分布図①【狩猟具】（S=1/1200）……69
第56図　縄文時代早期遺物包含層出土石器分布図②【狩猟具以外主要石器】（S=1/1200）……70
第57図　縄文時代早期遺物包含層出土石器分布図③【主要剥片石器石材別】（S=1/1200）……71

第58図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図①（S=2/3）……72
第59図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図②（S=2/3）……73
第60図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図③（S=2/3）……74
第61図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図④（S=2/3）……75
第62図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑤（S=2/3）……76
第63図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑥（S=2/3）……77
第64図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑦（S=2/3）……78
第65図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑧（S=2/3）……79
第66図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑨（S=2/3）……80
第67図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑩（S=2/3）……81
第68図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑪（S=2/3）……82
第69図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑫（S=2/3）……83
第70図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑬（S=2/3）……84
第71図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑭（S=1/2）……85
第72図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑮（S=1/2）……86
第73図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑯（S=1/2）……87
第74図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑰（S=1/2）……88
第75図　SB－2・3・6配置図（S=/80）…… 121
第76図　古代掘立柱建物跡配置図（S=1/600）…… 122
第77図　SB－1実測図（S=1/60）…… 123
第78図　SB－2実測図（S=1/60）…… 124
第79図　SB－3実測図（S=1/60）…… 125
第80図　SB－4実測図（S=1/60）…… 126
第81図　SB－5実測図（S=1/60）…… 127
第82図　SB－6実測図（S=1/60）…… 128
第83図　古代掘立柱建物跡出土土器実測図①（S=1/3）…… 129
第84図　古代掘立柱建物跡出土土器実測図②（S=1/3）…… 130
第85図　弥生時代住居跡配置図（S=1/400）…… 132
第86図　SA－1実測図（S=1/40）…… 133
第87図　SA－2実測図（S=1/40）…… 134
第88図　SA－3実測図（S=1/40）…… 135
第89図　SA－4実測図（S=1/40）…… 136
第90図　SA－5実測図（S=1/40）…… 137
第91図　弥生時代住居跡出土遺物実測図①（S=1/3・1/2）……138
第92図　弥生時代住居跡出土遺物実測図②（S=1/3）…… 139
第93図　アカホヤ火山灰層上面調査出土遺物実測図（S=1/3）…… 139

写真図版目次

巻頭カラー１　縄文時代早期遺物包含層出土“耳栓”
巻頭カラー２　埋設土器
　　掘立柱建物群
写真図版１　平成12年度調査区（Ａ・Ｂ区）…… 1
写真図版２　平成13年度調査区（遺跡全景）…… 1
写真図版３　船引神社…… 2
写真図版４　清武の大クス…… 2
写真図版５　船引神楽①…… 2
写真図版６　船引神楽②…… 2
写真図版７　基本土層…… 6
写真図版８　Ａ区谷部縄文時代草創期・早期文化層確認トレンチ…… 10
写真図版９　Ｂ区谷部縄文時代草創期・早期文化層確認トレンチ…… 10
写真図版10　Ｄ区尾根部旧石器時代文化層確認トレンチ…… 10
写真図版11　SI－44…… 11
写真図版12　SI－43①…… 13
写真図版13　SI－43②…… 14
写真図版14　SI－32…… 15
写真図版15　SI－31…… 15
写真図版16　SI－33…… 16
写真図版17　SI－15…… 16

写真図版18　SI－30……17
写真図版19　SI－26……17
写真図版20　SC－16・32……32
写真図版21　SC－17・19……35
写真図版22　SC－23……38
写真図版23　SC－2……40
写真図版24　縄文時代早期遺構①……94
写真図版25　縄文時代早期遺構②……95
写真図版26　縄文時代早期遺構③……96
写真図版27　縄文時代早期遺構④……97
写真図版28　縄文時代早期遺構⑤……98
写真図版29　縄文時代早期遺構⑥……99
写真図版30　縄文時代早期遺構⑦……100
写真図版31　縄文時代早期遺構⑧……101
写真図版32　縄文時代早期遺構⑨……102
写真図版33　縄文時代早期遺構⑩……103
写真図版34　縄文時代早期遺構⑪……104
写真図版35　縄文時代早期遺構⑫……105
写真図版36　遺構内出土遺物①……106
写真図版37　遺構内出土遺物②……107
写真図版38　縄文時代草創期・早期遺物包含層出土土器……108
写真図版39　縄文時代早期遺物包含層出土土器①……109
写真図版40　縄文時代早期遺物包含層出土土器②……110
写真図版41　縄文時代早期遺物包含層出土土器③……111
写真図版42　縄文時代早期遺物包含層出土土器④……112
写真図版43　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑤……113
写真図版44　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑥及び土製品……114
写真図版45　縄文時代早期遺物包含層出土石器①……115
写真図版46　縄文時代早期遺物包含層出土石器②……116
写真図版47　縄文時代早期遺物包含層出土石器③……117
写真図版48　縄文時代早期遺物包含層出土石器④……118
写真図版49　縄文時代早期遺物包含層出土石器⑤……119
写真図版50　縄文時代早期遺物包含層出土石器⑥……120
写真図版51　アカホヤ火山灰層上面検出遺構①……140
写真図版52　アカホヤ火山灰層上面検出遺構②（SB－2～6　北から）……141
写真図版53　古代掘立柱建物跡出土土器……141
写真図版54　アカホヤ火山灰層上面検出遺構③……142
写真図版55　アカホヤ火山灰層上面検出遺構④……143
写真図版56　アカホヤ火山灰層上面検出遺構⑤……144
写真図版57　アカホヤ火山灰層上面調査出土遺物……144

表　目　次

第１表　近隣遺跡発掘調査状況一覧（清武町教育委員会調査分）……4
第２表　集石遺構観察表……30・31
第３表　炉穴観察表……37
第４表　陥し穴状遺構観察表……40
第５表　遺構内出土土器観察表……46
第６表　遺構内出土石器計測分類表……46
第７表　縄文時代草創期・早期遺物包含層出土土器観察表……63～65
第８表　縄文時代草創期・早期遺物包含層出土土製品観察表……66
第９表　縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表……89～93
第10表　古代掘立柱建物跡出土土器観察表①……127
第11表　古代掘立柱建物跡出土土器観察表②……128
第12表　古代掘立柱建物跡出土土器観察表③……130
第13表　アカホヤ火山灰層上面調査出土石器・土製品計測分類表……133
第14表　弥生時代住居跡出土土器観察表……134
第15表　アカホヤ火山灰層上面調査出土土器観察表①……134
第16表　アカホヤ火山灰層上面調査出土土器観察表②……136

第Ⅰ章　はじめに

第１節　調査に至る経緯と調査組織

1. 調査に至る経緯

平成７年度より実施されている県営農地保全整備事業（船引地区）に伴い、事業区に清武上猪ノ原遺跡（第１地区）の一部が含まれることが宮崎県教育委員会文化課の試掘結果等により明らかになった。遺跡の取扱いについて、宮崎県教育委員会文化課、宮崎県中部農林振興局、船引地区土地改良区、清武町教育委員会など関係各局で協議を重ねた結果、やむを得ず削平などにより遺跡の現状保存が困難な事業区について、宮崎県中部農林振興局からの委託を受けた清武町教育委員会が発掘調査を実施することとなった。

調査は平成12年度（平成12年12月11日～平成13年3月30日）、13年度（平成13年4月2日～平成13年11月16日）の２ヶ年度にわたって行われ、調査面積については14,000㎡であった。

2. 調査組織

調査主体　　清武町教育委員会

調　　査　（平成12･13年度）

事　務　局

教育長	湯地　敏郎
教育次長	田宮　防太郎
社会教育課長	川越　繁美
〃　係長	川越　健
〃　主査	伊東　但

調　査　員

社会教育課主事	井田　篤
〃　嘱託職員	安楽　哲文（H12.12～ H13.3）
	秋成　雅博（H13.4～ H14.3）

整理作業　（平成19年度）

事　務　局

教育長	水元　三千夫（～ H19.5）
	神川　孝志　（H19.6～）
教育次長	小城　員久　（～ H19.8）
生涯学習課長	落合　兼雄　（～ H19.8）
	長友　公春　（H19.9～）
〃　補佐	窪田　清士　（～ H19.8）
	内藤　和弘　（H19.9～）
〃　係長	伊東　但

調　査　員

生涯学習課主任	井田　篤
〃　主事	秋成　雅博
〃　嘱託職員	今村　結記

写真図版1　平成12年度調査区（A・B 区）

写真図版2　平成13年度調査区（遺跡全景）

第２節　遺跡の環境

1. 地理的環境

清武町は、県内最大の宮崎平野の南端に位置し、県都宮崎市の南西に隣接している。町内ほぼ中央には清武川が東流し、河川周辺には沖積地や河岸段丘がみられその上位には台地が発達している。

清武上猪ノ原遺跡（第１地区）は、町内西方の標高約70m～75mの台地上に位置している。この台地は、大淀川南岸丘陵とよばれる四万十層群からなる標高200m～400m丘陵が、高岡方面から東に向かってしだいに低くなり平坦な台地地形へと変化したもので、地質は宮崎平野の基盤である宮崎層群の上位にシラスや火山灰等が堆積して形成されたものである。尚、このシラス台地上及び崖面には、湧水点が数多く点在しており、遺跡が立地するうえでの好条件の一つであった考えられる。

2. 歴史的環境

上猪ノ原遺跡（第１地区）は、清武町内船引地区に所在する。船引の名が歴史上に登場するのは古代末から中世にかけてである。建久八（1197）年鎌倉幕府が各国の現地役人に命じて作成させた『建久の図田帳』には、「船曳五十町、右宮崎郡内　弁済使法印、不知實名、」とあり、平安末には宇佐八幡宮と強い結びつきをもった荘園がこの地に存在していたのではないかと推測される。

室町・戦国期においては、この地は主に伊東氏の所領であったが、豊臣秀吉の九州征伐後高橋元種の所領となり、江戸時代初期には幕府領（天領）となっている。加納・木原・今泉といった清武町内の他の地区は、秀吉により伊東祐兵に与えられ江戸時代を通じて飫肥藩領であったため、現在の清武町においては船引地区だけが異なる支配体制のもと近世という時を刻んだこととなる。

明治維新後は、船引村として清武郡治所の管轄下となり、明治24（1891）年には清武村、昭和25（1950）年には清武町の一地区として、現在も発展を続けている。

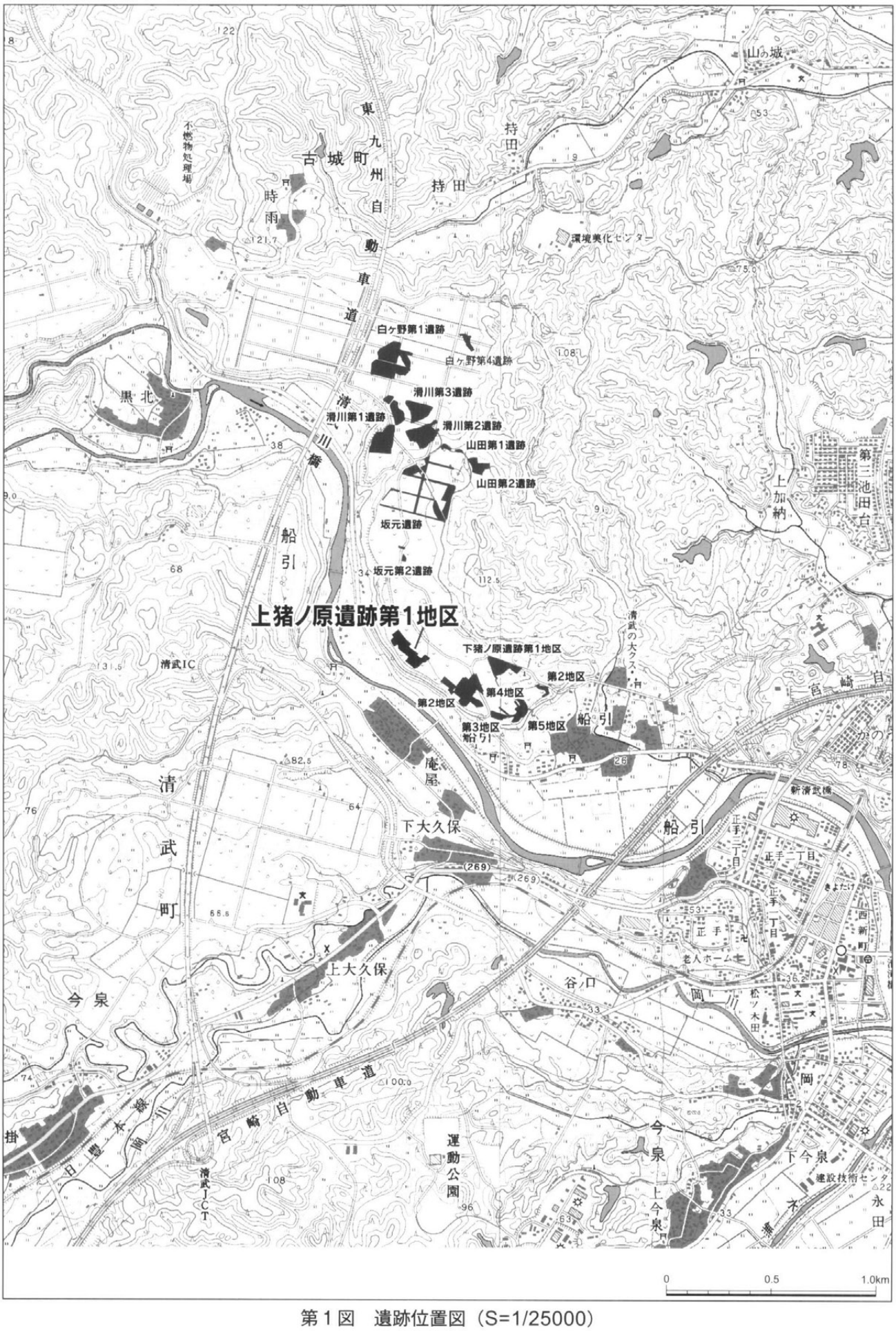
又、江戸時代の中期には定着していた“船引神楽”は、主に稲作豊穣と子孫繁栄を祈願して春（春分の日）に奉納される作祈祷神楽であるが、数多くの番数が今も尚伝承されていることから、県の無形民俗文化財に指定されている。

写真図版3
船引神社

写真図版5
船引神楽①

写真図版4
清武の大クス

写真図版6
船引神楽②



第１図　遺跡位置図（S=1/25000）

3. 周辺遺跡

清武上猪ノ原遺跡（第１地区）が立地する台地上では、平成３年頃から県営農地保全整備事業（時屋工区）、東九州自動車道建設、県営農地保全整備事業（船引工区）などの大型公共工事が相次ぎ、それに伴う発掘調査も宮崎県教育委員会や清武町教育委員会によって数多く実施されている。

尚、当教育委員会によって近隣で実施された発掘調査については、次の第１表のとおりである。

第１表　近隣遺跡発掘調査状況一覧（清武町教育委員会調査分）

No	遺跡名	調査期間	面積（㎡）	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査担当者
1	白ヶ野第１遺跡	H7.11.22～ H8.3.14 H8.7.22～ H8.12.28	17,200	縄文時代（早期～前期）·古代	集石遺構·土坑	縄文式土器·石器	伊東但 井田篤
		＜報告書名＞清武町埋蔵文化財調査報告書第13集『白ヶ野第１·第４遺跡』					
2	白ヶ野第４遺跡	H8.7.22～ H8.11.10	1,900	縄文時代早期	集石遺構·土坑	縄文式土器·石器	井田篤
		＜報告書名＞清武町埋蔵文化財調査報告書第13集『白ヶ野第１·第４遺跡』					
3	滑川第１遺跡	H9.5.6～ H9.10.14 H10.5.6～ H11.3.31	17,620	縄文時代（早期～後期）·弥生·古墳·古代	集石遺構·炉穴·土坑·竪穴式住居跡	石器·縄文式土器·弥生式土器·土師器·須恵器	井田篤 （松原一哉）
		＜報告書名＞清武町埋蔵文化財調査報告書第21集『滑川第１遺跡』					
4	滑川第２遺跡	H9.8.1～ H10.3.31 H10.5.6～ H11.3.31	10,420	旧石器·縄文·弥生·古墳·古代	礫群·集石遺構·土坑·竪穴式住居跡	石器·縄文式土器·弥生式土器·土師器	井田篤 （松原一哉）
		＜報告書名＞清武町埋蔵文化財調査報告書第22集『滑川第２遺跡』					
5	滑川第３遺跡	H9.8.1～ H10.3.31	6,940	旧石器·縄文·弥生	礫群·集石遺構·陥し穴状遺構·土坑	石器·縄文式土器·弥生式土器	井田篤
		＜報告書名＞清武町埋蔵文化財調査報告書第23集『滑川第３遺跡』					
6	山田第１遺跡	H11.4.28～12.3.30 H12.7.10～ H12.8.4	7,700	旧石器·縄文·弥生·古墳	集石遺構·陥し穴状遺構·炉穴·竪穴式住居跡	石器·縄文式土器·弥生式土器	井田篤 （松原一哉）
		＜報告書名＞清武町埋蔵文化財調査報告書第18集『山田第１遺跡』					
7	山田第２遺跡	H11.4.48～12.3.30	4,300	縄文·弥生·古代	集石遺構·陥し穴状遺構·炉穴	石器·縄文式土器	井田篤 （松原一哉）
		＜報告書名＞清武町埋蔵文化財調査報告書第20集『山田第２遺跡』					
8	坂元遺跡	H12.4.25～12.12.18	9,000	旧石器·縄文	集石遺構·陥し穴状遺構·炉穴·竪穴式住居跡	石器·縄文式土器	井田篤 （松原一哉） （安楽哲文）
		＜報告書名＞清武町埋蔵文化財調査報告書第15集『坂元遺跡』					
9	坂元第２遺跡	H16.7.2～ H17.1.11	530	旧石器·縄文·中近世	溝状遺構	縄文式土器·石器	井田篤 （若杉知和）
		＜報告書名＞清武町埋蔵文化財調査報告書第16集『坂元第２遺跡』					
10	清武上猪ノ原遺跡第２地区	H13.10.23～14.12.9	15,200	旧石器·縄文·中近世	集石遺構·陥し穴状遺構·炉穴·溝状遺構·土坑	縄文式土器·石器	井田篤 秋成雅博 （富田卓見）
11	清武上猪ノ原遺跡第３地区	H14.11.21～15.9.19	2,000	旧石器·縄文·中世	集石遺構·陥し穴状遺構·道路状遺構	縄文式土器·石器	井田篤 （富田卓見）
12	清武上猪ノ原遺跡第４地区	H15.9.22～16.7.23	1,300	旧石器·縄文·中世	掘立柱建物跡·集石遺構·陥し穴状遺構·埋設土器	縄文式土器·石器	井田篤 （富田卓見） （若杉知和）
13	清武上猪ノ原遺跡第５地区	H17.7.26～現在調査実施中					
14	下猪ノ原遺跡第１地区	H14.12.9～15.12.24	7,000	旧石器·縄文·弥生·中世	礫群·集石遺構·陥し穴状遺構·土壙墓·道路状遺構	石器·石製品·縄文式土器	秋成雅博
15	下猪ノ原遺跡第２地区	H16.4.26～17.2.17	1,200	旧石器·縄文·弥生·中近世	集石遺構·陥し穴状遺構·炉穴·埋設土器	縄文式土器·石器	秋成雅博 （草野美香）
16	五反畑遺跡	H19.6.1～現在調査実施中					

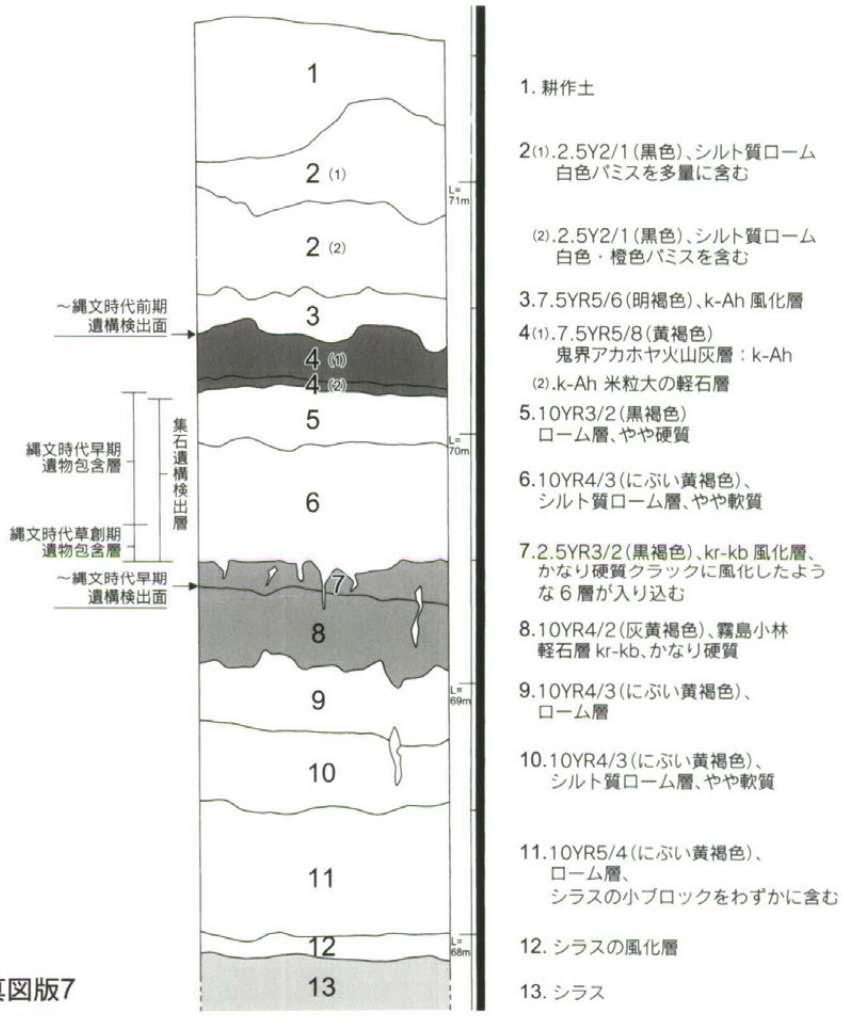
第2図　遺跡周辺地形図（S=1/2000）

第３節　基本土層

今回の調査区は大別して尾根部と谷部があり、基本的な層序にはほとんど違いは見られなかった。但し、その地形的特長から、堆積する層の厚みには若干の違いが見られ、特にアカホヤ火山灰層上位については谷部がかなり厚い堆積状況であった。

調査の鍵となる層は当台地上の他遺跡同様アカホヤ火山灰層と霧島小林火山灰層で、両層を主たる遺構検出面として調査を進めていった。又、各遺物包含層については下記第３図のとおりであるが、第６層の縄文時代草創期遺物包含層については、質・色ともその上層との違いが見極めにくい状況であった。

写真図版7
基本土層



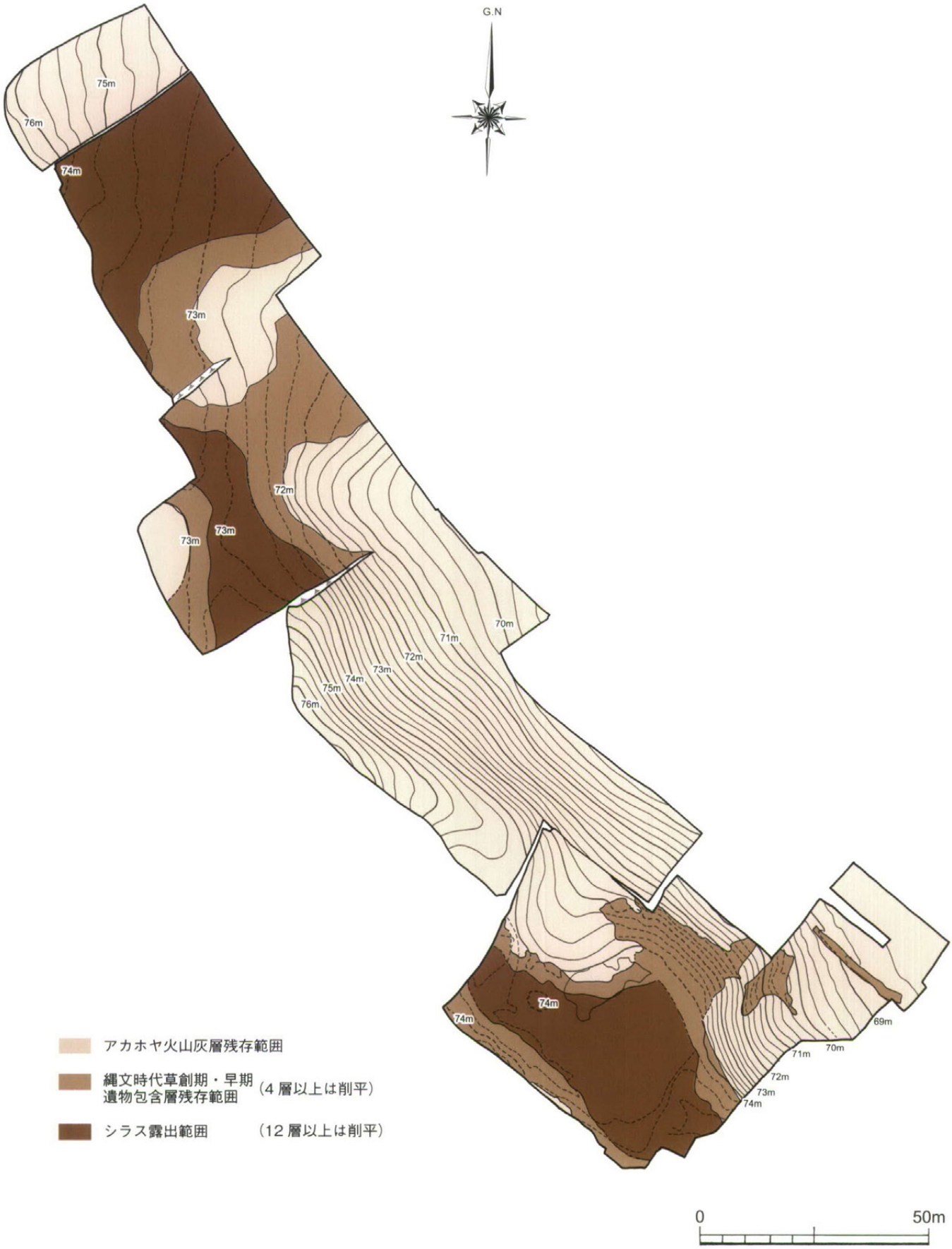
第３図　基本土層図（S=1/30）

第４節　調査の経過と方法

1. 調査の経過

≪A区≫

A区については、調査前にみかん畑が広がり、その根により文化層がかなりの影響を受けていた。そのためアカホヤ火山灰層は一部残っていたものの、その上面での遺構検出は困難と判断し、表土とともにアカホヤ火山灰層まで重機により剥ぎ取った。調査は縄文時代早期文化層の上面からのスタートとなったが、遺物･遺構が谷部より尾根部に集中するのではないかと判断したため、まず谷部でのトレンチによる確認調査を実施（小林軽石層上面まで）、遺物の出土もほとんどみられず遺構も確認されなかったため、尾根部の包含層の掘り下げに全力を傾けた。尾根部では土器や石器が多数出土するとともに、集石遺構や陥し穴状遺構が検出され、掘り下げ作業と並行して記録作業を行った。



第4図 遺跡地形図【削平状況及びコンタ図】（S＝1/1200）

尚、縄文時代草創期·早期の文化層の調査を実施した後、トレンチによる旧石器時代の確認調査を尾根部で行った。

H12.12.11　表土剥ぎ取り（A 区⇒B 区）

↓

H12.12.19　基準杭の設定（＊ジパングサーベイによる）

↓

H12.12.20　表土剥ぎ取り直後の等高線測量（アカホヤ火山灰軽石層下面）

↓

H13. 1.10　遺物包含層（縄文時代草創期·早期）掘り下げ作業及び遺構の記録作業

↓

H13. 7.19　A 区調査終了

≪B区≫

B区については、重機による表土剥ぎ取りを行ったところ、尾根部は現代の耕作によりかなり削平を受けていて、すでにシラスまで露出している範囲も確認された。縄文時代草創期·早期の文化層が残存する範囲が、谷部へ下る緩斜面のみであったため、A区同様まず谷部の確認調査を行った後、その残存部分の掘り下げ作業を進めていった。削平を受けた尾根部からは、集石遺構が検出されたが、掘り込みの一部（なかにはかなりの部分を）を削られた状態のものが多数を占めていた。又、谷部へ下る南東向きの緩斜面では炉穴が数基検出され、集石遺構同様掘り下げ作業と並行して記録作業を行った。

尚、縄文時代草創期·早期の文化層の調査を実施した後、トレンチによる旧石器時代の確認調査を行った。

H12.12.11　表土剥ぎ取り（A 区⇒B 区）

↓

H13. 3.16　基準杭の設定（＊調査員による）、等高線測量（アカホヤ火山灰層下面）、
遺構の記録作業

↓

H13. 4. 2　遺物包含層（縄文時代草創期·早期）掘り下げ作業

↓

H13.11. 9　B区調査終了

≪C区≫

C区については、現代耕作の整地により上下２段になっていた。下段については、重機による剥ぎ取り作業を行ったところかなりの削平を受けていて、遺物包含層はほとんど残存していない状況であった。ただし、竪穴式住居跡の柱穴の下部や陥し穴状遺構など数種類の遺構は検出され、その遺構については記録作業を行った。又、上段については、A区同様アカホヤ火山灰層まで重機で取り除き、その後縄文時代草創期·早期の遺物包含層の掘り下げ作業を行った。その際、集石遺構や焼礫が検出されたため、掘り下げ作業と並行して遺構の記録作業を行った。

尚、上段においては、縄文時代草創期·早期の文化層の調査を実施した後、トレンチによる旧石器時代の確認調査を行った。

H13. 5.10　表土剥ぎ取り

↓

H13. 5.25　等高線測量（アカホヤ火山灰層下面）

↓

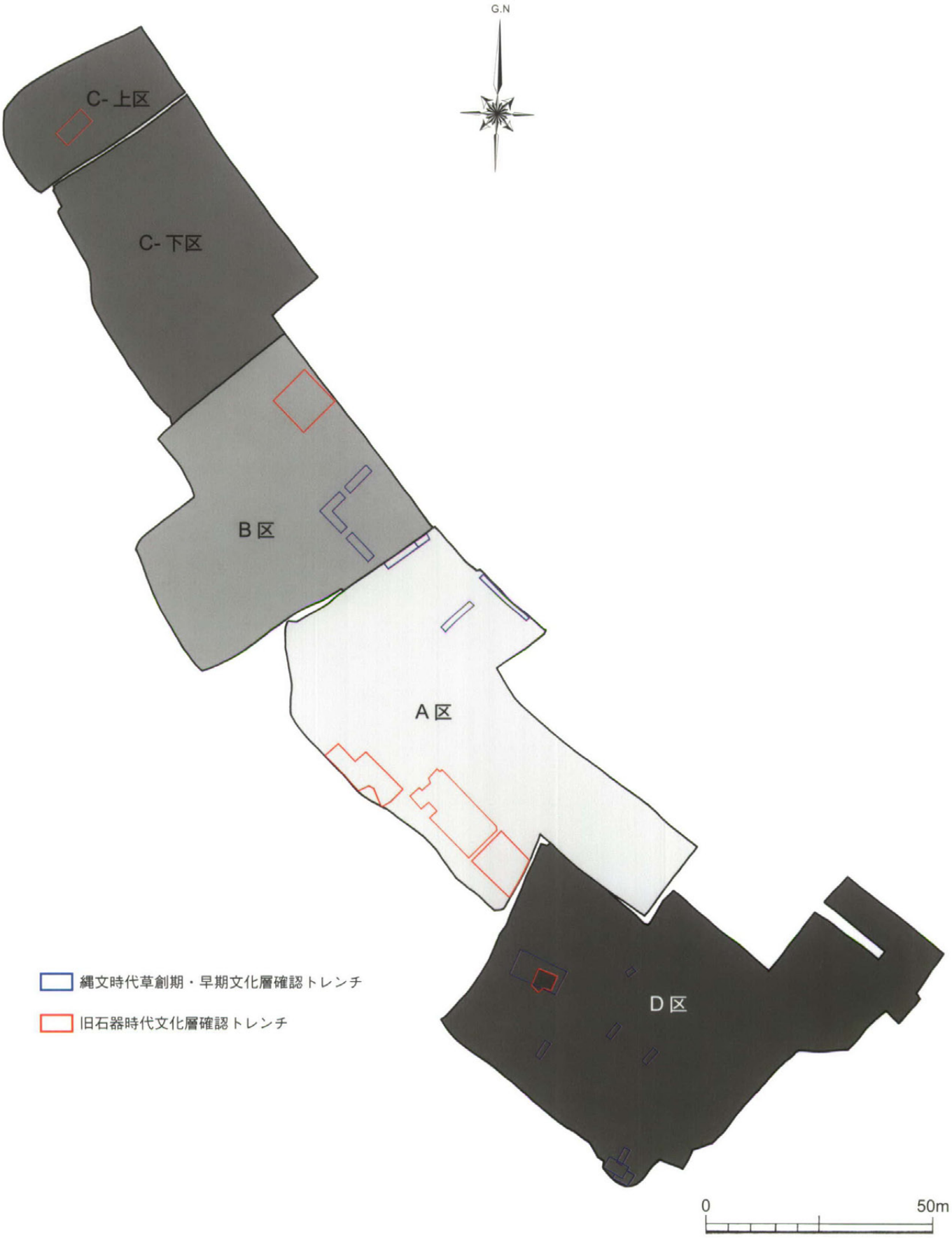
H13. 6. 7　遺物包含層（縄文時代早期）掘り下げ作業

↓

H13. 7.13　遺構の記録作業

↓

H13.11. 9　C区調査終了



第５図　調査区域図（S ＝1/1200）

≪D区≫

D区については、重機による表土剥ぎ取りを行ったところ、尾根部はかなり削平されていたうえに現代耕作による撹乱も受けていた。調査はまずアカホヤ火山灰層が残存している谷部及び傾斜地での遺構の確認作業から実施し、そこで検出された掘立柱建物跡などの記録作業を行った。その後、尾根部を中心に縄文時代早期の遺物包含層を掘り下げ、その際検出された集石遺構や土坑の記録作業を並行して行った。

尚、縄文時代草創期·早期の文化層の調査を実施した後、トレンチによる旧石器時代の確認調査を尾根部で行った。

H13. 7. 2　表土剥ぎ取り

↓

H13. 7.17　測量作業

↓

H13. 7.18　アカホヤ火山灰層上面での遺構の検出作業及び記録作業

↓

H13. 7.30　遺物包含層（縄文時代早期）掘り下げ作業

↓

H13.11.16　D区調査終了

写真図版8
A区谷部
縄文時代草創期・早期文化層確認トレンチ

写真図版10　D区尾根部
旧石器時代文化層確認トレンチ

写真図版9
B区谷部
縄文時代草創期・早期文化層確認トレンチ

2. 調査の方法

表土等の剥ぎ取り：調査員の指示のもと重機を使用して実施した。

基準杭の設定：ほとんどは業者に委託し、補助的な部分は調査員が行った。

遺物包含層の掘り下げ作業：主にジョレン・ねじり鎌で行なった。包含層中に存在する遺構の検出作業も兼ねているので、一枚一枚包含層を剥ぐ意識を作業員に徹底させ丁寧に行なった。

遺構実測：遺構のサイズに応じて1/10又は1/20で作図した。

測量関係：光波測量器及びデータコレクタを使用し、現場でデータを収集した後、清武町文化財管理事務所（現清武町埋蔵文化財センター）において、AUTOCADを利用してデジタルデータとして整理・管理した。

写真撮影：6×6・6×9版モノクロ・リバーサル、35mmモノクロ・リバーサル写真を併用し空中写真については業者に委託した。

第Ⅱ章　縄文時代草創期・早期についての調査

第1節　遺　構

今回の調査において確認された縄文時代草創期･早期の遺構は、集石遺構55基、炉穴８基、陥し穴状遺構４基、土坑18基である。

1. 集石遺構

集石遺構の検出状況は次のとおりである。

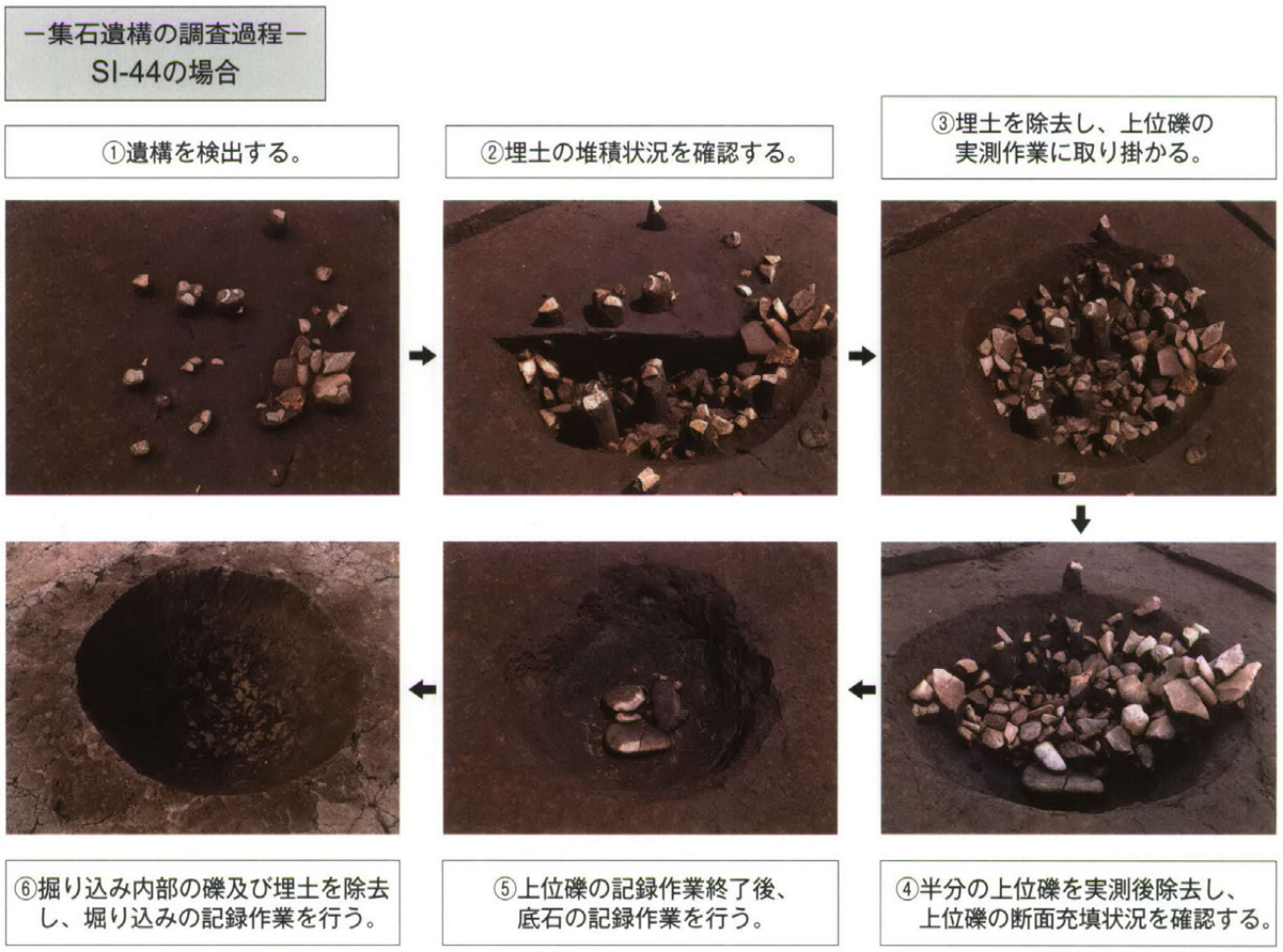
a．縄文時代草創期･早期の遺物包含層を掘り下げていたところ、礫が集中する範囲や黒い丸いシミが確認され、そこを丁寧に精査したところ集石遺構が検出された。

b．現代耕作により縄文時代草創期･早期の遺物包含層が削平されている調査区で、集石遺構の一部が既に破壊され、残存部分が露出した状態で検出された。

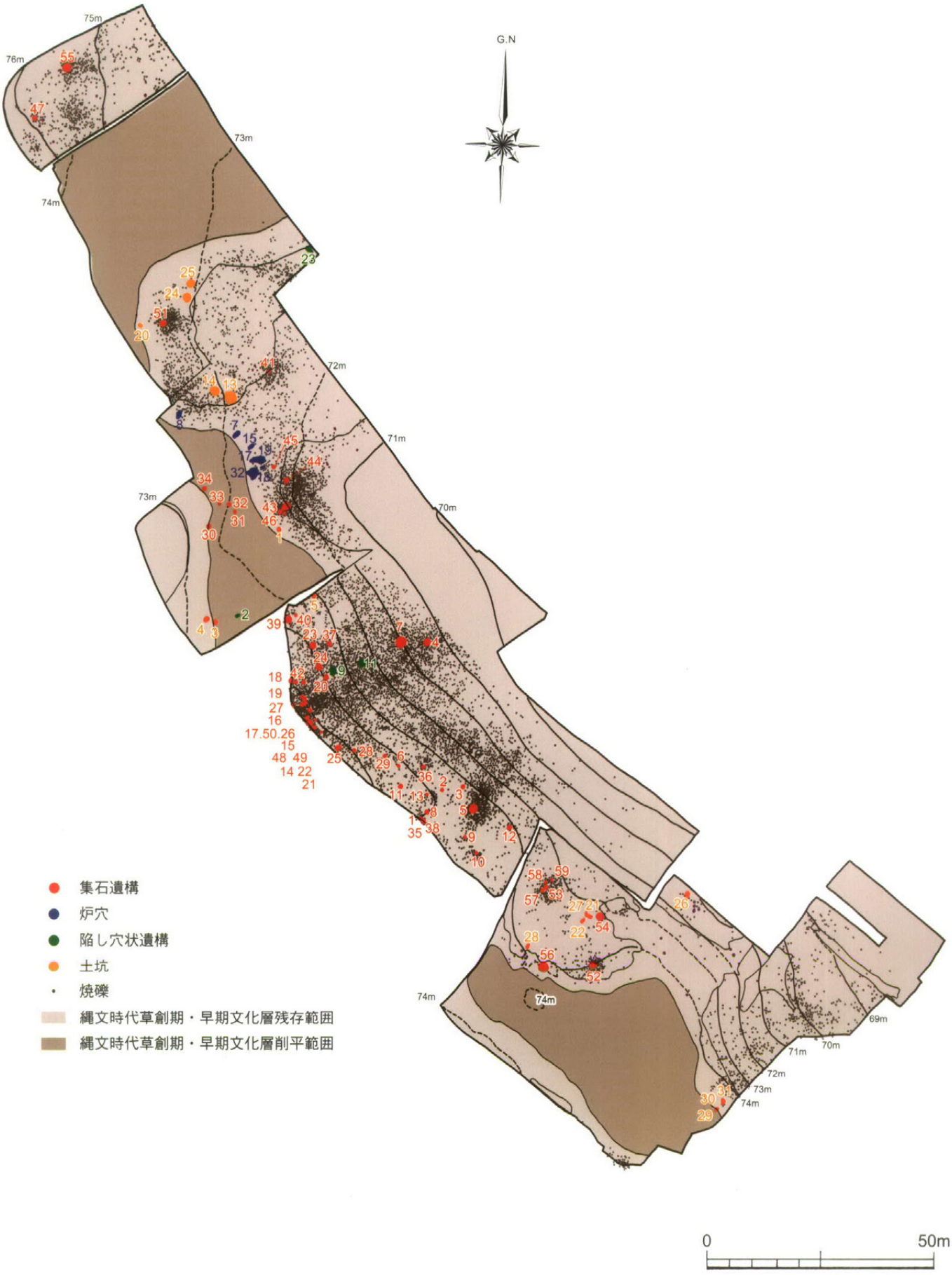
また、集石遺構の調査については

①遺構を検出する。⇒　②埋土の堆積状況等を確認するために、掘り込み上位の埋土の半分を取り除く。⇒　③埋土の堆積状況を確認したあと残りの埋土を取り除き、礫の実測作業を行う。⇒　④半分の使用礫を実測後取り除き、使用礫の充填断面状況を確認する。⇒　⑤使用礫の記録作業終了後、底石の記録作業を行う。⇒　⑥掘り込み内部の使用礫及び埋土を取り除き、掘り込みの記録作業を行う。

という順序で実施した。(検出状況によっては、かならずしも全工程を経ていない)



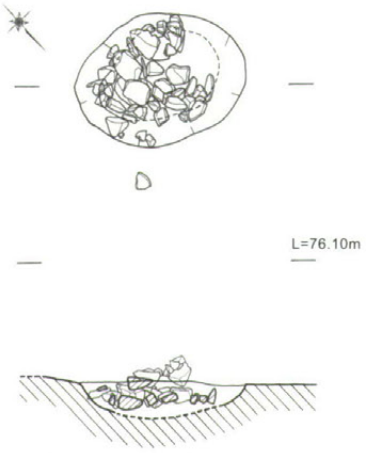
写真図版11　SI－44



第６図　縄文時代早期遺構配置図（S ＝1/1200）

SI －49

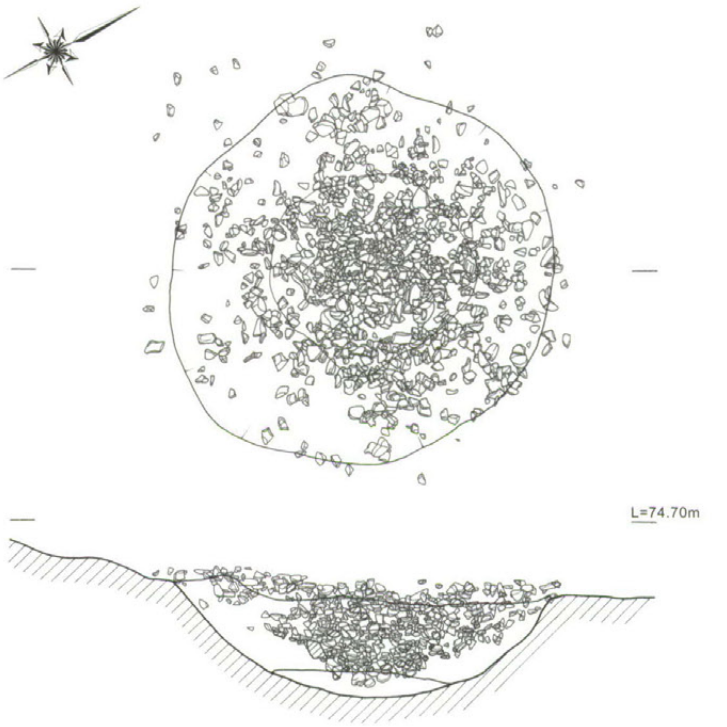
縄文時代早期の遺物の出土がほとんどなくなった６層最下位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面が浅皿状である。検出された状況や層位からみて、縄文時代草創期に使われた可能性もあるのではないかと推測される。



第７図　SI －49実測図（S=1/30）

SI －39

６層中位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面がボウル状である。使用礫は亜円礫や角礫がほとんどで、他と比較してやや小ぶりな印象をうける。礫の充填状況については、やや密な状態で掘り込みの中央に集中していた。埋土は炭化粒を含む茶黒色で、その炭化粒を利用した放射性炭素年代測定では、遺構の使用時期が9800±40年 BP という結果がでている。



第８図　SI －39実測図（S=1/30）

SI －43

６層中位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面がＶ字状である。

使用礫は円礫や亜円礫が多く、他と比較してやや大ぶりな印象をうける。礫の充填状況については、掘り込みにぎっしりと詰まったかなり密な状態で、掘り込みの底には人頭大の扁平な石が３個配置

《検出状況》（東から）

写真図版12　SI －43①

されていた。また、礫間の埋土は炭化材を含む黒色土で、その炭化材を利用した放射性炭素年代測定では、遺構の使用時期が8160±40年 BP という結果がでている。

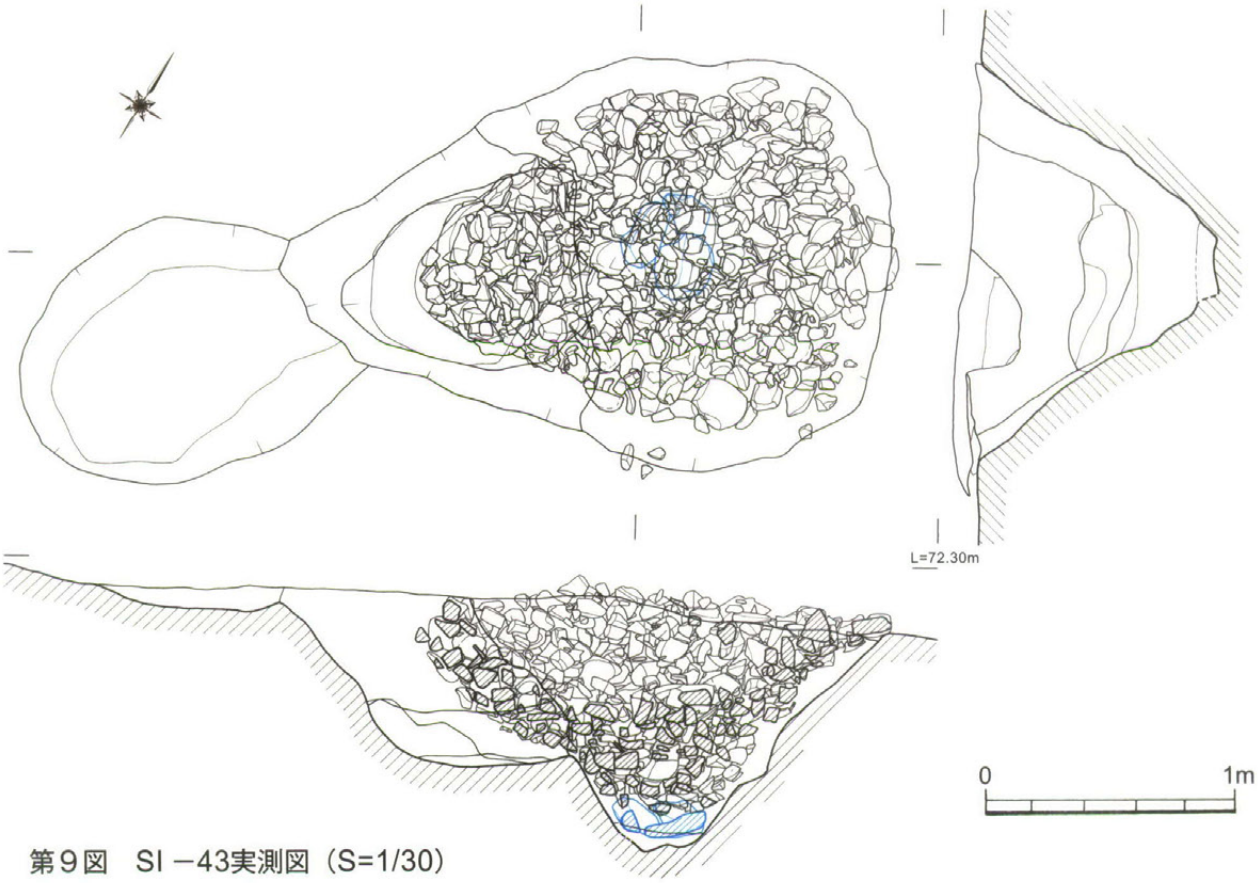
尚、この集石遺構については、先に構築された炉穴の足場をきる状態で作られているが、炉穴の使用時期が明らかでないため、それが意図したものなのかどうかは分からない。

《埋土確認状況》
（南から）

《実測前状況》（南から）

《堀り込み完掘状況及び底石》（東から）

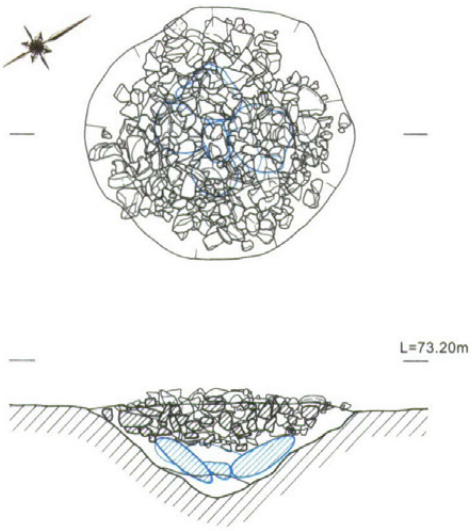
写真図版13　SI －43②



第９図　SI －43実測図（S=1/30）

SI －32

縄文時代草創期･早期の遺物包含層が削平された調査区の８層（霧島・小林軽石層）中位で検出された。遺構の大部分は破壊されているものと推測されるが、掘り込みの形状は平面が円形で断面がＶ字状である。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、その充填状況は密な状態で、掘り込みの底には扁平な石が５個配置されていた。また、掘り込みの底部付近では、壁面が赤く焼けた状況が確認されている。



第10図　SI －32実測図（S=1/30）

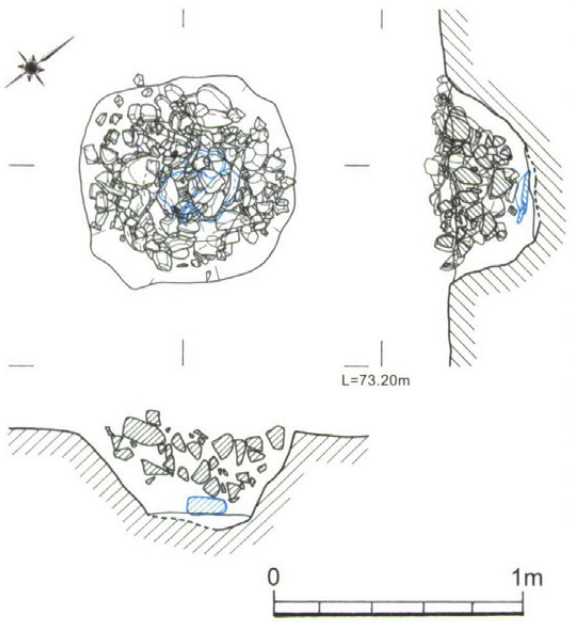
《底石除去状況》（北東から）

↑底石

写真図版14　SI －32

SI －31

縄文時代草創期･早期の遺物包含層が削平された調査区の13層（シラス）上面で検出された。遺構の大部分は破壊されているものと推測されるが、掘り込みの形状は平面が円形で断面がＶ字状である。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、その充填状況は密な状態で、掘り込みの底には扁平な石が３個配置されていた。また、礫間の埋土は炭化材を含む黒色土で、その炭化材を利用した放射性炭素年代測定では、遺構の使用時期が8230±50年 BP という結果がでている。



第11図　SI －31実測図（S=1/30）

《実測前状況》
（北東から）

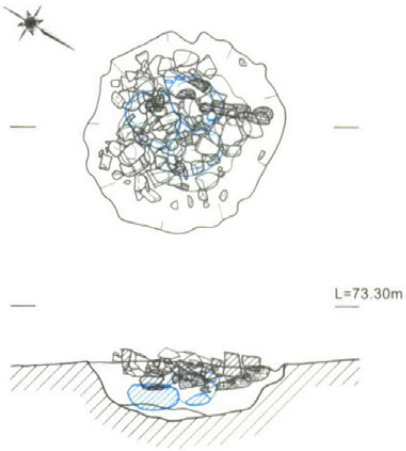
《上部礫除去状況》
（北東から）

《断面状況》
（北東から）

写真図版15　SI －31

SI －33

縄文時代草創期･早期の遺物包含層が削平された調査区の８層（霧島･小林軽石層）中位で検出された。遺構の大部分は破壊されているものと推測されるが、掘り込みの形状は平面が円形で断面がＶ字状である。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、その充填状況は密な状態で、掘り込みの底には扁平な石が３個配置されていた。また、礫間の埋土は炭化材を含む黒色土で、他と比較すると炭化材が多く含まれ粘性が強いものであった。



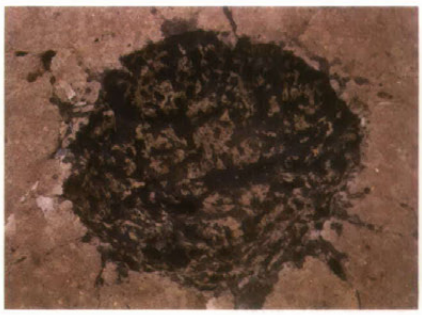
第12図　SI －33実測図(S=1/30)

《検出状況》（北東から）

《礫及び埋土確認状況》（北東から）

《上部礫除去状況》（北東から）

《底石除去状況》（北東から）

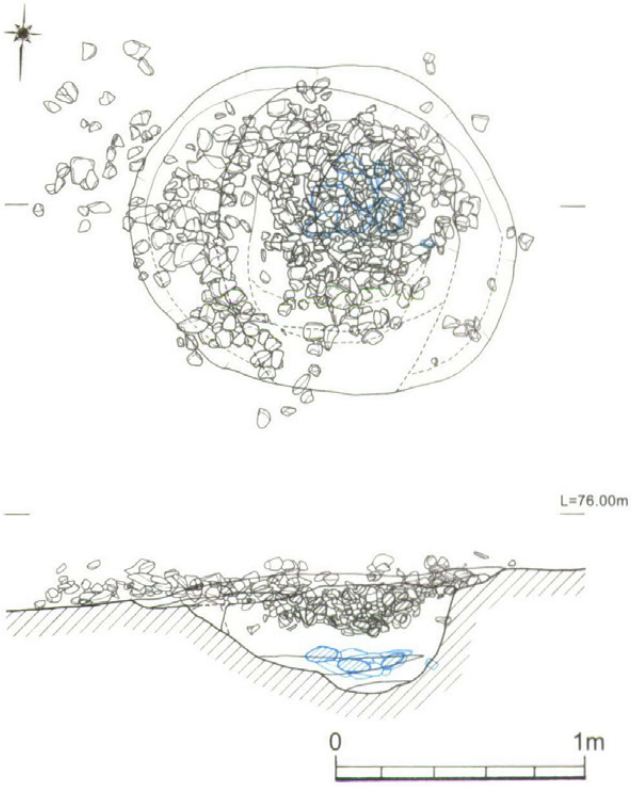


《堀り込み完掘状況》（北東から）

写真図版16　SI －33

SI －15

６層中位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面がボウル状である。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、充填状況についてはやや密な状態であった。また、掘り込みの底には、扁平な石が数個配置されていた。



第13図　SI －15実測図(S=1/30)

《実測前状況》（北西から）

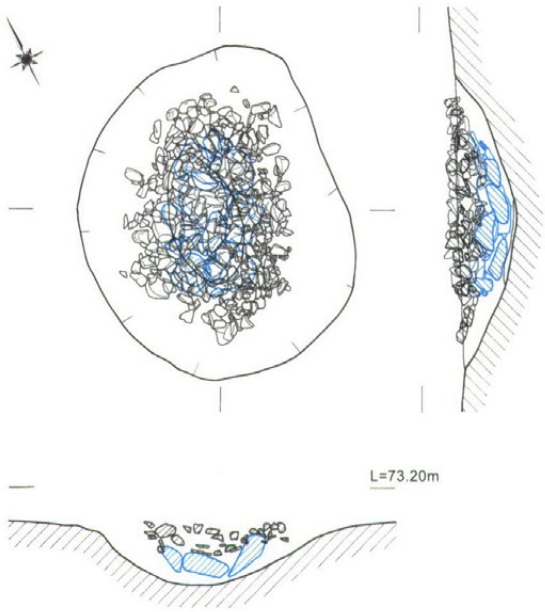
↑底石（北から）

写真図版17　SI －15

《実測前状況》
（北東から）

《礫及び埋土確認状況》
（東から）

写真図版18　SI －30



第14図　SI －30実測図（S=1/30）

SI －30

縄文時代草創期･早期の遺物包含層が削平された調査区の８層（霧島・小林軽石層）中位で検出された。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、充填状況はやや密な状態で掘り込み中央に集中していた。また、掘り込みの底には、扁平な石が数個配置されていた。

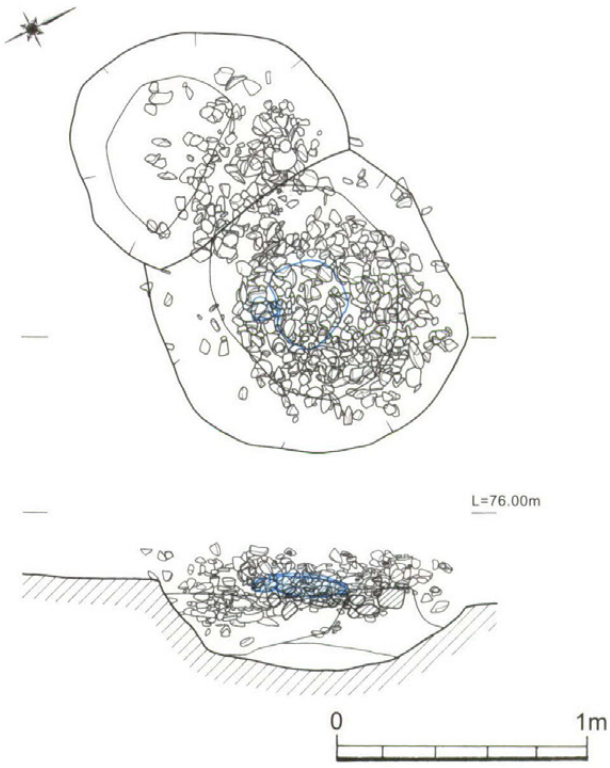
SI －26・50

互いの端部が切り合う状態で、６層中位において検出された。掘り込みはいずれも平面形が円形で断面がボウル状である。SI-26の使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、充填状況はやや密な状態で掘り込み中央に集中していた。SI-50の使用礫は亜角礫が多く、充填状況はかなり疎らな状態であった。また、SI-26の掘り込みの底には、扁平な石が１個配置されていた。

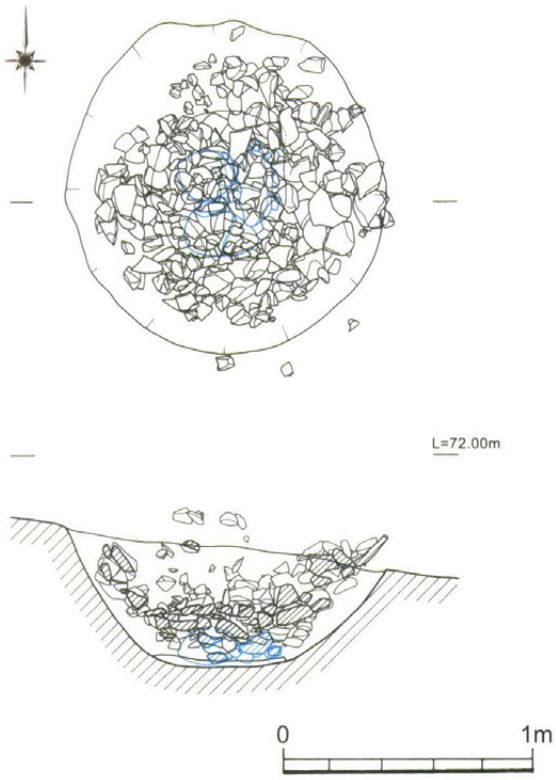
《実測前状況》
（東から）

底石→
（南東から）

写真図版19　SI －26



第15図　SI －26・50（S=1/30）



第16図　SI －44実測図(S=1/30)

SI －44

6層中位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面がボウル状である。使用礫は亜円礫が多く、充填状況は密な状態であった。また、掘り込みの底には人頭大の扁平な石が3個配置されていた。

SI －51

6層中位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面がボウル状である。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、充填状況は密な状態であった。

SI －23

6層中位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面がボウル状である。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、充填状況は密な状態であった。

SI －41

6層中位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面が皿状である。使用礫は亜円礫が多く、充填状況は密な状態であった。

SI － 5

6層上位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面が皿状である。使用礫は亜角礫や角礫が多く、他と比較するとやや小ぶりな印象を受ける。又、充填状況はかなり密な状態であった。

SI －52

6層上位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面が皿状である。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、充填状況は密な状態であった。

SI －45

6層上位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面が浅皿状である。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、充填状況は密な状態であった。

SI －11

6層中位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面が浅皿状である。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、充填状況はやや疎らな状態であった。

SI －14

6層中位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面が皿状である。使用礫は亜角礫や角礫が多く、充填状況はやや疎らな状態であった。

SI －19

SI-18と掘り込みの一部が切り合う状態で、6層中位において検出された。掘り込みの形状は平面が円形で断面がボウル状である。使用礫は円礫や亜円礫が多く、充填状況は密な状態であった。

SI －22

6層中位で検出され、掘り込みの形状は平面が楕円形で断面が皿状である。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、充填状況はやや密な状態であった。

SI －34

6層中位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面が皿状である。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、充填状況はやや密な状態で、掘り込みの中央に集中していた。

SI － 2

5層下位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面が皿状である。使用礫は亜角礫や角礫が多く、充填状況はやや密な状態であった。礫間の埋土については、炭化物を含まない黄褐色砂質ローム土で、6層ないし8·13層で検出された集石遺構とは、かなり土質がちがっていた。

SI－25

6層中位で検出され、掘り込みの形状は平面が楕円形で断面がボウル状である。使用礫は亜角礫や角礫が多く、充填状況はやや疎らな状態であった。

SI－13

6層上位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面が浅皿状である。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、充填状況はやや密な状態であった。また、埋土が検出層である6層によく似ており、掘り込みのプランが把握しにくい状況であった。

SI－6

6層上位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面が皿状である。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、充填状況はやや疎らな状態であった。

SI－48

6層中位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面がボウル状である。使用礫は亜角礫や角礫が多く、充填状況はやや疎らな状態であった。

SI－3

5層下位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面が皿状である。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、充填状況は疎らな状態であった。

SI－18

SI-19と掘り込みの一部が切り合う状態で、6層中位において検出された。一部破壊されてはいるものの、掘り込みの形状は平面が円形で断面が皿状である。使用礫は亜角礫や角礫が多く、充填状況はやや疎らな状態であった。

SI－10

6層上位で礫の集中範囲とそのまわりの黒いシミが確認できたが、プランが明瞭ではなかったので、6層中位まで意図的に検出面を下げて調査した。掘り込みの形状は平面が円形で断面が皿状で、使用礫は亜角礫や角礫が多く、充填状況は疎らな状態であった。掘り込みの半分に礫の集中がみられるのは、SI-11・SI-13と同様である。

SI－40

6層中位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面が浅皿状である。使用礫は亜角礫や角礫が多く、充填状況は疎らな状態であった。

SI－58

6層中位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面が浅皿状である。使用礫は亜角礫と角礫で、充填状況は極めて疎らな状態であった。

SI－59

6層中位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面が皿状である。使用礫は亜角礫と角礫で、充填状況は極めて疎らな状態であった。

SI－16

SI-27と掘り込みの一部が切り合う状態で、6層中位において検出された。掘り込みの形状は平面が円形で断面がボウル状である。使用礫は亜角礫や角礫が多く、充填状況はやや疎らな状態であった。

SI－27

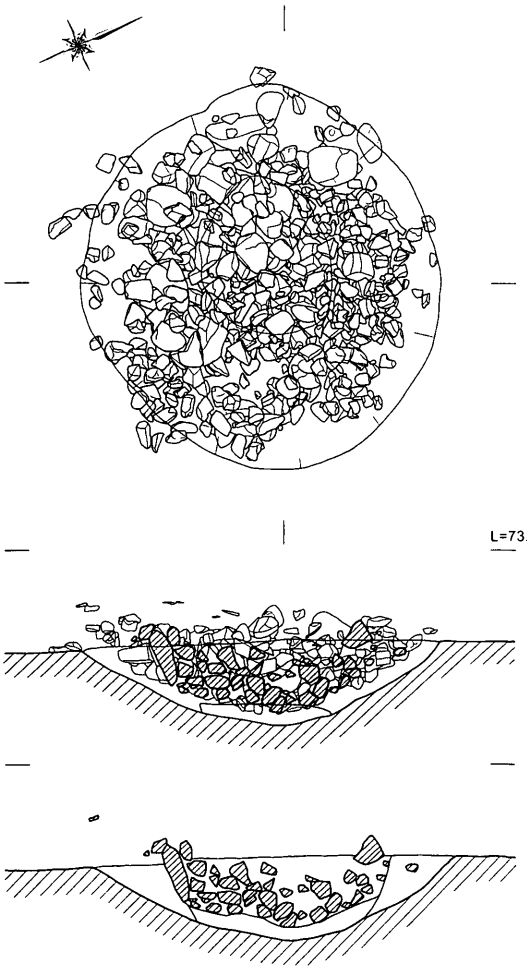
SI-16と掘り込みの一部が切り合う状態で、6層中位において検出された。一部破壊されてはいるものの、掘り込みの形状は平面が円形で断面が皿状である。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、充填状況はやや密な状態であった。

SI－53

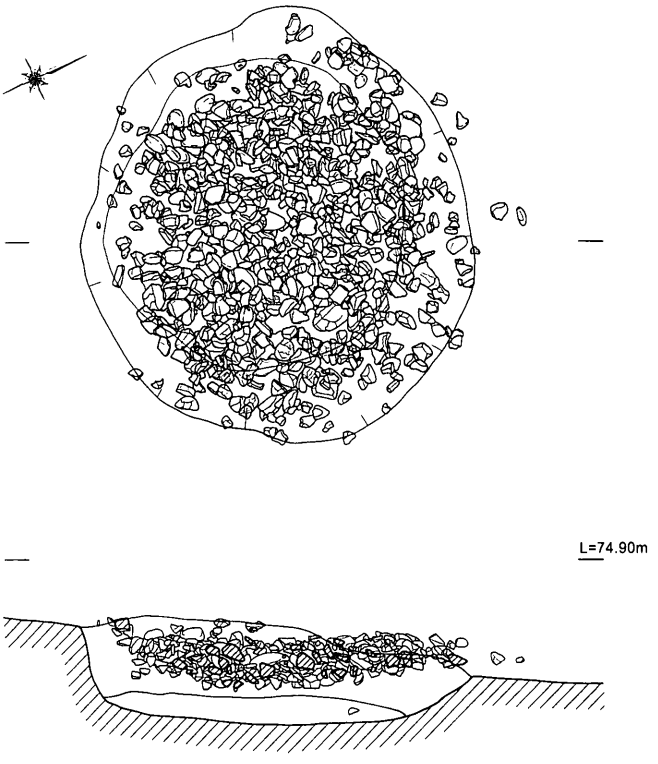
SI-57と掘り込みの一部が切り合う状態で、6層上位において検出された。一部破壊されてはいるものの、掘り込みの形状は平面が円形で断面が浅皿状である。使用礫は亜角礫や角礫が多く、充填状況は疎らな状態であった。

SI－57

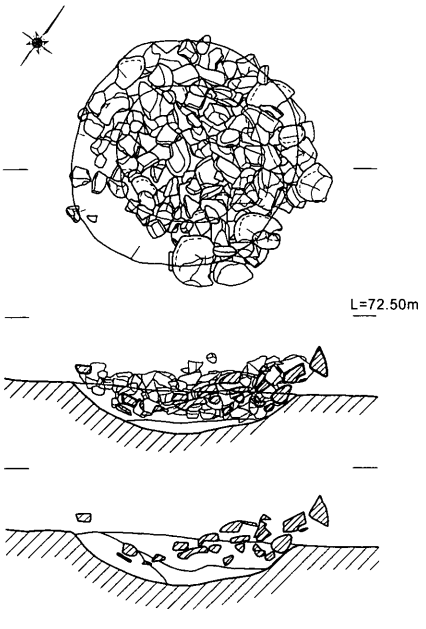
SI-53と掘り込みの一部が切り合う状態で、6層上位において検出された。掘り込みの形状は平面が円形で断面がボウル状である。使用礫は亜角礫や角礫が多く、充填状況は疎らな状態であった。



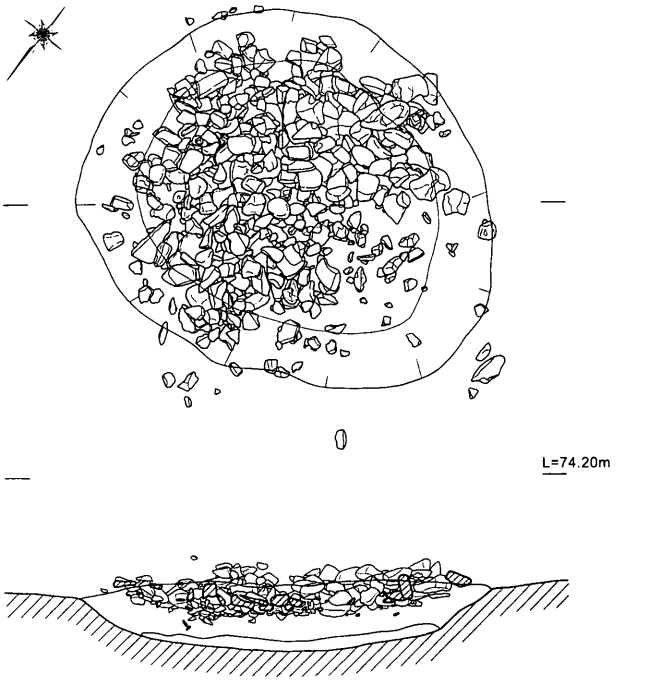
SI −51



SI −23



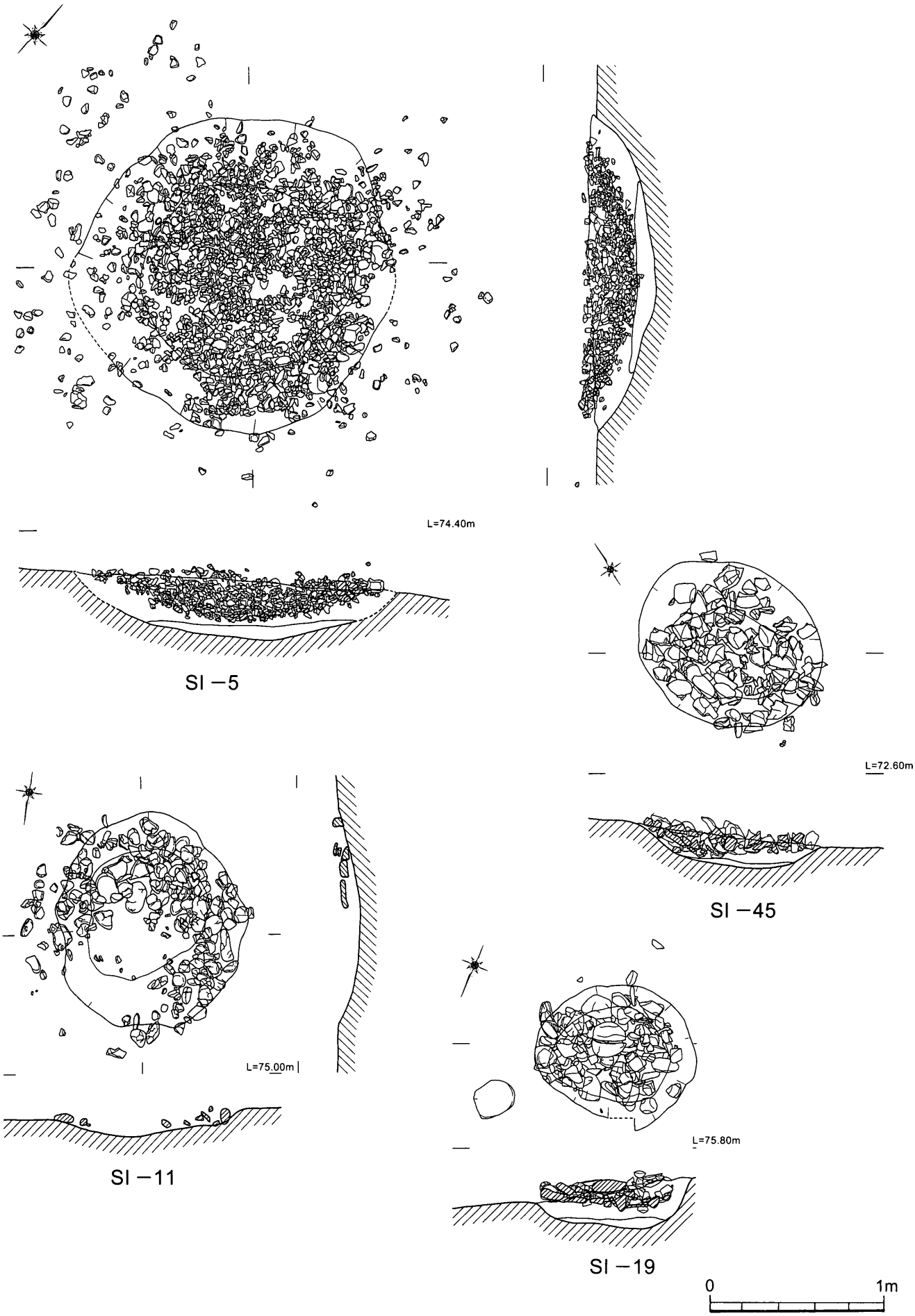
SI −41



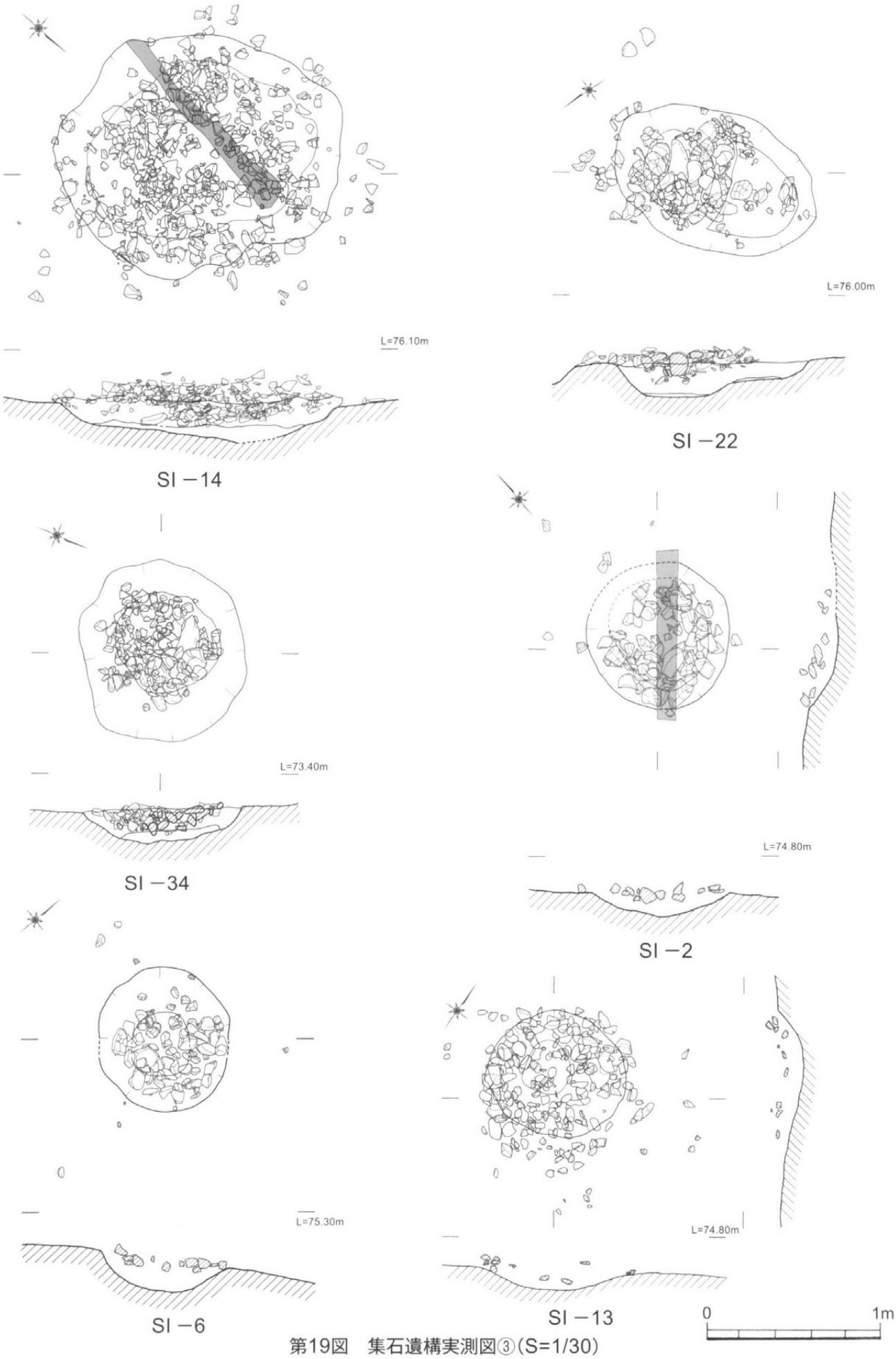
SI −52

0 1m

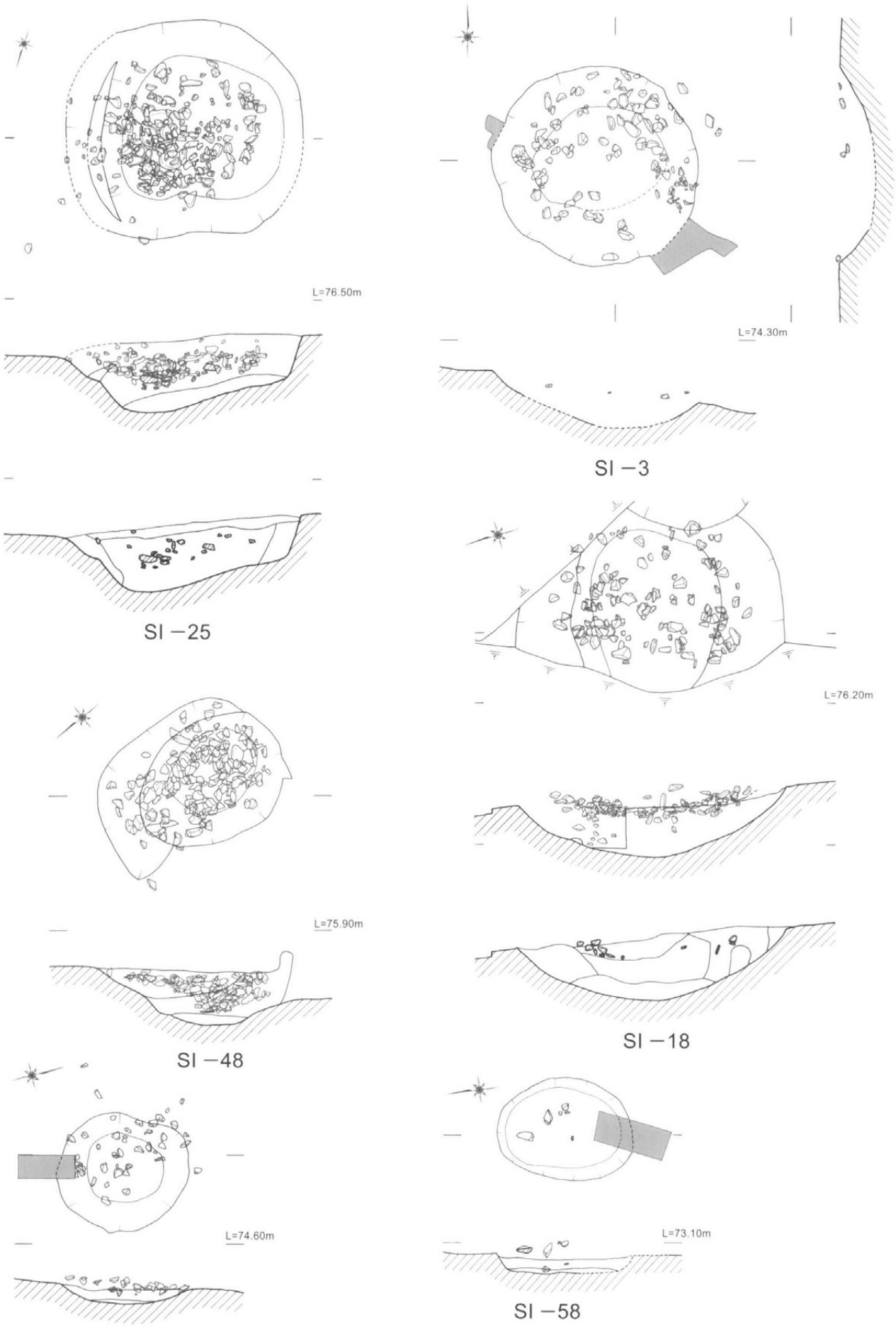
第17図　集石遺構実測図①(S=1/30)



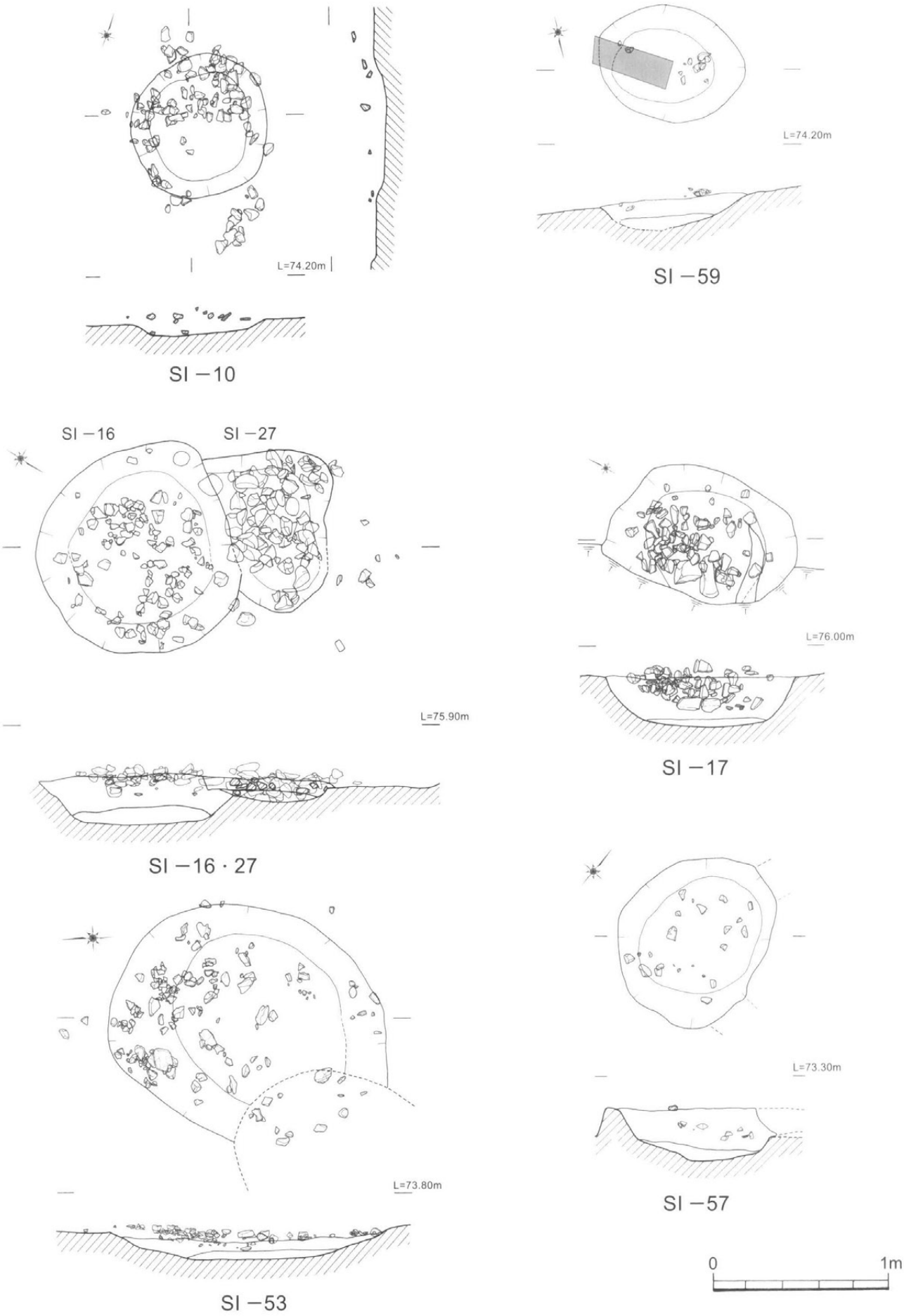
第18図　集石遺構実測図②(S=1/30)



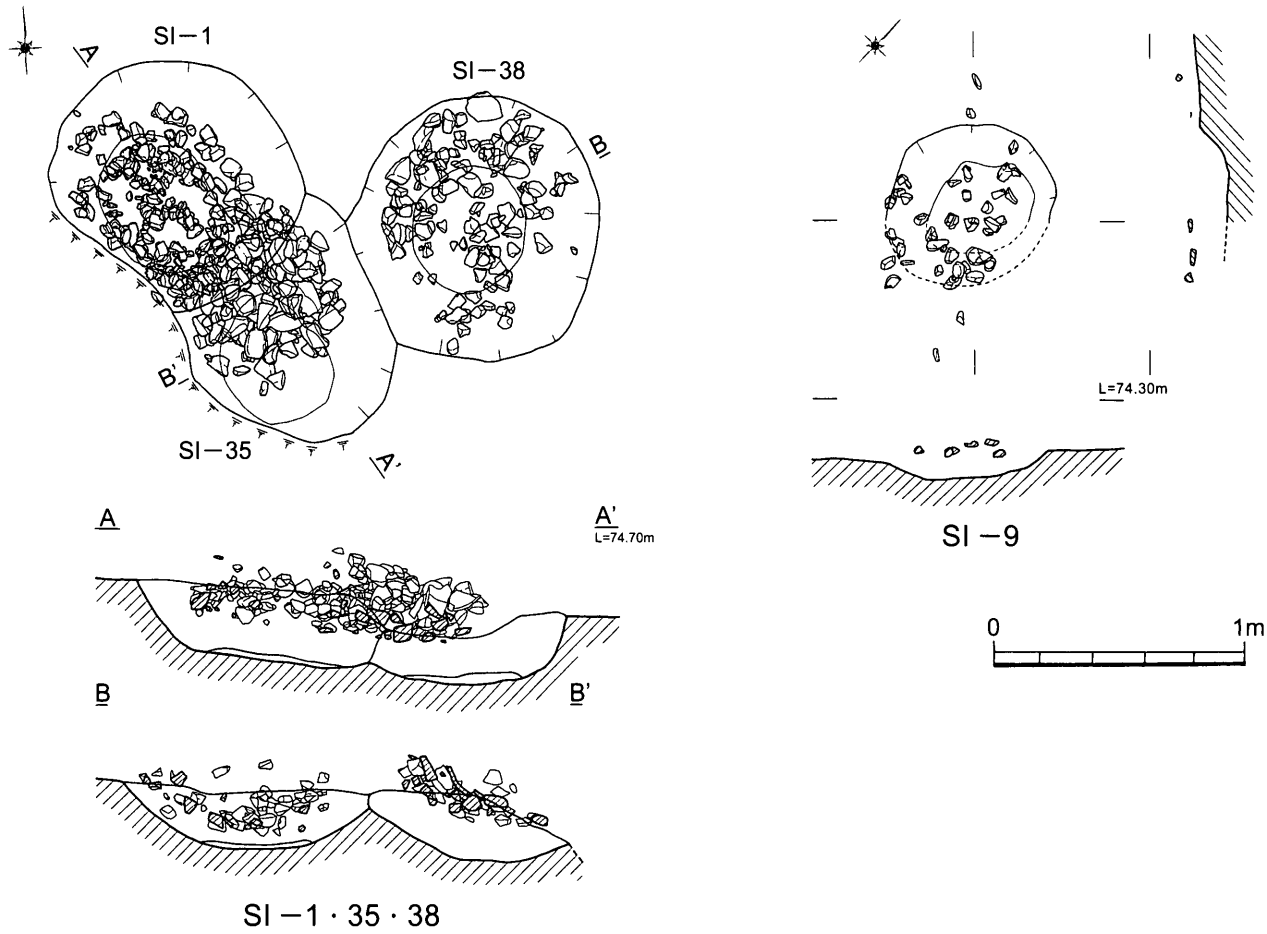
第19図　集石遺構実測図③(S=1/30)



第20図　集石遺構実測図④(S=1/30)



第21図　集石遺構実測図⑤(S=1/30)



第22図　集石遺構実測図⑥(S=1/30)

SI－38

SI-1･SI-35と掘り込みの一部が切り合う状態で、6層上位において検出された。掘り込みの形状は平面が円形で断面がボウル状である。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、SI-1と比較するとやや大ぶりで、充填状況はやや疎ら密な状態であった。

SI－1

SI-35･SI-38と掘り込みの一部が切り合う状態で、6層上位において検出された。畑の段差がある調査区で検出されたため、遺構の1／4程度が既に破壊されていたが、掘り込みの形状は平面が円形で断面がボウル状である。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、充填状況はやや密な状態であった。

SI－35

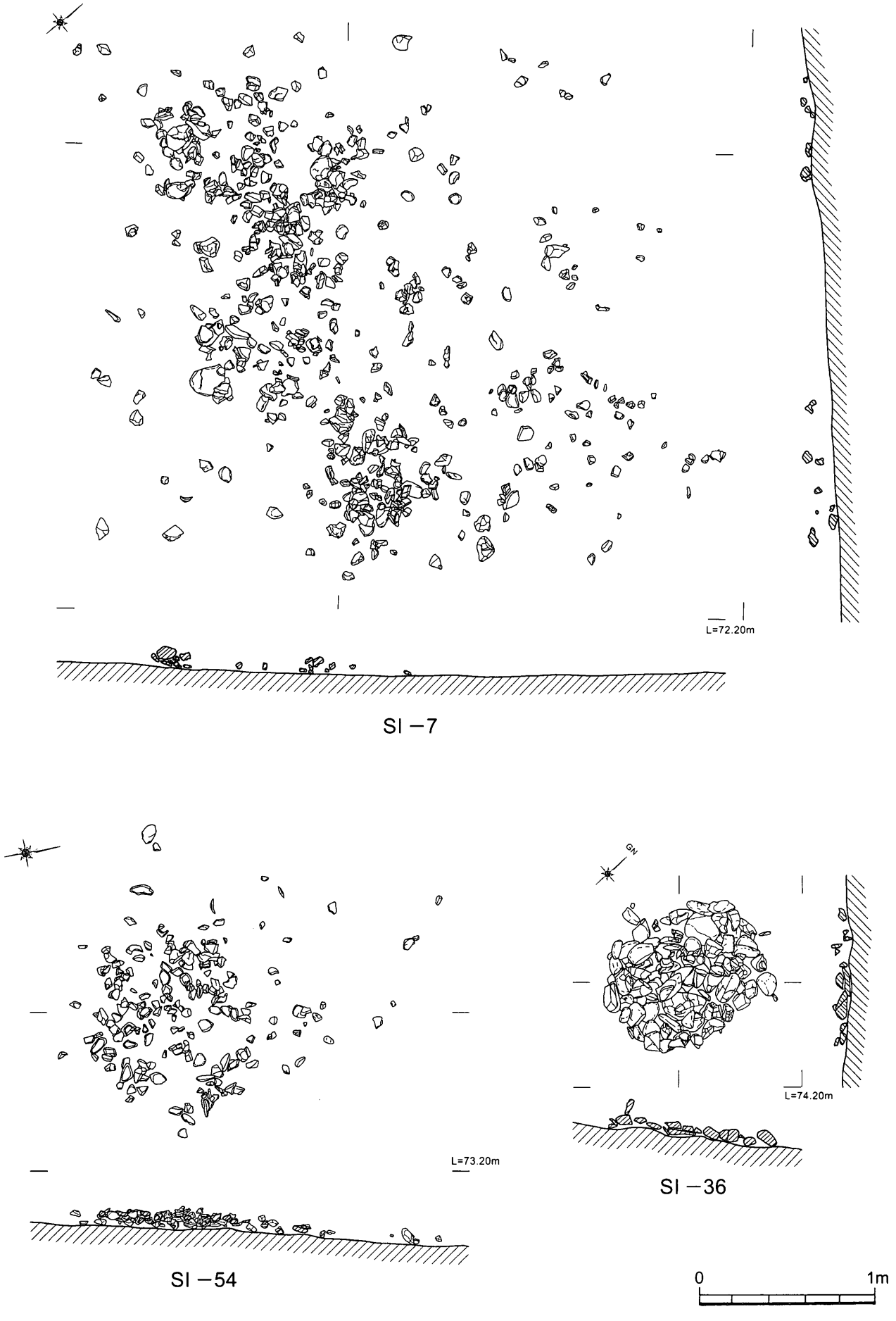
SI-1･SI-38と掘り込みの一部が切り合う状態で、6層上位において検出された。畑の段差がある調査区で検出されたため、遺構の1／2程度が既に破壊されていたが、掘り込みの形状は平面が円形で断面がボウル状だと推測される。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、SI-38同様SI-1と比較するとやや大ぶりで、充填状況は密な状態であった。

SI－17

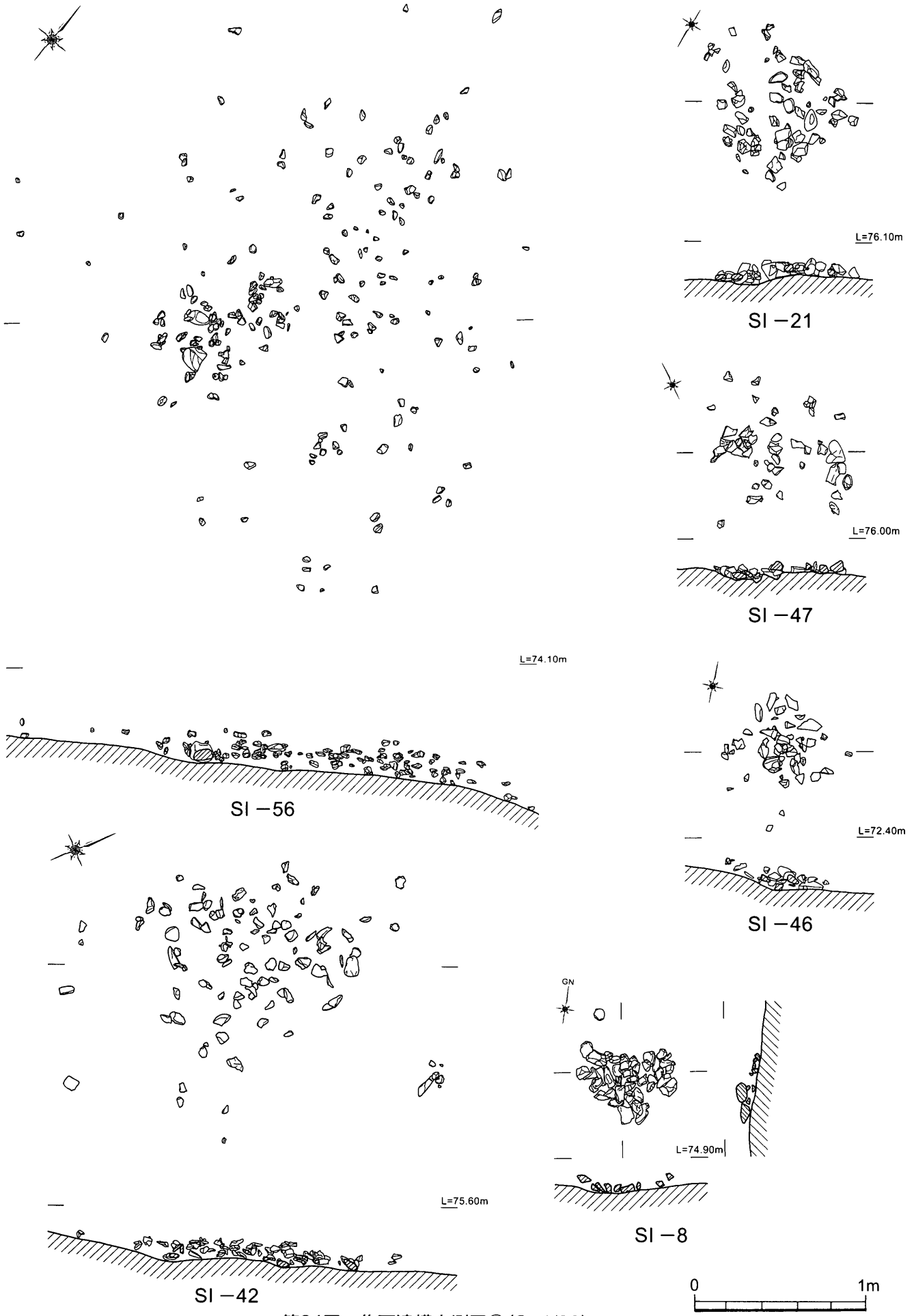
6層中位で検出された。畑の段差がある調査区で検出されたため、遺構の1／4程度が既に破壊されていたが、掘り込みの形状は平面が円形で断面がボウル状である。使用礫は亜角礫や角礫が多く、充填状況はやや密な状態であった。

SI－9

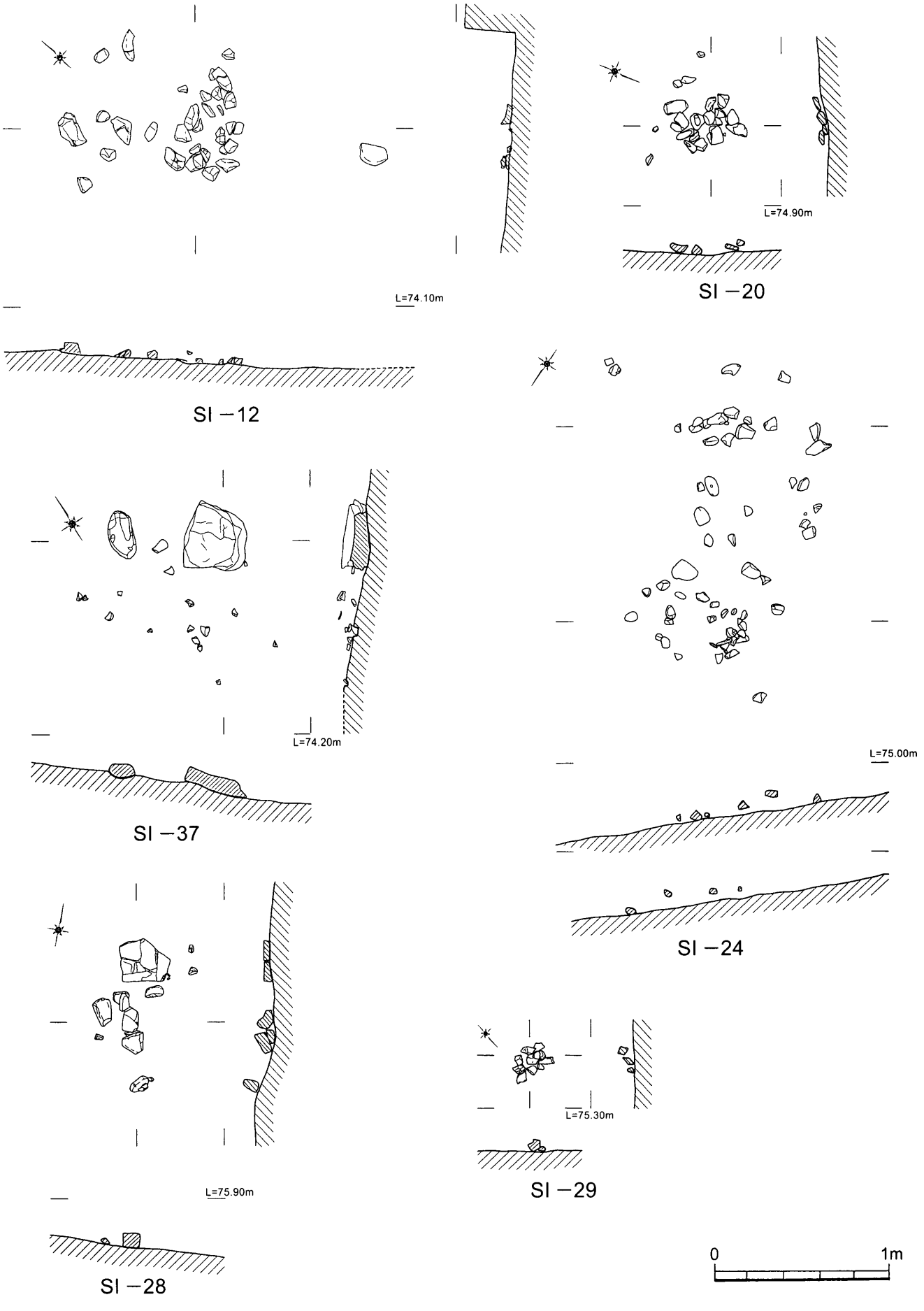
6層上位で礫の集中範囲とそのまわりの黒いシミが確認できたが、プランが明瞭ではなかったので、6層中位まで意図的に検出面を下げて調査した。掘り込みの形状は平面が円形で断面が浅皿状で、使用礫は亜角礫や角礫が多く、充填状況は疎らな状態であった。



第23図　集石遺構実測図⑦(S=1/30)



第24図　集石遺構実測図⑧(S=1/30)



第25図　集石遺構実測図⑨(S=1/30)

SI－7

平面的な礫の集中範囲が5層下位で検出された。この遺構のまわりでも礫は出土していたが、より密度が濃い範囲であるため、今回は集石遺構として記録した。

SI－56

平面的な礫の集中範囲が6層中位で検出された。この遺構のまわりでも礫は出土していたが、より密度が濃い範囲であるため、今回は集石遺構として記録した。

SI－54

円形に広がる平面的な礫の集中範囲が6層中位で検出された。掘り込みについては確認されていない。

SI－36

6層中位で検出された。亜円礫や亜角礫が多く、ぎっしりと詰まった状態で礫が集積していた。

SI－42

平面的な礫の集中範囲が6層中位で検出された。この遺構のまわりでも礫は出土していたが、より密度が濃い範囲であるため、今回は集石遺構として記録した。

SI－21

円形に礫が集中する範囲が6層中位で検出された。掘り込みについては確認されていない。

SI－47

平面的な礫の集中範囲が確認されたため、今回集石遺構として記録した。

SI－46

円形に礫が集中する範囲が6層上位で検出された。掘り込みについては確認されていない。

SI－8

円形に礫が集中する範囲が6層中位で検出された。掘り込みについては確認されていない。

SI－12

平面的な礫の集中範囲が6層中位で検出されたため、今回集石遺構として記録した。

SI－20

円形に礫が集中する範囲が6層中位で検出された。掘り込みについては確認されていない。

SI－37

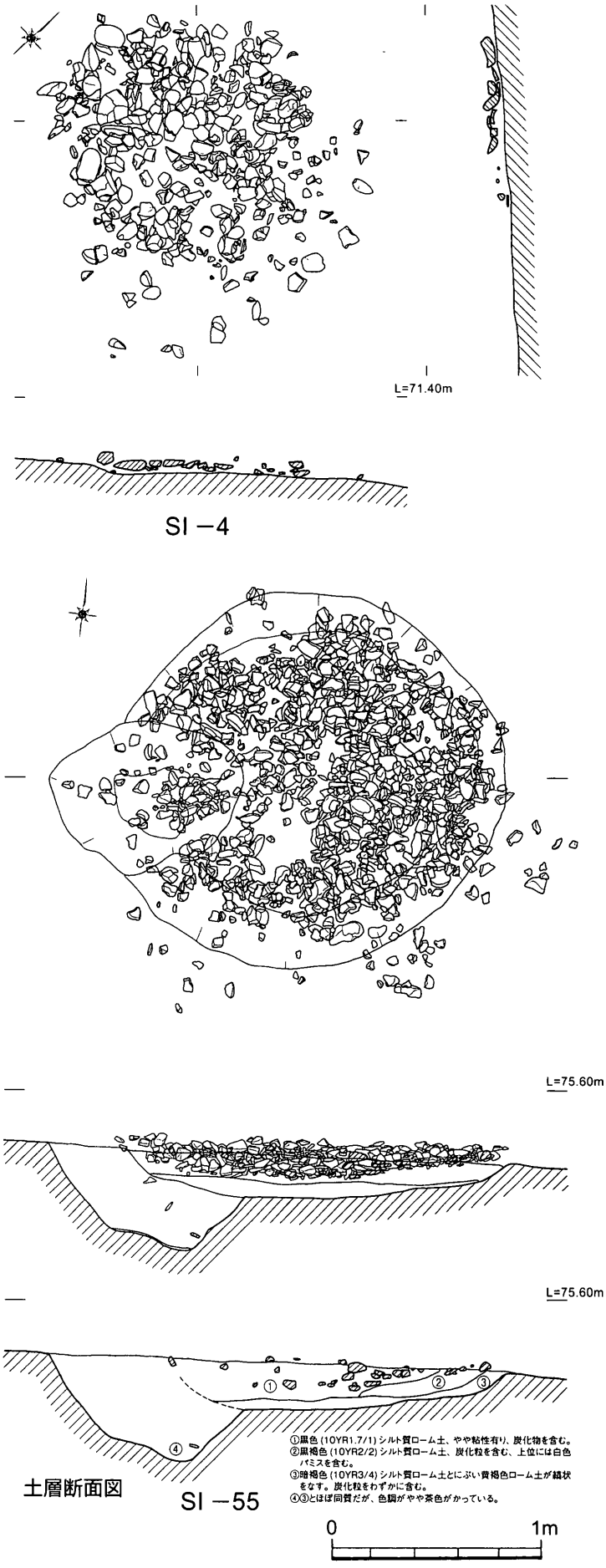
扁平な礫2個とそのまわりに数個の礫が検出されたため、今回集石遺構として記録した。

SI－28

扁平な礫数個が集中する範囲が6層中位で検出された。

SI－29

平面的な礫の集中範囲が検出されたため、今回集石遺構として記録した。



第26図　集石遺構実測図⑩（S=1/30）

SI －24

平面的な礫の集中範囲が６層中位で検出されたため、今回集石遺構として記録した。

SI －4

丘陵尾根部で検出された他の集石遺構とは異なり、東向き緩斜面の丘陵からやや下った場所で検出された。検出面は５層下位だが、傾斜地のためかやや層位が不明瞭であった。礫が円形に集中しており、使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、礫の重なりはほとんど見られない。掘り込みについては、礫除去後トレンチ調査も実施したが確認されていない。また、礫間の埋土には炭化材が含まれており、その炭化材を利用した放射性炭素年代測定では、遺構の使用時期が7790±50年 BP という結果がでている。

SI －55

Ｃ区上段において、約10m × 約５ｍの範囲で礫が多量に出土した。出土層位は５層下位から６層上位で、その集中範囲の礫を取り除きながら精査したところ、この集石遺構が検出された。掘り込みの形状は平面が円形で断面が皿状である。使用礫は亜円礫や亜角礫が多く、その充填状況は密な状態であった。また、埋土中に含まれた炭化材を利用した放射性炭素年代測定では、遺構の使用時期が7740±40年 BP という結果がでている。尚、当遺構は、先に構築された土坑と切り合う状態で検出されている。

第２表　集石遺構観察表

	番号	検出層	^{14}C年代（年 BP）	使用礫				掘込み				底石の有無	炭化物の有無	備　考
				礫分布範囲 <長軸 × 短軸> （m）	総礫数（個）	総重量（kg）	礫１個あたりの重量（kg）	有無	断面形状	直径（m）	深さ（m）			
1	SI-49	6層最下位	－	0.70 × 0.55	55	9.5	0.17	有	（浅）皿状	0.65	0.15	無	炭化粒のみ	草創期の集石遺構か？
2	SI-39	6層中位	9800±40	2.15 × 1.85	1856	45.0	0.02	有	ボウル状	1.55	0.45	無	有	
3	SI-43	6層上位	8160±40	1.90 × 1.40	1280	473.0	0.37	有	Ｖ字状	1.70	0.90	有	有	炉穴と切り合い
4	SI-32	8層中位	－	1.10 × 1.00	620	97.0	0.16	有	Ｖ字状	1.05	0.35	有	有	
5	SI-31	13層上面	8230±50	0.90 × 0.80	462	79.2	0.17	有	Ｖ字状	0.90	0.40	有	有	
6	SI-33	8層中位	－	0.75 × 0.65	138	37.2	0.27	有	Ｖ字状（底のみ残存か？）	0.75	0.65	有	有	
7	SI-15	6層中位	－	2.00 × 1.35	831	68.0	0.08	有	ボウル状	1.50	0.45	有	炭化粒のみ	
8	SI-30	8層上面	－	1.05 × 0.70	713	30.0	0.04	有	皿状	1.15	0.25	有	炭化粒のみ	
9	SI-26	6層中位	－	0.95 × 0.90	－	－	－	有	ボウル状	1.30	0.30	有	炭化粒のみ	SI-50と切り合い
10	SI-44	6層中位	－	1.20 × 1.20	430	－	－	有	ボウル状	1.30	0.45	有	炭化粒のみ	
11	SI-51	6層中位	－	1.60 × 1.55	730	185.0	0.25	有	ボウル状	1.45	0.30	無	炭化粒のみ	
12	SI-23	6層中位	－	1.65 × 1.65	1024	113.7	0.11	有	ボウル状	1.60	0.30	無	炭化粒のみ	
13	SI-41	6層中位	－	1.10 × 1.00	254	93.0	0.37	有	皿状	0.90	0.18	無	有	
14	SI-5	6層上位	－	1.70 × 1.60	1925	76.4	0.04	有	皿状	1.90	0.30	無	炭化粒のみ	
15	SI-52	6層上位	－	1.60 × 1.50	846	75.3	0.09	有	皿状	1.65	0.25	無	炭化粒のみ	
16	SI-45	5層下位	－	1.10 × 1.10	194	66.5	0.34	有	（浅）皿状	1.05	0.18	無	炭化粒のみ	
17	SI-11	6層中位	－	1.55 × 1.40	311	50.0	0.16	有	（浅）皿状	1.10	0.10	無	炭化粒のみ	
18	SI-14	6層中位	－	2.20 × 1.70	662	48.0	0.07	有	皿状	1.60	0.20	無	炭化粒のみ	
19	SI-19	6層中位	－	1.20 × 0.90	161	46.0	0.29	有	ボウル状	0.90	0.25	無	炭化粒のみ	SI-18と切り合い
20	SI-22	6層下位	－	1.40 × 0.70	443	34.5	0.08	有	皿状	1.10	0.20	無	炭化粒のみ	
21	SI-34	9層中位	－	0.80 × 0.75	229	28.0	0.12	有	皿状	0.90	0.20	無	炭化粒のみ	
22	SI-2	5層下位	－	0.95 × 0.75	110	24.0	0.22	有	皿状	0.80	0.20	無	炭化粒のみ	
23	SI-25	6層中位	－	1.25 × 1.05	358	24.0	0.07	有	ボウル状	1.35	0.35	無	炭化粒のみ	

	番号	検出層	^{14}C年代（年BP）	使用礫				掘込み				底石の有無	炭化物の有無	備考
				礫分布範囲<長軸×短軸>（m）	総礫数（個）	総重量（kg）	礫1個あたりの重量（kg）	有無	断面形状	直径（m）	深さ（m）			
24	SI-13	6層上位	−	1.30 × 1.20	260	23.5	0.09	有	(浅) 皿状	1.05	0.15	無	炭化粒のみ	
25	SI-6	6層上位	−	0.90 × 0.65	87	19.0	0.22	有	皿状	0.80	0.20	無	炭化粒のみ	
26	SI-48	6層中位	−	0.95 × 0.75	180	12.5	0.07	有	ボウル状	1.15	0.40	無	炭化粒のみ	
27	SI-3	5層下位	−	1.05 × 1.00	111	7.2	0.06	有	皿状	1.15	0.20	無	炭化粒のみ	
28	SI-18	6層中位	−	1.15 × 0.85	108	6.6	0.06	有	皿状	1.50	0.35	無	炭化粒のみ	SI-19と切り合い
29	SI-10	6層中位	−	1.30 × 0.85	149	5.7	0.04	有	皿状	0.80	0.10	無	炭化粒のみ	検出面を意図的に下げている
30	SI-40	6層中位	−	0.75 × 0.70	47	1.0	0.02	有	(浅) 皿状	0.70	0.10	無	炭化粒のみ	
31	SI-58	6層中位	−	0.35 × 0.25	6	0.3	0.04	有	(浅) 皿状	0.75	0.15	無	炭化粒のみ	
32	SI-59	6層中位	−	0.60 × 0.30	17	0.1	0.01	有	皿状	0.60	0.30	無	炭化粒のみ	
33	SI-16	6層中位	−	0.95 × 0.90	113	7.0	0.06	有	ボウル状	1.15	0.25	無	炭化粒のみ	SI-27と切り合い
34	SI-27	6層中位	−	0.95 × 0.85	107	23.0	0.21	有	皿状	0.70	0.10	無	炭化粒のみ	SI-16と切り合い
35	SI-50	6層中位	−	1.05 × 0.40	−	−	−	有	ボウル状	1.05	0.40	無	炭化粒のみ	SI-26と切り合い
36	SI-53	6層上位	−	1.85 × 1.45	191	7.0	0.04	有	(浅) 皿状	1.55	0.15	無	炭化粒のみ	SI-57と切り合い
37	SI-57	6層上位	−	0.75 × 0.70	34	−	−	有	ボウル状	0.95	0.30	無	炭化粒のみ	SI-53と切り合い
38	SI-38	6層上位	−	0.90 × 0.85	134	16.5	0.12	有	ボウル状	1.00	0.25	無	炭化粒のみ	SI-1と切り合い
39	SI-1	6層上位	−	0.70 × 0.65	394	24.0	0.06	有	ボウル状	0.90	0.30	無	有	畑の段差により一部破壊されている SI-35・SI-38と切り合い
40	SI-35	6層上位	−	0.65 × 0.65	109	11.1	0.10	有	ボウル状	1.00	0.20	無	有	畑の段差により一部破壊されている SI-1と切り合い
41	SI-17	6層中位	−	0.80 × 0.65	−	−	−	有	ボウル状	1.10	0.30	無	炭化粒のみ	
42	SI-9	6層中位	−	0.85 × 0.65	−	−	−	有	(浅) 皿状	0.65	0.10	無	炭化粒のみ	検出面を意図的にかなり下げている
43	SI-7	5層下位	−	3.50 × 3.00	690	75.0	0.11	無	−	−	−	−	無	
44	SI-56	6層中位	−	3.00 × 3.00	209	−	−	無	−	−	−	−	無	散礫か？
45	SI-54	6層中位	−	1.95 × 1.80	194	14.1	0.07	無	−	−	−	−	無	
46	SI-36	6層中位	−	1.00 × 0.90	155	49.9	0.32	無	−	−	−	−	無	
47	SI-42	6層中位	−	1.95 × 1.50	110	5.4	0.05	無	−	−	−	−	無	
48	SI-21	6層中位	−	1.00 × 0.90	62	9.5	0.15	無	−	−	−	−	無	
49	SI-47	−	−	1.00 × 0.90	52	6.0	0.12	無	−	−	−	−	無	
50	SI-46	6層上位	−	0.80 × 0.80	51	4.5	0.09	無	−	−	−	−	無	
51	SI-8	6層中位	−	0.60 × 0.50	49	10.0	0.20	無	−	−	−	−	無	
52	SI-12	6層中位	−	1.10 × 0.95	36	13.0	0.36	無	−	−	−	−	無	
53	SI-20	6層下位	−	0.55 × 0.55	23	4.0	0.17	無	−	−	−	−	無	
54	SI-37	−	−	1.05 × 0.80	15	14.0	0.93	無	−	−	−	−	無	
55	SI-28	6層中位	−	0.90 × 0.65	14	10.0	0.71	無	−	−	−	−	無	
56	SI-29	6層中位	−	0.30 × 0.25	10	1.0	0.10	無	−	−	−	−	無	
57	SI-24	6層中位	−	2.00 × 1.40	−	−	−	無	−	−	−	−	無	
58	SI-4	5層下位～6層上位	7790±50	1.60 × 1.30	548	56.5	0.10	無	−	−	−	−	有	
59	SI-55	6層上位	7740±40	2.20 × 1.85	1171	89.5	0.08	有	皿状	2.10	0.4～0.15	無	有	土坑との切り合い

2. 炉　穴

６層上位から中位にかけて、遺物の取り上げ作業や集石遺構の記録作業などを行っていたところ、不整形な茶黒色のプランを確認することできた。その茶黒色のプランからはパラパラと礫も出土したため、検出当初集石遺構（礫の充填状況が疎らなタイプ）ではないかとも考えた。しかし、とりあえずある程度検出面を下げ、平面プランの確定を行ったほうが良いのではないかと判断し、礫を記録しながら検出面を徐々に下げていった。検出面が６層下位あたりまで下がったところで、平面プランもかなり明瞭に検出できるようになったため（この時点で集石遺構ではないと認識した）、慎重にプランの確認作業を行い、その後記録作業を行った。

SC －16·32

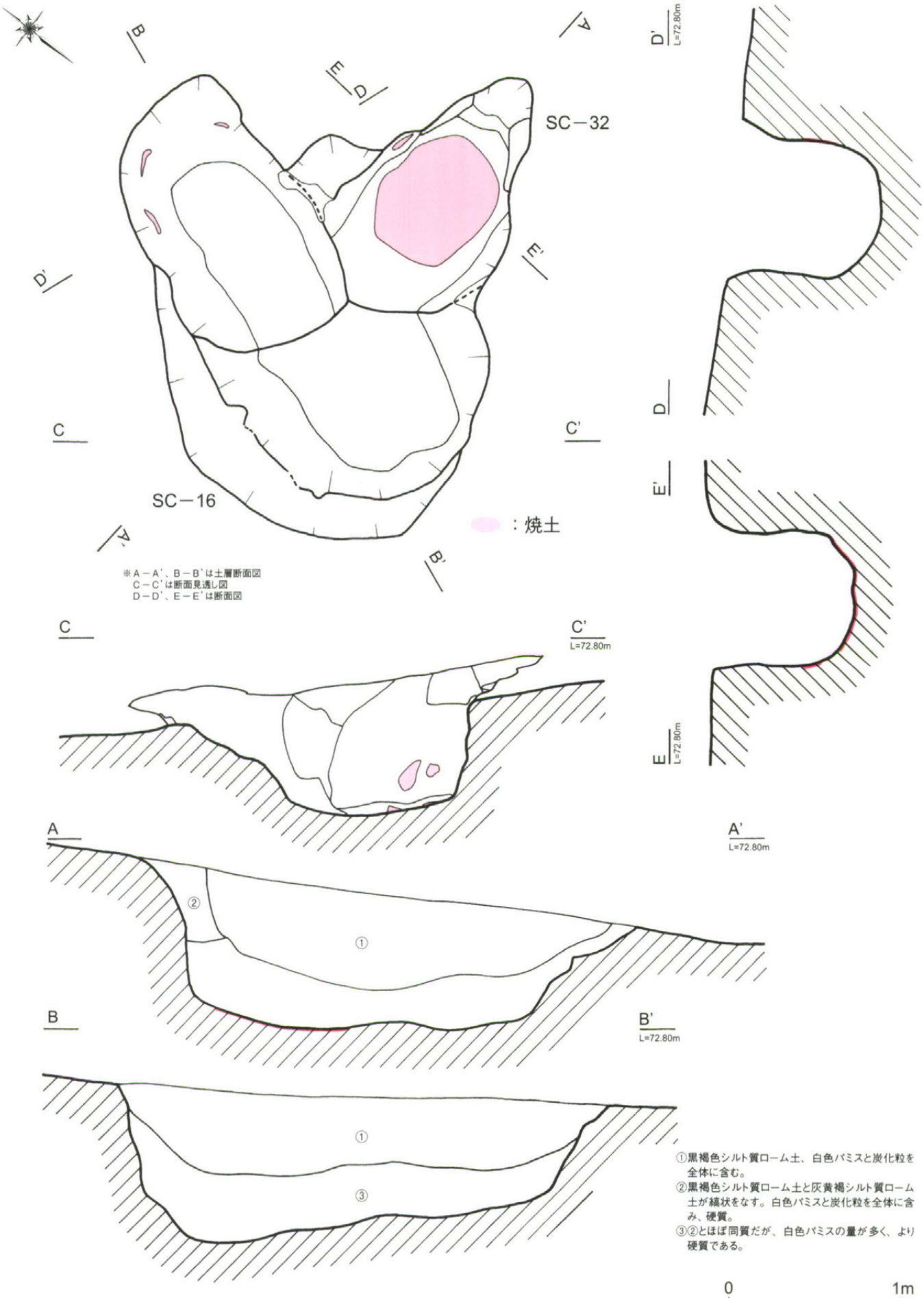
SC-16は、平面プランが長軸1.45m、短軸0.7mの長楕円形を呈し、断面形状は斜めに掘り込まれた足場から燃焼部にかけて緩やかに傾斜している。検出面からの深さは最深で0.45mで、煙道の傾斜については燃焼部付近からほぼ垂直に立ち上がっている。ブリッジについては残存しておらず、その痕跡であるくびれ部も明瞭なものは確認できない。また、埋土については、第27図のとおりであるが、その埋土中の炭化材を利用した放射性炭素年代測定では、遺構の使用時期が8310±40年 BP という結果がでている。

SC-32については、SC-16の拡張部分だと推測される。SC-16のブリッジ崩落後、その足場を利用して新たに燃焼部と煙道を構築したもので、煙道の直径が燃焼部の幅より狭いためやや尖った平面形状となっている。また、足場から燃焼部にかけては緩やかに傾斜しており、煙道の傾斜については燃焼部付近からほぼ垂直に立ち上がっている。ブリッジについてはほとんど残存していないが、その痕跡は一部確認することができる。

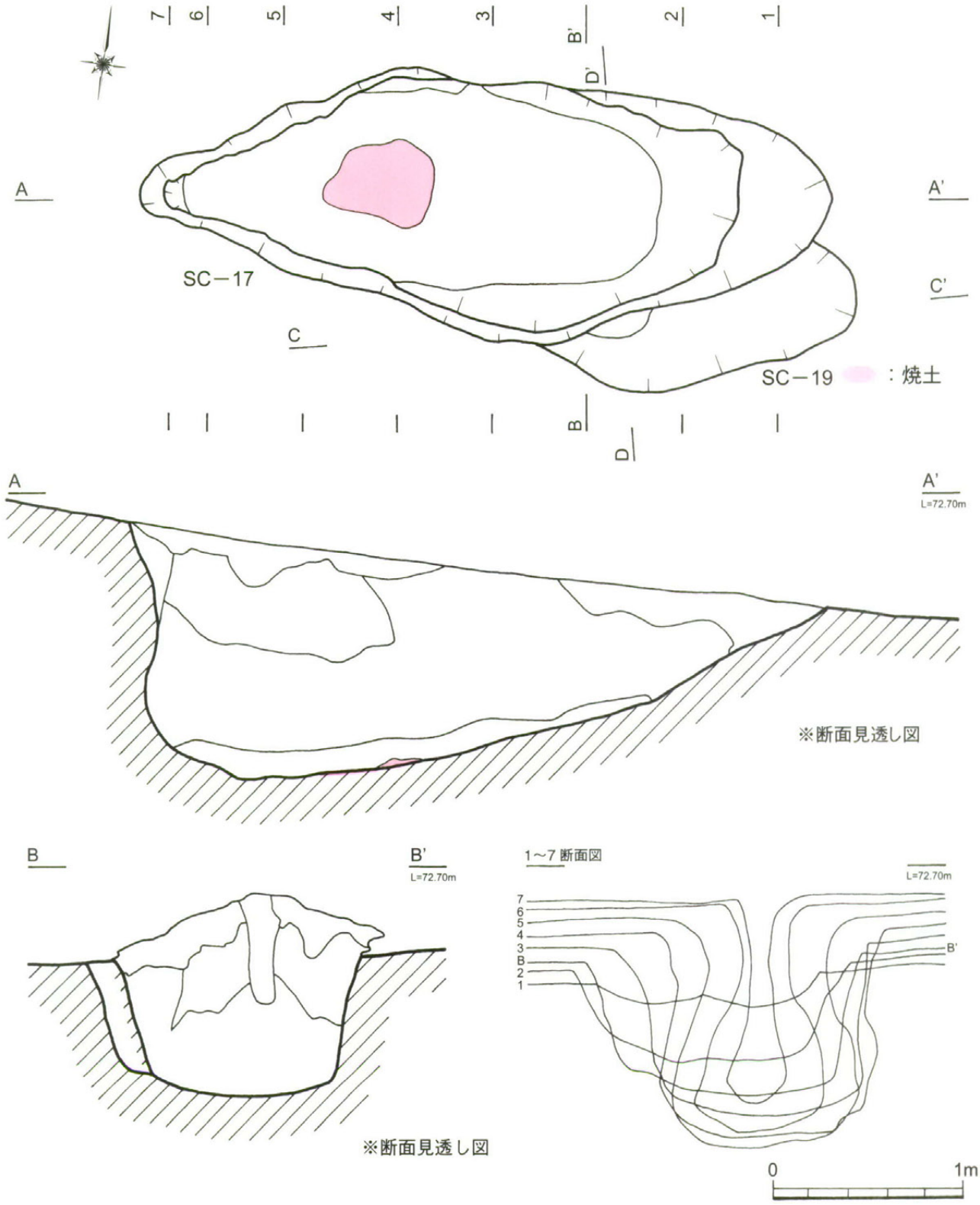
《検出状況》（東から）

《完掘状況》（東から）

写真図版20　SC －16・32



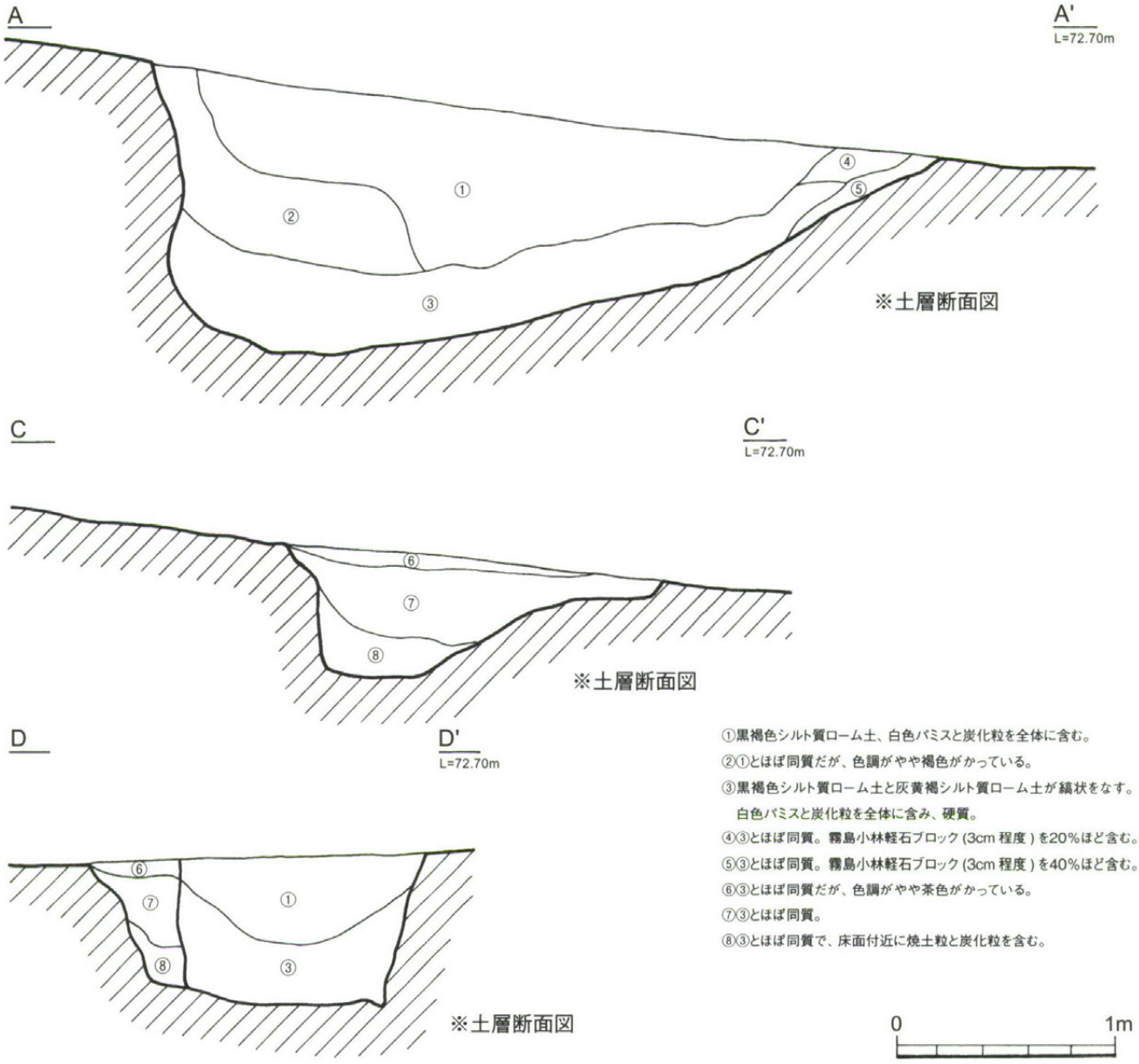
第27図　炉穴実測図①(S=1/30)



SC －17·19

SC-17は、平面プランが長軸1.8m、短軸0.65mの舟形を呈し、断面形状は足場から燃焼部にかけて緩やかに傾斜している。検出面からの深さは最深で0.6mで、煙道の傾斜については燃焼部付近からほぼ垂直に立ち上がっている。ブリッジについては残存しておらず、その痕跡であるくびれ部も明瞭なものは確認できない。また、埋土については、第28図のとおりであるが、その埋土中の炭化材を利用した放射性炭素年代測定では、遺構の使用時期が8220±40年 BP という結果がでている。

SC-19については、SC-17と切り合う状態で検出され、SC-17構築以前のものと推測される。遺構の半分近くが既に破壊され、プラン·用途など詳細は不明である。



第28図　炉穴実測図②(S=1/30)

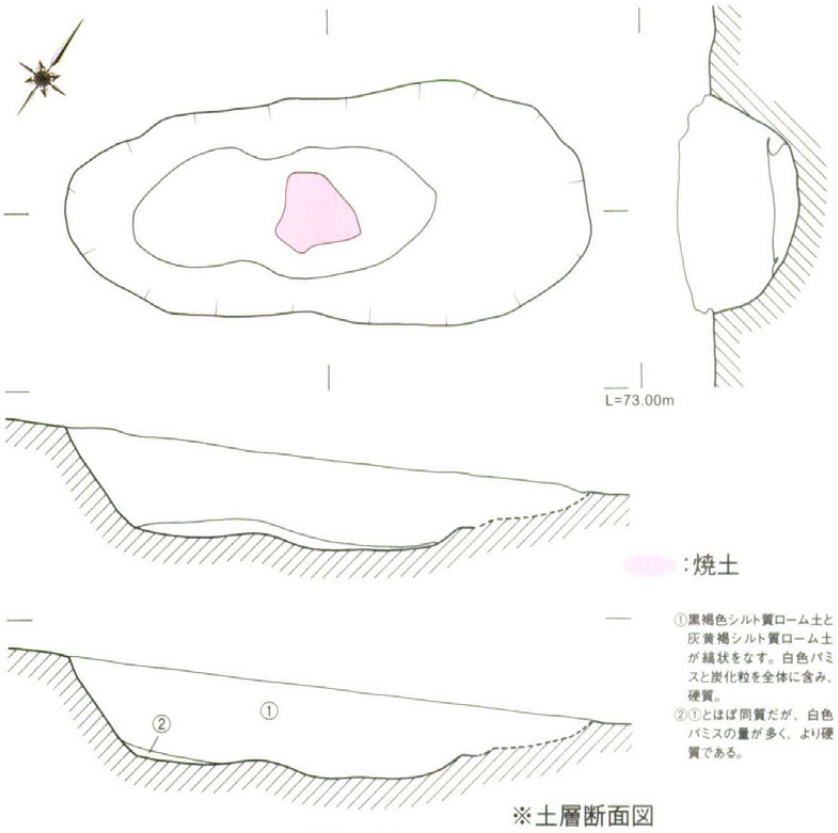
《埋土確認状況》(南東から)

《埋土確認状況》(東から)

写真図版21　SC －17・19

SC －7

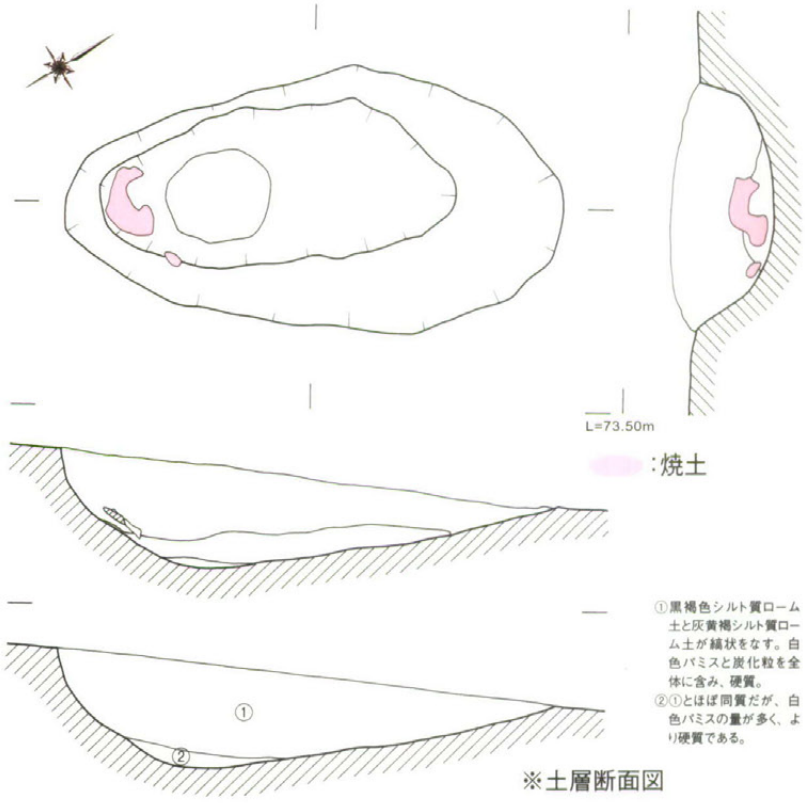
SC-7は、平面プランが長軸2.1m、短軸0.85mの長楕円形を呈し、断面形状は足場から燃焼部にかけて緩やかに傾斜している。検出面からの深さは最深で0.4mで、煙道の傾斜については燃焼部付近から斜めに立ち上がっている。ブリッジについては残存していないが、その痕跡であるくびれ部は長軸ほぼ中央に確認できる。また、埋土については、第29図のとおりであるが、その埋土中の炭化材を利用した放射性炭素年代測定では、遺構の使用時期が8330±40年 BP という結果がでている。



SC －7

SC －8

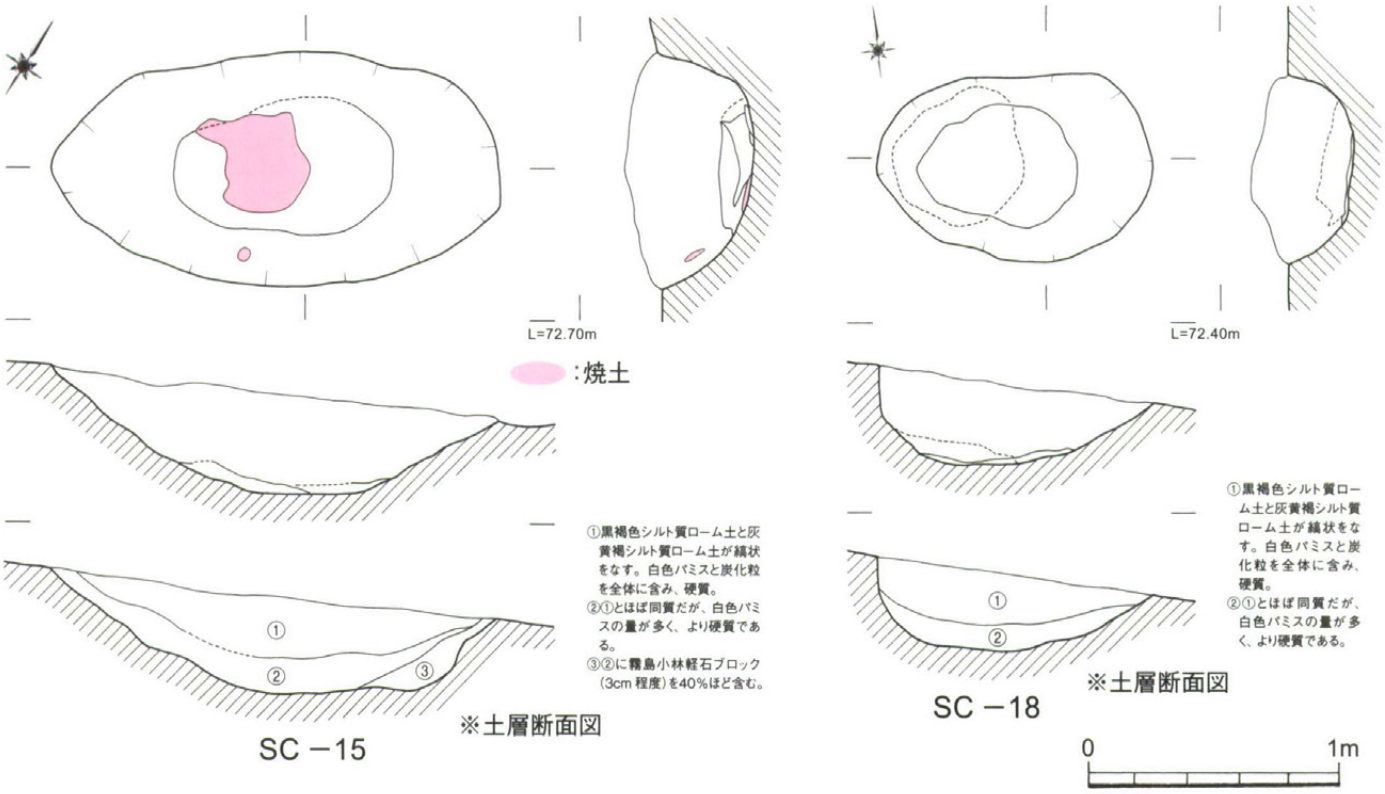
SC-8は、平面プランが長軸1.95m、短軸1.05mの舟形を呈し、断面形状は足場から燃焼部にかけて緩やかに傾斜している。検出面からの深さは最深で0.5mで、煙道の傾斜については燃焼部付近から斜めに立ち上がっている。ブリッジについては残存しておらず、その痕跡であるくびれ部も明瞭なものは確認できない。また、埋土については、第29図のとおりで、その埋土中の炭化材を利用した放射性炭素年代測定では、遺構の使用時期が8240±40年 BP という結果がでている。



SC －8

第29図　炉穴実測図③(S=1/30)

0　1m



第30図　炉穴実測図④（S=1/30）

SC －15

SC-15は、平面プランが長軸1.8m、短軸0.9mの長楕円形を呈し、断面形状は足場から燃焼部にかけて緩やかに傾斜している。検出面からの深さは最深で0.4mで、煙道の傾斜については燃焼部付近から斜め（足場から燃焼部にかけての傾斜とほぼ同じ）に立ち上がっている。ブリッジについては残存しておらず、その痕跡であるくびれ部も明瞭なものは確認できない。

SC －20

SC-20は、他の炉穴と異なり、燃焼部やブリッジなど炉穴と断定できる要素はあまり確認されていない。しかし、埋土や立地条件からみて炉穴である可能性が高いのではないかと思われるため、今回は炉穴として記録した。

平面プランは長軸が1.2m、短軸0.8mの長楕円形で、検出面からの深さは0.2mである。

SC －33

SC-33は、SI-43と切り合う状態で検出された。SC-33使用後にSI-43が構築されたものと推測され、SC-33の足場付近は既に破壊されている。平面形状は煙道に向けてやや尖っており、構築時は煙道の直径が足場や燃焼部と比べてやや狭かったものと思われる。足場が既に破壊されているため足場から燃焼部にかけての傾斜は不明だが、煙道の傾斜については燃焼部から斜めに立ち上がっている。

第３表　炉穴観察表

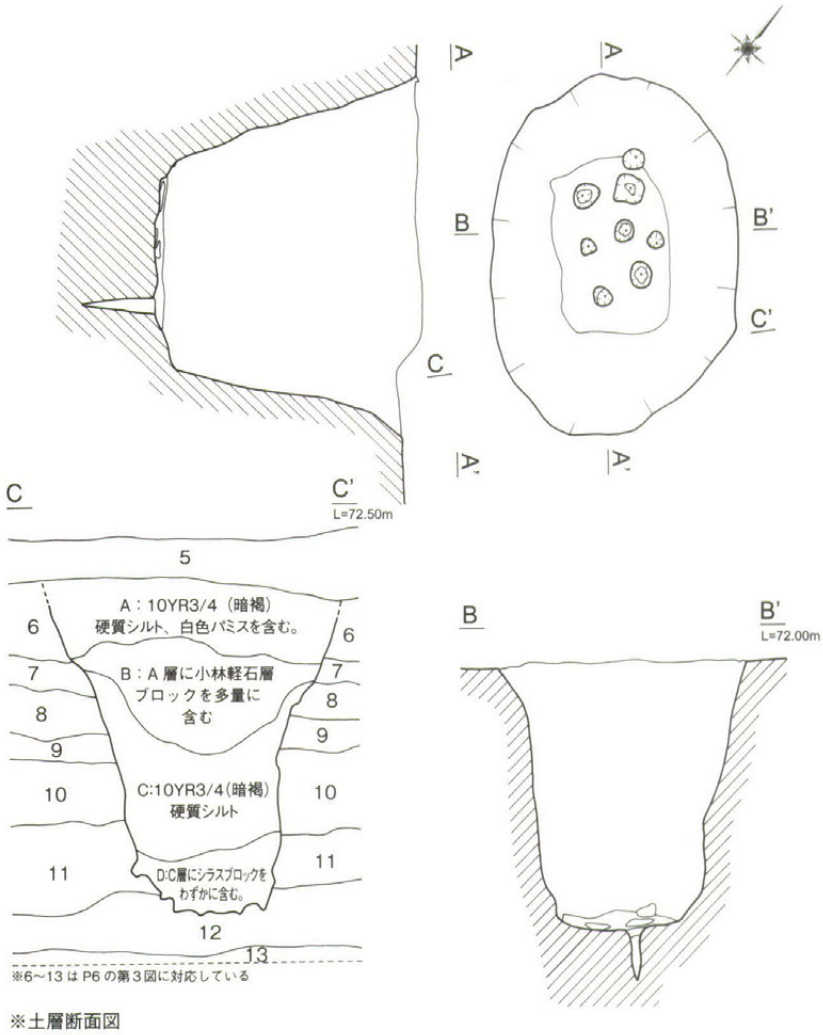
	遺構 No	検出面	C年代（年 BP）	サイズ（m）（長軸）×（短軸）×（深さ）	平面形状	残存焼土の位置	共伴遺物	備考
1	SC-16	6層下位	8310±40	1.45 × 0.7 × 0.45	長楕円形	端部	○	
2	SC-32	6層下位		0.8 × 0.5 × 0.5	－	燃焼部	×	SC-16の拡張部か
3	SC-17	6層下位	8220±40	1.8 × 0.65 × 0.6	舟形	燃焼部	×	
4	SC-7	6層下位	8330±40	2.1 × 0.85 × 0.4	長楕円形	燃焼部	×	長軸中央あたりにくびれ有り
5	SC-8	6層下位	8240±40	1.95 × 1.05 × 0.5	舟形	燃焼部- 煙道	×	
6	SC-15	6層下位		1.8 × 0.9 × 0.4	長楕円形	燃焼部	×	
7	SC-20	6層下位		1.2 × 0.8 × 0.2	長楕円形	－	×	
8	SC-33	6層中位		1.2α × 1α × 0.65	舟形？	燃焼部	×	SI-43と切り合っている

3. 陥し穴状遺構

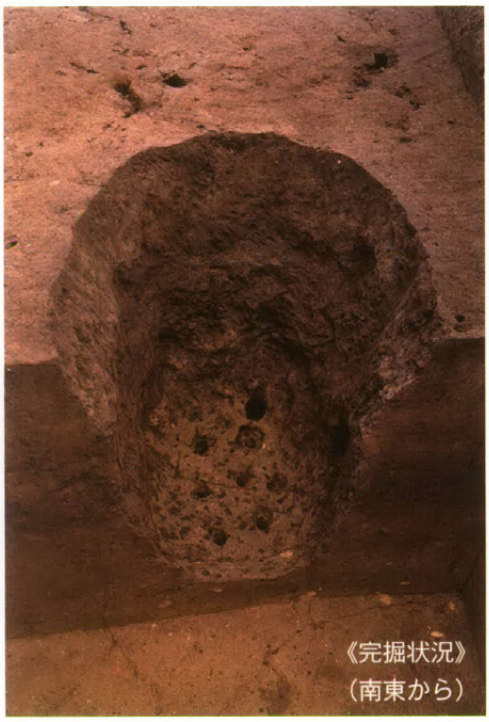
6層下位から8層上面にかけて、4基の陥し穴状遺構が検出された。

SC −23

6層下位で検出された。平面プランは長軸1.4m·短軸1mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは1.2mである。6層上面から黒っぽいシミは確認できていたが、プランが不明瞭であったため6層下位まで検出面を下げてから調査を実施した。遺構が丁度土層ベルトにかかっていたため、掘り込み面の確認を行ったが、断定に至る結果は得られなかった（6層中であることは間違いないと思われるが）。また、底部では8個の逆茂木痕が確認されており、それぞれ床面から20cmから30cm掘り込まれていた。



第31図　SC −23実測図（S=1/30）

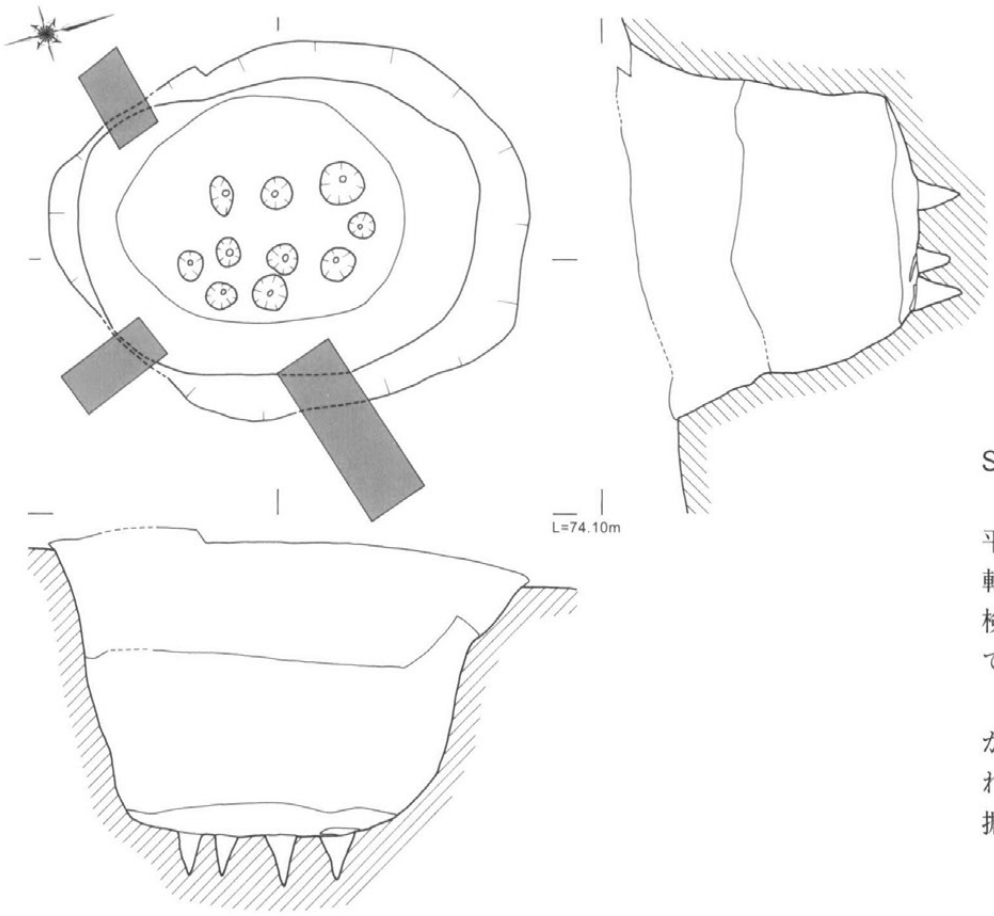


《完掘状況》
（南東から）

↑《埋土堆積状況》
（南東から）

←《逆茂木確認状況》
（南東から）

写真図版22　SC −23

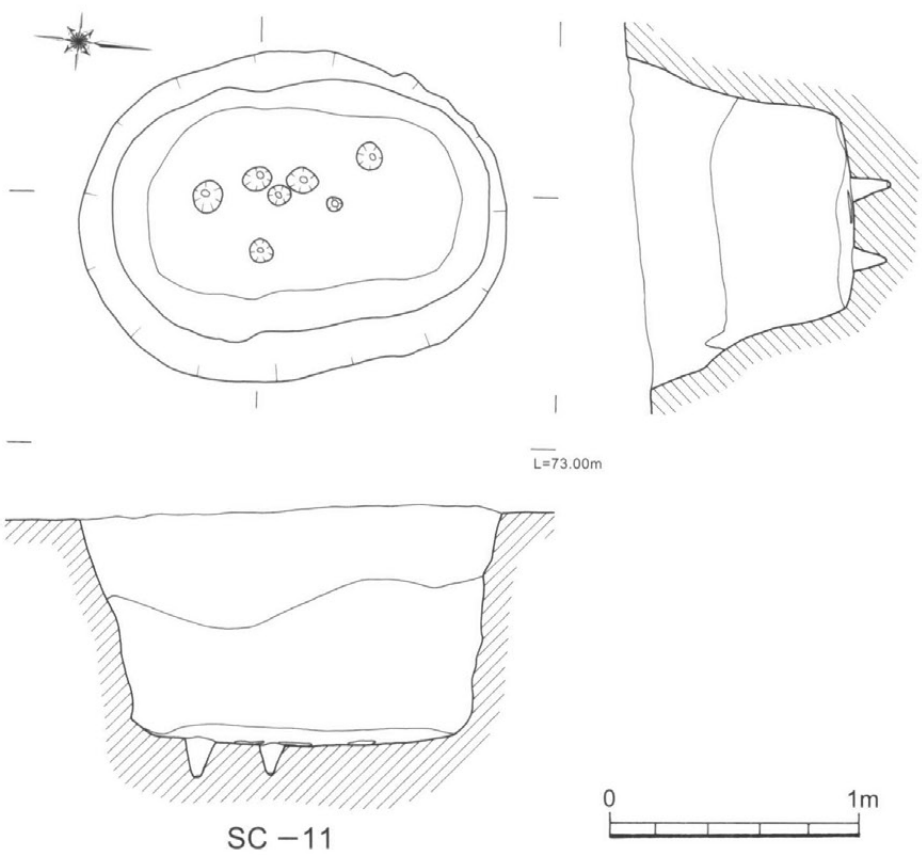


SC－9

SC－9

6層下位で検出された。平面プランは長軸1.9m・短軸1.45mの楕円形を呈し、検出面からの深さは0.95mである。

底部では10個の逆茂木痕が確認されており、それぞれ床面から15cmから25cm掘り込まれていた。



SC－11

SC－11

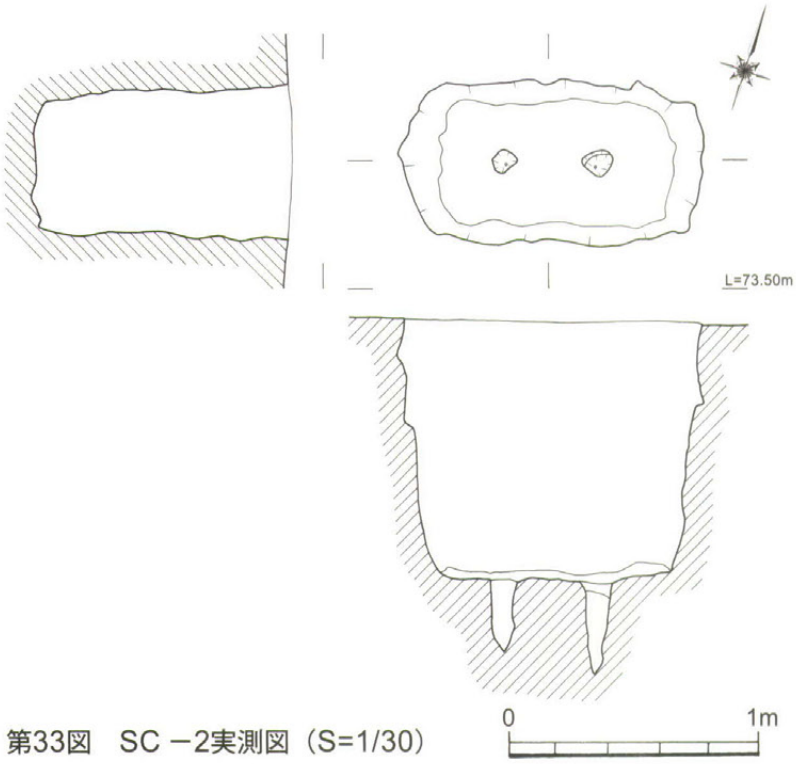
6層下位で検出された。平面プランは長軸1.7m・短軸1.3mの長楕円形を呈し、検出面からの深さは1.05mである。

底部では7個の逆茂木痕が確認されており、それぞれ床面から13cmから18cm掘り込まれていた。

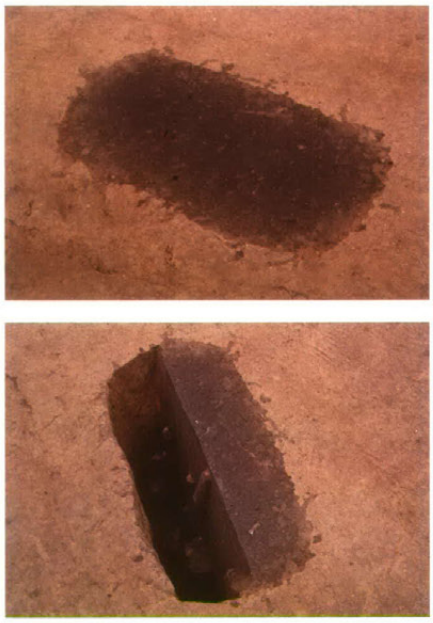
第32図　SC－9・SC－11実測図（S=1/30）

SC －2

霧島･小林火山灰層まですでに削平された調査区の８層下位で検出された。平面プランは長軸1.2m･短軸0.6mの隅丸長方形を呈し、検出面からの深さは１mである。底部では２個の逆茂木痕が確認されており、それぞれ床面から30cm・35cm掘り込まれていた。また、埋土中の炭化材を利用した放射性炭素年代測定では、遺構の使用時期が9500±40年BPという結果がでている。



第33図　SC －2実測図（S=1/30）



《埋土確認状況》
（東から）

←《検出状況》
（東から）

《完掘状況》
（東から）

《断面形状確認状況》→
（南西から）

《逆茂木確認状況》
（南西から）

写真図版23　SC －2

第４表　陥し穴状遺構観察表

	遺構 No	検出面	C年代（年 BP）	サイズ（長軸）×（短軸）×（深さ）（m）	逆茂木 数（本）	逆茂木（直径）×（深さ）（m）	備考
1	SC-23	6層下位		1.4 × 1 × 1.2	8	0.07～0.14 × 0.2～0.3	
2	SC-9	6層下位		1.9 × 1.45 × 0.95	10	1.1～1.8 × 0.15～0.25	
3	SC-11	6層下位		1.7 × 1.3 × 1.05	7	0.07～0.13 × 0.13～0.18	
4	SC-2	8層上面	9500±40	1.2 × 0.6 × 1	2	0.1 × 0.3・0.36	

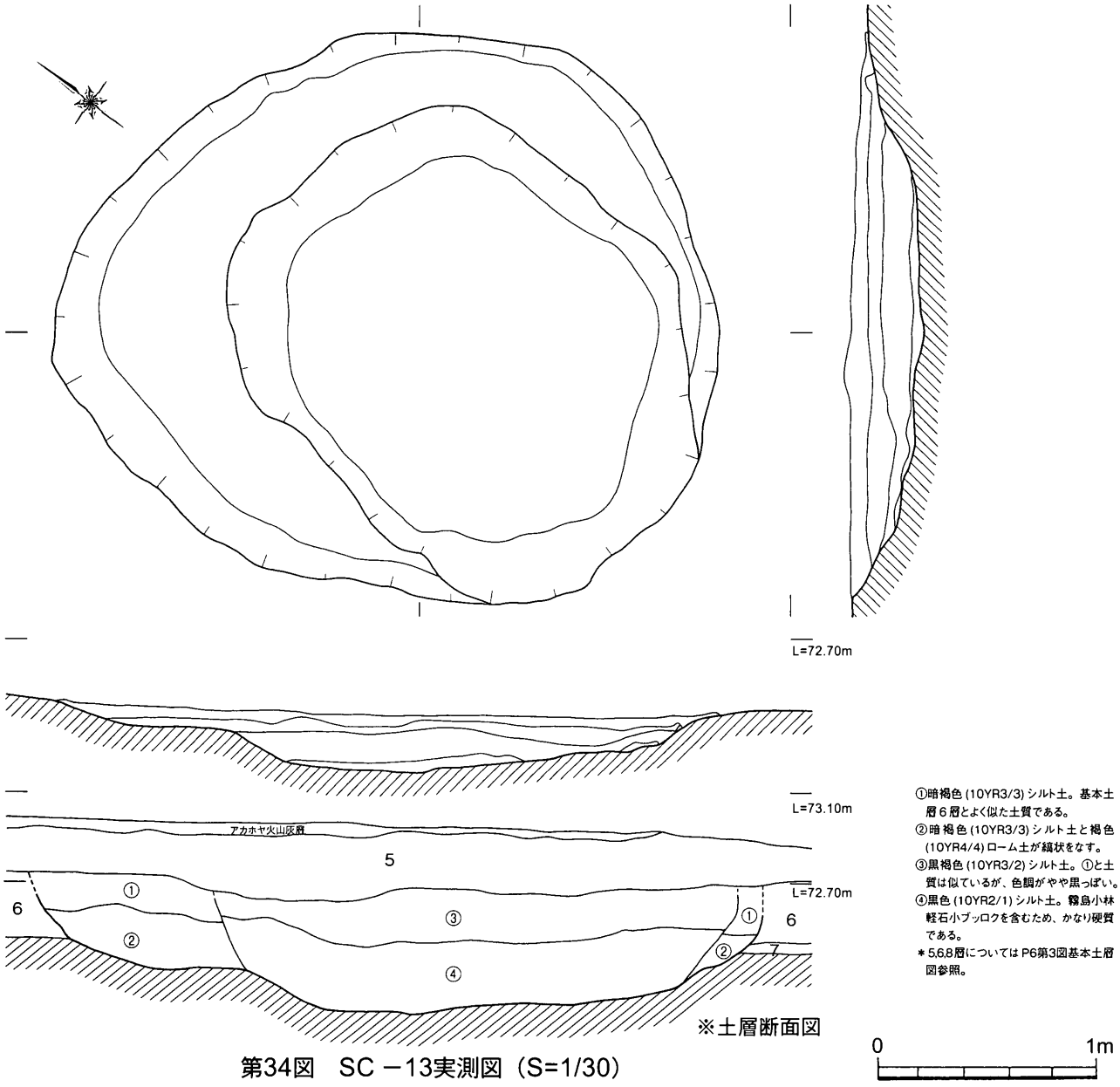
4. 土　坑

SC －13·34

6層上面から不整形な円形の黒いシミが見え始めたものの、プランが不明瞭であったため6層下位まで検出面を下げて調査を行った。両遺構は調査途中まで1基の土坑だと認識していたが、土層の確認作業から2基の土坑が切り合っているものであることが判明し、その新旧関係についてはSC-34が先に構築され、それを切るかたちでSC-13が作られている。

SC-34は、平面プランが長軸3m、短軸2.6mの楕円形を呈し、検出面からの深さは0.2mである。掘り込み面については土層の確認作業から6層上位あたりではないかと推測されるが、やや不明瞭なため断定は出来ない。

SC-13は、平面プランが長軸2.2m、短軸1.8mの楕円形を呈し、検出面からの深さは0.3mである。掘り込み面についてはSC-34同様土層の確認作業から6層上位あたりではないかと推測されるが、やや不明瞭なため断定は出来ない。両遺構の用途については不明であるが、縄文時代早期の竪穴式住居跡の可能性もあるのではないかと推測される（ピットなど確認出来ていない条件が幾つかあるが...）。

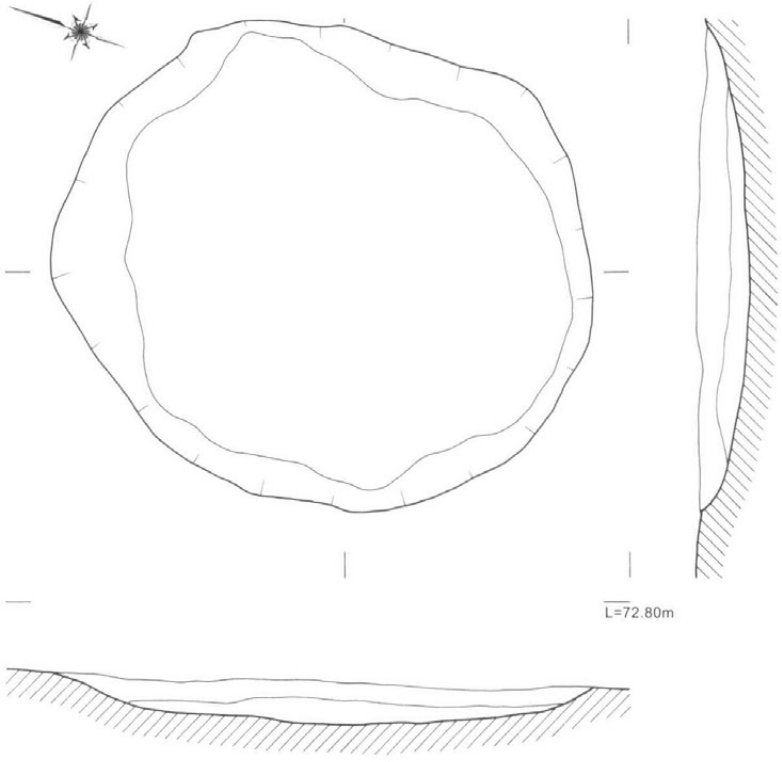


第34図　SC －13実測図（S=1/30）

SC －14

6層上面から不整形な円形の黒いシミが見え始めたものの、プランが不明瞭であったため6層下位まで検出面を下げて調査を行った。

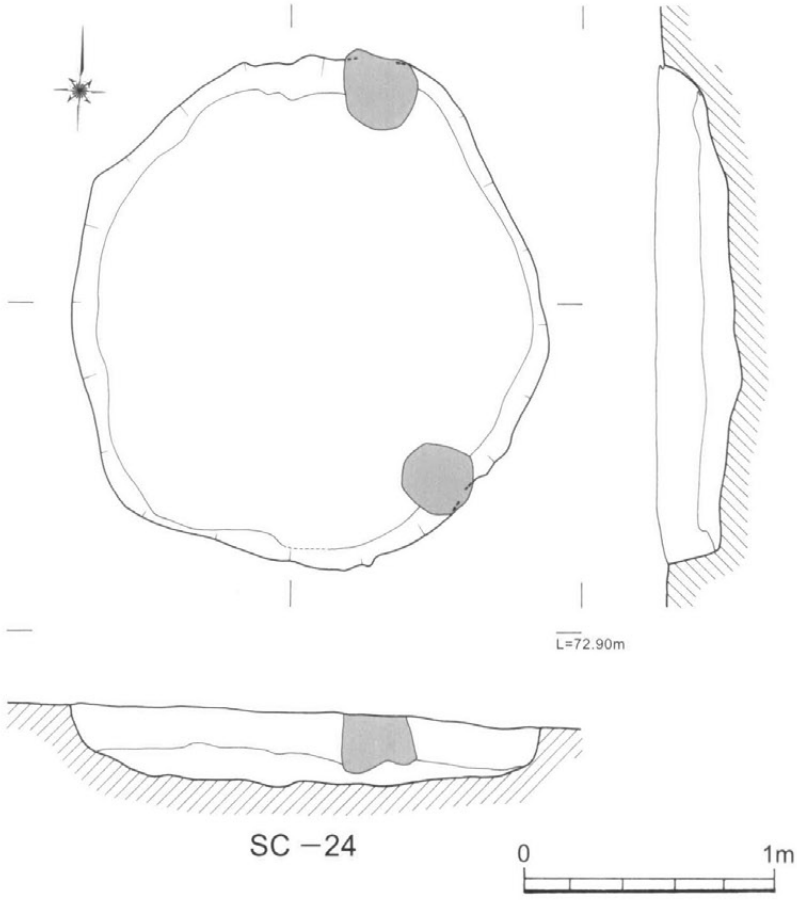
平面プランは長軸2.1m、短軸1.9mの楕円形を呈し、検出面からの深さは0.2mである。遺構の用途については、SC-13などと同様に竪穴式住居跡の可能性もあるのではないかと推測される。



SC －24

6層上面から不整形な円形の黒いシミが見え始めたものの、プランが不明瞭であったため6層下位まで検出面を下げて調査を行った。

平面プランは直径1.9mの円形を呈し、検出面からの深さは0.25mである。遺構の用途については、SC-13などと同様に竪穴式住居跡の可能性もあるのではないかと推測される。

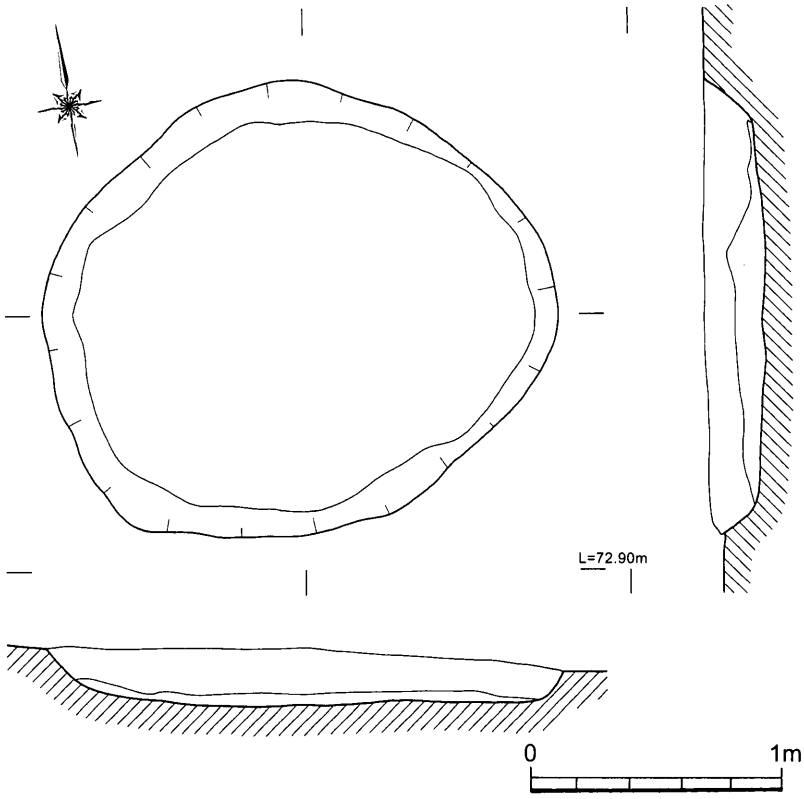


第35図　SC －14・SC －24実測図（S=1/30）

SC －25

６層上面から不整形な円形の黒いシミが見え始めたものの、プランが不明瞭であったため６層下位まで検出面を下げて調査を行った。

平面プランは長軸2.05m、短軸1.75mの楕円形を呈し、検出面からの深さは0.2mである。遺構の用途については、SC-13などと同様に竪穴式住居跡の可能性もあるのではないかと推測される。



第36図　SC －25実測図（S=1/30）

SC －１

６層上面で検出された。平面プランが長軸0.8m、短軸0.65mの楕円形で、検出面からの深さは0.01m、壁面は斜めに立ち上がっている。用途については不明である。

SC －３

縄文時代草創期･早期の遺物包含層がすでに削平された調査区の８層上面で検出された。平面プランは長軸1.2m、短軸1.05mの楕円形で、検出面からの深さは0.15m、壁面は緩やかに立ち上がっている。用途については不明であるが、使用礫が疎らなタイプの集石遺構の下部である可能性も否定できない。

SC －４

縄文時代草創期･早期の遺物包含層がすでに削平された調査区の８層上面で検出された。平面プランは長軸1.1m、短軸0.95mの楕円形で、検出面からの深さは0.15m、壁面は緩やかに立ち上がっている。用途については不明であるが、使用礫が疎らなタイプの集石遺構の下部である可能性も否定できない。

SC －５

縄文時代草創期･早期の遺物包含層がすでに削平された調査区の８層上面で検出された。平面プランは長軸1.15m、短軸0.95mの楕円形で、検出面からの深さは0.15m、壁面は緩やかに立ち上がっている。用途については不明であるが、使用礫が疎らなタイプの集石遺構の下部である可能性も否定できない。

SC －20

SC-20は、平面プランが長軸1.2m、短軸0.75mの長楕円形で、検出面からの深さは0.2mである。検出された場所及び形状からみて炉穴である可能性もあると推測されるが、埋土に炭化粒や焼土が確認できなかったため、今回は土坑として記録した。

SC －29

SC-29は、平面プランが長軸1.1m、短軸0.75mの長楕円形で、検出面からの深さは0.2m、壁面は床面から垂直気味に立ち上がっている。尚、用途については不明である。

SC －30·31

SC-30·31はＬ字に切りあう形で検出された。SC-30は、平面プランが長軸１ｍ、短軸0.7ｍの楕円形で、検出面からの深さは0.25ｍ、壁面は床面から垂直気味に立ち上がっている。SC-31は、平面プランが長軸1.2ｍ、短軸0.55ｍの楕円形で、検出面からの深さは0.2ｍ、壁面はSC-30と同様に床面から垂直気味に立ち上がっている。尚、両遺構の用途については不明である。

SC －26

SC-26は、平面プランが長軸1.3ｍ、短軸0.9ｍの長楕円形で、検出面からの深さは0.3ｍ、壁面は床面から垂直気味に立ち上がっている。床面ほぼ中央には、直径0.4ｍ、床面からの深さ0.5ｍの円形のピットを有しており、遺構の用途になんらかの関係があるのではないかと推測されるが、詳細については不明である。

SC －22

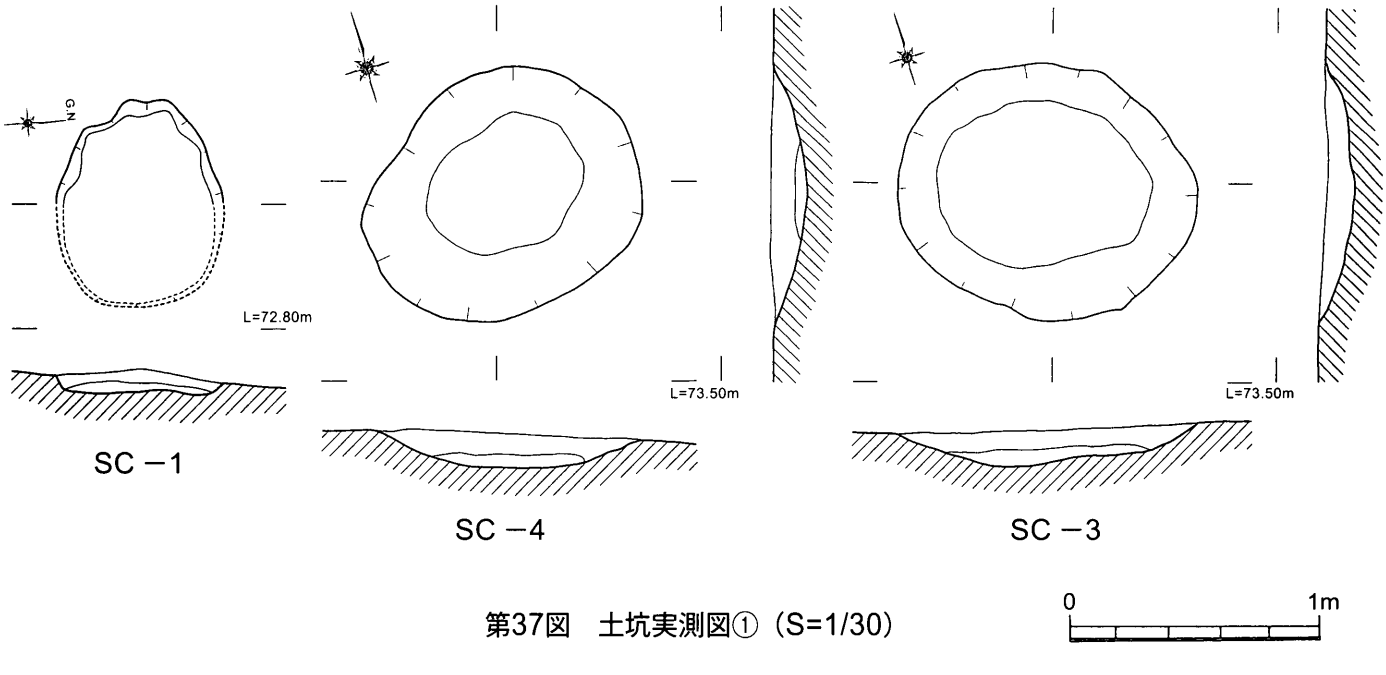
SC-22は、平面プランが長軸1.1ｍ、短軸0.65ｍの長楕円形で、検出面からの深さは0.35ｍ、壁面は床面から垂直気味に立ち上がっている。床面ほぼ中央には、直径0.35ｍ、床面からの深さ0.8ｍの円形のピットを有しているが、SC-26などと同様に詳細は不明である。

SC －28

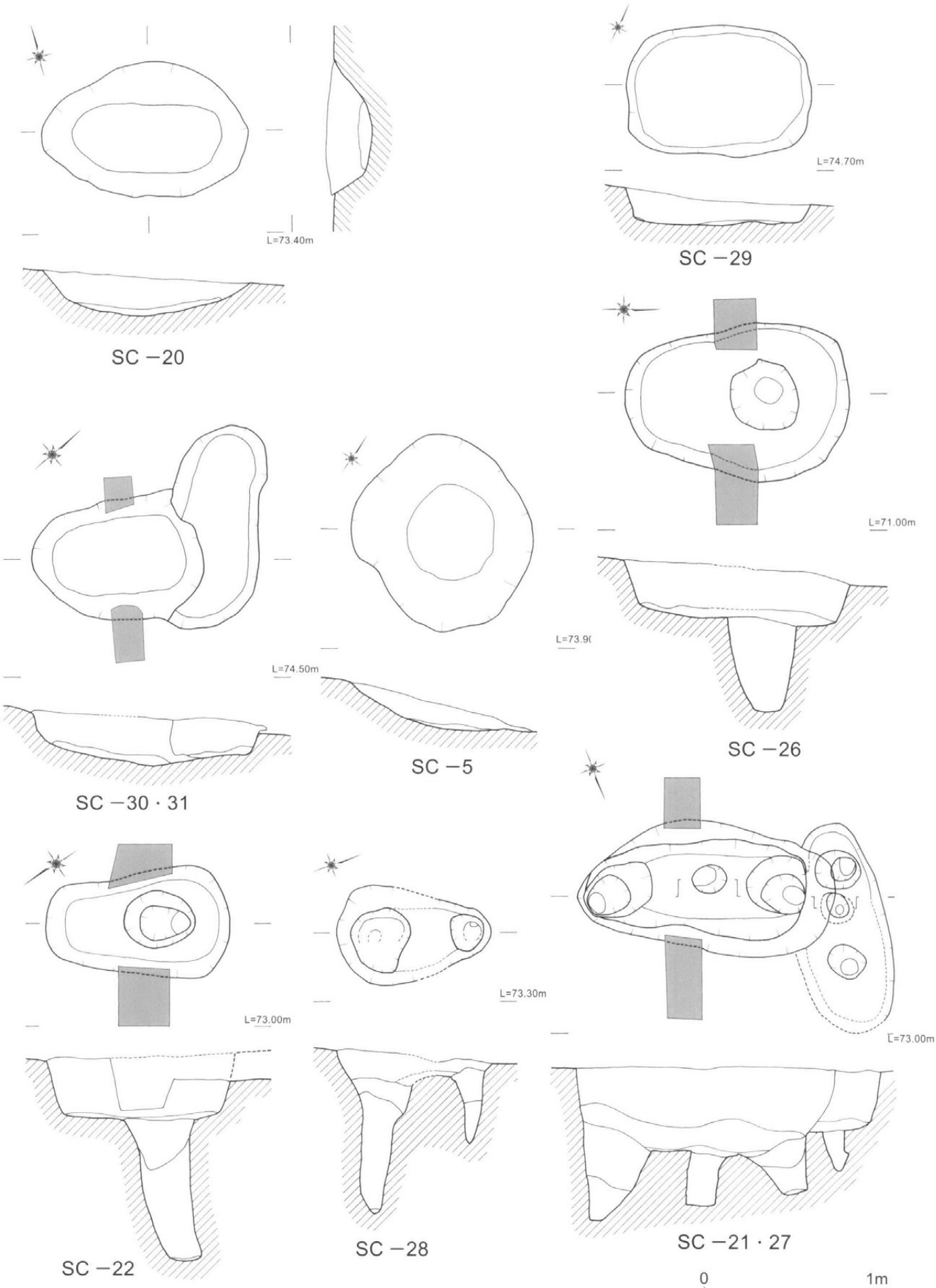
SC-28は、平面プランが長軸0.95ｍ、短軸0.6ｍの長楕円形で、検出面からの深さは0.15ｍ、壁面は床面から斜めに立ち上がっている。床面の両端には、直径0.2ｍ、床面からの深さ0.4ｍと直径0.3ｍ、床面からの深さ0.8ｍの２本の円形のピットを有しているが、SC-26などと同様に詳細は不明である。

SC －21·27

SC-21・27はＬ字に切りあう形で検出された。SC-21は、平面プランが長軸1.55ｍ、短軸0.8ｍの長楕円形で、検出面からの深さは0.8ｍ、壁面は床面から垂直気味に立ち上がっている。また、床面の両端及び中央に３本の円形のピットを有しているが、SC-26などと同様に詳細は不明である。SC-27は、平面プランが長軸1.2ｍ、短軸0.55ｍの長楕円形で、検出面からの深さは0.35ｍ、壁面はSC-21と同様に床面から垂直気味に立ち上がっている。SC-21同様床面の両端及び中央に３本の円形のピットを有しているが、これも用途については不明である。



第37図　土坑実測図①（S=1/30）



第38図　土坑実測図②（S=1/30）

5. 遺構内遺物

遺構の用途に直接関係している可能性がある遺物はほとんど出土していない。

土器については、塞ノ神式土器が多く、撚糸文系や壺型のものが出土している。

また、石器については、集石遺構からは打製石鏃、スクレイパー、細粒砂岩製剥片、細粒砂岩製石核、敲石が出土している。スクレイパーはファーストフレイクを素材とする。砂岩製の剥片は二次加工を施すものが存在する。敲石は剥片素材のものと円礫素材のものがある。その中には損傷が著しいものもあり、集石遺構に廃棄され、集石の礫として使用されたと考えられるものが存在する。陥し穴状遺構（SC-11）からは磨製石斧の刃部片が出土している。陥し穴状遺構という遺構の性格からは本遺構に伴う資料ではないと考えられる。平面形が不整円形の皿状の土坑（SC-13・25）からはスクレイパー、砂岩製剥片、敲石が出土している。砂岩製の剥片は大振りで刃器として使用していた可能性も考えられる。

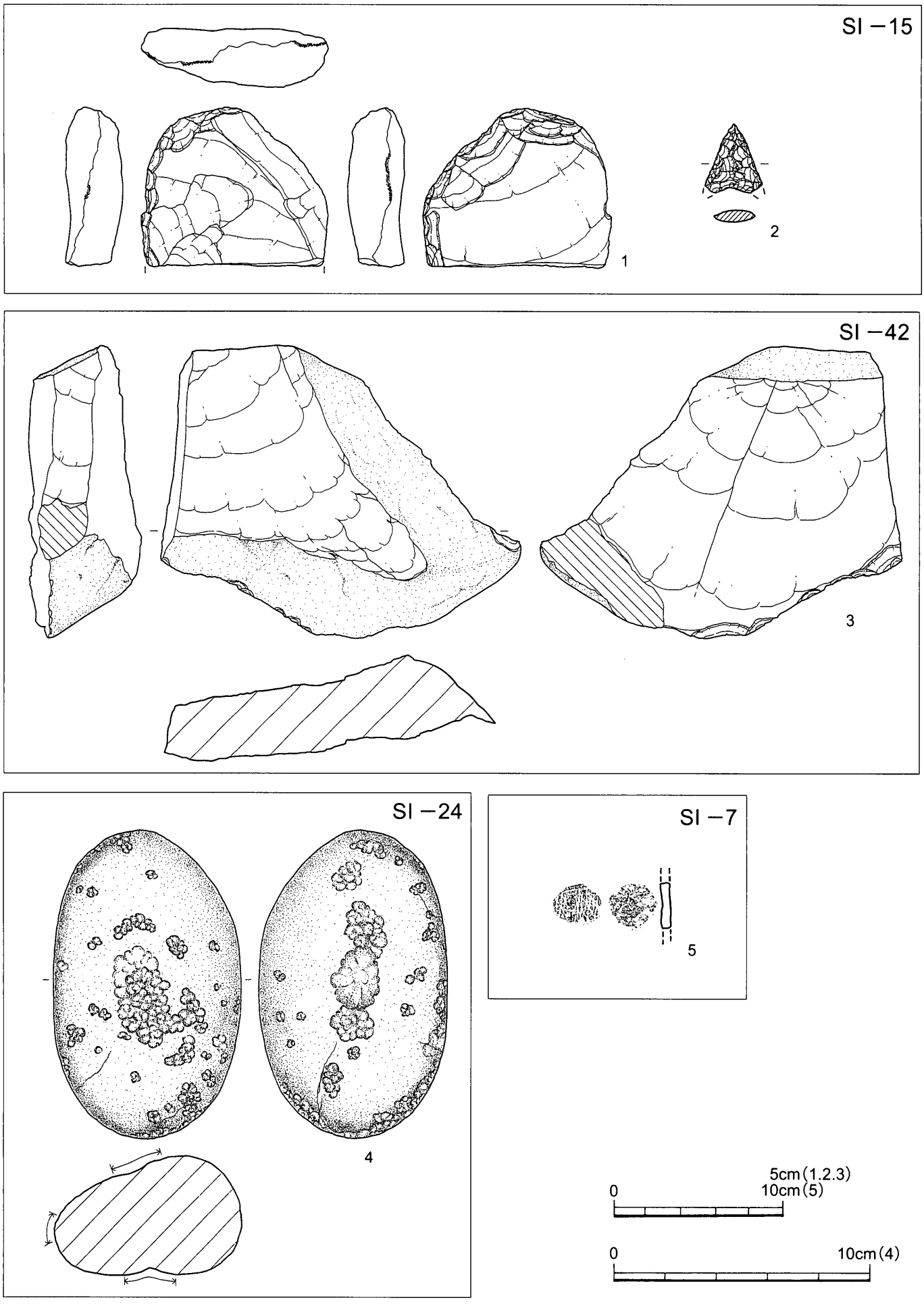
第５表　遺構内出土土器観察表

報告書No	遺構No	器形	部位	文様及び調整		色調		胎土						備考
				外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	砂粒	
5	SI-7	鉢	胴部	撚糸文　沈線文	ナデ	7.5YR5/2（灰褐）	7.5YR4/2（灰褐）		○				○1mm 以下	
11	SI-55	壺	口縁	ナデ	ナデ	10YR5/3（にぶい黄橙）	2.5Y5/2（暗灰黄）		○	○			○3mm 以下	
12	SI-55	壺	胴部	微隆帯（キザミ）	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	10YR4/2（灰黄褐）	○	○	○			○2mm 以下	
13	SI-55	鉢	口縁～頸部	ナデ・沈線文・撚糸文	ナデ	7.5YR4/2（灰褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○				○2mm 以下	
14	SI-55	鉢	胴部	ナデ・沈線文・撚糸文	ナデ	10YR4/2（灰黄褐）	10YR4/2（灰黄褐）	○	○	○			○2mm 以下	
15	SI-55	鉢	胴部	ナデ・沈線文・撚糸文	ナデ	7.5YR4/2（灰褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○				○2mm 以下	
16	SI-55	鉢	胴部	ナデ・沈線文・撚糸文	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○			○	○1mm 以下	
17	SI-55	鉢	胴部	ナデ・撚糸文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄橙）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○			○	○2mm 以下	
18	SI-55	鉢	胴部～底部	ナデ・沈線文・撚糸文	ナデ	5YR4/3（にぶい赤褐）	7.5YR4/1（褐灰）	○	○				○2mm 以下	
19	SC-1	鉢	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR6/4（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄橙）	○	○				○1.5mm 以下	口唇部に沈線文
20	SC-6	壺	胴部	ナデ・沈線文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○1mm 以下	
21	SC-6	壺	胴部	ナデ・沈線文	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	7.5YR7/1（明褐灰）	○	○				○1mm 以下	
24	SC-24	鉢	口縁～頸部	ナデ・沈線文	ナデ	7.5YR4/1（褐灰）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○			○	○3mm 以下	波状口縁
25	SC-25	鉢	胴部	ナデ・沈線文・撚糸文	ナデ	7.5YR4/3（褐）	2.5YR4/1（赤灰）		○			○	○1mm 以下	
30	SC-13	鉢	胴部～底部	山形押型文	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	10YR5/3（にぶい黄橙）	○	○				○3mm 以下	
31	SC-13	鉢	胴部	撚糸文　沈線文	ナデ	7.5YR4/1（褐灰）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○2mm 以下	
32	SC-13	鉢	胴部	撚糸文　沈線文	ナデ	7.5YR3/1（黒褐）	7.5YR4/1（褐灰）	○	○				○1.5mm 以下	
33	SC-13	鉢	胴部	撚糸文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR3/1（黒褐）	○	○				○1.5mm 以下	

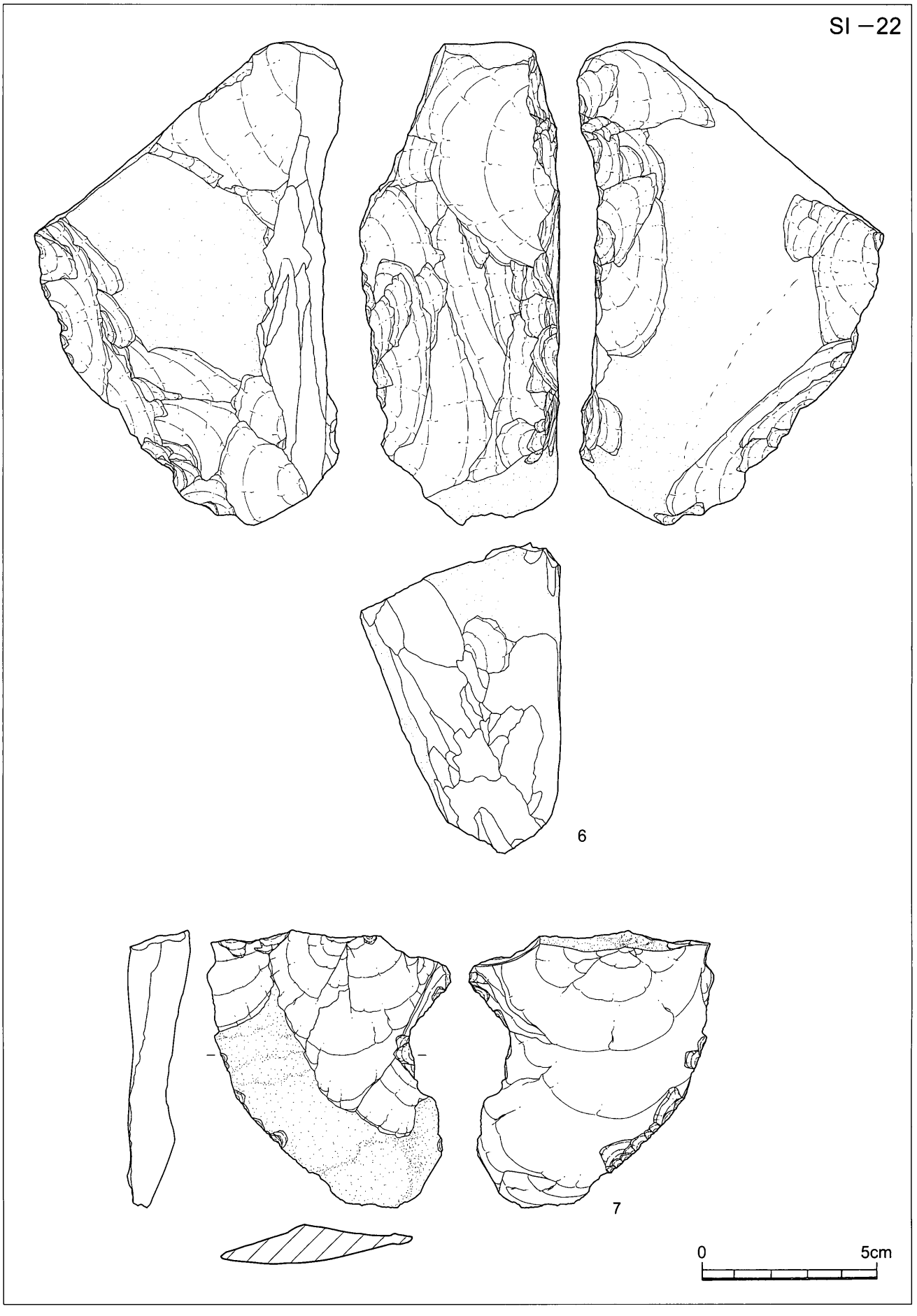
第６表　遺構内出土石器計測分類表

報告書No	実測No	器種	遺構番号	石材	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重（g）	備考
1	417	敲石	SI-15	砂岩	(6.2)	7.3	2.25	(100.96)	楔形石器の可能性有り
2	302	打製石鏃	SI-15	頁岩	(2.0)	(1.7)	0.3	(0.96)	脚部欠損
3	380	剥片	SI-42	砂岩	8.5	10.6	3.4	239・48	下端部に二次加工有り
4	413	敲石	SI-24	砂岩	12.0	7.4	4.6	536.24	
6	418	石核	SI-22	砂岩	5.7	13.45	8.75	679.5	
7	377	剥片	SI-22	砂岩	7.85	6.95	1.3	61.54	側縁に二次加工有り
8	352	スクレイパー	SI-47	頁岩	8.05	9.9	2.1	171.9	
9	301	打製石鏃	SI-48	頁岩	(1.9)	1.6	0.3	(0.64)	先端部欠損
10	405	敲石	SI-48	砂岩	10.65	6.85	4.85	429.05	
22	381	磨製石斧	SC-11	ホルンフェルス	(5.4)	(4.7)	(2.4)	(52.55)	基部欠損
23	331	石鏃未製品	SC-12	チャート	2.25	1.85	1.00	3.49	
26	389	スクレイパー	SC-25	砂岩	14.65	8.35	5.4	580.94	
27	364	スクレイパー	SC-25	砂岩	(5.65)	(4.0)	(0.6)	(14.67)	上半部欠損
28	375	剥片	SC-14	流紋岩	3.4	3.7	1.5	13.01	
29	378	剥片	SC-16	砂岩	4.65	3.9	0.9	14.16	
34	411	敲石	SC-13	砂岩	10.55	8.8	4.8	598.4	
35	414	敲石	SC-13	砂岩	10.35	9.35	5.65	714.73	磨石としても使用
36	373	剥片	SC-13	砂岩	10.4	8.1	2.9	196.48	
37	379	剥片	SC-13	砂岩	8.25	6.2	2.05	77.36	
38	368	剥片	SC-13	砂岩	6.6	4.6	1.5	33.18	

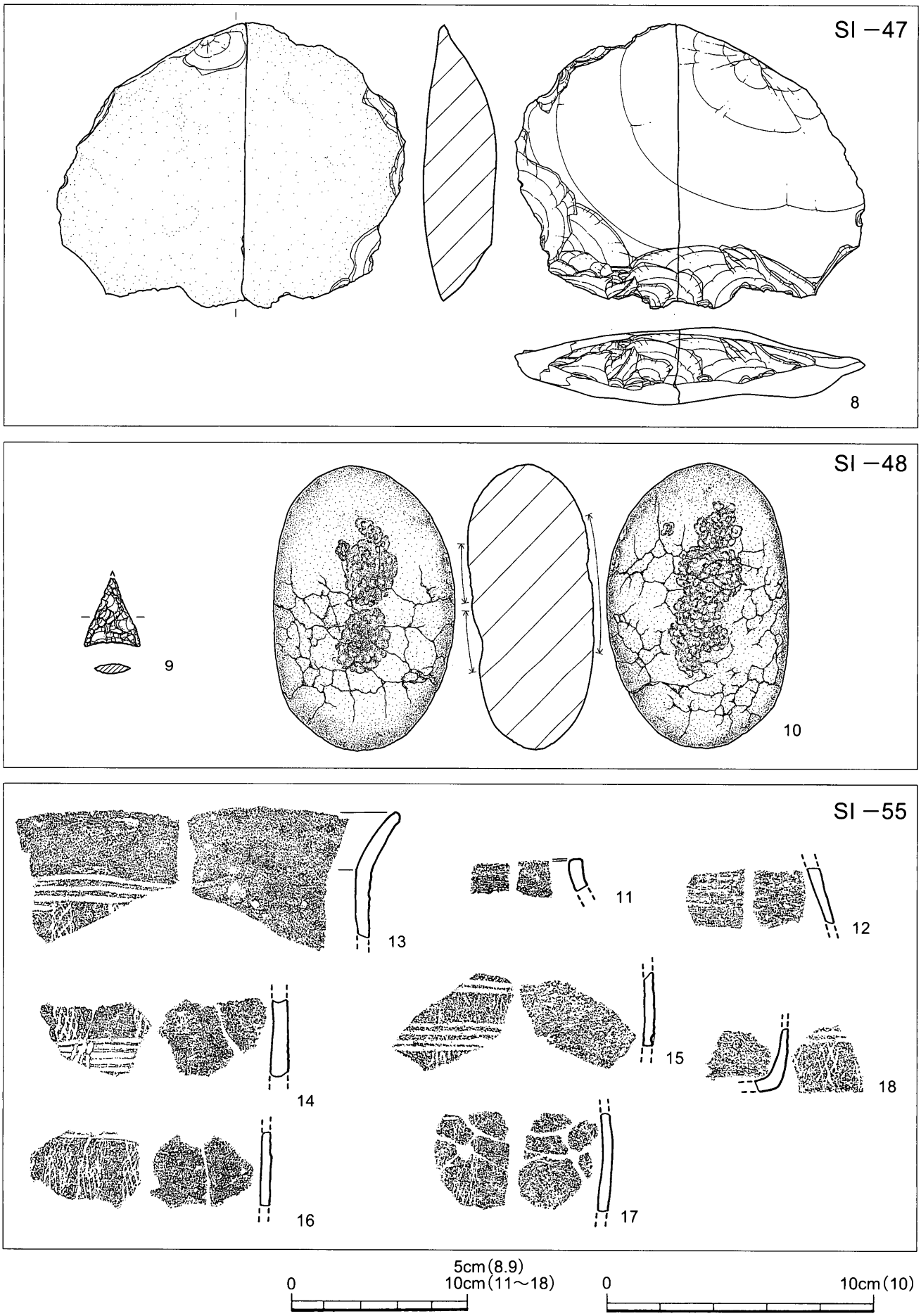
（　　）の値は残存値を示す



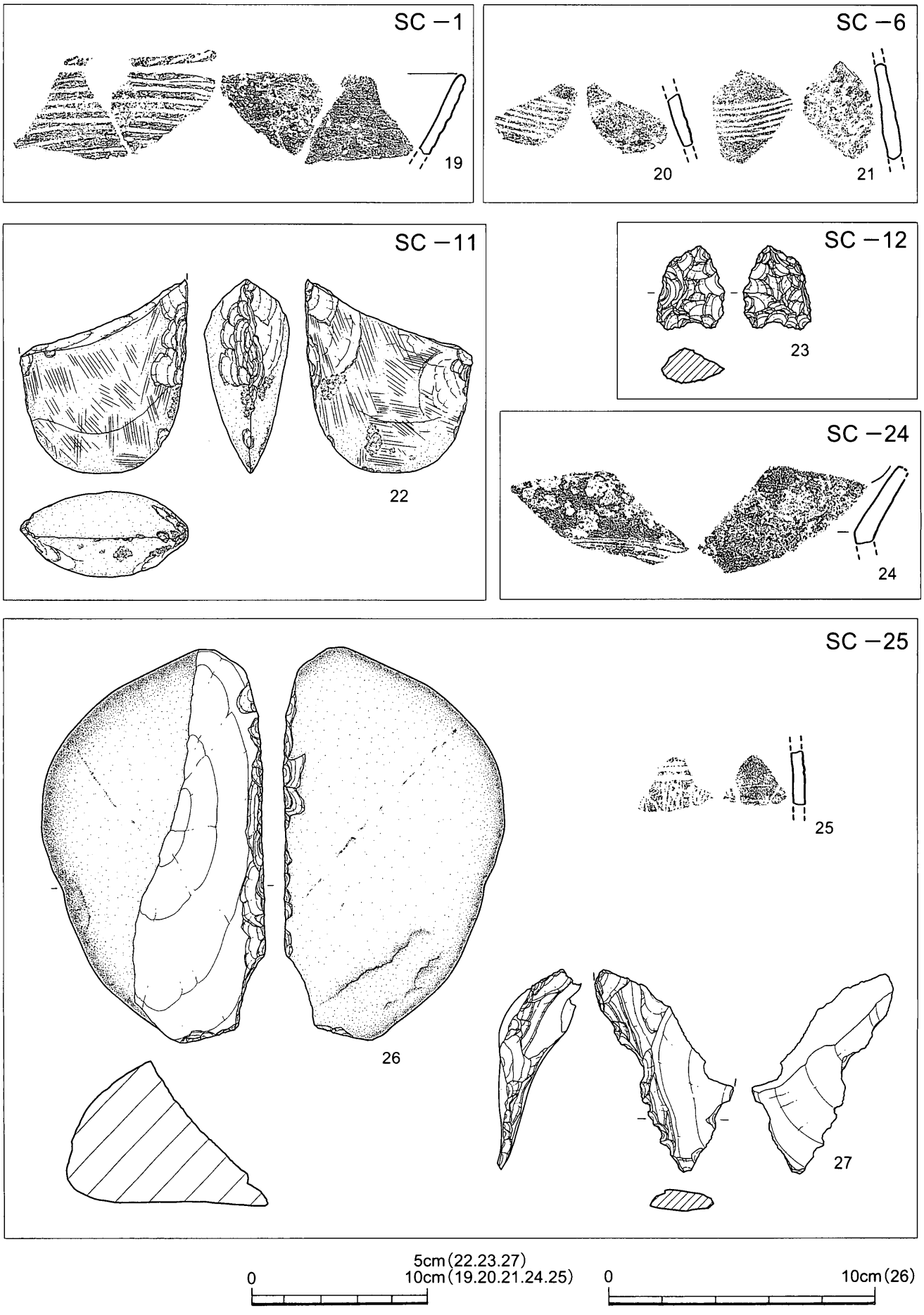
第39図　遺構内遺物実測図①（土器：S=1/3　石器：S=1/2、2/3）



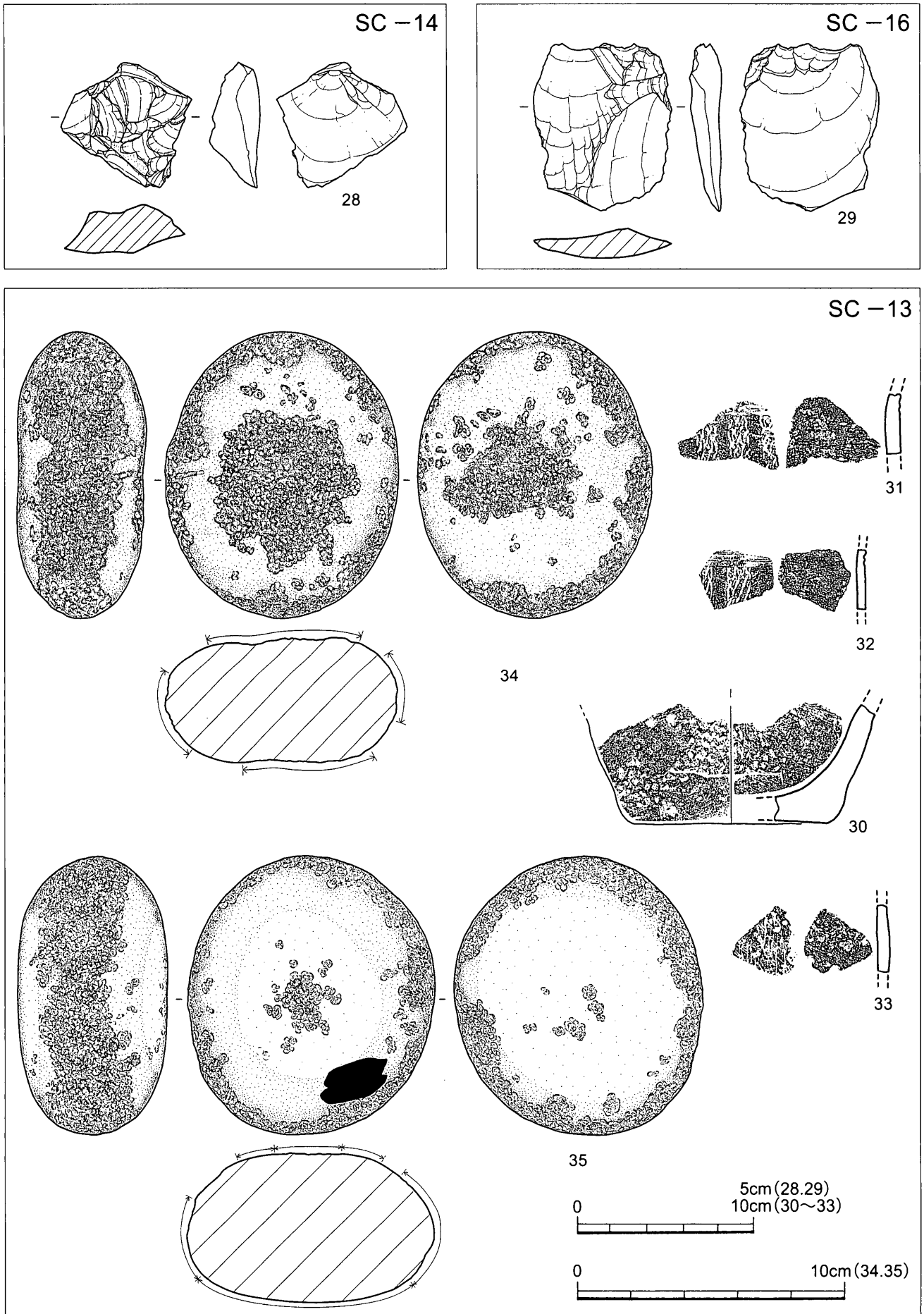
第40図　遺構内遺物実測図②（S=2/3）



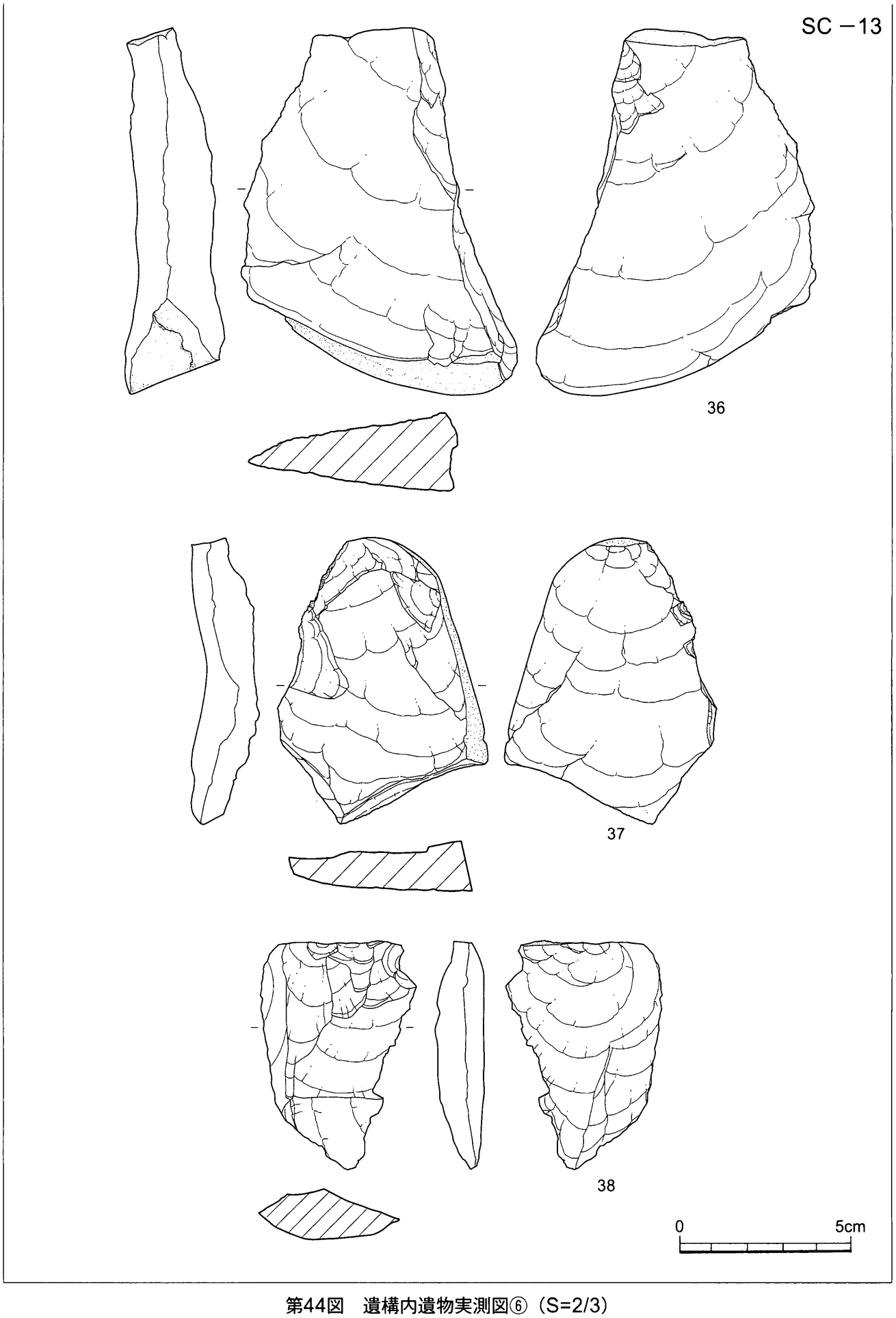
第41図　遺構内遺物実測図③（土器：S=1/3　石器：S=1/2、2/3）



第42図　遺構内遺物実測図④（土器：S=1/3　石器：S=1/2、2/3）



第43図　遺構内遺物実測図⑤（土器：S=1/3　石器：S=1/2、2/3）



第44図　遺構内遺物実測図⑥（S=2/3）

第２節　包含層出土遺物

1. 土　器

５層下位から６層中位において、貝殻円筒形・押型文土器・平栫式土器、塞ノ神式土器など早期の土器が出土した。形式ごとに出土層位が異なる状況は見られず、全ての土器形式が包含層に混在していた。また、早期の包含層の下層、すなわち６層下位から７層上位においては、貝殻殻頂部による圧痕文を施したものや、隆起線文・隆帯文土器、爪形文土器など縄文時代草創期の土器が出土した。

草創期の土器（1～16）

1・2は口縁部外面に幅広の粘土帯を貼り付け、そこに貝殻殻頂部を用いて圧痕文を施している（２は口縁部内面にも同様の圧痕文を施している）。３は口縁部外面に隆起線文を４条巡らし、それにキザミを施しており、また、丸めに仕上げられた口唇部にもキザミを施している。４も３同様口縁部外面に隆起線文を巡らし、それにキザミを施しているが、かなり磨耗しているためやや不明瞭である。５は口縁部外面に爪型文を施している。６は口縁部外面に断面三角形の隆帯文を２条貼り付け、それにキザミ（爪形文か？）を施している。７は口縁部外面に断面三角形の隆帯文を１条貼り付け、それに刺突文を施している。８は口縁部外面に断面三角形の隆帯文を１条貼り付け、それに爪形文を施しており、また、隆帯文貼り付け部から外反する口唇部にはキザミを施している。９は口縁部外面に断面三角形の隆帯文を２条貼り付け、それに爪形文を施し、また、口唇部は内面に斜行するように仕上げられている。10～11は胴部外面（おそらく口縁部付近）に断面三角形の隆帯文を貼り付け、それにキザミ（爪形文か？）を施している。12は胴部外面に厚みのうすい隆帯文を２条貼り付け、それに爪形文を施している。14～16は無文の胴部片であるが、出土層位や胎土からみておそらく草創期の土器であろう。

貝殻円筒形土器（17～50）

貝殻円筒形土器は45点出土し、今回34点資料化している。17は口縁部外面に縦位の貝殻復縁刺突文を施し、また、口唇端部には貝殻蝶番部によるキザミを施している。18～40は岩本式土器の一群であろう。器形は基本的に底部からほぼ直線的に立ち上がる円筒形であり、なかには口唇端部にキザミを施し波状に仕上げ、口唇部内面には段を有するものや、それらの特徴が消失してしまったものがみられる。また、外面の施文については、胴部は貝殻条痕文のものや丁寧なナデのもの、口縁部は貝殻刺突文がみられる。41～44は前平式土器の一群であろう。いずれも口縁部小破片のため器形は断言できないが、おそらく円筒形だと思われる。40～42は外面に貝殻条痕文を施し、それに加え口唇部から縦位のキザミを施している。43・44は外面に貝殻条痕文を施し、口唇部にキザミを施している。45は外面に斜位の貝殻条痕文を施し、口唇端部には貝殻復縁による刺突文を施している。46・47は知覧式土器の一群であろう。いずれも胴部片で、斜位の貝殻条痕文を施したあと、縦位の貝殻復縁刺突文を施している。48～50は下剥峰式土器の一群であろう。いずれも口縁部片で、外面に貝殻復縁刺突文が施され、49・50はやや外反している。

押型文土器（51～62）

押型文土器は297点出土したが、ほとんどが極小破片であったため、今回12点資料化している。

51～56は山形押型文で、51は口縁部がやや緩やかに外反している。また、57～59は楕円押型文であるが、いずれも小破片であるため器形等は不明である。

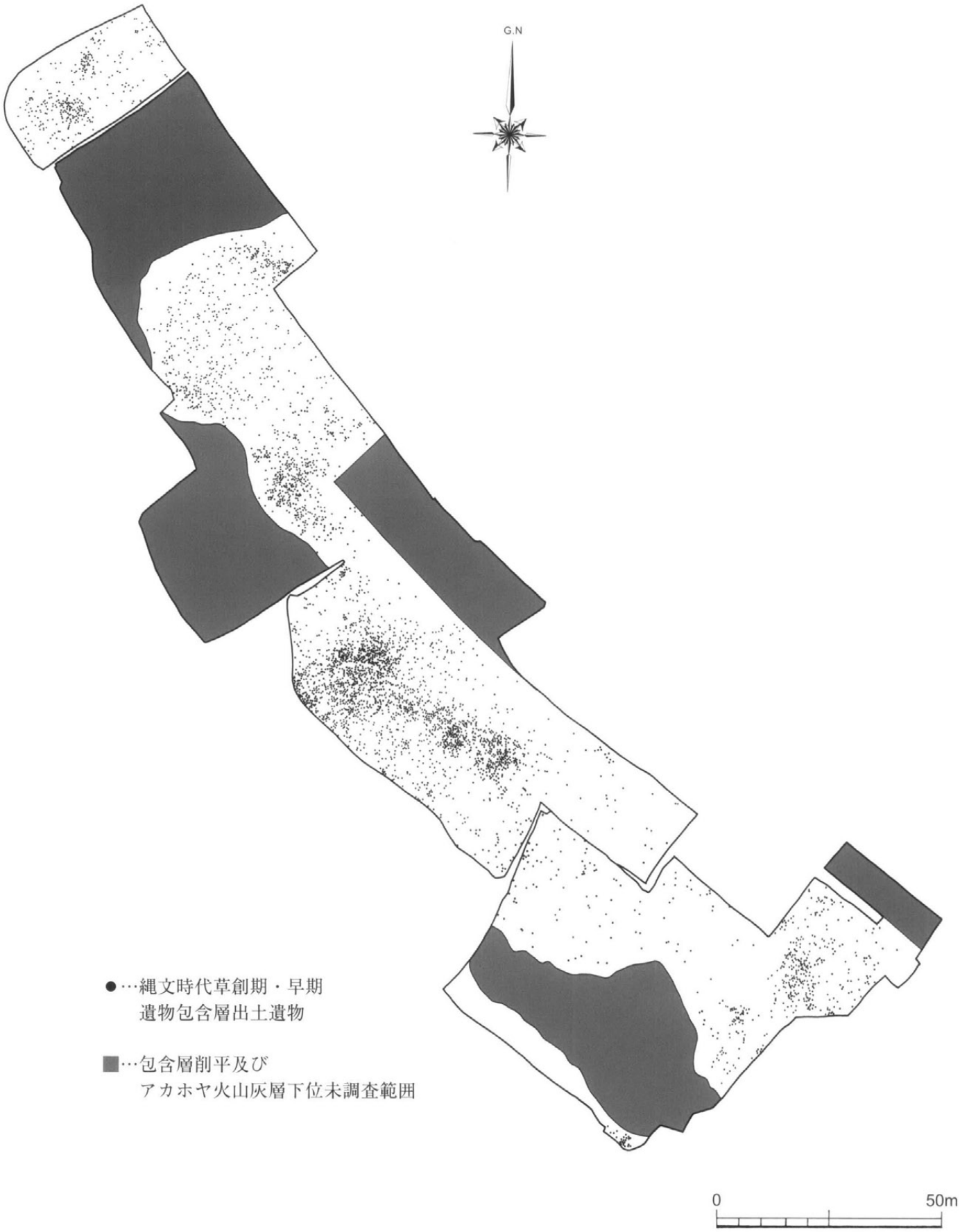
平栫式土器（63・64）

平栫式土器は５点出土し、今回２点資料化している。64は波状口縁片で、外面･内面ともに沈線文が施されている。65は胴部片で、外面に沈線文を施している。

塞ノ神式土器（65～181）

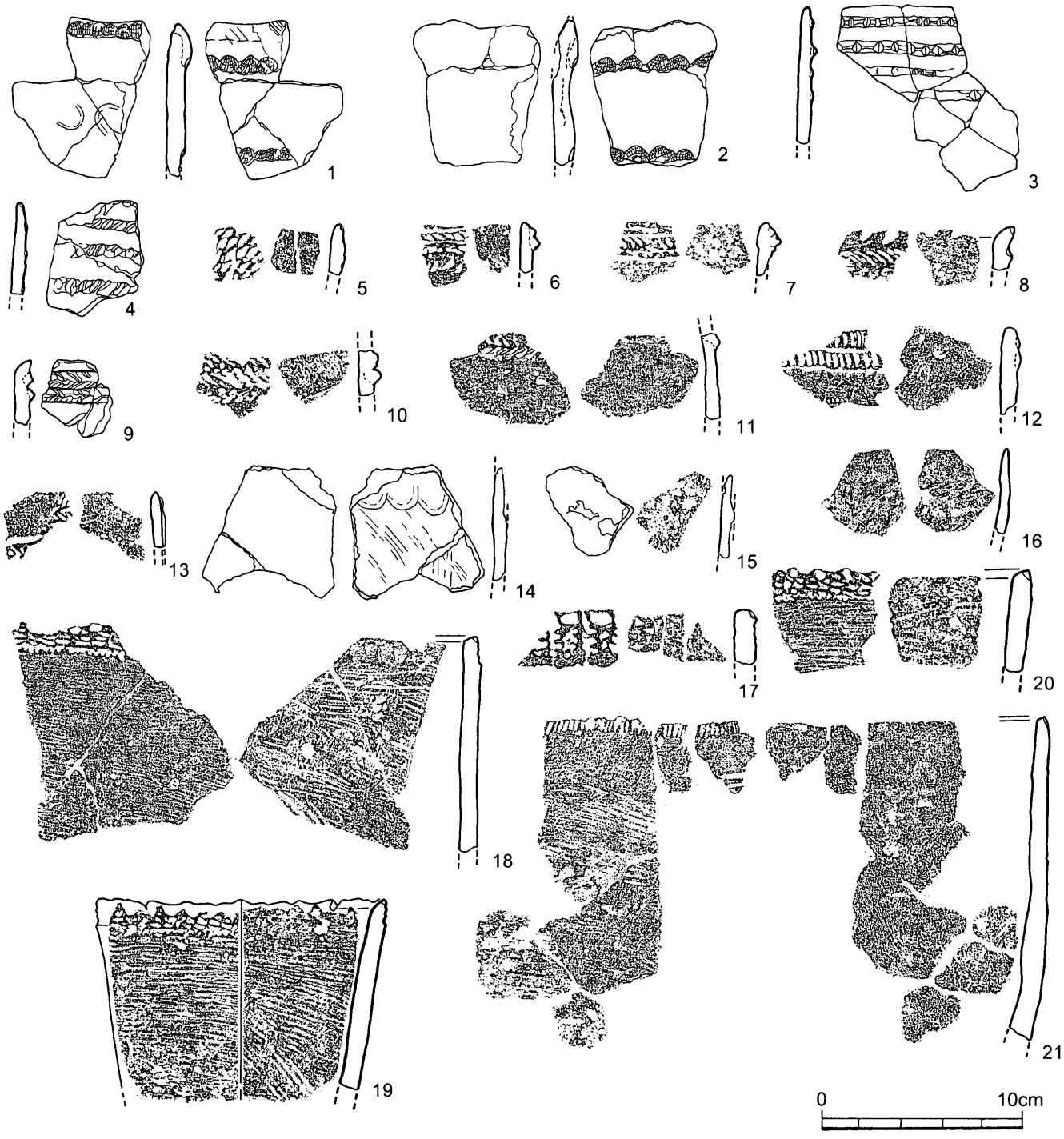
塞ノ神式土器は126点出土し、今回117点資料化している。

65～80は口縁部に平行な微隆帯を巡らした壺である。65・67は口縁部が残存しており、65の口唇部にはキザ

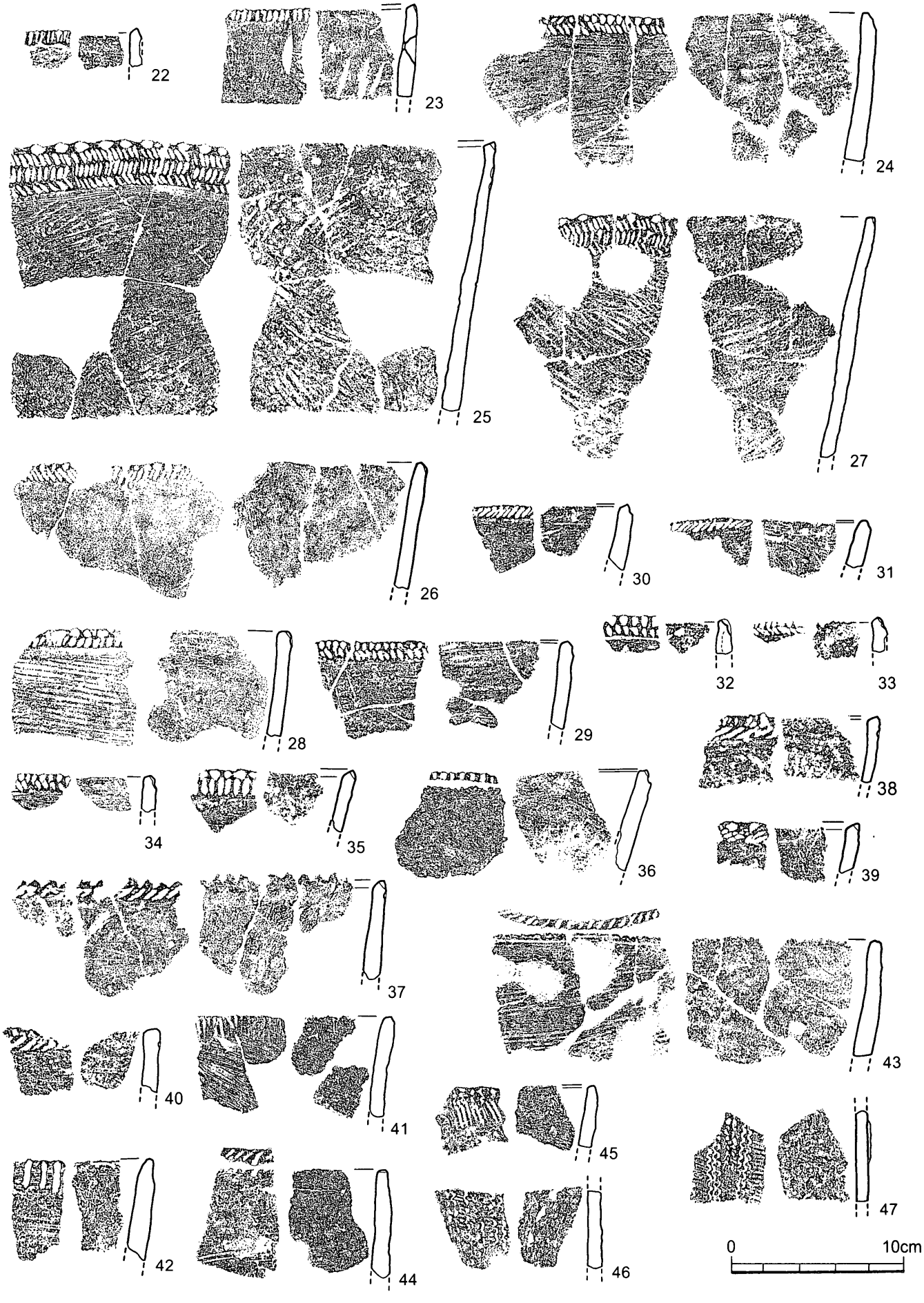


第45図　縄文時代草創期・早期遺物分布図（S=1/1200）

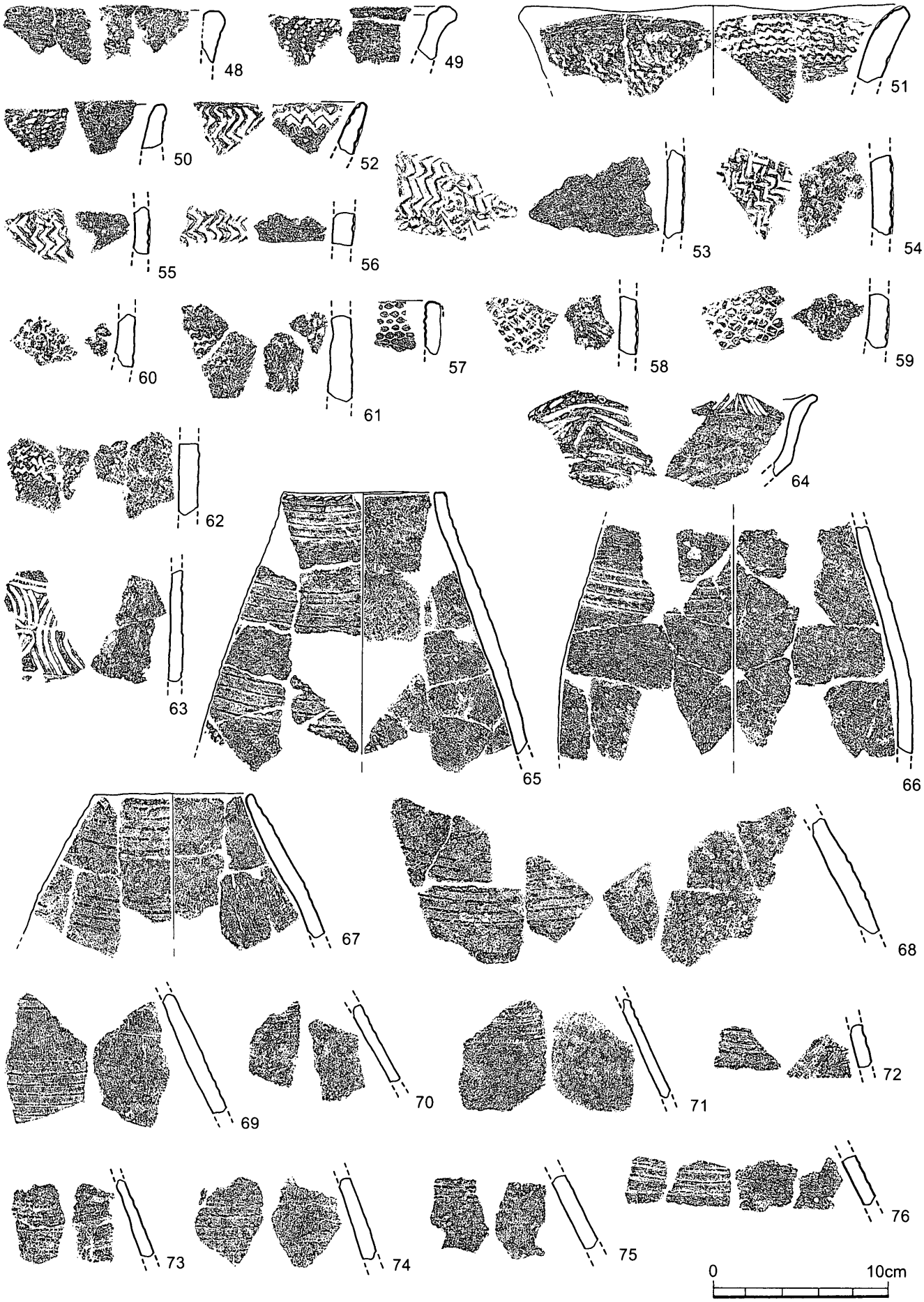
ミを施している。また、微隆帯については、数条（3条や4条のものが多い）単位で巡らされているものがほとんどで、全てに細やかなキザミを施している。81～91は沈線文を施した壺である。89～91については、口唇部にキザミを施している。92・93は無文の壺で、93は底部（平底）である。94～181は撚糸文を施した鉢である。94はほぼ完形にちかい状態で出土しており、埋設土器であると推測される。やや張った胴部には縦位の撚糸文の後に横位の沈線文を施し、ラッパ状に開いた口縁部には沈線文を施している。95は器形や施文の特徴は94と似ているが、94と比べるとかなり大型である。96～123は口縁部及び頸部で、いずれも胴部からラッパ状に開いており、頸部の稜が明瞭なものとそうでないものが存在する。124～173は胴部で、縦位の撚糸文と横位の沈線文を施している。174～181は底部で、胴部と同様に縦位の撚糸文と横位の沈線文を施している。尚、174は平底である（やや上げ底気味）。



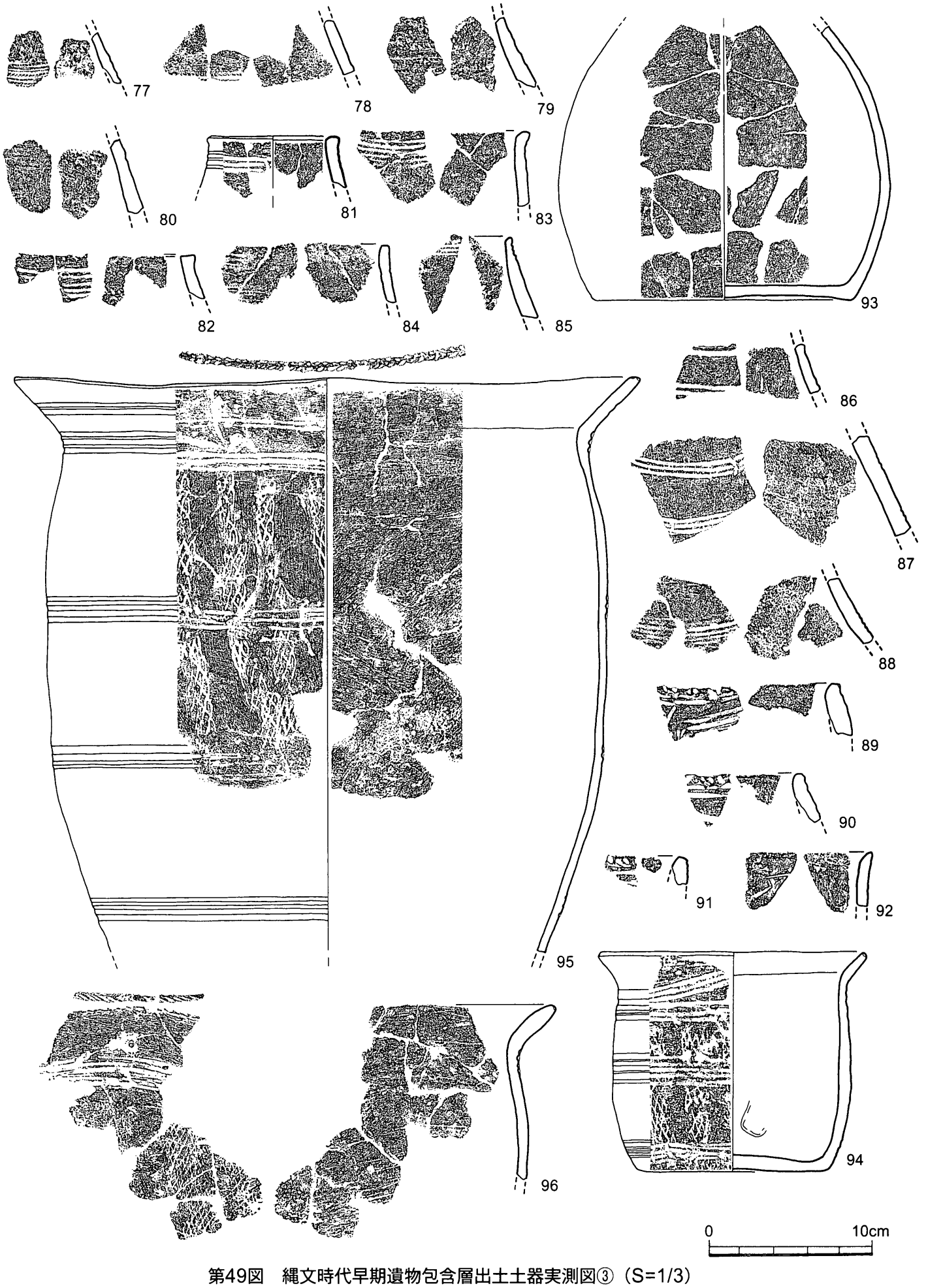
第46図　縄文時代草創期・早期遺物包含層出土土器実測図（S=1/3）



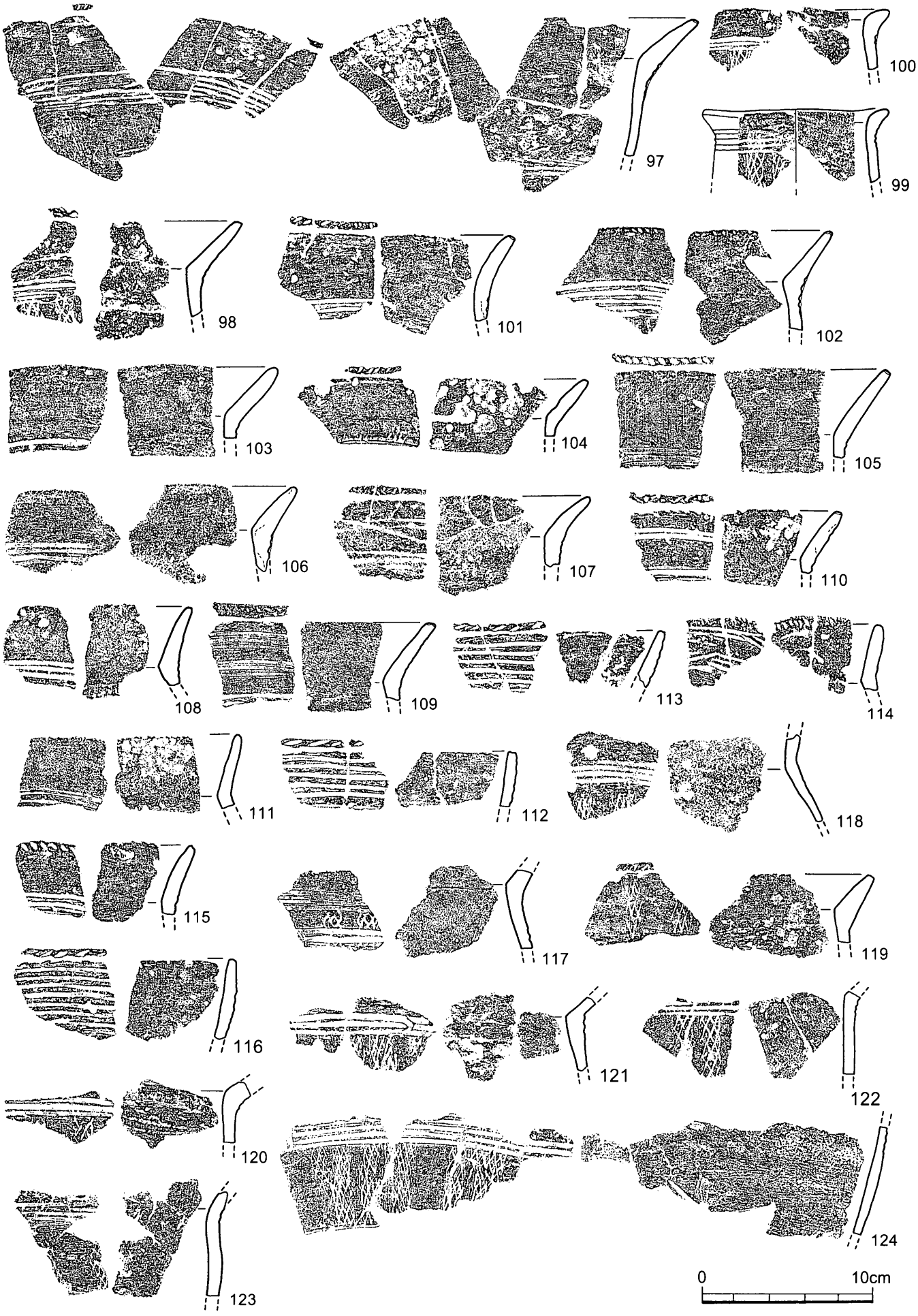
第47図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図①（S=1/3）



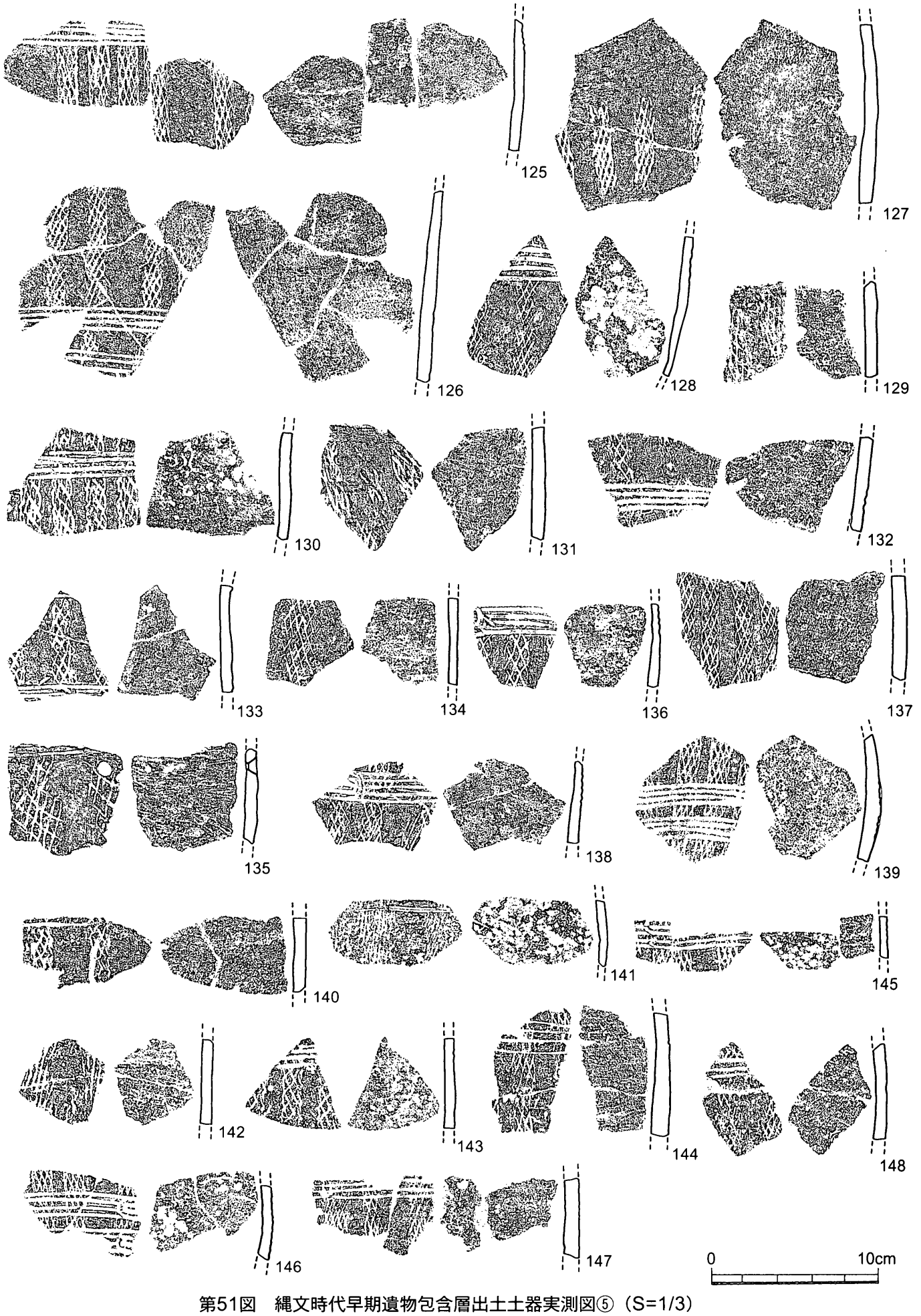
第48図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図②（S=1/3）



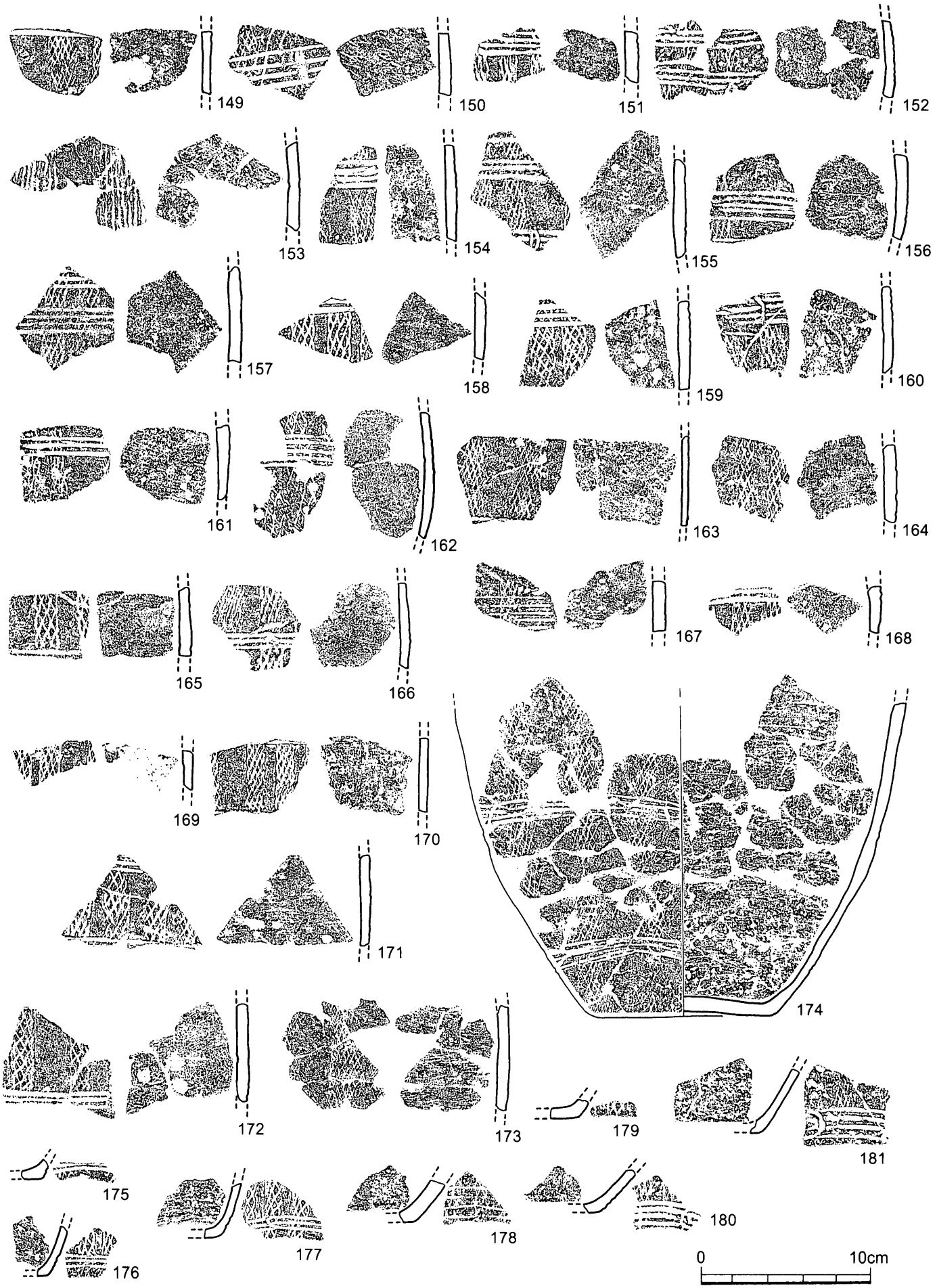
第49図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図③（S=1/3）



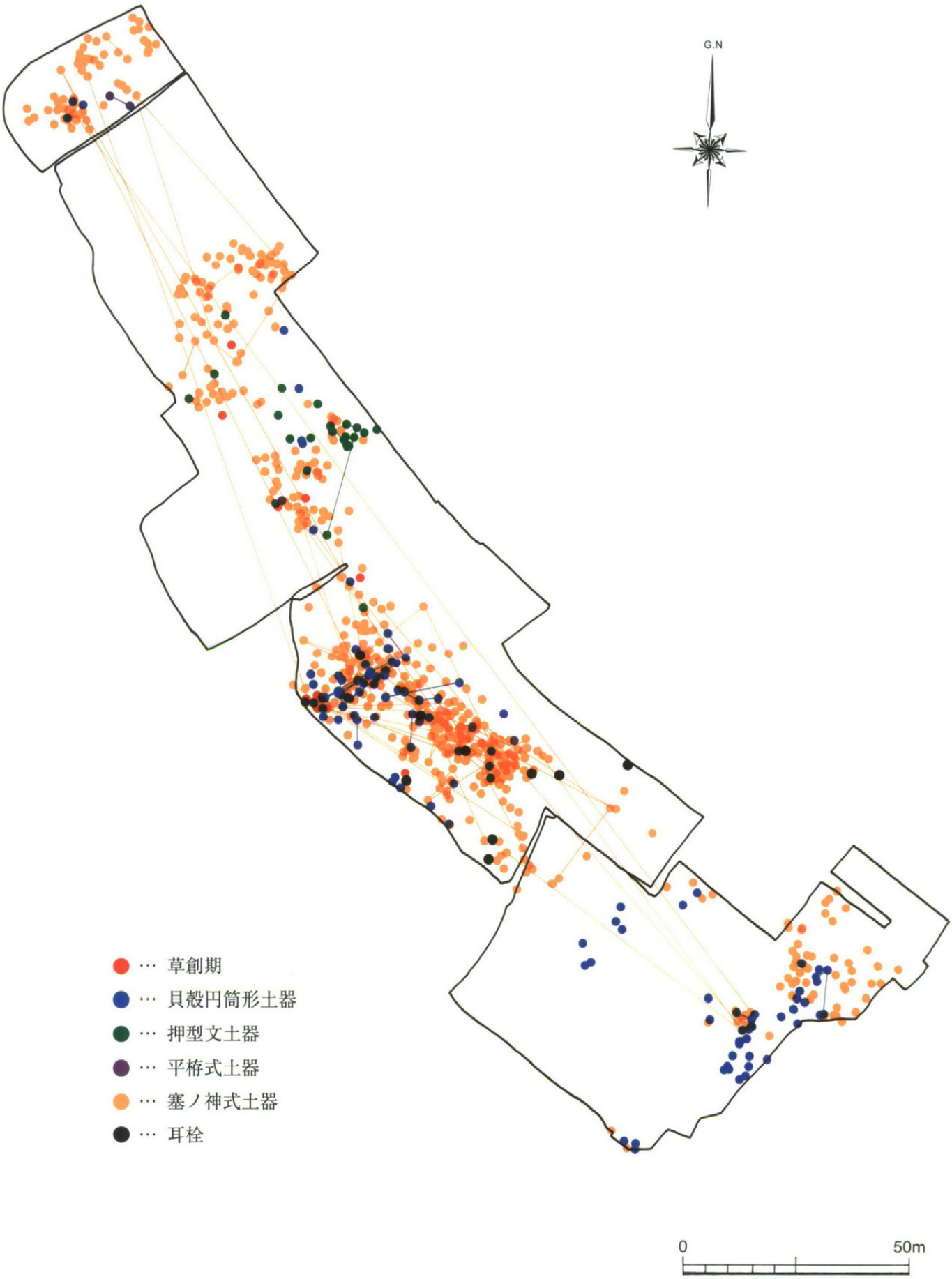
第50図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図④（S=1/3）



第51図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑤（S=1/3）



第52図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑥（S=1/3）



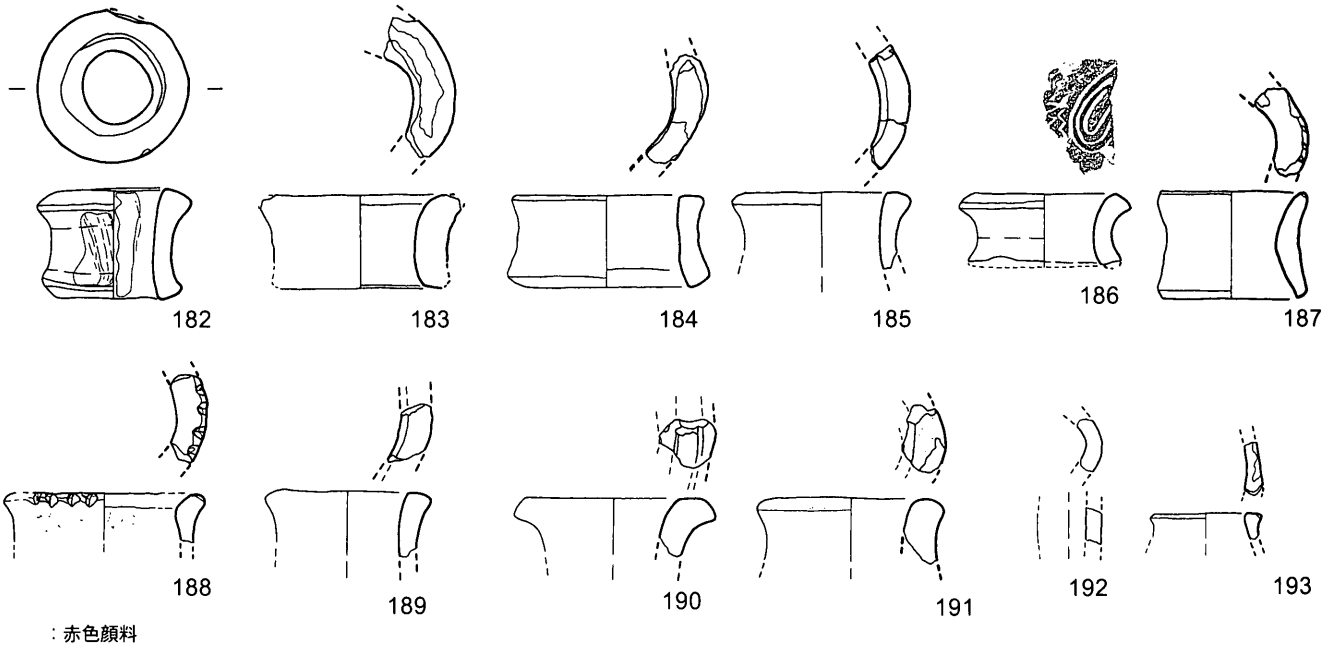
第53図　縄文時代草創期・早期遺物包含層出土土器分布図（S=1/1200）

第７表　縄文時代草創期・早期遺物包含層出土土器観察表

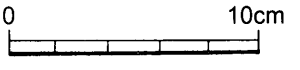
報告書No	出土層位	器形	部位	文様及び調整		色調		胎土						備考	実測No
				外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	砂粒		
1	6層最下位	鉢	口縁～胴部	圧痕文(貝殻)	圧痕文(貝殻)	10YR7/1(灰白)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○1mm 以下	内面に指頭痕有り	1
2	6層最下位	鉢	口縁～胴部	圧痕文(貝殻)	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○1mm 以下		2
3	6層最下位	鉢	口縁～胴部	隆起線文	ナデ(地文に貝殻?)	7.5YR4/3(褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○					○2mm 以下		7
4	6層最下位	鉢	口縁～胴部	隆起線文	横ナデ	10YR6/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○					○2mm 以下		5
5	6層最下位	鉢	口縁	爪形文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○1mm 以下		481
6	6層下位	鉢	口縁	隆帯文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○				○1mm 以下		458
7	6層下位	鉢	口縁	隆帯文	ナデ	10YR3/1(黒褐)	10YR5/2(灰黄褐)		○				○1mm 以下		459
8	6層下位	鉢	口縁	隆帯文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○				○1mm 以下		457
9	6層最下位	鉢	口縁	隆帯文	横ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/3(褐)	○					○2mm 以下		6
10	6層下位	鉢	胴部	隆帯文	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	2.5Y5/2(暗灰黄)	○	○				○1mm 以下		479
11	6層下位	鉢	胴部	隆帯文	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○				○1mm 以下		471
12	6層下位	鉢	胴部	隆帯文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○1mm 以下		475
13	6層下位	鉢	口縁	隆帯文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○				○1mm 以下		472
14	6層最下位	鉢	口縁～胴部	ナデ	ナデ、ハケ目、指押さえ	2.5Y5/1(黄灰)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○				○1mm 以下		469
15	6層最下位	鉢	胴部	ナデ	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○				○1mm 以下	剥離多い	470
16	6層最下位	鉢	胴部	ナデ	ナデ	10YR4/1(褐灰)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○3mm 以下		464
17	6層	鉢	口縁	貝殻腹縁刺突文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○1mm 以下		455
18	6層	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文・貝殻押引文	貝殻条痕文→ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○			○	○3mm 以下	口唇部にキザミ目(貝殻腹縁)	164
19	6層	円筒	口縁～胴部	貝殻条痕文・貝殻押引文	貝殻条痕文	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/3(褐)	○	○				○6mm 以下	口唇部にキザミ目	483
20	5層	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文・貝殻押引文	貝殻条痕文→ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○4mm 以下	口唇部にキザミ目(貝殻腹縁)	165
21	6層	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文・貝殻刺突文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)		○	○			○4mm 以下		158
22	6層	鉢	口縁	貝殻条痕文・貝殻刺突文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○	○			○3mm 以下		460
23	6層	深鉢	口縁～胴部	ナデ・貝殻刺突文	道具ﾅﾃ痕有・ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	2.5Y4/1(黄灰)		○	○			○3mm 以下	穿孔有	170
24	6層	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文→ナデ・貝殻刺突文	貝殻条痕文→ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○			○	○3mm 以下		160
25	6層	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文→ナデ・貝殻刺突文	貝殻条痕文・ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○			○	○3mm 以下		157
26	6層	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文→ナデ・貝殻刺突文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)		○	○			○4mm 以下		161
27	6層	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文・貝殻刺突文	貝殻条痕文・ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○3mm 以下	口唇部にキザミ目(棒状)	159
28	6層	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文・貝殻刺突文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)		○	○			○4mm 以下		162
29	6層	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文→ナデ・貝殻刺突文	貝殻条痕文→ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	7.5YR7/1(明褐灰)	○	○			○	○4mm 以下		163
30	6層	深鉢	口縁	ナデ・貝殻刺突文	貝殻条痕文→ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○2mm 以下		167
31	6層	深鉢	口縁	ナデ・貝殻刺突文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/4(にぶい橙)	○	○				○2mm 以下		166
32	6層	鉢	口縁	ナデ・刺突文(貝殻?)	ナデ	10YR3/1(黒褐)	7.5YR4/1(褐)	○	○				○2mm 以下		461
33	6層	鉢	口縁	ナデ・刺突文(貝殻?)	ナデ	5YR4/1(褐灰)	2.5Y4/1(赤灰)	○	○				○2mm 以下		463
34	6層	鉢	口縁	ナデ・刺突文(貝殻?)	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○			○	○3mm 以下		462
35	6層	深鉢	口縁	ナデ・刺突文(貝殻?)	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○				○2mm 以下	口唇部にキザミ目(貝殻腹縁)	173
36	6層	鉢	口縁	ナデ・刺突文(貝殻?)	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)			○			○3mm 以下		454
37	5・6層	深鉢	口縁～胴部	ナデ・貝殻刺突文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)		○	○			○5mm 以下	口唇部にキザミ目(?)	169
38	6層	深鉢	口縁	ナデ・貝殻刺突文	ナデ	5YR5/3(にぶい赤褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○	○			○4mm 以下	口唇部にキザミ目(?)	172
39	6層	深鉢	口縁	ナデ・貝殻刺突文	ナデ	5YR4/3(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○3mm 以下	口唇部にキザミ目(?)	174
40	6層	鉢	口縁	ナデ・貝殻刺突文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○			○3mm 以下		474
41	6層	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文→ナデ	7.5YR7/1(明褐灰)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○				○1mm 以下		292
42	6層	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文→ナデ・刺突文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○			○	○1mm 以下		171
43	6層	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文→ナデ	貝殻条痕文→ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○				○2mm 以下	口唇部にキザミ目(貝殻腹縁)	168
44	6層	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文→ナデ	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○			○	○1mm 以下	口唇部にキザミ目(貝殻腹縁)	293
45	6層	深鉢	口縁	貝殻条痕文・貝殻腹縁刺突文	貝殻条痕文→ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○			○	○1mm 以下		288
46	6層	深鉢	胴部	貝殻条痕文・貝殻腹縁刺突文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○			○	○1mm 以下		423
47	6層	深鉢	胴部	貝殻条痕文・貝殻腹縁刺突文	貝殻条痕文→ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○			○	○1mm 以下		297
48	6層	深鉢	口縁	貝殻条痕文	貝殻条痕文→ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○				○2mm 以下		291
49	6層	鉢	口縁	貝殻腹縁刺突文	ナデ	2.5Y4/2(暗灰黄)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○2mm 以下		456
50	6層	深鉢	口縁	貝殻腹縁刺突文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○				○1mm 以下		287
51	5・6層	鉢	口縁～頸部	山形押型文・ナデ	山形押型文・ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○2mm 以下		278
52	6層	鉢	口縁	山形押型文	山形押型文	5YR4/3(にぶい赤褐)	5YR4/3(にぶい赤褐)	○	○	○			○4mm 以下		277
53	6層	鉢	胴部	山形押型文	ナデ	5YR4/3(にぶい赤褐)	7.5YR4/2(灰褐)			○			○4mm 以下		282
54	6層	鉢	胴部	山形押型文	ナデ	5YR4/3(にぶい赤褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○			○2mm 以下		280
55	6層	鉢	胴部	山形押型文	ナデ	5YR4/3(にぶい赤褐)	5YR4/2(灰褐)	○	○	○			○3mm 以下		279
56	6層	鉢	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○	○			○3mm 以下		281
57	6層	鉢	口縁	剥離	楕円押型文	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR4/3(にぶい赤褐)	○	○			○	○2mm 以下		273
58	6層	鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○7mm 以下		276
59	6層	鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	2.5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○3mm 以下		274
60	6層	鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	2.5YR4/4(にぶい赤褐)	5YR3/1(黒褐)	○	○				○4mm 以下		275
61	5・6層	鉢	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○3mm 以下		284
62	5・6層	鉢	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○				○3mm 以下		283
63	6層	鉢	胴部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)			○			○2mm 以下		476

報告書No	出土層位	器形	部位	文様及び調整		色調		胎土						備考	実測No
				外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	砂粒		
64	6層	鉢	口縁～頸部	沈線文	沈線文・ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)	10YR6/4(にぶい黄橙)	○	○				○2mm 以下		453
65	5・6層	鉢	口縁～胴部	微隆帯(キザミ目)	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)		○	○			○3mm 以下	口唇部にキザミ目	434
66	5・6層	壺	胴部	ナデ・微隆帯(キザミ目)	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	○			○3mm 以下		440
67	5・6層	壺	口縁～胴部	微隆帯(キザミ目)	ナデ	2.5Y5/1(黄灰)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○				○2mm 以下		433
68	5・6層	壺	胴部	微隆帯(キザミ目)	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	2.5Y5/1(黄灰)	○	○				○1mm 以下		444
69	5層	壺	胴部	微隆帯(キザミ目)	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	2.5Y5/2(暗灰黄)	○	○				○2mm 以下		439
70	5層	壺	胴部	微隆帯(キザミ目)	ナデ	2.5Y5/2(暗灰黄)	2.5Y4/1(黄灰)		○				○3mm 以下		441
71	6層	壺	胴部	微隆帯(キザミ目)	ナデ	2.5Y5/2(暗灰黄)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○				○3mm 以下		443
72	5層	壺	胴部	微隆帯(キザミ目)	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○				○2mm 以下		437
73	5層	壺	胴部	微隆帯(キザミ目)	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	○			○3mm 以下		452
74	6層	壺	胴部	微隆帯(キザミ目)	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○				○2mm 以下		438
75	5層	壺	胴部	微隆帯(キザミ目?)	ナデ	2.5Y5/2(暗灰黄)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○				○2mm 以下		442
76	6層	壺	胴部	微隆帯(キザミ目)	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○				○4mm 以下		447
77	6層	壺	胴部	微隆帯(キザミ目)	ナデ	2.5Y6/4(にぶ黄)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○				○3mm 以下		449
78	5層	壺	胴部	微隆帯(キザミ目)	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○1mm 以下		450
79	5層	壺	胴部	微隆帯(キザミ目)	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○3mm 以下		448
80	5層	壺	胴部	微隆帯(キザミ目)	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○				○2mm 以下		451
81	6層	壺	口縁	ナデ・沈線文	ナデ	5YR5/3(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)		○	○			○3mm 以下		425
82	6層	壺	口縁	ナデ・沈線文	ナデ	7.5YR4/3(褐)	7.5YR4/2(灰褐)		○	○			○2mm 以下		426
83	5層	壺	口縁～胴部	ナデ・沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○			○	○1mm 以下		431
84	5・6層	壺	口縁	ナデ・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○				○3mm 以下		432
85	6層	壺	胴部	沈線文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○				○2mm 以下		436
86	6層	壺	胴部	沈線文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○1mm 以下		435
87	6層	壺	胴部	沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	○			○4mm 以下		446
88	5層	壺	胴部	条痕文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○				○4mm 以下		445
89	6層	壺	口縁	ナデ・沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR4/4(褐)	○	○			○	○3mm 以下		428
90	5層	壺	口縁	ナデ・沈線文	ナデ	7.5YR7/1(明褐灰)	5YR4/3(にぶい赤褐)	○	○			○	○1mm 以下		430
91	6層	壺	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)		○				○2mm 以下		429
92	5層	壺	口縁	ナデ	ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○	○1mm 以下		427
93	5・6層	壺	胴部～底部	ナデ	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○				○2mm 以下		271
94	6層	甕	完形	撚糸文・沈線文	ナデ・指頭痕	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR4/3(褐)		○				○2mm 以下	口唇部にキザミ目	19
95	5・6層	深鉢	口縁～胴部	撚糸文・沈線文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○4mm 以下	口唇部にキザミ目	272
96	5層	鉢	口縁～胴部	撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○				○2mm 以下	口唇部にキザミ目	268
97	6層	鉢	口縁～胴部	撚糸文・沈線文	貝殻条痕文→ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○3mm 以下	口唇部にキザミ目	175
98	5層	鉢	口縁～頸部～胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○				○1mm 以下	口唇部にキザミ目	223
99	5層	鉢	口縁～胴部	撚糸文・沈線文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○			○2mm 以下		176
100	5層	鉢	口縁～胴部	撚糸文・沈線文	ナデ	2.5Y4/2(暗灰黄)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	○			○3mm 以下		177
101	6層	鉢	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR4/3(褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○2mm 以下	口唇部にキザミ目	178
102	5層	鉢	口縁～頸部	撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○			○	○1.5mm 以下	口唇部にキザミ目	181
103	6層	鉢	口縁～頸部	撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○				○1mm 以下		185
104	6層	鉢	口縁～頸部	ナデ・沈線文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○			○	○1mm 以下	口唇部にキザミ目	219
105	5層	鉢	口縁～頸部	沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○			○	○1mm 以下	口唇部にキザミ目	184
106	5層	鉢	口縁～頸部	沈線文	ナデ	7.5YR4/3(褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○				○2mm 以下		182
107	5層	鉢	口縁～頸部	ナデ・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)		○				○3mm 以下	口唇部にキザミ目	217
108	6層	鉢	口縁～頸部	ナデ・沈線文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○			○	○1mm 以下	口唇部にキザミ目	216
109	5層	鉢	口縁～頸部	貝殻条痕文?	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○2mm 以下		183
110	5層	鉢	口縁～頸部	沈線文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○3mm 以下	口唇部にキザミ目	179
111	6層	鉢	口縁～頸部	ナデ・沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○5mm 以下		265
112	6層	鉢	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR7/1(明褐灰)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○1mm 以下	口唇部にキザミ目(棒状)	212
113	5・6層	深鉢	口縁	沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○1mm 以下	口唇部にキザミ目(棒状)	213
114	6層	鉢	口縁～頸部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○			○	○2mm 以下	口唇部にキザミ目 スス付着	214
115	6層	鉢	口縁～頸部	ナデ・沈線文	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○				○1mm 以下	口唇部にキザミ目(棒状)	215
116	6層	鉢	口縁	沈線文	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○				○2mm 以下	口唇部にキザミ目(棒状)	220
117	6層	鉢	頸部	撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	○			○3mm 以下		189
118	6層	鉢	頸部～胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	10YR4/1(褐灰)	○	○				○2mm 以下		221
119	6層	鉢	口縁～頸部	ナデ・撚糸文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○			○	○3mm 以下	口唇部にキザミ目	222
120	6層	鉢	頸部	撚糸文・沈線文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○3mm 以下		188
121	5・6層	鉢	頸部	撚糸文・沈線文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○3mm 以下		187
122	5層	鉢	胴部	撚糸文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○1mm 以下		205
123	5層	鉢	頸部～胴部	撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○				○2mm 以下		269
124	6層	鉢	胴部	撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○				○3mm 以下	炭化物有	190
125	5・6層	鉢	胴部	撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○2mm 以下		191
126	5・6層	鉢	胴部	撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○3mm 以下		192
127	6層	鉢	胴部	撚糸文・沈線文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR4/3(褐)	○	○				○3mm 以下		193

報告書No	出土層位	器形	部位	文様及び調整		色調		胎土						備考	実測No
				外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	砂粒		
128	6層	鉢	胴部	撚糸文・沈線文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○				○1mm 以下		194
129	6層	鉢	胴部	撚糸文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○2mm 以下		195
130	6層	鉢	胴部	撚糸文・沈線文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	10YR3/2(黒褐)	○	○	○			○3mm 以下		196
131	5層	鉢	胴部	撚糸文・沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○2mm 以下		197
132	6層	鉢	胴部	撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○2mm 以下		198
133	5層	鉢	胴部	撚糸文・沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR3/1(黒褐)	○	○				○2mm 以下		199
134	6層	鉢	胴部	撚糸文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○				○1.5mm 以下		200
135	6層	鉢	胴部	撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○2mm 以下	穿孔有	201
136	6層	鉢	胴部	撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○				○3mm 以下		202
137	6層	鉢	胴部	撚糸文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	○			○3mm 以下		203
138	5層	鉢	胴部	撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○				○1.5mm 以下		204
139	5層	鉢	胴部	撚糸文・沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○				○2mm 以下		211
140	5・6層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○				○1mm 以下		224
141	5層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文?・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR3/1(黒褐)	○	○				○1mm 以下		225
142	6層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文(?)	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR7/1(灰白)	○	○				○2mm 以下		226
143	6層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○			○	○2mm 以下		227
144	5・6層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○			○	○3mm 以下		228
145	5・6層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR4/1(褐灰)	○	○			○	○2mm 以下		229
146	5層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○				○2mm 以下		230
147	5層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○			○	○3mm 以下		231
148	6層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○				○1mm 以下	スス付着	233
149	6層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○				○1mm 以下		234
150	5層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○			○	○2mm 以下	スス付着	235
151	5層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○2mm 以下		236
152	5・6層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR3/1(黒褐)		○				○1mm 以下		237
153	6層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文(?)	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○3mm 以下		238
154	6層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)		○	○			○2mm 以下		242
155	6層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○2mm 以下		243
156	6層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○			○	○2mm 以下		248
157	5層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○2mm 以下		250
158	6層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	10YR4/1(褐灰)	10YR4/1(褐灰)	○	○				○2mm 以下		251
159	5層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○1mm 以下		252
160	5層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○1mm 以下		253
161	6層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○			○2mm 以下		254
162	5・6層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○				○2mm 以下		255
163	6層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	10YR4/1(褐灰)	7.5YR4/1(褐灰)	○	○				○1mm 以下		256
164	6層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	○			○3mm 以下		257
165	5層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○			○	○1mm 以下		258
166	6層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○				○3mm 以下		259
167	5層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○			○	○2mm 以下	スス付着	260
168	5層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○			○	○1mm 以下		261
169	5層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○				○1mm 以下		262
170	−	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○			○	○2mm 以下	スス付着	263
171	6層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/1(褐灰)	○	○			○	○1mm 以下		264
172	5・6層	鉢	胴部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○			○	○2mm 以下		266
173	5層	鉢	胴部	撚糸文	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○				○1mm 以下		270
174	5層	深鉢	胴部～底部	撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○				○2mm 以下		210
175	6層	鉢	胴部～底部	撚糸文・沈線文	ナデ	2.5Y5/2(暗灰黄)	2.5Y5/2(暗灰黄)			○			○2mm 以下		206
176	5層	鉢	胴部～底部	撚糸文・沈線文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○				○1.5mm 以下		207
177	5層	鉢	胴部～底部	撚糸文・沈線文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	2.5Y5/2(暗灰黄)	○	○				○1.5mm 以下		208
178	6層	鉢	胴部～底部	撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○2mm 以下		209
179	5層	鉢	胴部～底部	撚糸文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○				○1mm 以下		245
180	5層	鉢	胴部～底部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○				○1mm 以下		246
181	6層	鉢	胴部～底部	ナデ・撚糸文・沈線文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	2.5Y5/2(暗灰黄)	○	○				○1mm 以下		247



第54図　縄文時代早期遺物包含層出土土製品実測図（S=1/3）



2. 土製品

182～193は土製の耳栓で、5層下位から6層中位にかけて出土している。182は輪状耳栓で、外面に抉りをもち、内面は稜を有していない。また、内外面には赤色顔料も一部残っている。183～193は残存状況が様々ではあるが、おそらく全て輪状耳栓（外面に抉りをもち、内面は稜を有しない）であろう。ほとんどは無文だが、186は内面に沈線文を施している。また、188は外面端部にキザミが施され、赤色顔料も一部残っている。

第8表　縄文時代草創期・早期遺物包含層出土土製品観察表

報告書No	出土層位	遺物名	サイズ	色調	備考	実測No
182	6層	輪状耳栓	上部径6.1cm 下部径5.5cm 器高4.2cm	外面：10YR4/2（灰黄褐） 内面：10YR3/2（黒灰）	赤色顔料有り（丹塗り）	21
183	5層	輪状耳栓	縁径6.8cm	外面：10YR6/3（にぶい黄橙） 内面：10YR5/3（にぶい黄褐）		486
184	5層	輪状耳栓	縁径7.2cm	外面：10YR4/2（灰黄褐） 内面：7.5YR5/3（にぶい褐）		487
185	6層	輪状耳栓	縁径5.8cm	外面：10YR5/3（にぶい黄褐） 内面：10YR5/3（にぶい黄褐）		485
186	6層	輪状耳栓	上部径6.8cm 下部径6.1cm 器高2.8cm	外面：10YR5/2（灰黄褐） 内面：10YR5/2（灰黄褐）	上面から内面にかけて文様有り	22
187	6層	輪状耳栓	縁径6.6cm	外面：10YR5/3（にぶい黄褐） 内面：10YR5/2(灰黄褐)		488
188	5層	輪状耳栓	縁径7.2cm	外面：7.5YR5/4（にぶい褐） 内面：7.5YR5/4（にぶい褐）	赤色顔料有り（丹塗り） キザミ有り	484
189	6層	輪状耳栓	上部径5.5cm	外面：10YR5/3（にぶい黄褐） 内面：10YR5/4(にぶい黄褐)		466
190	6層	輪状耳栓	上部径6.8cm	外面：7.5YR5/3（にぶい褐） 内面：10YR5/3（にぶい黄褐）		467
191	6層	輪状耳栓	上部径5.8cm	外面：10YR5/3（にぶい黄褐） 内面：10YR4/2(灰黄褐)		468
192	6層	輪状耳栓		外面：5YR5/2（灰褐） 内面：2.5Y4/1（黄灰）		482
193	6層	輪状耳栓		外面：10YR6/4（にぶい黄橙） 内面：2.5Y5/2（暗灰黄）		465

3. 石器

縄文時代早期の遺物包含層中より2248点の石器が出土している。ここではその中で製品類を中心に報告を行う。なお、石器の整理作業に当たっては従来使用されている器種についての分類基準を設定し、器種分類を行った。器種分類については本報告による分類作業であり、他の遺跡と共通するものではない。なお、包含層中には縄文草創期の土器が出土しており、一部の資料については草創期に該当するものも混在している可能性がある。しかし、ここではそれらを明確に分類できてはいない。

石鏃（194～323）

剥片を素材とし、両面調整や半両面調整により鋭い先端部を作り出し、平面形がおおむね三角形や五角形を想定させるもの。欠損品も含め総数で162点出土している。平面形状や加工状況により以下のように細分した。この分類も本遺跡における一応の細分案である。

・１類（194～204）：抉りが浅いかほとんどなく平面形は正三角形で1.5cm 四方におさまるもの。桑ノ木津留産黒曜石の使用が目立つ。総数で13点が出土している。199・203は素材剥片の形状を大きく残している。

・２類（205～219）：抉りが浅いかほとんどなく平面形が二等辺三角形で2cm 四方におさまるもの。桑ノ木津留産黒曜石の使用が目立つ。総数で19点が出土している。

・３類（220～222）：抉りが浅く下半部に最大幅を持ち、その付近から屈曲し全体の形状が五角形を呈するもいわゆる帖地型石鏃に該当する。３点が出土している。

・４類（223）　：平面形は３類に似ており、下半部に屈曲部を持つが、屈曲部の張り出しが明瞭で抉りが深く脚部の先端が尖るもの。１点のみ出土している。

・５類（224～227）：特徴的な抉り･脚部を呈するもの。いわゆる鍬形鏃に該当する。総数で４点出土している。

・６類（228～249）：片面又は両面の加工が周縁部のみにとどまり、素材剥片の形状を大きく残すもの。一部には石鏃の未製品も含まれている可能性が考えられる。頁岩・安山岩・砂岩の使用が目立つ。総数で22点出土している。

・７類（250～258）：平面形は２類と同じで二等辺三角形を呈するが規模は大きく1.5cm 四方を越えるもの。使用石材は２類と異なり黒曜石は使用されていない。総数で11点出土している。

・８類（259～263）：平面形は1類と同じで正三角形を呈するが規模は1.5cm 四方を超えるもの。使用石材は1類とは異なり黒曜石は使用されていない。総数で５点出土している。

・９類（264～266）：先端部付近において屈曲部をもち、脚部において張り出し最大幅を持つもの。周縁部は鋸歯状を呈している。総数で３点が出土している。姫島産黒曜石の使用が目立つ。264は石銛のような形状を呈しており、特徴的である。

・10類（267～273）：先端部付近で屈曲し、尖端部を作り出すもの。総数で８点が出土している。

・11類（274～280）：体部は直線的に作られており、脚部にて最大幅を持ち、最大幅と最大長の比率が概ね１：２以上となるもの。断面形が分厚いものが多いのも特徴であり、先端部のみの破片だと石錐とも判断されるような形状を呈している。総数で７点出土している。

・12類（281）　：体部中央部付近にて最大幅を持ち全体の形状が将棋の駒のような形状を呈するもの。１点が出土している。

・13類（282・283）：（284・299）磨製石鏃に分類されるもの。局部磨製のものも含める。総数で４点が出土している。ほぼ全面に研磨を施す282・283は黒色の頁岩を使用する。また中央部付近にのみ研磨のおこなわれる284・299は黄褐色の頁岩を使用するという特徴があり、研磨範囲と使用石材には相関関係が見られるようである。

・14類（285・286）：抉りが深く、体部が鋸歯状を呈するもの。285脚部に突出部が存在した可能性があり９類に該当するものかもしれない。総数で２点が出土している。

・15類（287～289）：（287・289）体部中央付近で屈曲し脚部が直線的に広がるもの。抉りの深いもの（288）と浅いものがみられる。体部は鋸歯状となっている。総数で３点が出土している。

・16類（290～323）：上記の分類に当てはまらないものをここにまとめた。欠損品についてもここにまとめているため、本来は別のところに分類されるべき資料も混在している可能性は考えられる。総数で56点が出土している。

石鏃未製品（324～337）

剥片を素材とし、石鏃とほぼ同規模で両面調整や半両面調整により平面形が三角形や楕円形を呈するもの。石鏃に比べ先端部が鈍いものや全体が分厚いもの、加工が未熟なものなどを分類した。一部には石錐や５類の石鏃を含んでいる可能性がある。総数で17点が出土している。

尖頭状石器（338～343）

剥片を素材とし、両面調整や半両面調整により鈍い先端部と抉りのない基部を持つもの。石鏃よりはおおむね規模は大きい。一部には石鏃の未製品が含まれる可能性が考えられる。340～343は素材剥片の形状を大きく残し、尖端部も明瞭ではないことから未製品であると考えられる。総数で9点が出土している。

異形石器（344～348）

剥片を素材とする石器の中で、定型的な石器または機能が類推できない石器をここにまとめた。以下の2種類に分類が可能である。総数で６点が出土している。黒色の堆積岩･サヌカイト･白色に黒い筋の入ったチャートが使用されており色調的に黒色・白色が意識しているような印象を受ける。

・１類（344・345）：平面形が石鏃のような形をしているが先端部は尖らないもの。345は稜線が摩滅しており痕跡は明瞭ではないが研磨を受けている可能性が考えられる。

・２類（346～348）：平面形は棒状で体部の真ん中付近に抉りが入っているもの。

石錐（349～352）

剥片を素材として両面調整・半両面調整または素材剥片の一部に調整を施し、尖端部（錐部）を作り出したもの。総数で７点が出土している。

石匙（353～355）

剥片を素材として一部に両側縁からの調整によりつまみ部分を作り出し、その他の部分には刃部加工を施すもの。いずれも素材剥片の形状を大きく残す。353・354は抉りが不明瞭であり、後述のスクレイパーとの分類に迷ったが抉りを意識しているような調整が見受けられたのでこちらに含めた。総数で３点が出土している。

スクレイパー（356～377）

剥片を素材として縁辺に連続的な調整により刃部を作り出したもの。刃部調整は周縁部にとどまる。総数で52点が出土している。欠損品が目立つ。

石斧（378～381）

剥片または縦長の礫を素材とし、その短辺に刃部を形成するもの。平面形は四角形又は五角形を呈する。欠損品ばかりである。380はホルンフェルス製で全面に研磨痕が見られる。製作技法を検討しここに分類したが、刃部だけを観察するとスクレイパーのようにも見える。再加工の結果このような形態になったものであろうか。380以外はすべて破片資料で総数７点が出土している。

石斧の加工に関する剥片（382～384）

石斧に使用される緑色堆積岩製の剥片をまとめた。使用石材及び表面に確認される研磨痕・剥片剥離の際の打点が不明瞭であることからから石斧の製作又は再加工の際に発生したものと推定される。382・383は特に研磨の痕跡が明瞭である。総数で13点が出土している。

礫器（385）

分割礫の縁辺に荒い加工を施して刃部を作り出したもの。尾鈴山酸性岩製の一点のみ出土している。この資料は石核の可能性も考えられる。

二次加工有る剥片（389）

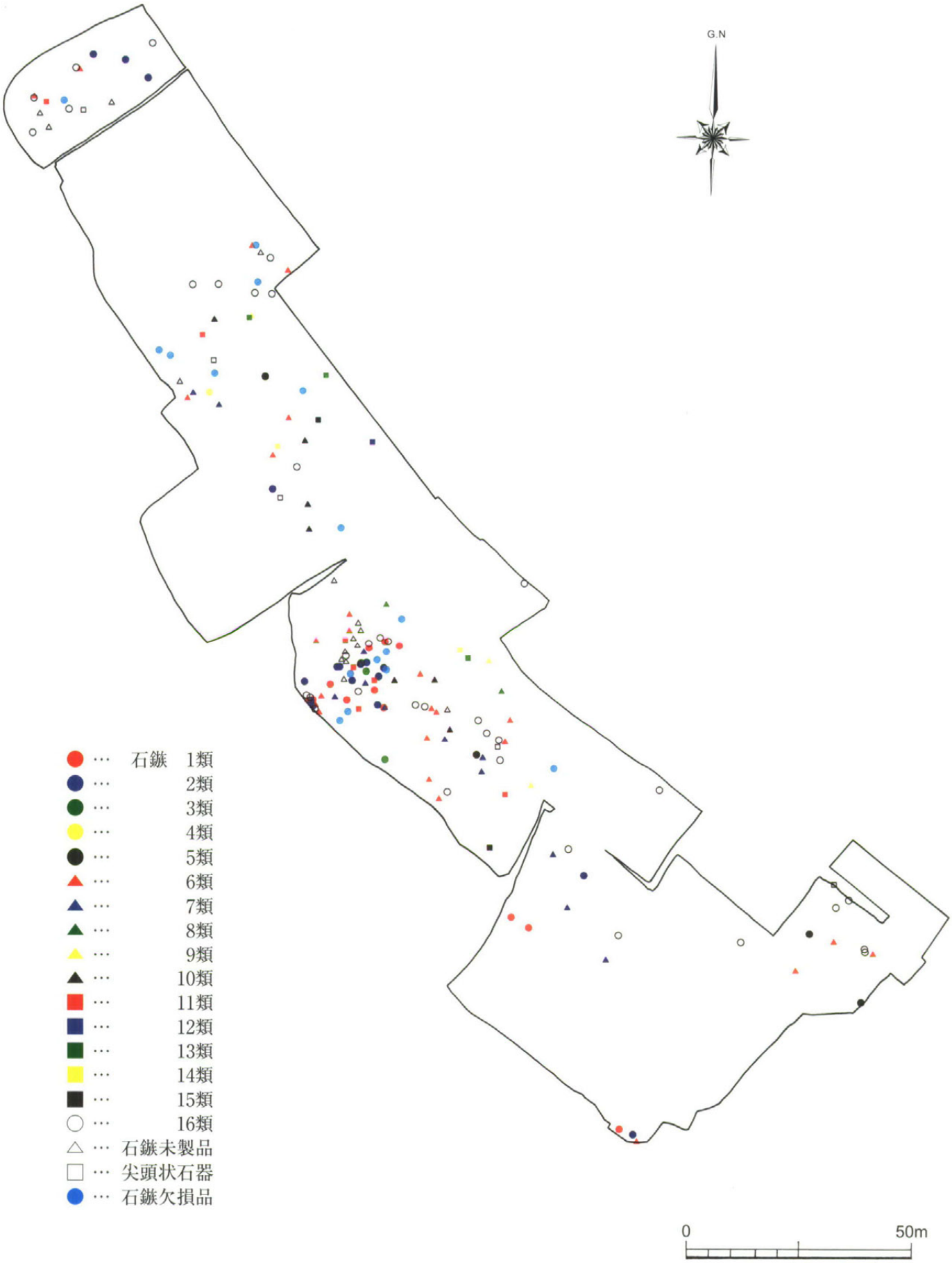
剥片を素材として、その一部に二次加工が施されているが加工の意図が明瞭に読み取れないものを分類した。

剥片・砕片（386～388）　石核（390～398）

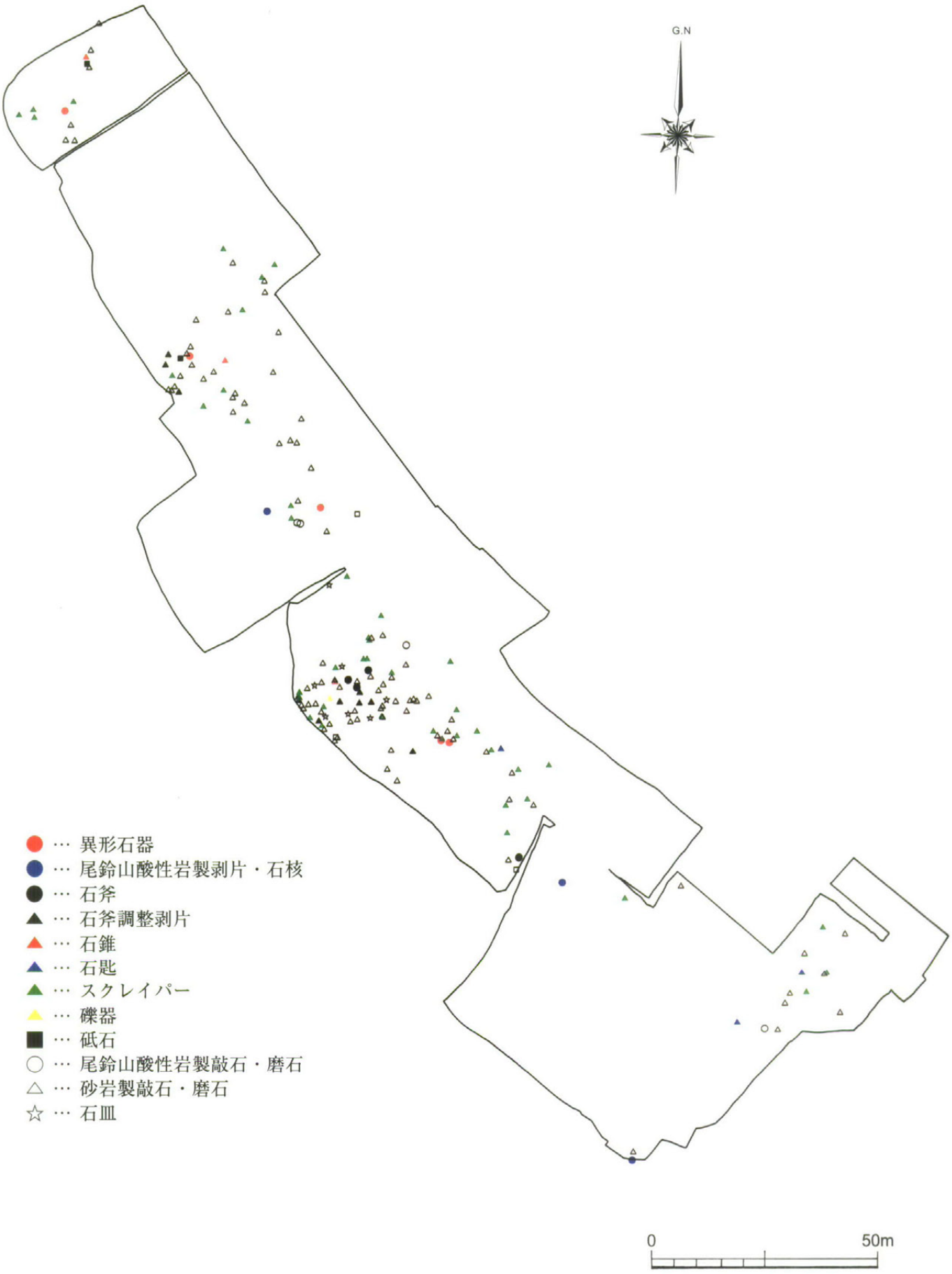
剥片は剥片を素材として、まったく二次加工が施されていないものや意図が不明瞭なものをまとめた。また砕片は１ｃｍ四方に収まるものを分類した。

石核は礫又は剥片を素材とするが、形態を整えるためとはみなしがたいネガティブな剥離面を持つものを分類している。

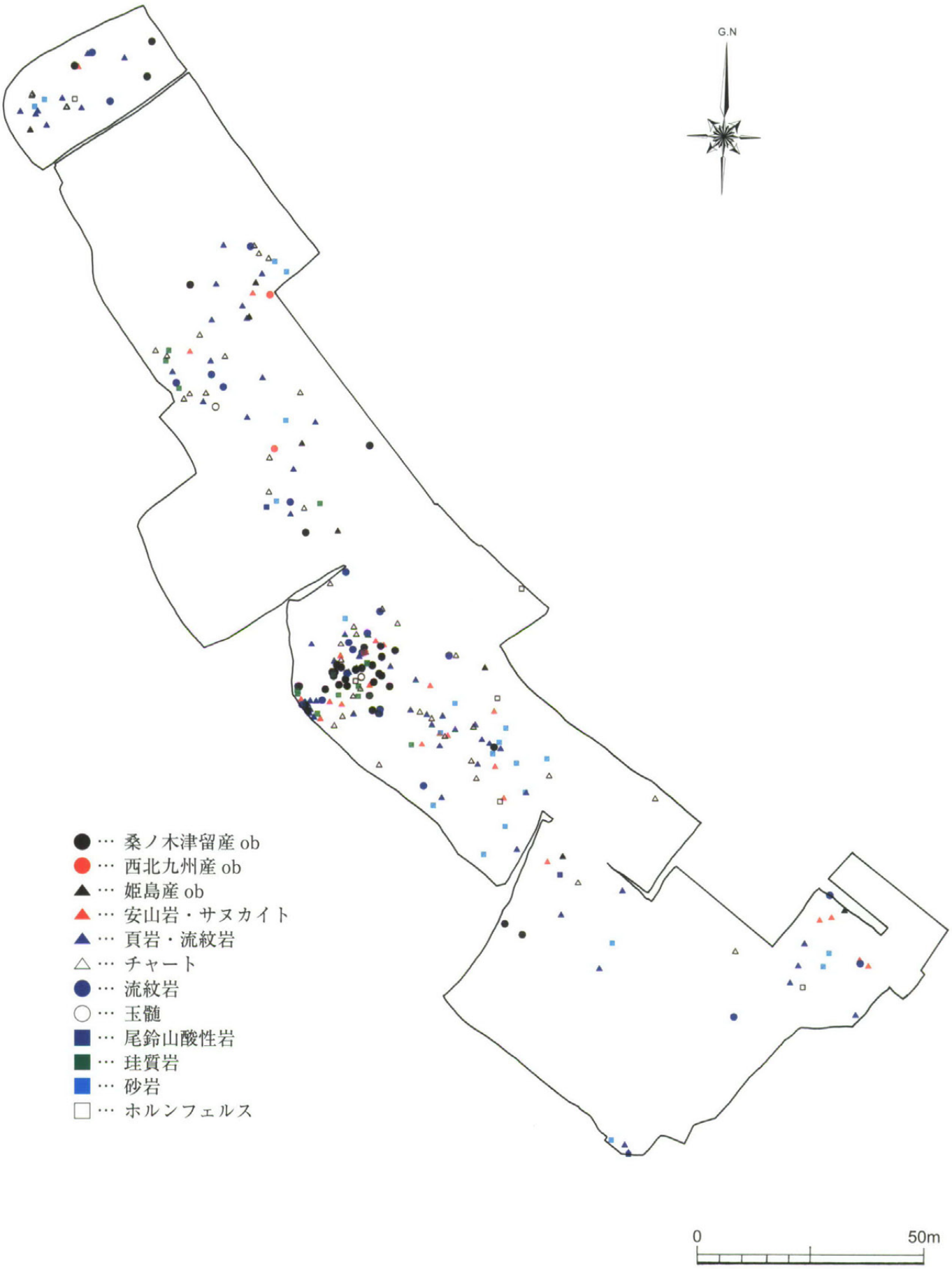
遺物包含層中より出土した剥片・砕片・石核をあわせた数量を石材ごとに以下に記載する。頁岩・流紋岩649点・6757.3g。チャート195点・2456.3g（チャートについては分割礫も含んでいる）。砂岩341点・29506.6g。黒曜石（桑ノ木津留産577点・576.5g、姫島産４点・3.8g、西北九州産13点・18.6g、鹿児島県産60点・79.7g）。サヌカイト・安山岩10点・52.1g。尾鈴山酸性岩3点・89.8g。



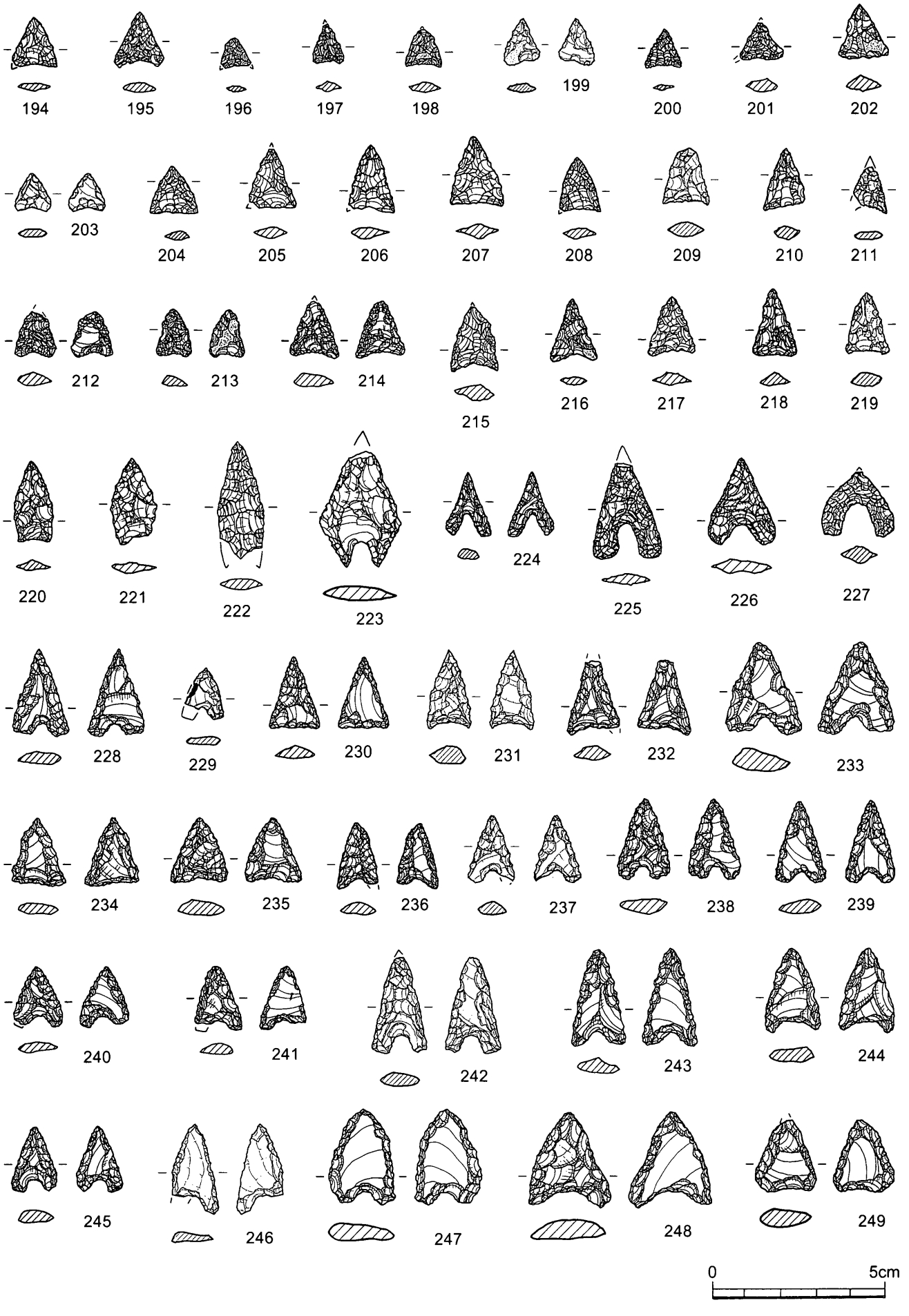
第55図　縄文時代早期遺物包含層出土石器分布図①【狩猟具】(S=1/1200)



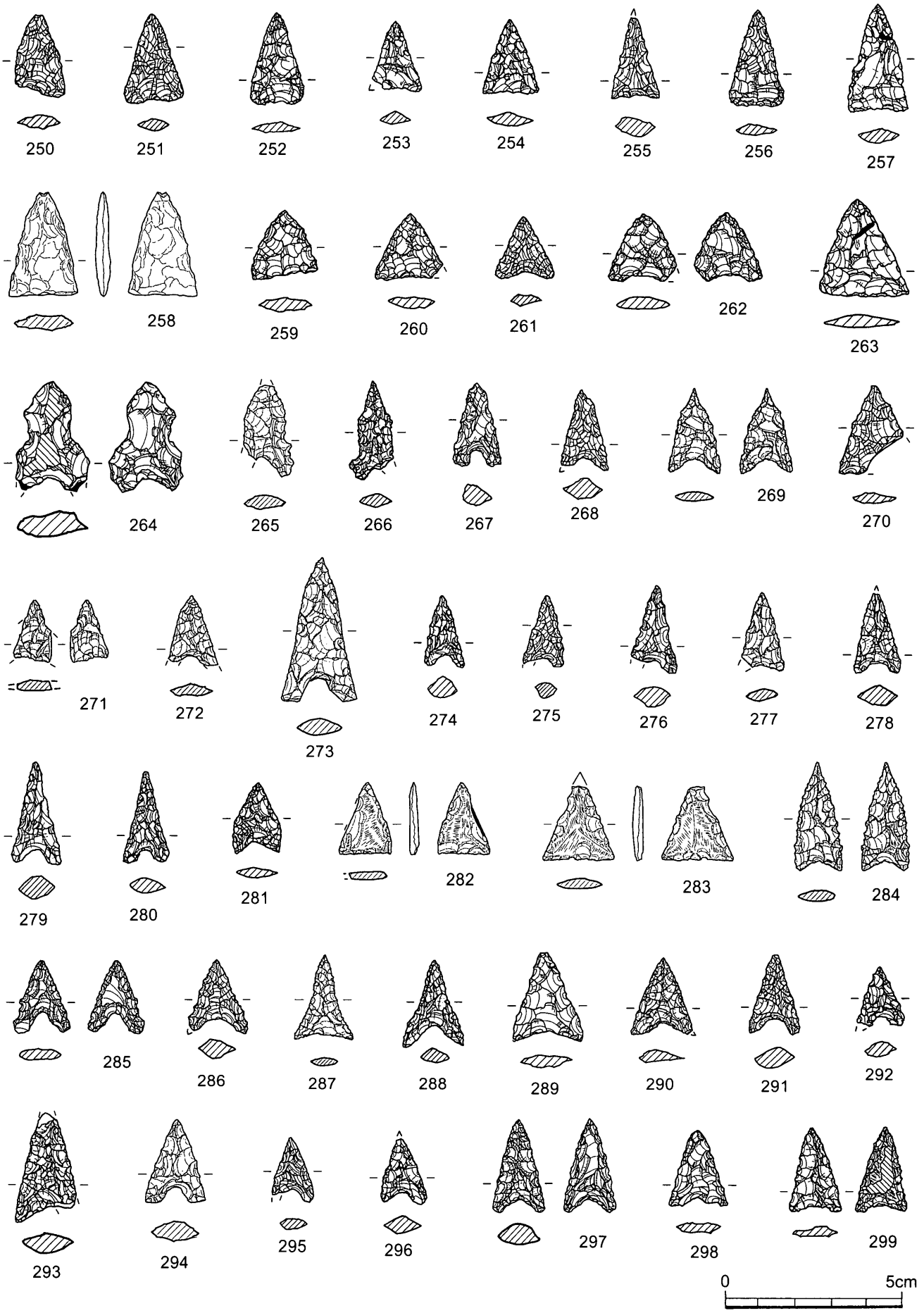
第56図　縄文時代早期遺物包含層出土石器分布図②【狩猟具以外主要石器】(S=1/1200)



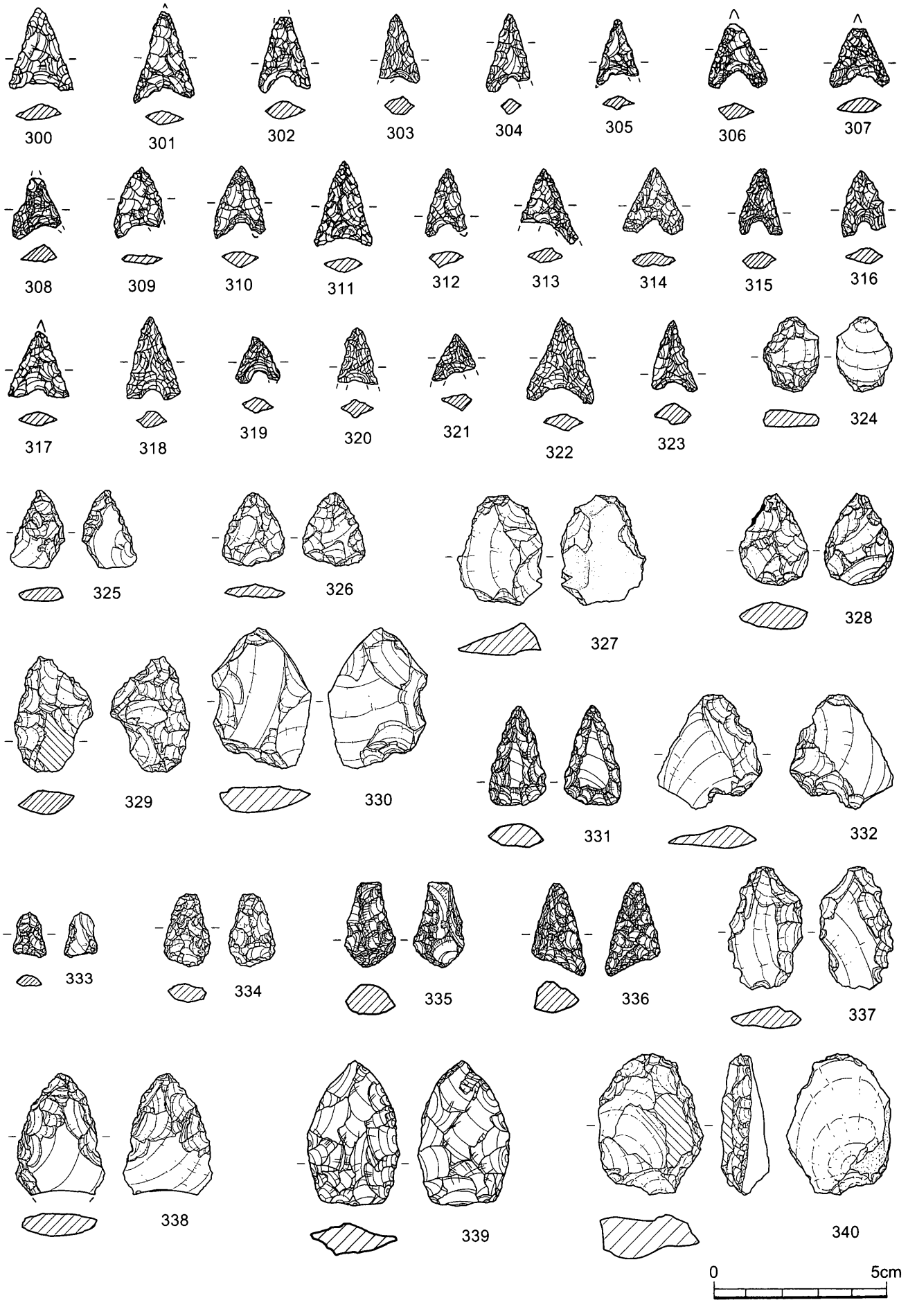
第57図　縄文時代早期遺物包含層出土石器分布図③【主要剥片石器石材別】(S=1/1200)



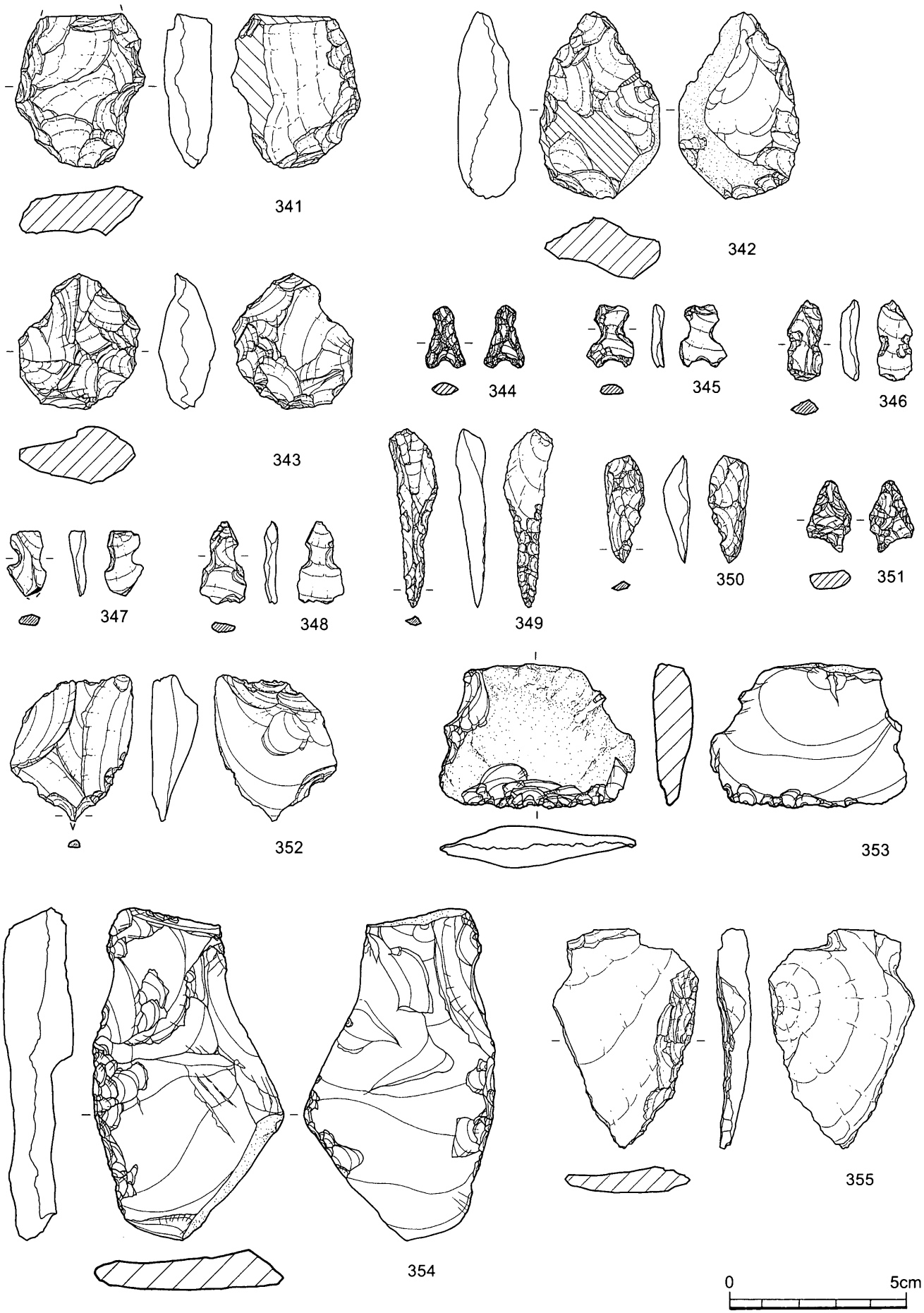
第58図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図①（S=2/3）



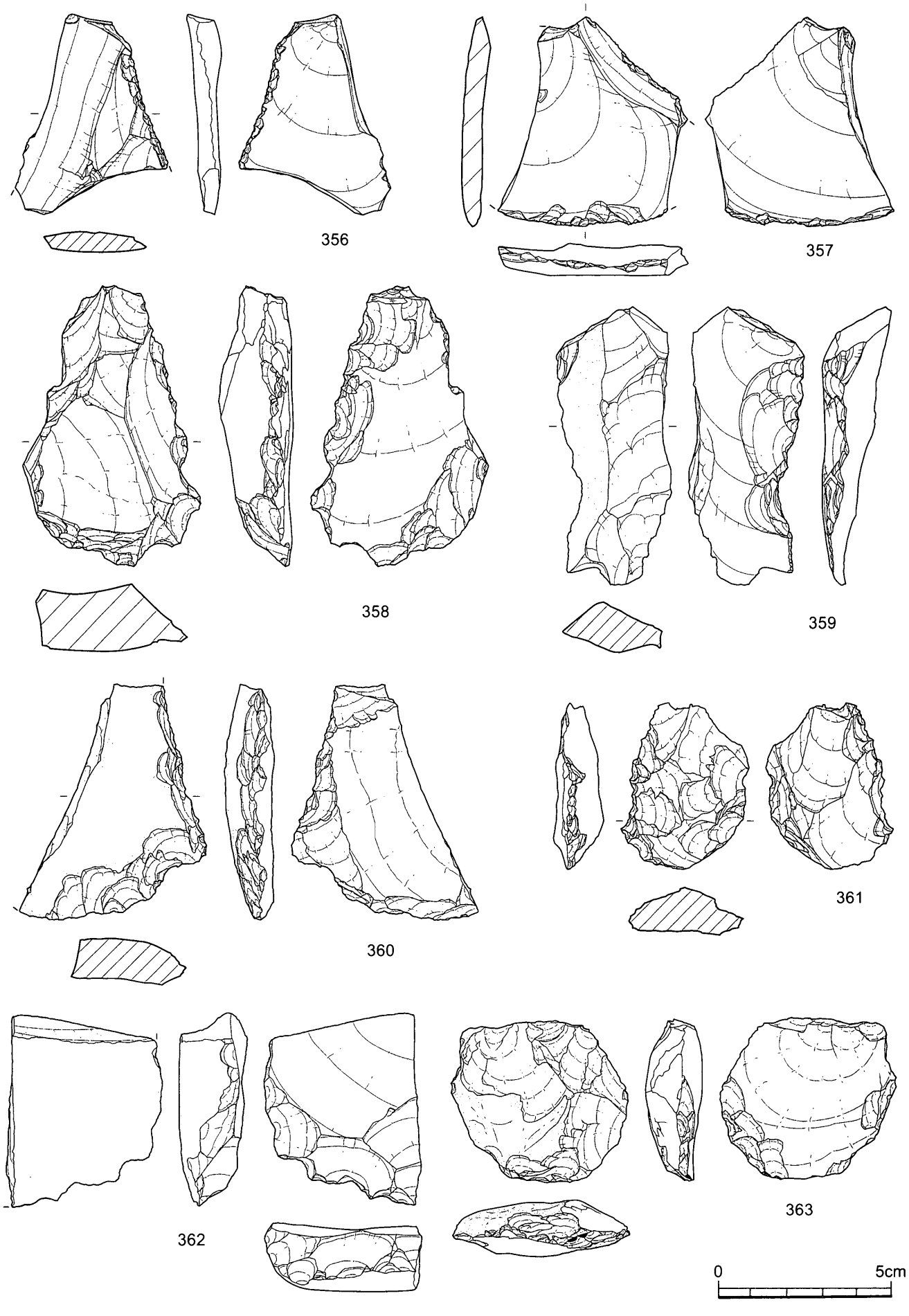
第59図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図②（S=2/3）



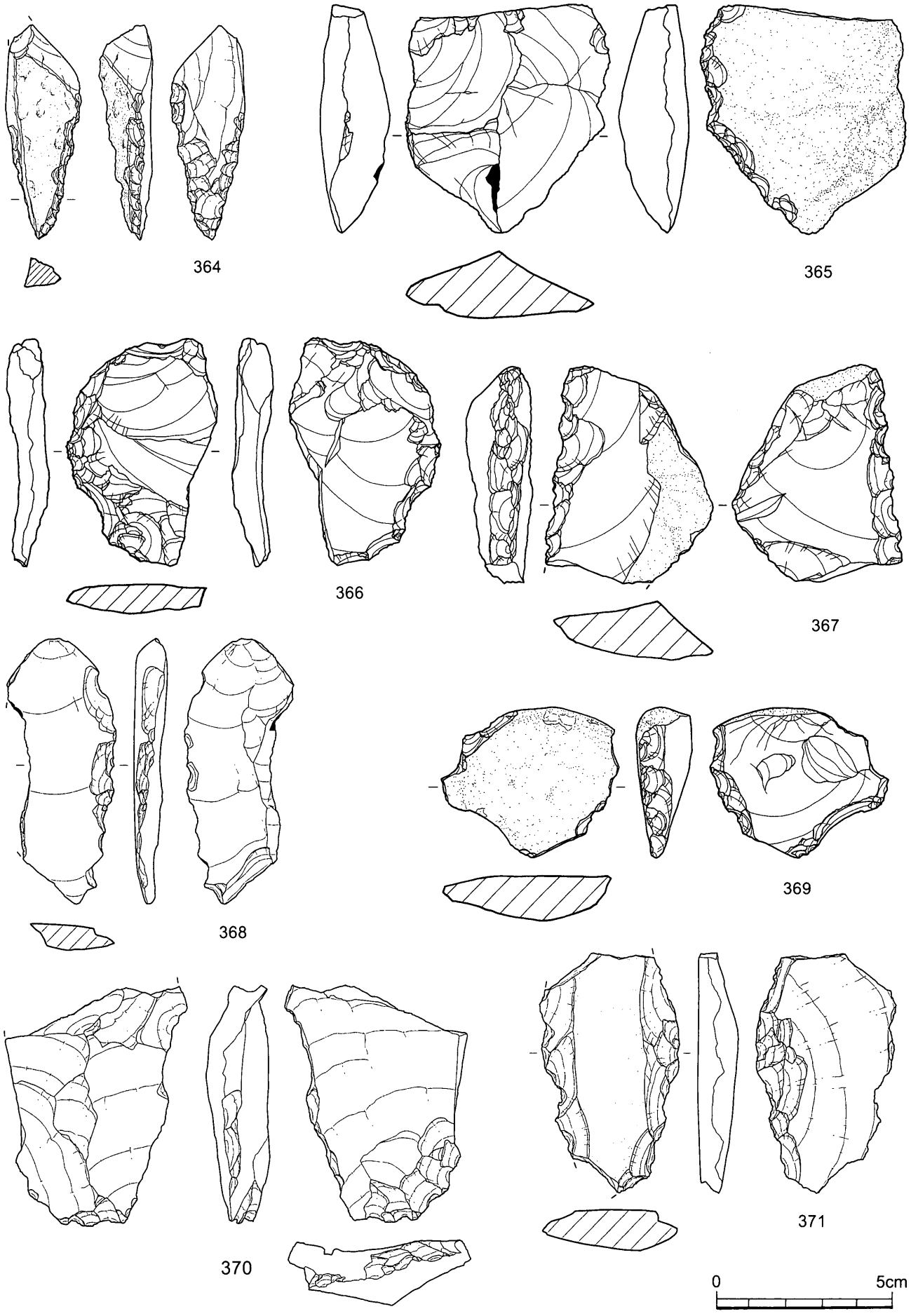
第60図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図③（S=2/3）



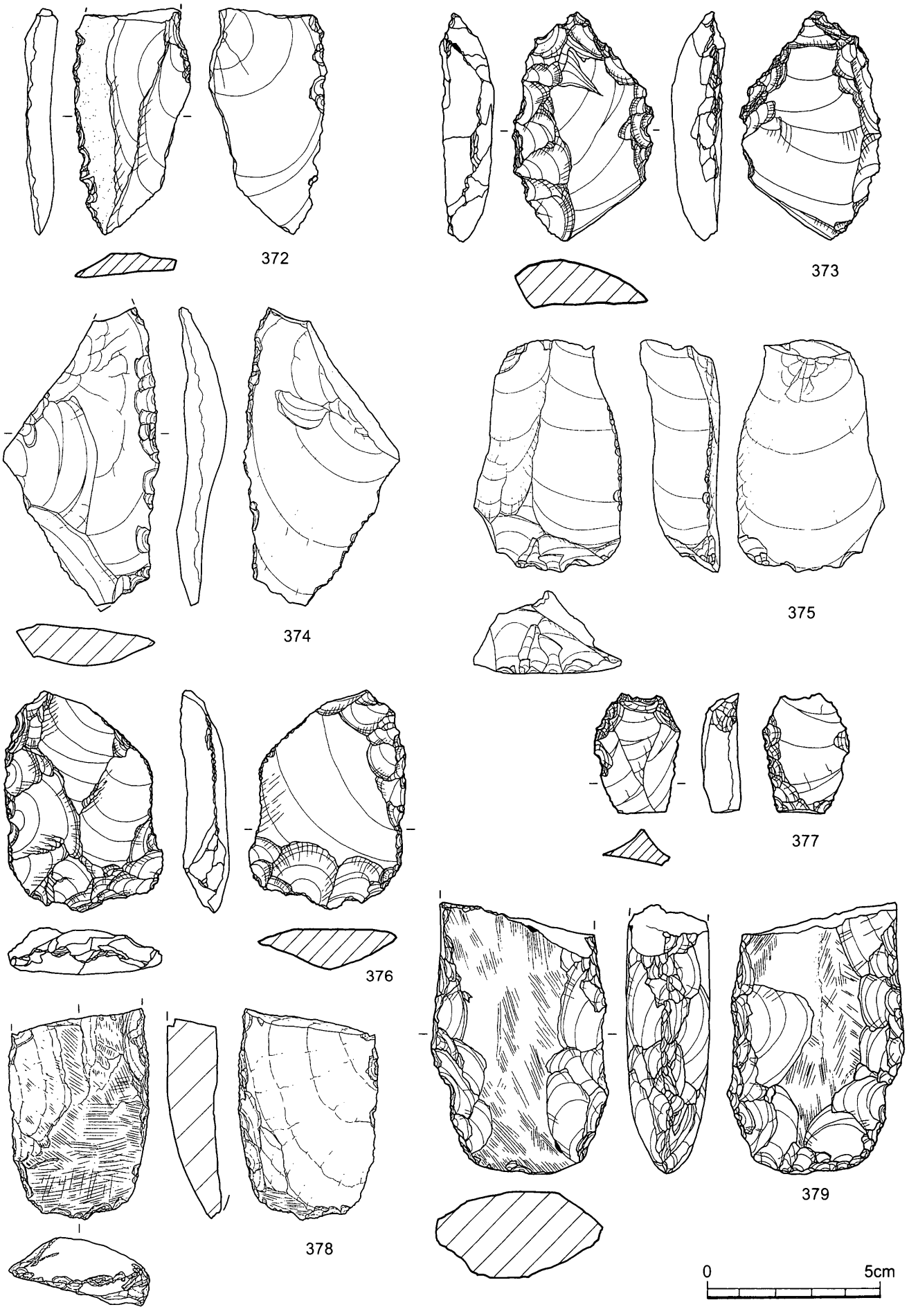
第61図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図④（S=2/3）



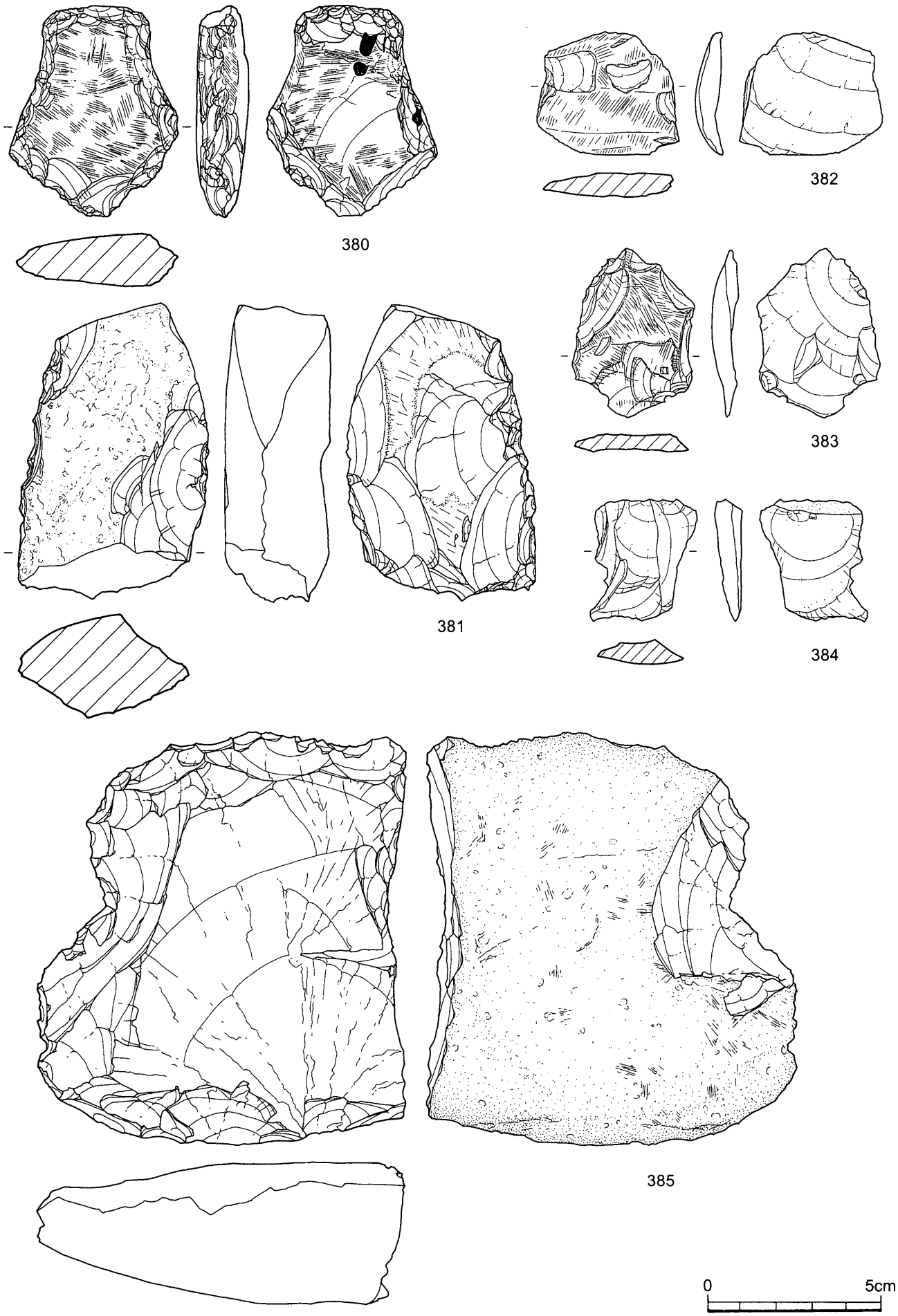
第62図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑤（S=2/3）



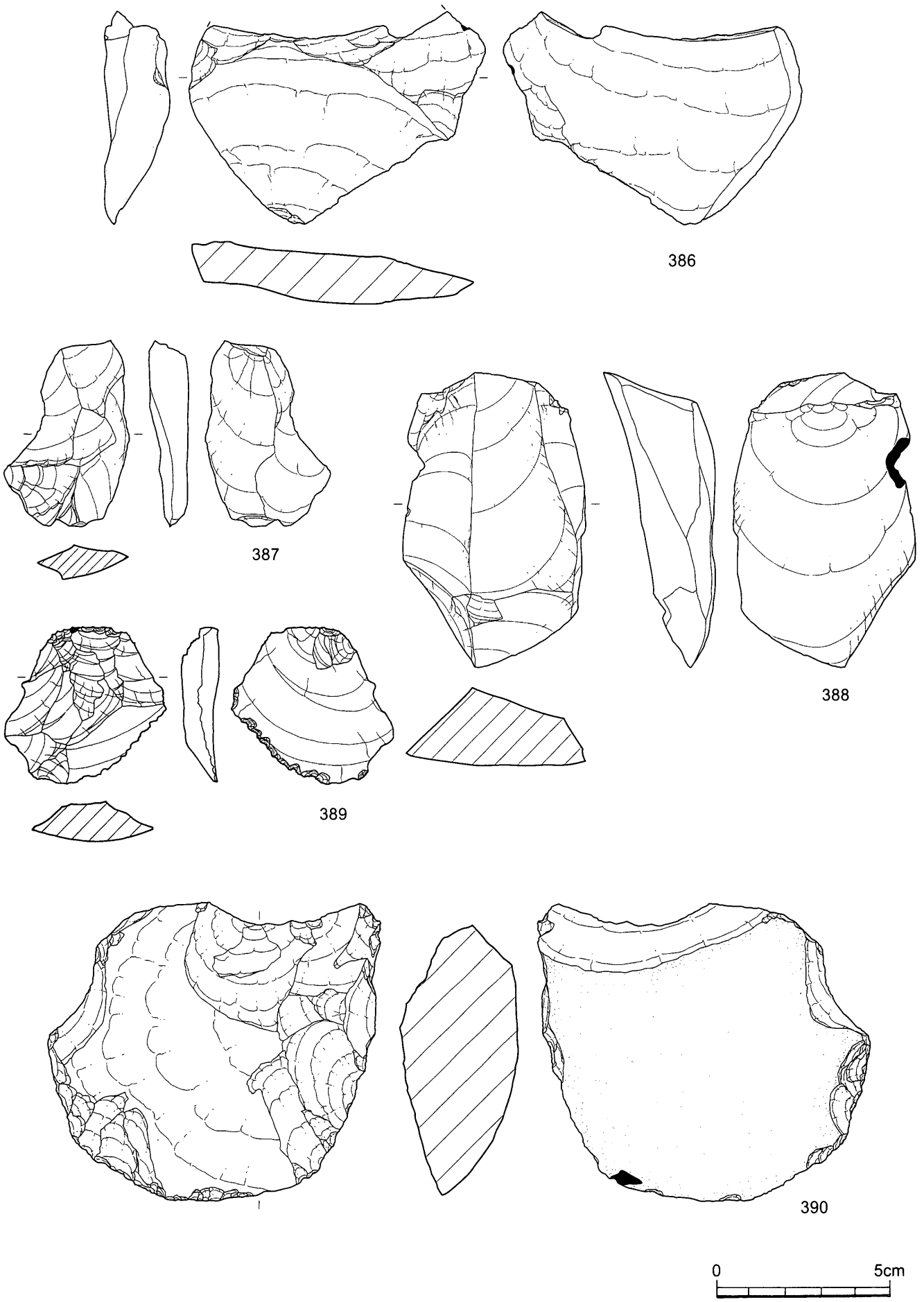
第63図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑥（S=2/3）



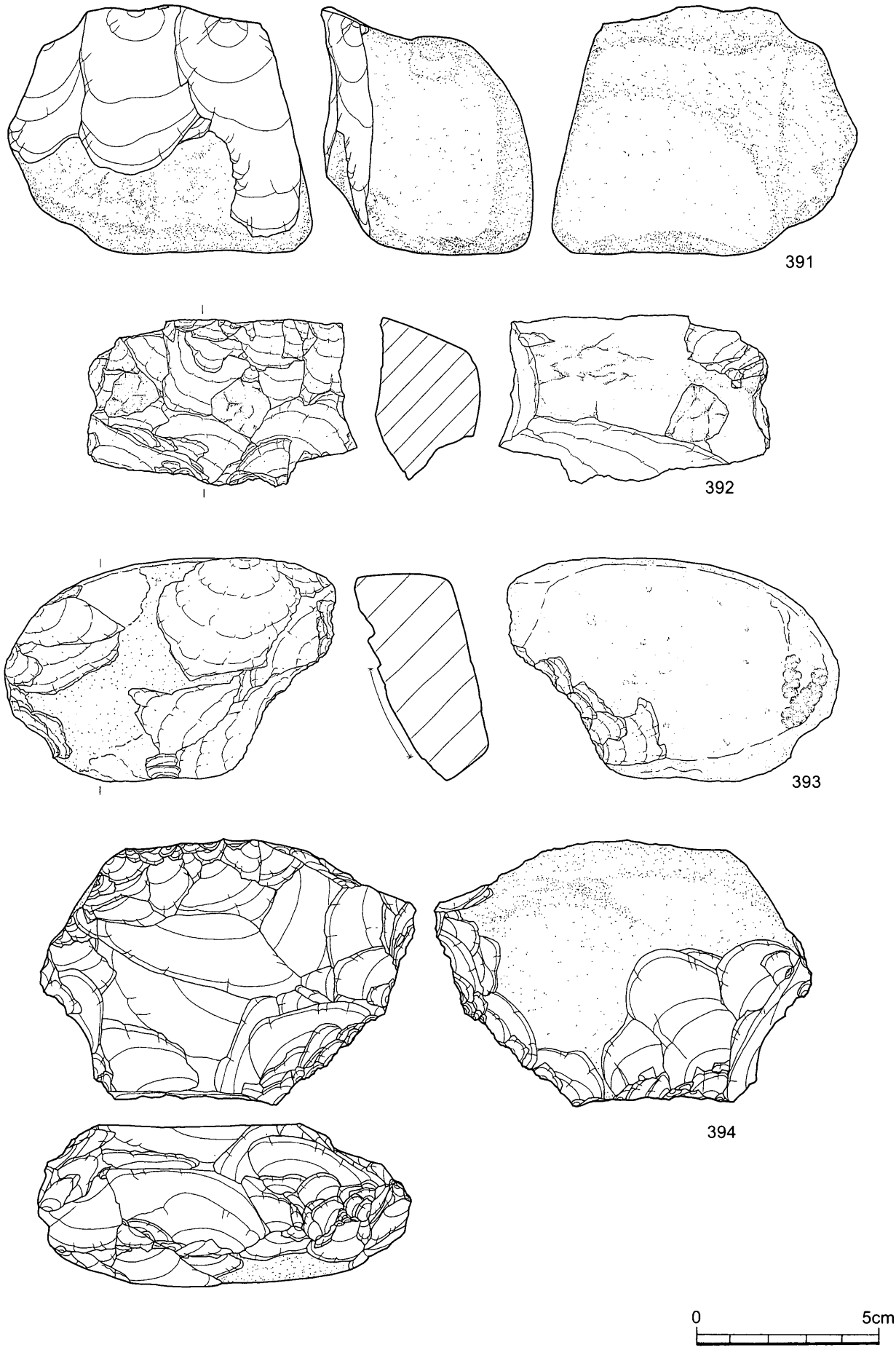
第64図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑦（S=2/3）



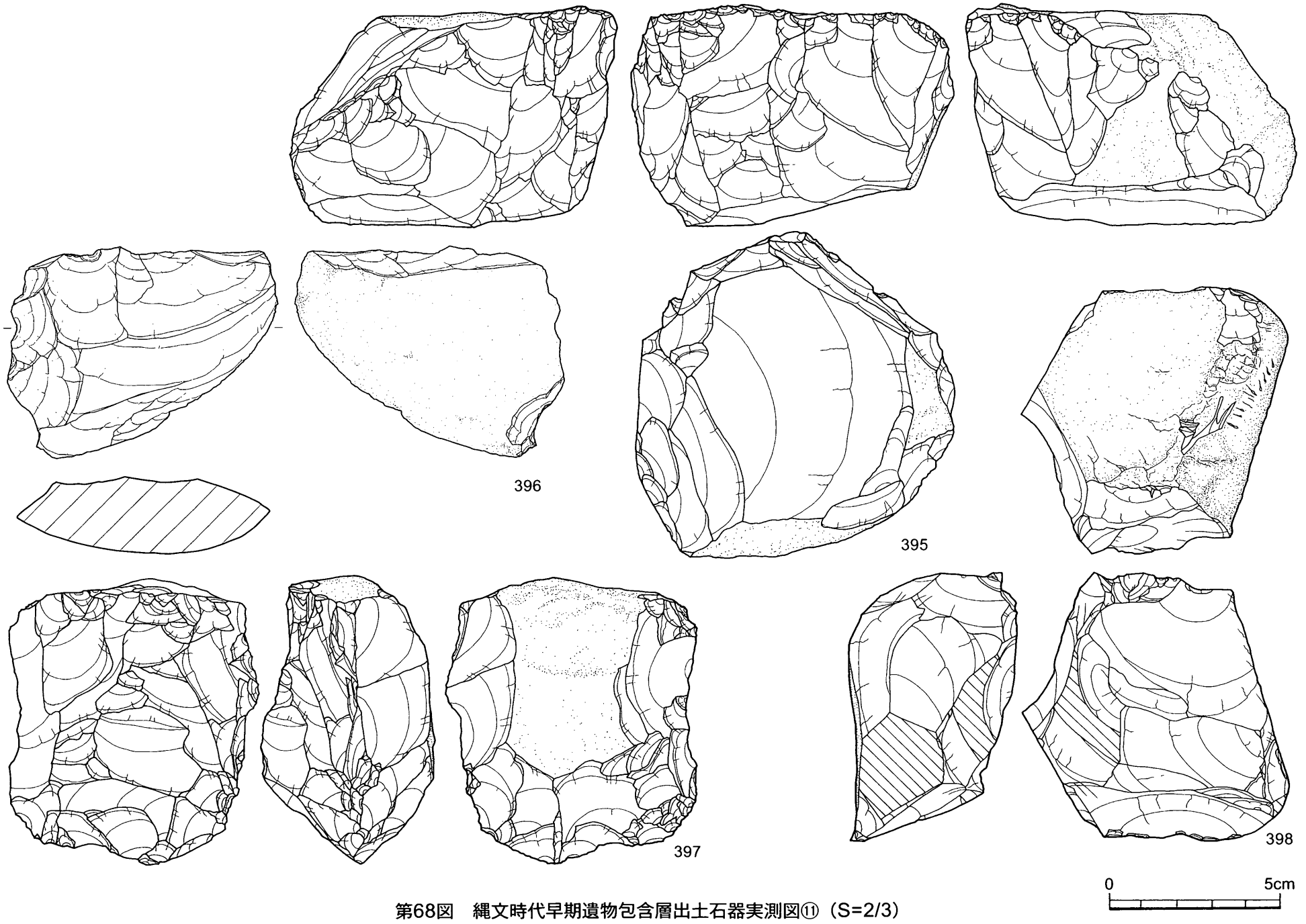
第65図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑧（S=2/3）



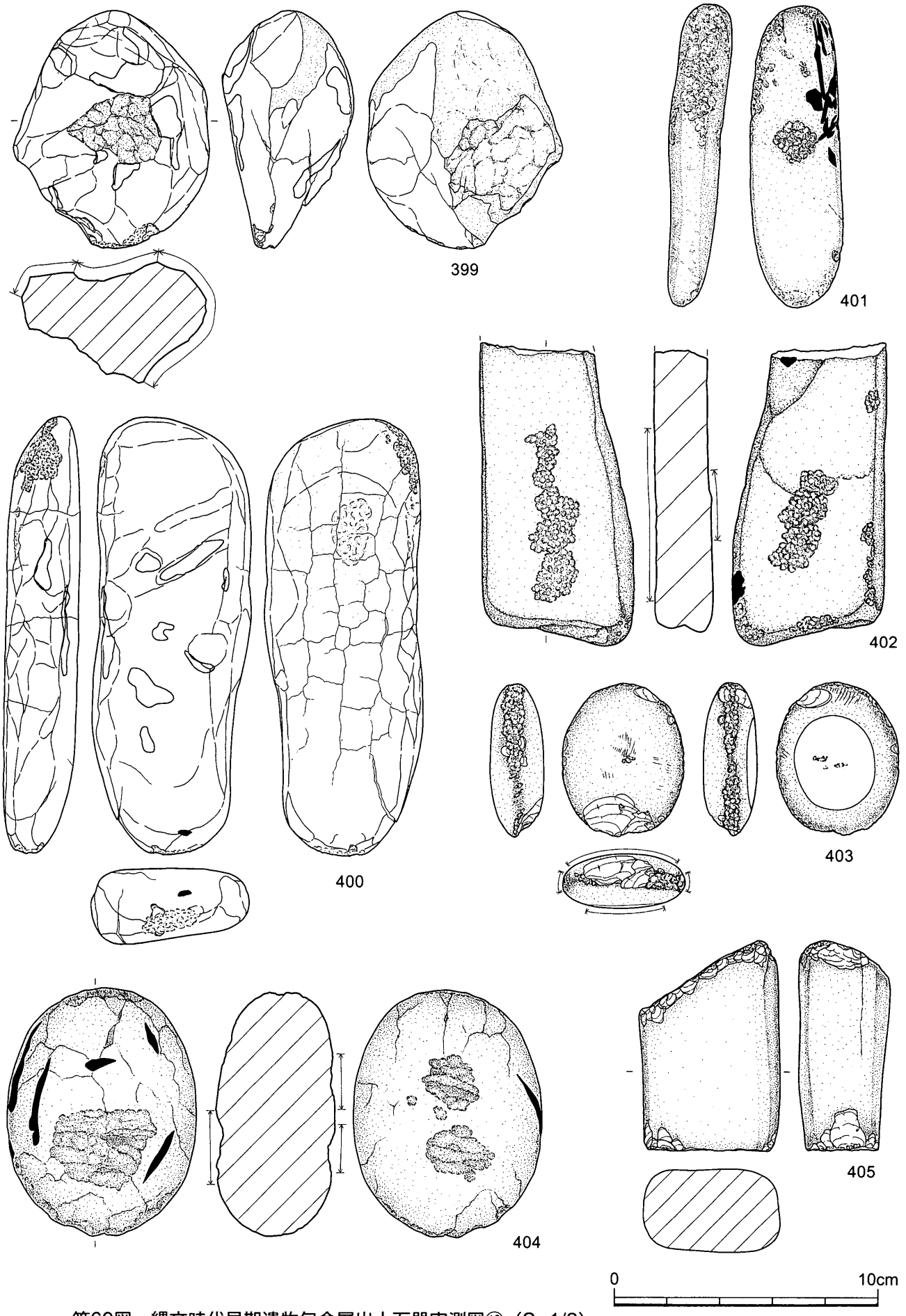
第66図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑨（S=2/3）



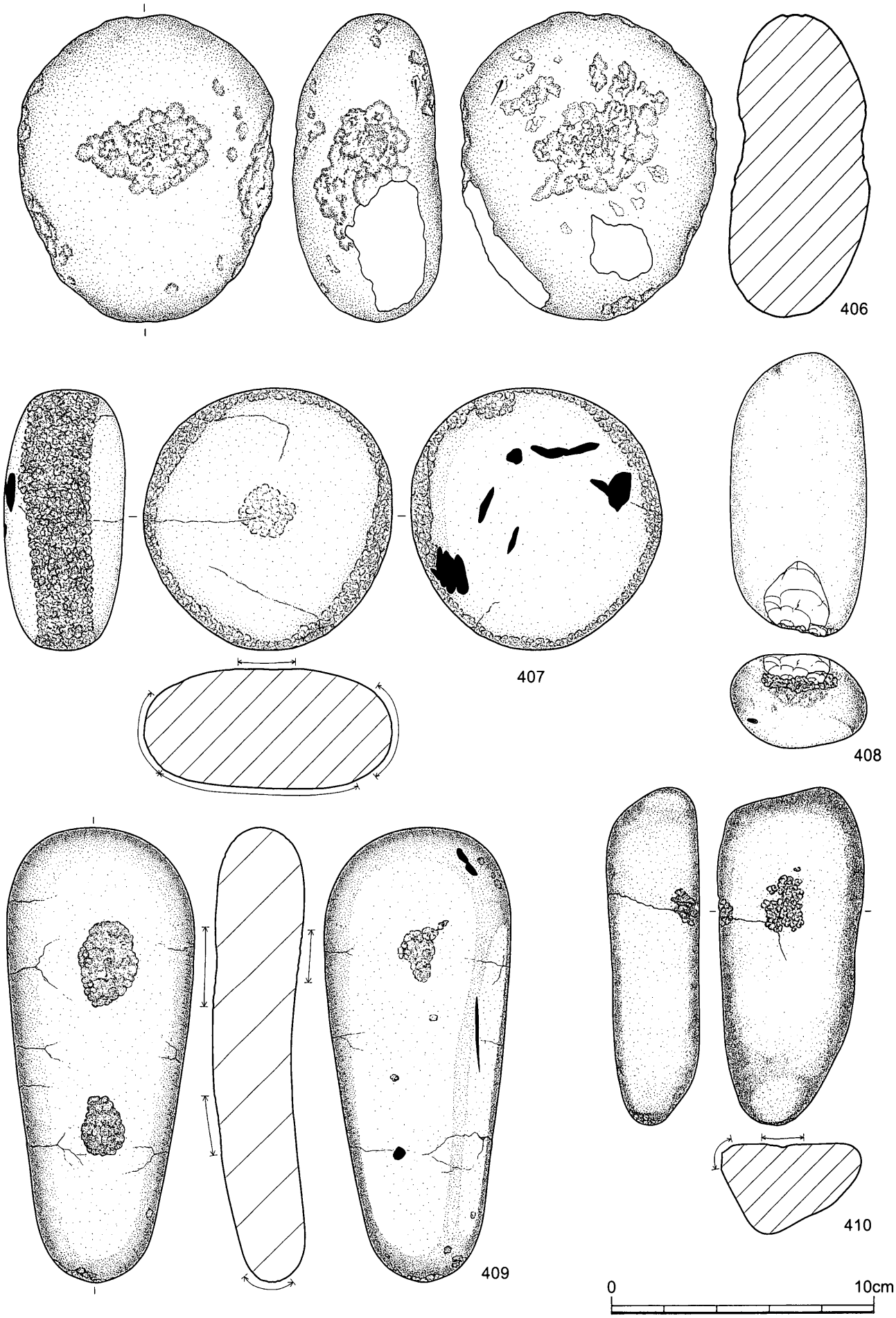
第67図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑩（S=2/3）



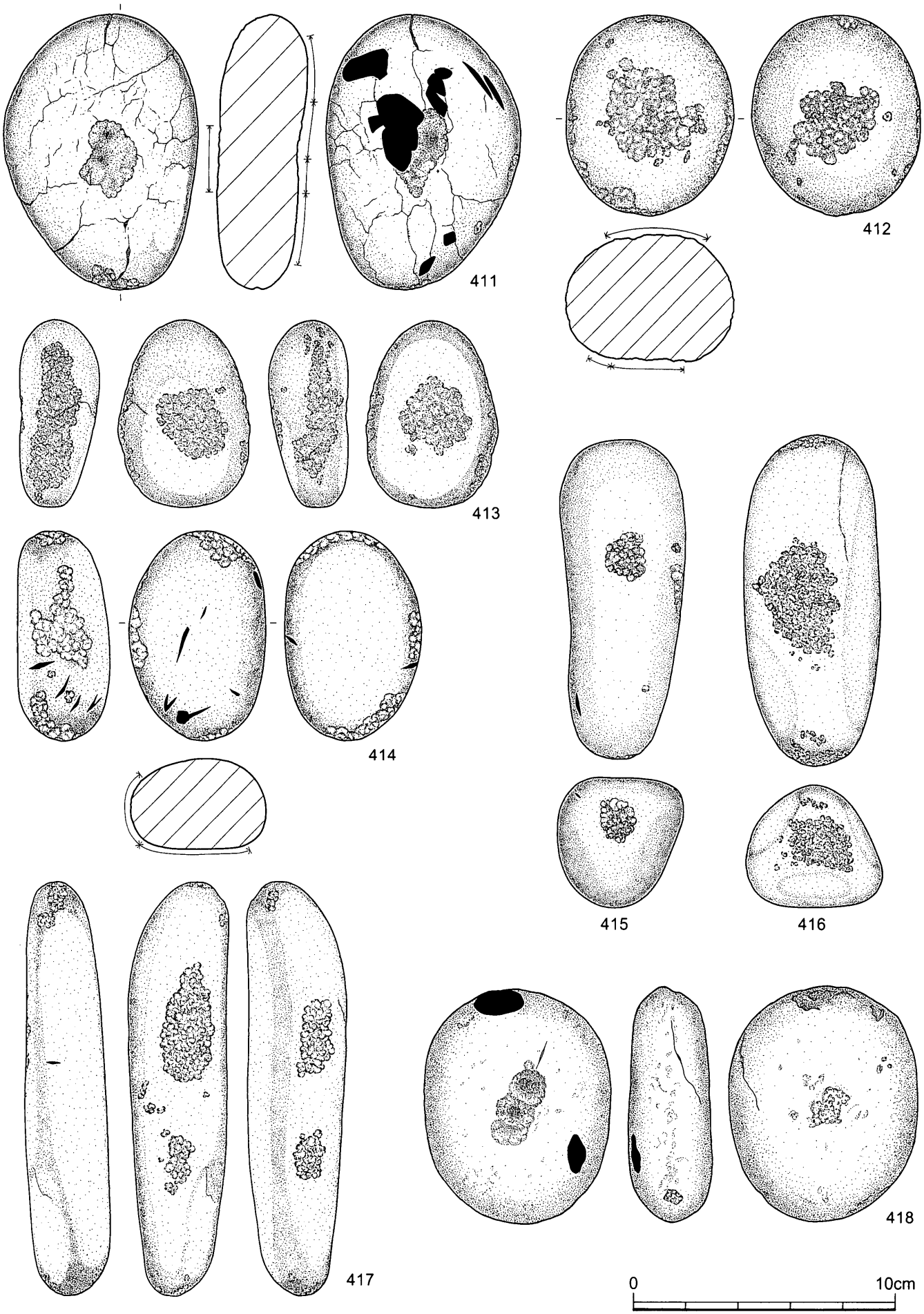
第68図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑪（S=2/3）



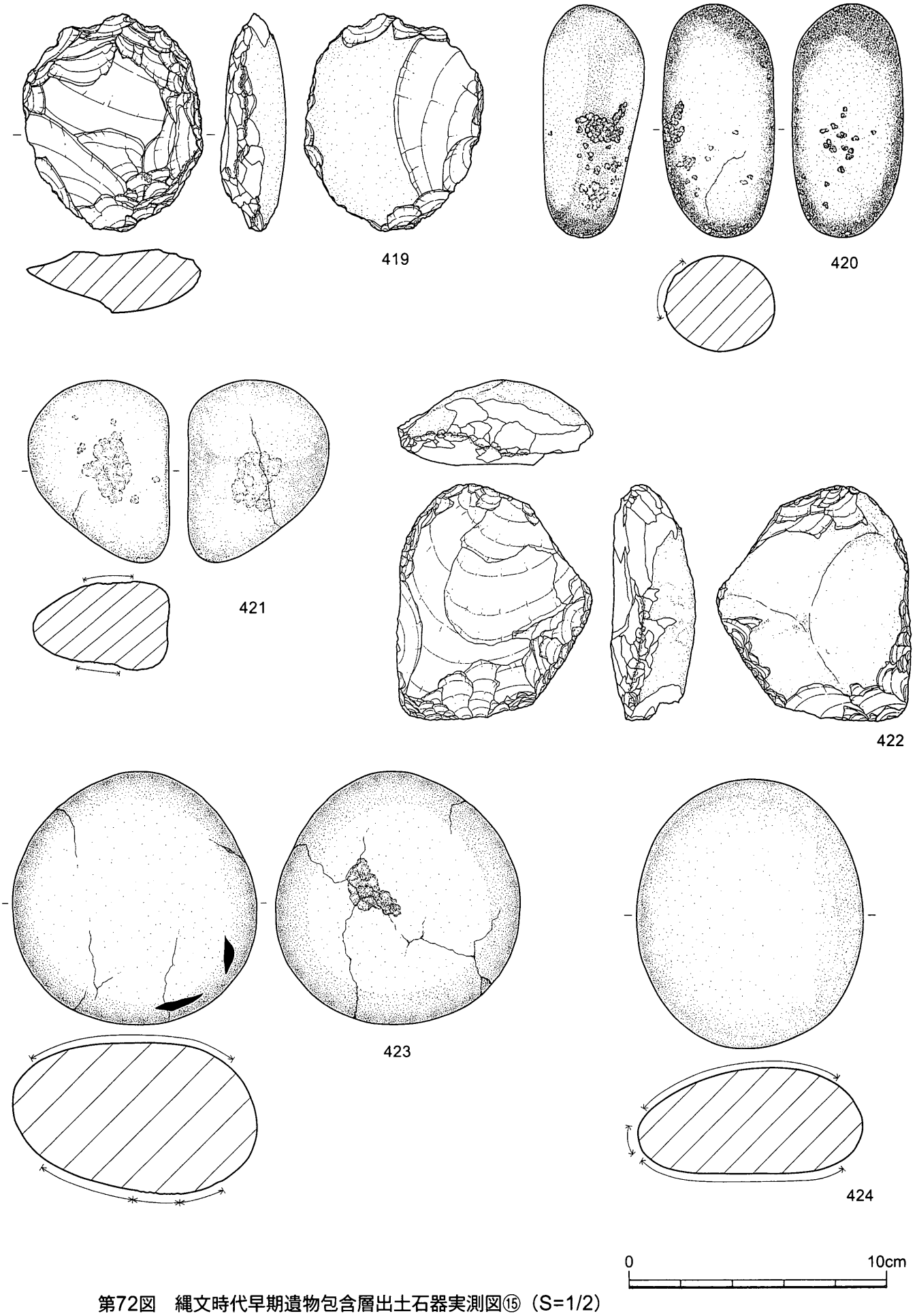
第69図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑫（S=1/2）



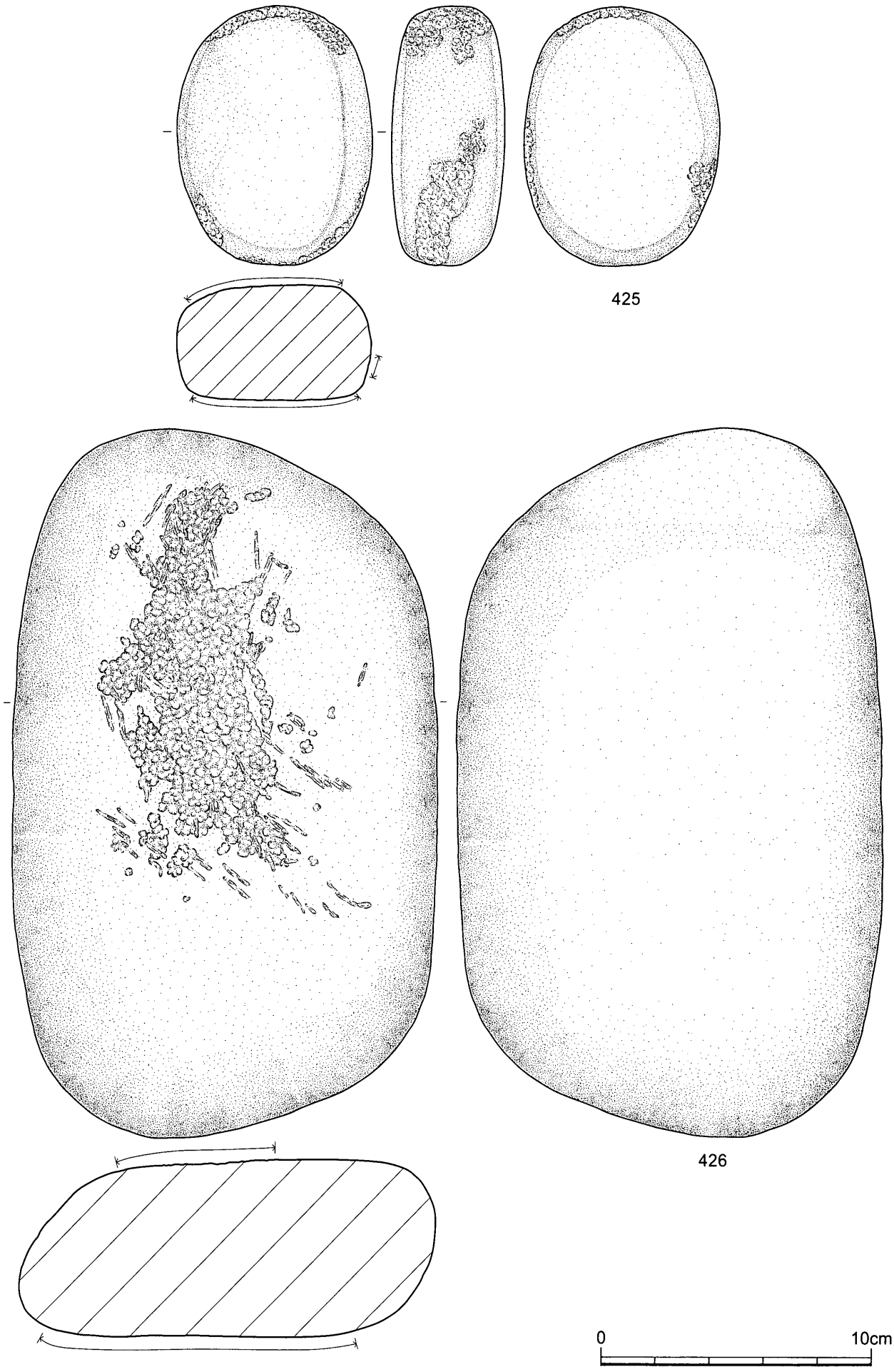
第70図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑬（S=1/2）



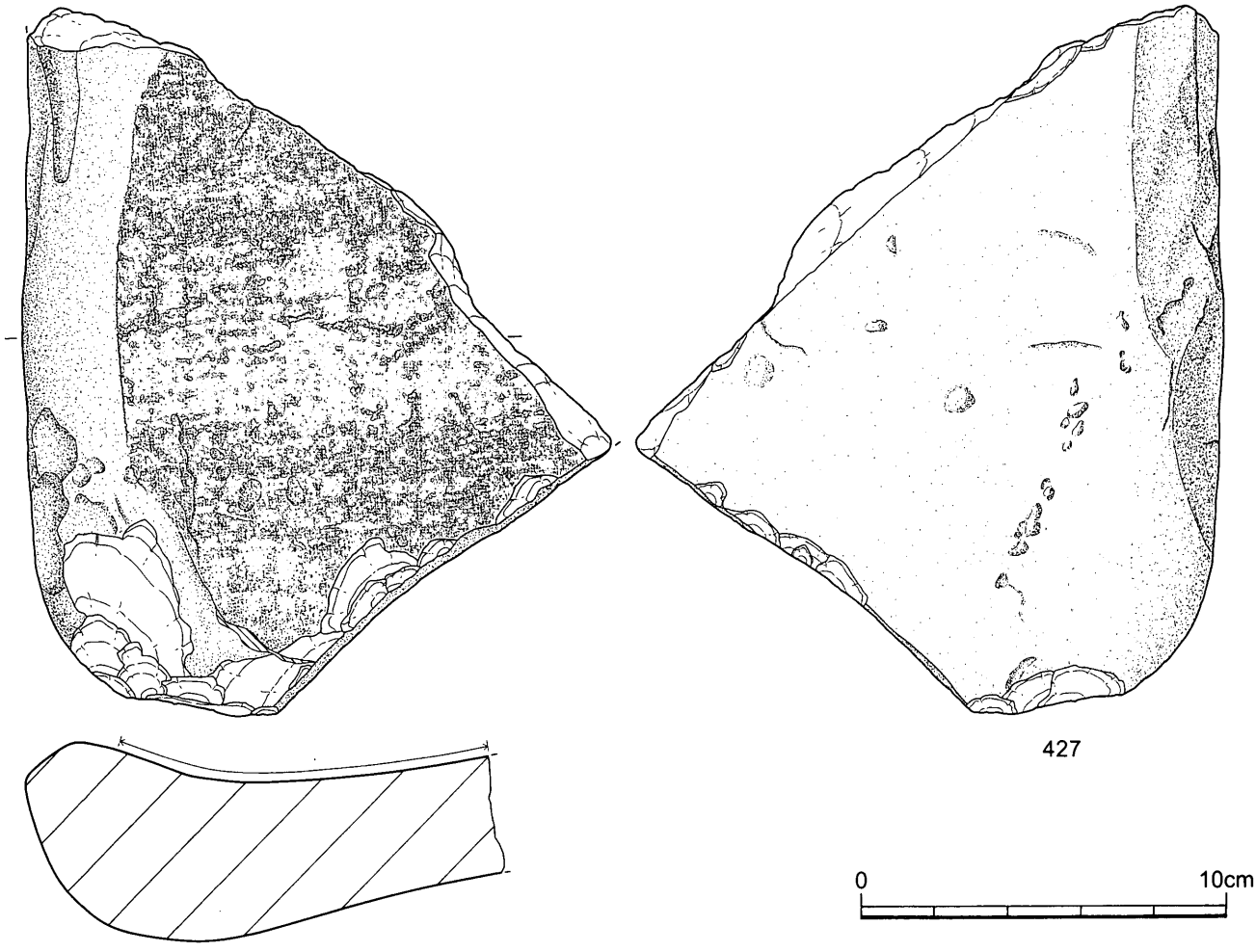
第71図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑭（S=1/2）



第72図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑮（S=1/2）



第73図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑯（S=1/2）



第74図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑰（S=1/2）

砥石（399・400）

礫を素材として平坦な面に明瞭な平滑面を持つものを分類した。総数で２点が出土している。この２点は両者ともに砂岩製である。平滑な面の一部は光沢が見られるほど滑らかになっている。399は光沢の見られる面は非常に多くの稜線が入っており、本当に砥石として使用したのかは不明である。400は側面と裏面に敲打痕が確認される。敲石と兼用されていたものである。近年本遺跡と同じ台地上に立地する遺跡の調査において本資料のように礫の平坦な面に光沢の見られるものが散見されている。磨製石器との位置関係などを検討し、これらの石器の使用方法などを検討する必要がある。

敲石・磨石（401～425）

敲石は礫を素材として、その一端・両端・平らな面に敲打の結果と考えられる割れや敲打痕、敲打によるものと推定されるくぼみを持つものを分類した。磨石は円礫の平らな面の片面または両面に平滑な面を持つものを分類した。総数で117点出土している。砂岩の使用が目立ち、素材礫の形状や使用痕の在り方から以下のように細分される。

・１類：扁平な円礫及び角礫の平坦面や側面に敲打の痕跡が確認されるもの（404・406・412・413・418・419・421・422）。419・422は分厚い礫片を使用した可能性も考えられる。

・２類：棒状の礫の端部に敲打の痕跡が確認されるもの（401・402・405・408～410・415～417・420）。平坦面や側面にも使用痕が確認される場合もある。

・３類：円形の礫の平坦面に平滑な面が確認されるもの（403・407・411・423～425）。平坦面には敲打痕も見られるものもあり、敲石として兼用されたものもみられる。

台石（426）

大型の礫を素材として、その平坦な面に敲打の結果と考えられる割れや敲打痕の認められるもの。総数で1点が出土している。すべて砂岩製である。

石皿（427）

大型の礫を素材として、その平坦な面に平滑な面やくぼんだ滑らかな面を持つもの。総数で7点が出土している。すべて砂岩製である。

第9表　縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表

報告書No.	実測No.	器種	出土グリット	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
194	37	打製石鏃	A6	Ⅵ	頁岩	1.4	1.25	0.25	0.5	
195	118	打製石鏃	D5	Ⅴ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.55	1.4	0.3	0.4	
196	64	打製石鏃	A9	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	0.8	0.85	0.15	0.1	
197	63	打製石鏃	A9	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.1	0.9	0.3	0.2	
198	98	打製石鏃	A5	Ⅴ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.05)	1.05	0.3	(0.2)	先端部欠損
199	316	打製石鏃	A5	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.35	1.1	0.25	0.22	
200	91	打製石鏃	D5	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.1	1.0	0.2	0.2	
201	101	打製石鏃	A6	Ⅴ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.0)	(1.2)	0.4	(0.4)	先端・脚部欠損
202	97	打製石鏃	A5	Ⅴ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.5	1.45	0.45	0.6	
203	317	打製石鏃	A6	Ⅵ	安山岩	1.1	1.05	0.2	0.22	
204	96	打製石鏃	D 確認 tr3	Ⅵ	砂岩	1.35	1.35	0.3	0.4	
205	81	打製石鏃	B5	Ⅵ	チャート	(1.65)	(1.35)	0.3	(0.7)	脚部欠損
206	92	打製石鏃	D5	Ⅵ	チャート	(1.95)	(1.3)	0.35	(0.7)	脚部欠損
207	85	打製石鏃	C2	Ⅵ	流紋岩	1.95	1.55	0.4	1.1	
208	88	打製石鏃	C5	Ⅵ	頁岩	(1.55)	(1.25)	0.3	(0.4)	脚部欠損
209	306	打製石鏃	D 確認 tr3	Ⅷ	頁岩	1.6	1.35	0.45	0.76	
210	54	打製石鏃	A6	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.75	1.2	0.4	0.7	
211	310	打製石鏃	C5	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.3)	(1.0)	0.15	(0.24)	先端・脚部欠損
212	136	打製石鏃	A6	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.25)	1.2	0.4	(0.3)	先端部欠損
213	137	打製石鏃	A6	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.35	1.0	0.35	0.4	
214	140	打製石鏃	A9	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.6)	1.4	0.4	(0.5)	先端部欠損
215	38	打製石鏃	A6	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.85	1.35	0.5	0.8	
216	53	打製石鏃	A6	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.8	1.4	0.25	0.4	
217	61	打製石鏃	A8	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.65	1.35	0.35	0.5	
218	59	打製石鏃	A6	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.9	1.3	0.4	0.7	
219	307	打製石鏃	A9	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.75	1.3	0.4	0.61	
220	62	打製石鏃	A9	Ⅵ	チャート	2.3	1.15	0.35	0.9	
221	57	打製石鏃	A6	Ⅵ	玉髄	2.4	1.4	0.3	0.9	
222	75	打製石鏃	A14	Ⅵ	玉髄	(3.2)	1.3	0.3	(1.2)	基部欠損
223	78	打製石鏃	B2	Ⅵ	チャート	(3.3)	2.35	0.4	(2.6)	先端部欠損
224	147	打製石鏃	A11	Ⅵ	チャート	1.8	1.3	0.3	0.3	
225	123	打製石鏃	D14	Ⅴ	チャート	(2.7)	2.0	0.35	(1.4)	先端部欠損
226	120	打製石鏃	D10	Ⅴ	頁岩	2.5	1.95	0.4	1.5	
227	77	打製石鏃	B1	Ⅵ	安山岩	(1.8)	2.05	0.4	(1.0)	先端部欠損
228	150	打製石鏃	C3	Ⅴ	チャート	2.45	1.65	0.4	1.0	
229	304	打製石鏃	B5	Ⅵ	チャート	(1.45)	(1.15)	0.25	(0.37)	側縁・脚部欠損
230	128	打製石鏃	A6	Ⅵ	流紋岩	2.0	1.5	0.35	0.6	
231	320	打製石鏃	A6	Ⅷ	頁岩	2.25	1.2	0.5	1.13	
232	144	打製石鏃	A6	Ⅴ	頁岩	(2.1)	1.55	0.4	(1.0)	先端部欠損
233	131	打製石鏃	A6	Ⅵ	頁岩	2.6	2.2	0.65	2.6	

（　　）の値は残存値を示す

報告書No.	実測No.	器種	出土グリット	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
234	127	打製石鏃	D 確認 tr3	Ⅵ	頁岩	1.95	1.5	0.35	0.8	
235	135	打製石鏃	A6	Ⅵ	頁岩	1.85	1.65	0.45	0.9	
236	132	打製石鏃	A8	Ⅵ	頁岩	1.9	1.15	0.4	0.6	
237	322	打製石鏃	A11	Ⅵ	頁岩	1.9	1.4	0.4	0.71	
238	134	打製石鏃	A8	Ⅵ	頁岩	2.3	1.5	0.45	1.1	
239	36	打製石鏃	A5	Ⅴ	頁岩	2.3	1.45	0.45	0.8	
240	149	打製石鏃	C2	Ⅴ	安山岩	1.75	1.4	0.35	0.5	
241	141	打製石鏃	A9	Ⅵ	安山岩	1.85	1.35	0.35	0.6	
242	324	打製石鏃	B5	Ⅵ	安山岩	(2.8)	1.6	0.4	(1.39)	先端部欠損
243	145	打製石鏃	D14	Ⅴ	サヌカイト	2.8	1.55	0.45	1.3	
244	148	打製石鏃	A12	Ⅵ	砂岩	2.45	1.65	0.45	1.6	
245	126	打製石鏃	A5	Ⅵ	砂岩	1.9	1.3	0.4	0.6	
246	315	打製石鏃	C13	Ⅵ	砂岩	(2.6)	(1.35)	0.3	(0.44)	脚部欠損
247	142	打製石鏃	D10	Ⅴ	砂岩	2.75	1.95	0.5	2.7	
248	146	打製石鏃	B4	Ⅴ	砂岩	2.75	2.4	0.55	2.9	
249	152	打製石鏃	A11	Ⅴ	砂岩	(2.1)	1.8	0.5	(2.0)	先端部欠損
250	79	打製石鏃	B2	Ⅵ	チャート	2.3	1.4	0.4	1.2	
251	56	打製石鏃	A6	Ⅵ	チャート	2.45	1.7	0.3	1.2	
252	105	打製石鏃	A9	Ⅴ	流紋岩	2.5	1.5	0.3	1.0	
253	67	打製石鏃	A11	Ⅵ	頁岩	(1.95)	(1.4)	0.35	(0.7)	脚部欠損
254	74	打製石鏃	A12	Ⅵ	頁岩	2.1	1.55	0.4	0.9	
255	51	打製石鏃	A6	Ⅵ	頁岩	(2.2)	(1.3)	0.55	(1.3)	脚部欠損
256	93	打製石鏃	D5	Ⅵ	頁岩	2.6	1.55	0.3	1.1	
257	94	打製石鏃	D8	Ⅵ	頁岩	3.0	1.65	0.4	1.6	
258	326	打製石鏃	D2	Ⅷ	安山岩	2.9	2.0	0.4	1.84	
259	99	打製石鏃	A5	Ⅴ	チャート	1.9	1.9	0.4	1.1	
260	72	打製石鏃	A12	Ⅵ	チャート	(1.8)	(1.9)	0.3	(0.9)	脚部欠損
261	107	打製石鏃	A11	Ⅴ	安山岩	1.7	1.65	0.35	0.6	
262	130	打製石鏃	B2	Ⅵ	玉髄	(1.95)	(1.9)	0.35	(0.8)	脚部欠損
263	66	打製石鏃	A11	Ⅵ	ホルンフェルス	2.7	2.55	0.35	1.9	
264	42	打製石鏃	A14	Ⅵ	頁岩	(3.1)	(2.1)	0.7	(3.8)	脚部欠損
265	308	打製石鏃	C13	Ⅴ	黒曜石(姫島)	(2.55)	(1.4)	0.4	(1.03)	先端・脚部欠損
266	104	打製石鏃	A8	Ⅴ	黒曜石(姫島)	(2.7)	(1.25)	0.4	(0.9)	脚部欠損
267	84	打製石鏃	B8	Ⅵ	チャート	2.3	1.35	0.6	1.4	
268	71	打製石鏃	A11	Ⅵ	チャート	(2.25)	(1.35)	0.6	(1.2)	脚部欠損
269	318	打製石鏃	C11	Ⅷ	頁岩	2.4	1.5	0.25	0.73	
270	83	打製石鏃	B8	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	(2.45)	(1.8)	0.3	(1.0)	脚部欠損
271	314	打製石鏃	A9	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.75)	(1.1)	0.3	(0.44)	基部欠損
272	312	打製石鏃	B4	Ⅵ	黒曜石(姫島)	(2.0)	(1.9)	0.35	(0.63)	脚部欠損
273	305	打製石鏃	A8	Ⅴ	安山岩	4.05	2.2	0.45	3.15	
274	89	打製石鏃	C11	Ⅵ	チャート	2.05	1.1	0.6	0.8	
275	39	打製石鏃	A6	Ⅵ	チャート	2.0	1.15	0.45	0.7	
276	52	打製石鏃	A6	Ⅵ	頁岩	(2.5)	(1.3)	0.55	(1.1)	脚部欠損
277	309	打製石鏃	A9	Ⅵ	頁岩	(2.2)	(1.2)	0.35	(0.24)	脚部欠損
278	103	打製石鏃	A6	Ⅴ	サヌカイト	(2.3)	1.3	0.6	(1.0)	先端部欠損
279	113	打製石鏃	C3	Ⅴ	砂岩	2.9	1.4	0.6	1.2	
280	70	打製石鏃	A11	Ⅵ	ホルンフェルス	2.6	1.3	0.4	0.9	
281	82	打製石鏃	B7	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	2.0	1.35	0.3	0.6	
282	325	磨製石鏃	A8	Ⅵ	頁岩	2.0	1.5	0.25	(0.65)	側縁部欠損
283	327	磨製石鏃	B4	Ⅵ	頁岩	(2.1)	2.05	0.3	(1.0)	先端部欠損

(　　)の値は残存値を示す

報告書No.	実測No.	器種	出土グリット	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
284	319	局部磨製石鏃	C13	Ⅷ	頁岩	3.1	1.4	0.3	1.22	
285	143	打製石鏃	A8	Ⅴ	チャート	2.1	1.6	0.35	0.5	
286	80	打製石鏃	B5	Ⅵ	黒曜石(針尾)	(2.05)	(1.65)	0.5	(1.0)	脚部欠損
287	303	打製石鏃	B4	Ⅵ	頁岩	2.4	1.65	0.2	0.61	
288	109	打製石鏃	A15	Ⅴ	砂岩	2.5	1.75	0.4	0.9	
289	76	打製石鏃	A14	Ⅵ	チャート	2.5	2.0	0.35	1.3	
290	110	打製石鏃	A16	Ⅴ	チャート	2.2	1.75	0.4	0.9	
291	102	打製石鏃	A6	Ⅴ	チャート	2.25	1.45	0.55	1.1	
292	108	打製石鏃	A11	Ⅴ	チャート	(1.7)	(1.3)	0.45	(0.7)	脚部欠損
293	122	打製石鏃	D11	Ⅴ	チャート	(3.05)	(1.7)	0.6	(2.3)	先端・脚部欠損
294	313	打製石鏃	C3	Ⅵ	チャート	2.35	1.7	0.6	1.45	
295	55	打製石鏃	A6	Ⅵ	チャート	(1.85)	(1.2)	0.3	(0.7)	脚部欠損
296	114	打製石鏃	C10	Ⅴ	チャート	(1.85)	1.3	0.5	(0.8)	
297	151	打製石鏃	D14	Ⅴ	流紋岩	2.6	1.45	0.6	1.4	
298	68	打製石鏃	A11	Ⅵ	頁岩	2.15	1.65	0.3	0.9	
299	46	局部磨製石鏃	B5	Ⅵ	頁岩	2.35	1.45	0.3	0.9	
300	58	打製石鏃	A6	Ⅵ	頁岩	2.3	1.9	0.45	1.3	
301	60	打製石鏃	A6	Ⅵ	頁岩	(2.6)	1.7	0.4	(1.1)	先端部欠損
302	115	打製石鏃	C11	Ⅴ	頁岩	(2.15)	1.45	0.5	(1.1)	先端部欠損
303	50	打製石鏃	A6	Ⅵ	頁岩	(2.0)	(1.15)	0.5	(0.8)	脚部欠損
304	106	打製石鏃	A9	Ⅴ	頁岩	(2.2)	(1.3)	0.45	(0.9)	脚部欠損
305	73	打製石鏃	A12	Ⅵ	頁岩	(1.85)	(1.2)	0.4	(0.5)	脚部欠損
306	65	打製石鏃	A11	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.8)	1.65	0.45	(0.9)	先端部欠損
307	111	打製石鏃	C2	Ⅴ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.7)	1.75	0.4	(0.8)	先端部欠損
308	47	打製石鏃	A5	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.75)	(1.45)	0.5	(0.6)	先端・脚部欠損
309	90	打製石鏃	C11	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	(2.0)	(1.4)	0.25	(0.5)	脚部欠損
310	87	打製石鏃	C4	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	(2.0)	(1.45)	0.4	(0.8)	脚部欠損
311	112	打製石鏃	C3	Ⅴ	黒曜石(姫島)	2.4	1.65	0.4	0.9	
312	95	打製石鏃	D10	Ⅵ	黒曜石(姫島)	(1.9)	(1.2)	0.45	(0.6)	脚部欠損
313	117	打製石鏃	D1	Ⅴ	黒曜石(姫島)	(2.1)	(1.65)	0.4	(0.7)	脚部欠損
314	311	打製石鏃	C13	Ⅵ	黒曜石(西北九州)	1.9	1.8	0.4	0.77	
315	48	打製石鏃	A5	Ⅵ	安山岩	1.85	1.25	0.45	0.7	
316	100	打製石鏃	A5	Ⅴ	安山岩	1.8	1.3	0.45	0.7	
317	124	打製石鏃	D14	Ⅴ	安山岩	(1.85)	1.75	0.4	(0.8)	先端部欠損
318	49	打製石鏃	A6	Ⅵ	安山岩	2.35	1.5	0.45	1.2	
319	116	打製石鏃	C11	Ⅴ	安山岩	(1.3)	(1.25)	0.45	(0.5)	脚部欠損
320	69	打製石鏃	A11	Ⅵ	安山岩	(1.6)	(1.15)	0.5	(0.7)	脚部欠損
321	121	打製石鏃	D10	Ⅴ	安山岩	(1.3)	(1.2)	0.5	(0.4)	脚部欠損
322	119	打製石鏃	D8	Ⅴ	砂岩	2.4	1.9	0.45	1.3	
323	86	打製石鏃	A11	Ⅵ	ホルンフェルス	2.0	1.3	0.6	0.9	
324	334	打製石鏃未製品	C10	Ⅴ	チャート	2.15	1.6	0.5	2.13	
325	337	打製石鏃未製品	A5	Ⅴ	チャート	2.3	1.6	0.4	1.33	
326	321	打製石鏃未製品	A2	Ⅴ	チャート	2.1	1.8	0.4	1.39	
327	336	打製石鏃未製品	A5	Ⅴ	チャート	3.15	2.45	0.9	5.76	
328	333	打製石鏃未製品	A6	Ⅵ	流紋岩	2.55	2.0	0.75	3.7	
329	328	打製石鏃未製品	C14	Ⅵ	流紋岩	3.3	2.3	0.95	6.13	
330	329	打製石鏃未製品	C5	Ⅵ	流紋岩	4.0	2.85	0.75	9.14	
331	133	打製石鏃未製品	A8	Ⅵ	頁岩	2.85	1.65	0.65	2.8	
332	330	打製石鏃未製品	C3	Ⅴ	頁岩	3.0	3.0	0.6	4.43	
333	323	打製石鏃未製品	A6	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.3	0.95	0.35	0.36	

(　　)の値は残存値を示す

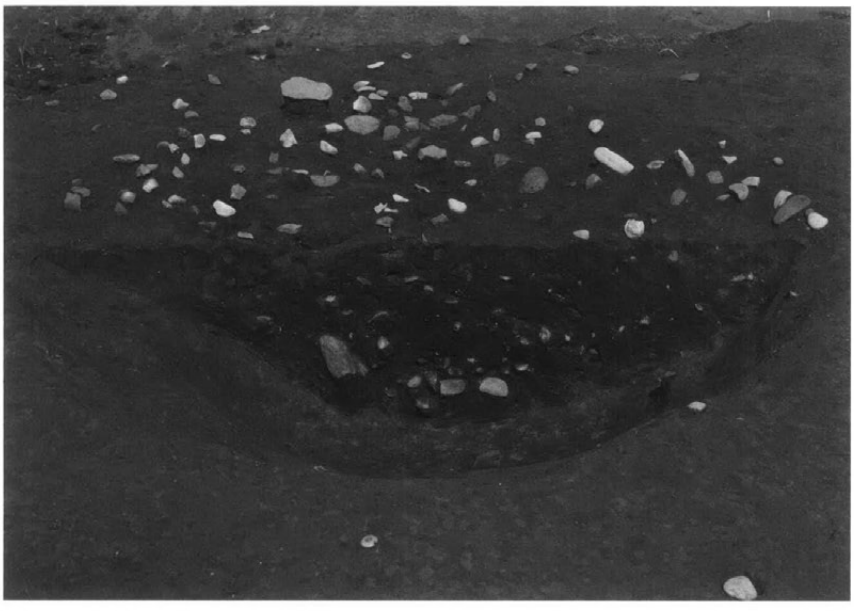
報告書No.	実測No.	器種	出土グリット	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
334	335	打製石鏃未製品	A6	V	黒曜石(桑ノ木津留)	2.1	1.35	0.6	1.31	
335	139	打製石鏃未製品	A6	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	2.4	1.5	0.9	2.4	
336	138	打製石鏃未製品	A6	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	2.65	1.6	0.9	2.0	
337	339	打製石鏃未製品	A6	VI	安山岩	3.5	2.15	0.6	4.51	
338	338	尖頭状石器	C6	VI	頁岩	(3.5)	2.6	0.65	(5.84)	基部欠損
339	125	尖頭状石器	C13	VIII	頁岩	4.2	2.6	0.9	10.3	
340	345	尖頭状石器			砂岩	4.05	3.0	1.4	16.15	
341	346	尖頭状石器	B5	VI	砂岩	(4.35)	3.65	1.35	(22.75)	先端部欠損
342	344	尖頭状石器	A11	VI	砂岩	5.15	3.4	1.8	29.1	
343	343	尖頭状石器未製品	D10	V	流紋岩	3.75	3.4	1.6	16.86	
344	129	異形石器	C12	VI	安山岩	1.7	1.15	0.35	0.5	
345	349	異形石器	B8	V	珪質岩	1.7	1.35	0.35	0.7	
346	347	異形石器	C3	VI	チャート	2.2	1.0	0.5	0.97	
347	350	異形石器	A11	V	サヌカイト	(1.8)	1.1	0.5	(0.54)	基部欠損
348	348	異形石器	A11	VI	サヌカイト	2.3	1.3	0.4	0.81	
349	340	石錐	A9	VI	黒曜石(姫島)	4.95	1.4	0.9	2.13	
350	341	石錐	C13	VIII	チャート	3.0	1.2	0.8	2.07	
351	332	石錐	A6	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	2.0	1.3	0.45	0.86	
352	342	石錐	C2	VI	頁岩	(4.1)	3.5	1.3	(14.16)	先端部欠損
353	29	石匙	D10	V	頁岩	4.0	5.5	1.15	24.8	
354	31	石匙	D11	VI	流紋岩	9.3	5.4	1.95	80.3	
355	356	石匙	A11	VI	砂岩	6.15	4.1	0.8	16.95	
356	355	スクレイパー	B2	VI	流紋岩	(5.65)	(4.4)	1.05	(15.46)	基部欠損
357	353	スクレイパー	A6	VI	頁岩	(5.9)	(5.5)	0.9	(25.88)	基部欠損
358	357	スクレイパー	A5	V	流紋岩	7.9	5.1	1.9	67.07	
359	362	スクレイパー	B2	VI	頁岩	7.8	3.35	2.0	34.95	
360	358	スクレイパー	A6	VI	流紋岩	(6.6)	(5.4)	1.3	(37.86)	基部欠損
361	351	スクレイパー	B8	VI	流紋岩	4.7	3.75	1.35	18.7	
362	366	スクレイパー	A6	VI	安山岩	(5.4)	(4.5)	1.4	(62.07)	基部欠損
363	354	スクレイパー	A11	VI	砂岩	4.6	5.1	1.65	4.1	
364	361	スクレイパー	A11	VI	サヌカイト	(6.0)	(2.15)	1.5	(14.78)	基部欠損
365	30	スクレイパー	D10	V	砂岩	6.35	5.8	2.0	61.1	
366	25	スクレイパー	A8	VI	頁岩	6.4	4.3	1.2	26.2	
367	28	スクレイパー	A14	VI	砂岩	(6.1)	(4.8)	2.0	(50.0)	基部欠損
368	365	スクレイパー	D10	V	ホルンフェルス	(7.55)	(3.1)	1.0	(20.39)	基部欠損
369	27	スクレイパー	A11	VI	砂岩	4.25	5.05	1.6	34.0	
370	363	スクレイパー	A15	VI	砂岩	(6.7)	(5.2)	1.8	(50.48)	基部欠損
371	359	スクレイパー	C3	V	砂岩	(6.8)	(4.0)	1.15	(33.2)	基部欠損
372	26	スクレイパー	A11	VI	頁岩	(6.35)	(3.4)	0.95	(17.2)	基部欠損
373	154	スクレイパー	B2	VI	頁岩	6.45	4.1	1.55	34.6	
374	360	スクレイパー	C11	VI	頁岩	(8.4)	(4.5)	1.45	(32.35)	基部欠損
375	369	スクレイパー	A11	V	頁岩	6.6	4.25	2.35	52.81	
376	153	スクレイパー	B8	V	頁岩	4.5	6.3	1.4	36.3	
377	41	スクレイパー	D4	V	頁岩	3.4	2.5	1.0	9.4	
378	382	石斧	A6	VI	緑色珪質岩	(6.0)	(4.1)	1.55	(45.54)	基部欠損
379	24	石斧	A6	VI	流紋岩	(7.8)	(5.1)	2.4	(142.5)	基部欠損
380	23	石斧	A15	VI	頁岩	5.95	4.9	1.5	52.9	
381	43	石斧	A6	VI	ホルンフェルス	(8.4)	(5.4)	3.0	(169.9)	基部欠損
382	374	剥片	C12	VI	緑色珪質岩	3.5	4.1	0.8	11.13	
383	372	剥片	A6	VI	緑色珪質岩	4.8	3.55	0.5	8.65	

(　　)の値は残存値を示す

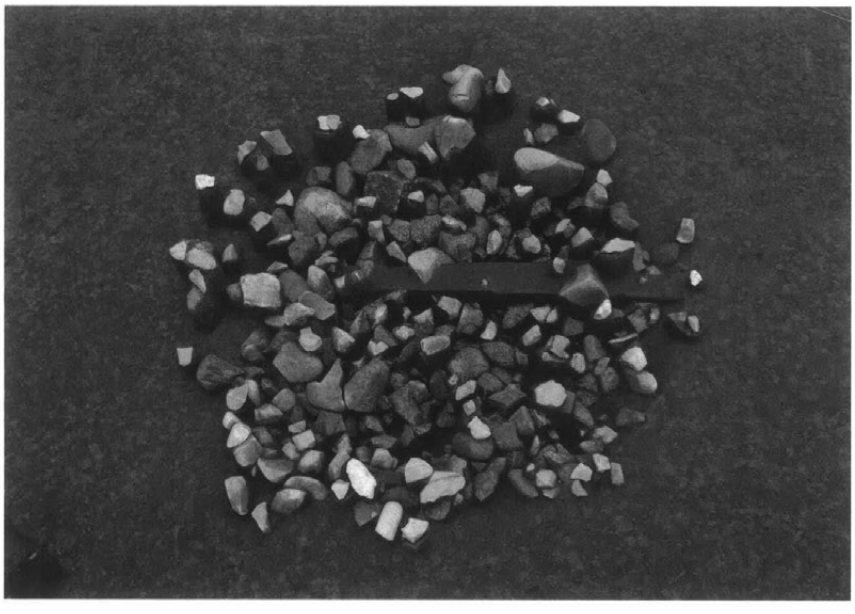
報告書No.	実測No.	器種	出土グリット	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
384	371	剥片	A6	Ⅵ	緑色珪質岩	3.5	3.1	0.8	7.34	
385	156	礫器	A6	Ⅴ	尾鈴山酸性岩	10.65	11.9	4.0	656.0	石核の可能性有
386	376	剥片	A6	Ⅷ	安山岩	(6.0)	(8.5)	1.9	(66.96)	基部欠損
387	370	剥片	D5	Ⅴ	尾鈴山酸性岩	5.3	3.65	0.95	15.9	
388	367	剥片	A6	Ⅷ	流紋岩	8.3	5.3	3.2	102.0	
389	40	2次加工有る剥片	C2	Ⅵ	頁岩	4.4	4.7	1.1	19.7	
390	384	石核	B5	Ⅵ	頁岩	8.55	9.5	3.4	283.63	
391	34	石核	B2	Ⅵ	砂岩	6.65	8.3	5.7	416.2	
392	385	石核	A6	Ⅵ	頁岩	4.6	7.4	2.9	113.24	受熱・熱はじけあり
393	383	石核	B5	Ⅷ	尾鈴山酸性岩	6.1	9.0	2.8	216.07	
394	33	石核	A14	Ⅴ	砂岩	7.2	10.3	4.4	403.4	
395	35	石核	D11	Ⅴ	砂岩	6.5	9.4	9.65	705.3	
396	386	石核	A6	Ⅵ	頁岩	6.3	7.9	2.3	121.26	
397	32	石核	A8	Ⅵ	砂岩	8.4	7.3	5.2	360.8	
398	44	石核	A6	Ⅵ	砂岩	7.9	7.7	4.9	305.0	
399	393	砥石	C2	Ⅵ	砂岩	8.9	7.45	5.0	262.12	一部光沢有り
400	394	砥石	C12	Ⅵ	砂岩	16.6	6.05	2.85	413.5	
401	406	敲石			砂岩	11.25	3.55	2.35	102.73	
402	404	敲石	A6	Ⅵ	砂岩	11.4	5.9	2.2	250.47	
403	415	敲石	B7	Ⅵ	頁岩	5.75	4.65	2.05	77.56	
404	398	敲石	A9	Ⅵ	砂岩	9.35	7.2	4.5	376.54	赤変有り
405	409	敲石	A6	Ⅵ	砂岩	7.9	5.4	3.45	235.64	
406	155	敲石	A9	Ⅴ	砂岩	11.5	9.8	5.7	799.0	
407	412	敲石	C2	Ⅵ	砂岩	9.8	9.5	4.55	580.66	
408	402	敲石	A9	Ⅵ	砂岩	10.65	5.2	3.6	286.29	
409	401	敲石	B2	Ⅵ	砂岩	17.3	7.05	3.5	547.75	
410	407	敲石	B1	Ⅵ	砂岩	12.85	5.6	3.5	328.08	
411	400	敲石	A8	Ⅴ	砂岩	10.35	7.5	3.4	341.31	
412	395	敲石	A11	Ⅴ	砂岩	7.4	6.45	4.25	239.9	
413	396	敲石	D14	Ⅴ	砂岩	7.05	5.05	3.0	138.62	
414	416	敲石	C10	Ⅷ	砂岩	8.0	5.2	3.6	202.7	
415	399	敲石	C11	Ⅷ	砂岩	12.2	4.8	5.0	363.79	
416	408	敲石	D10	Ⅴ	砂岩	12.5	5.15	4.6	415.12	
417	403	敲石	A6	Ⅵ	砂岩	15.55	3.8	3.3	262.35	
418	45	敲石	B5	Ⅵ	砂岩	8.95	7.2	3.2	292.0	
419	387	敲石	A9	Ⅵ	頁岩	6.25	5.25	1.9	62.03	
420	410	敲石	D10	Ⅵ	砂岩	8.9	4.45	3.95	207.12	
421	397	敲石	D11	Ⅴ	砂岩	6.9	5.5	3.4	155.66	鉄分付着・一部黒変
422	388	敲石	A15	Ⅵ	頁岩	6.8	5.7	2.5	95.54	
423	390	磨石	C2	Ⅵ	砂岩	9.8	9.5	5.8	695.23	
424	391	磨石	D11	Ⅴ	砂岩	10.35	8.75	4.1	569.7	
425	392	磨石	A9	Ⅵ	砂岩	9.45	7.25	4.2	443.2	
426	421	台石	A6	Ⅵ	砂岩	26.0	15.6	6.5	4000	
427	420	石皿	A9	Ⅴ	砂岩	(19.0)	(16.1)	6.0	(1482)	

(　　)の値は残存値を示す

SI －49（南から）

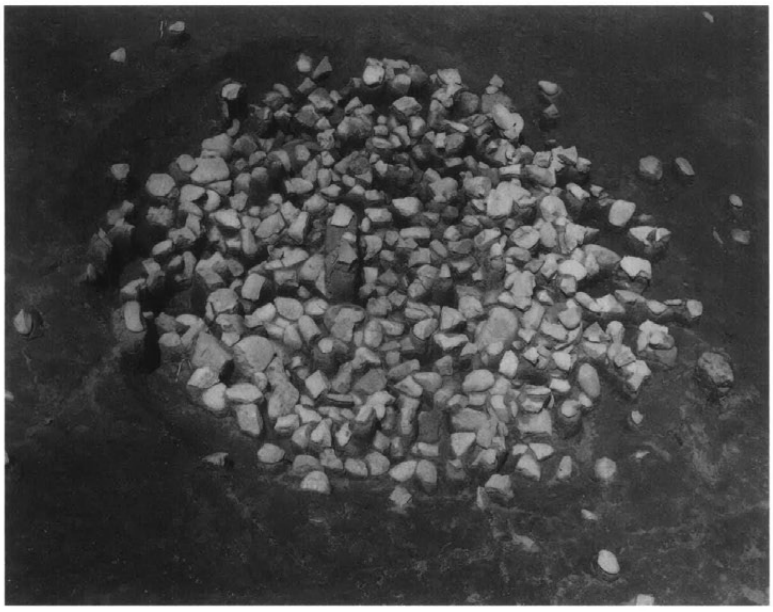


SI －39《礫充填状況》（南東から）



SI －51（南東から）

写真図版24　縄文時代早期遺構①



SI－23（南から）

SI－41（南東から）

SI－5（東から）

写真図版25　縄文時代早期遺構②

SI －52（北から）

SI －45（東から）

SI －11（北東から）

写真図版26　縄文時代早期遺構③

SI －14（北東から）

SI －19（北から）

SI －22（東から）

写真図版27　縄文時代早期遺構④

SI －34（北東から）

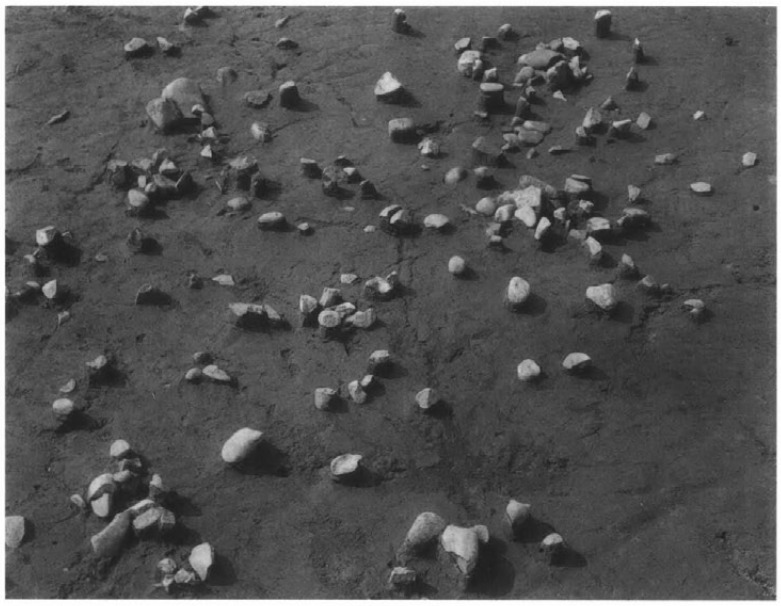
SI －2（東から）

SI －13（北東から）

写真図版28　縄文時代早期遺構⑤

SI－6（東から）

SI－1・35・38（北東から）



SI－7（東から）

写真図版29　縄文時代早期遺構⑥

SI －36（北東から）

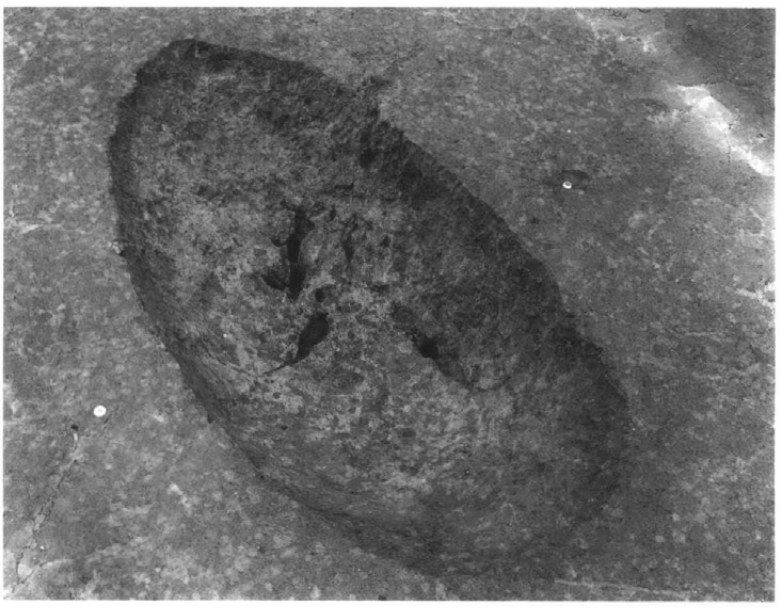
SI －4（南東から）

SI －55（東から）

写真図版30　縄文時代早期遺構⑦

SC －7（東から）

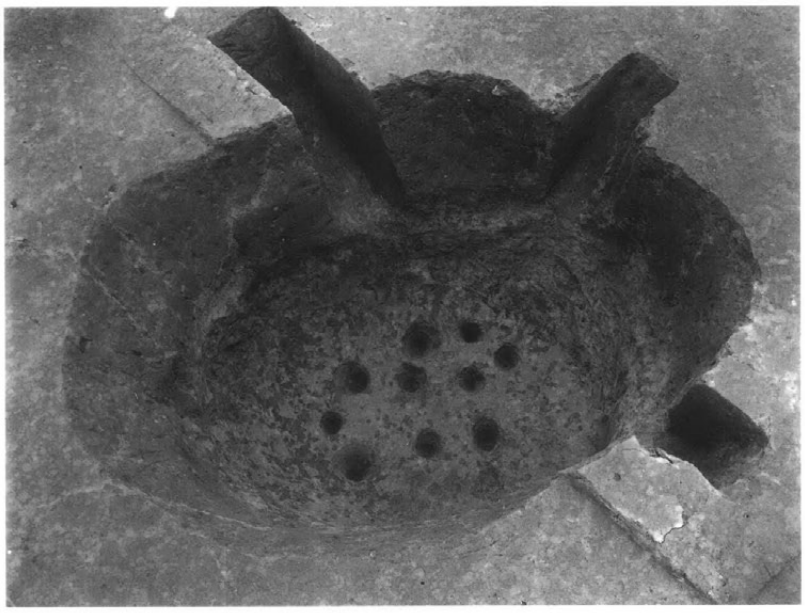
SC －8（東から）



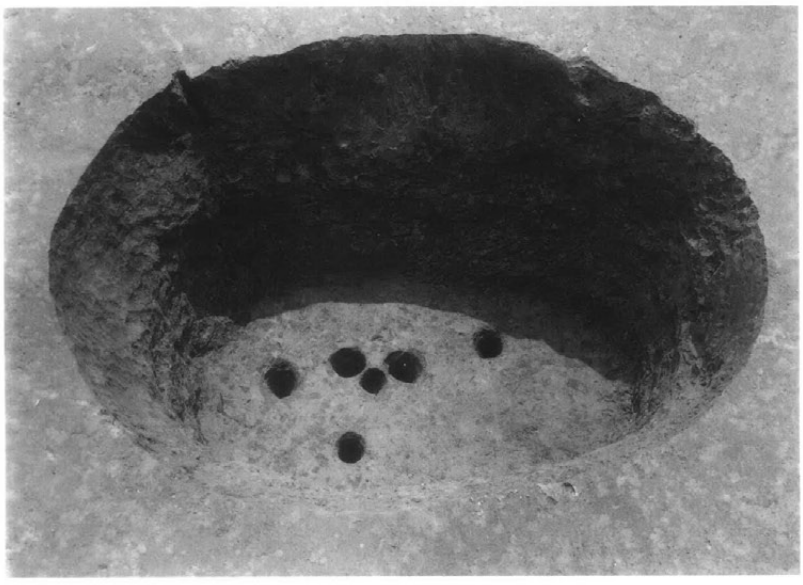
SC －15（東から）

写真図版31　縄文時代早期遺構⑧

SC －18（南東から）



SC －9（北西から）

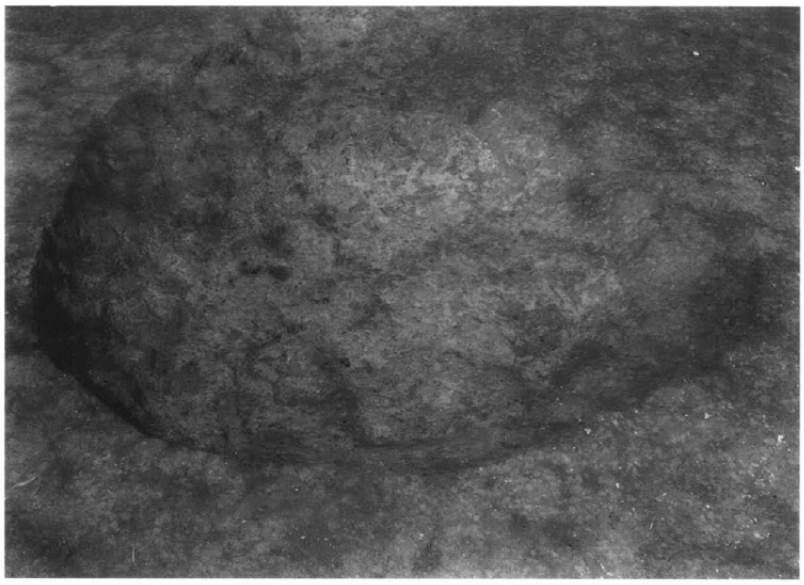


SC －11（東から）

写真図版32　縄文時代早期遺構⑨

SC －13《検出状況》
（南東から）

SC －13《礫及び遺物出土状況》
（南東から）



SC －13《完掘状況》
（南東から）

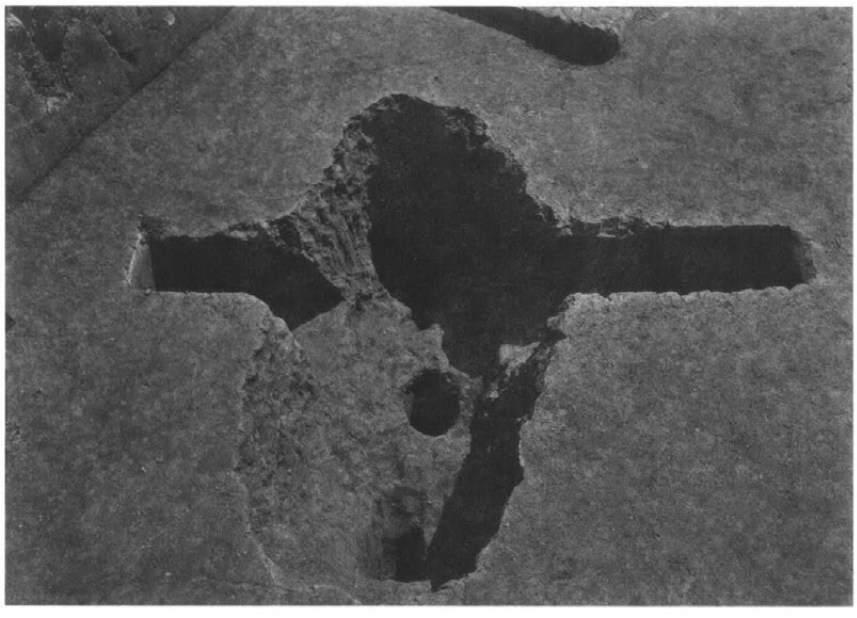
写真図版33　縄文時代早期遺構⑩

SC －14（南から）

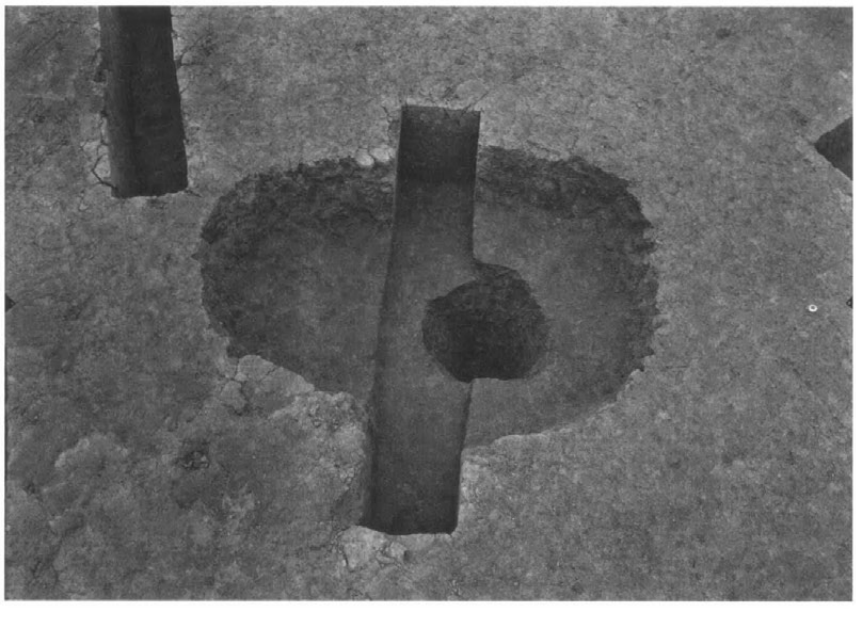
SC －24（北西から）

SC －25（北東から）

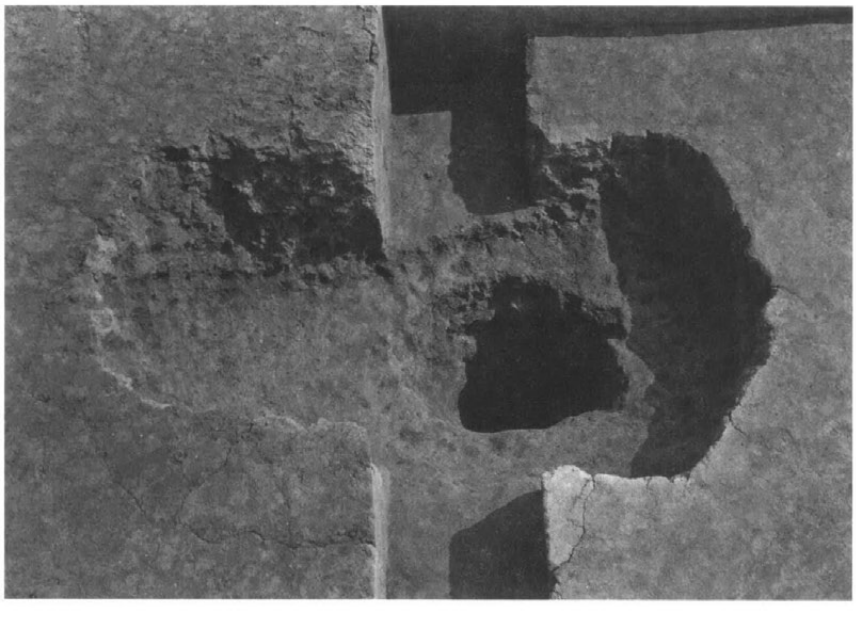
写真図版34　縄文時代早期遺構⑪



SC －21・27（北西から）

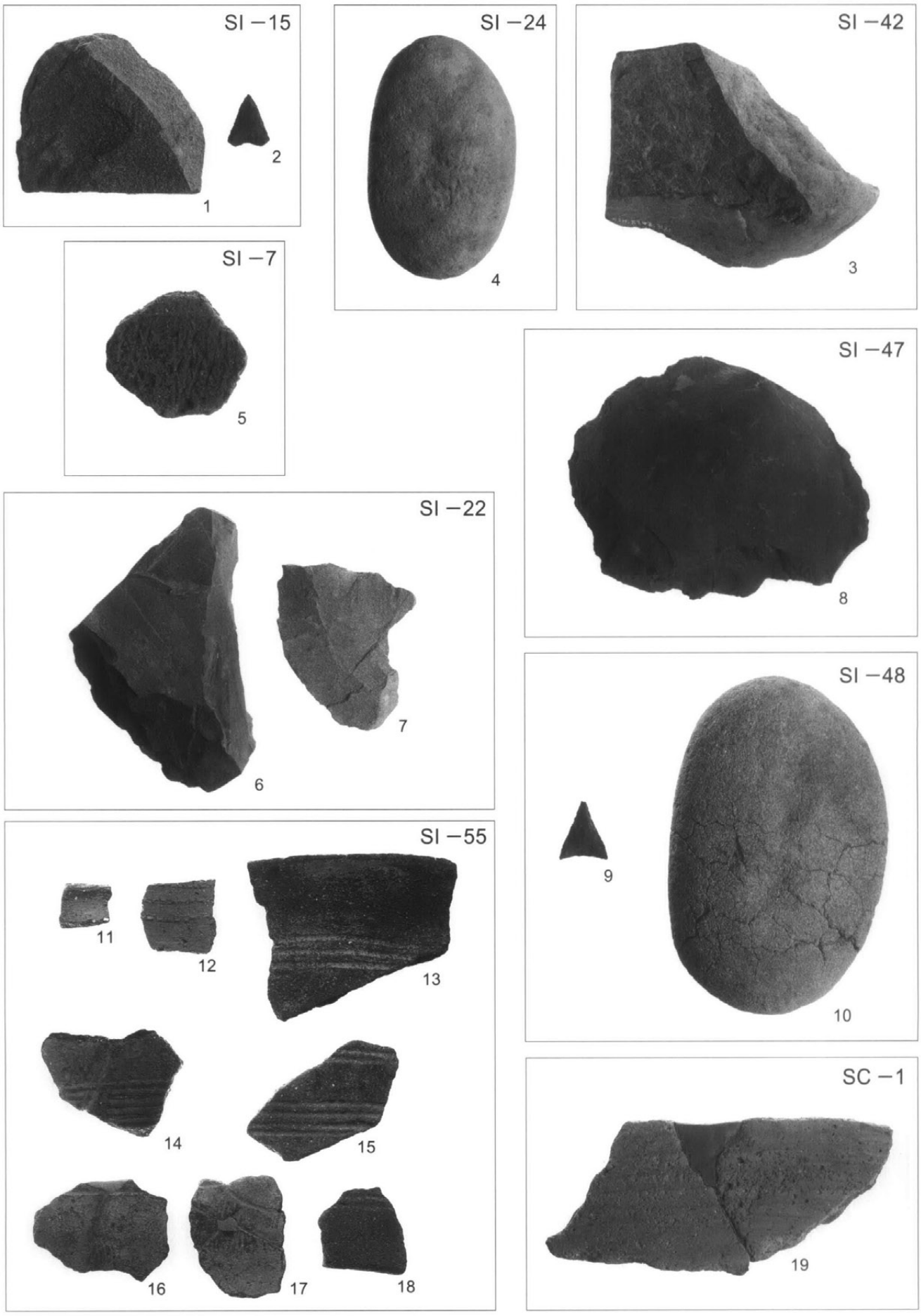


SC －26（南東から）

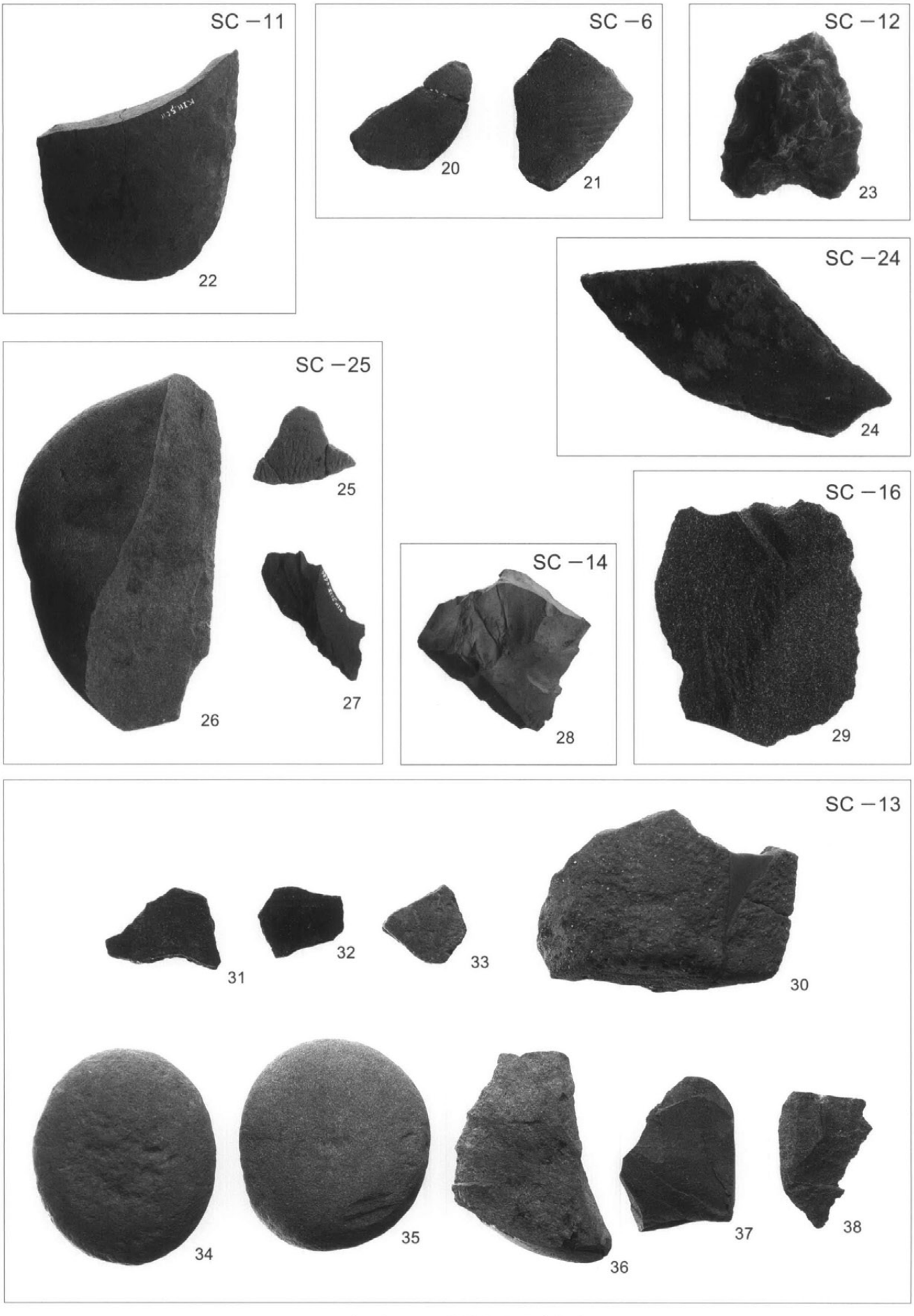


SC －22（南から）

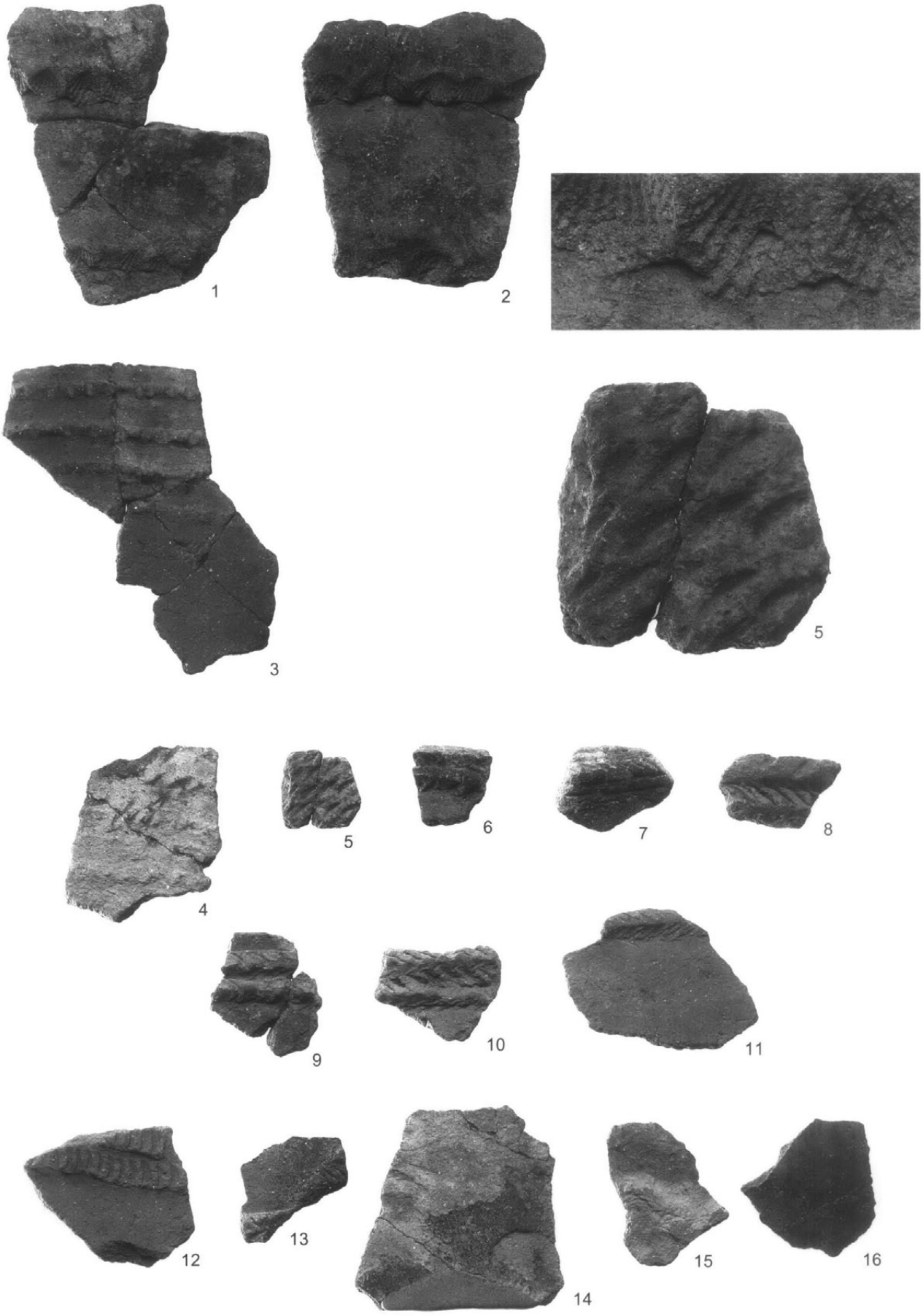
写真図版35　縄文時代早期遺構⑫



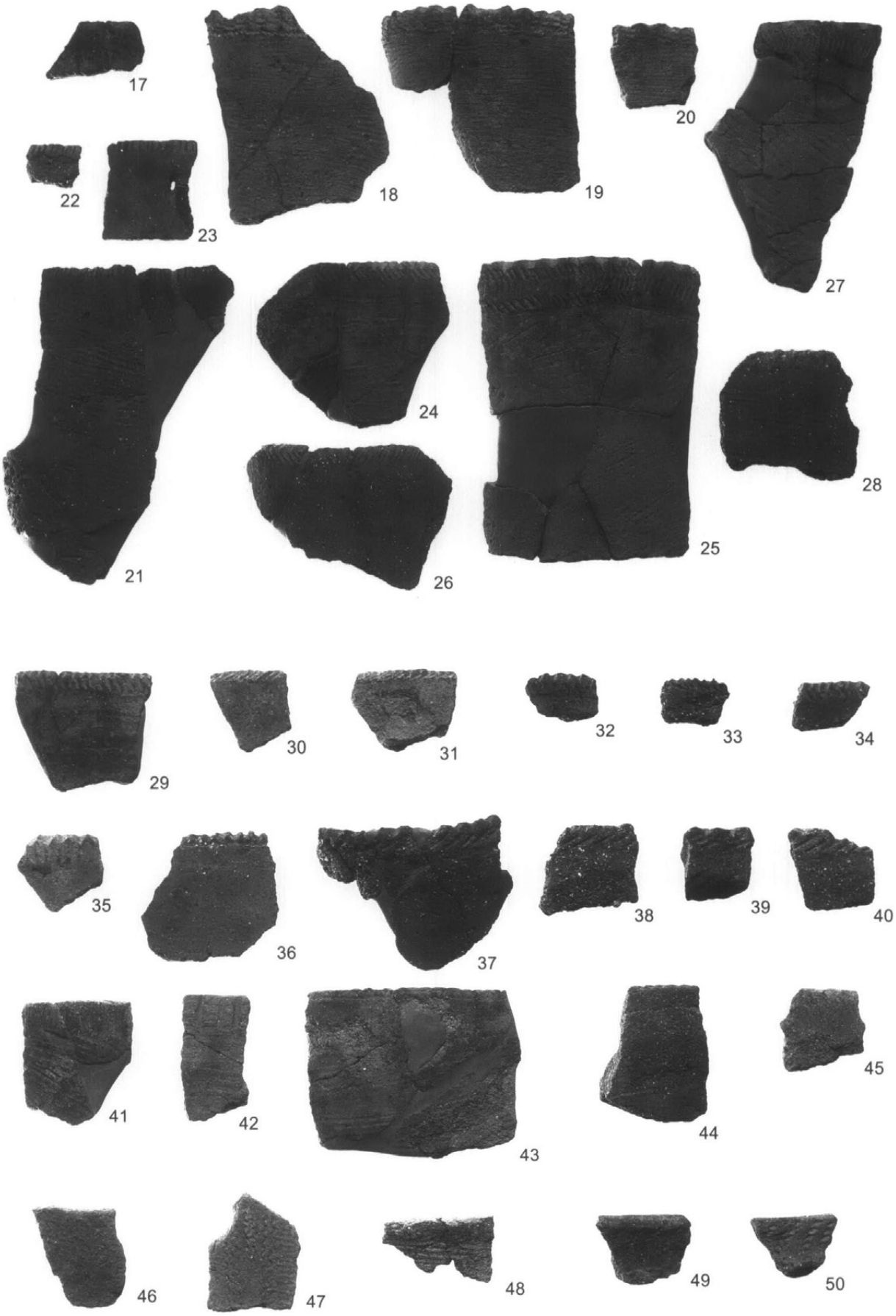
写真図版36　遺構内出土遺物①



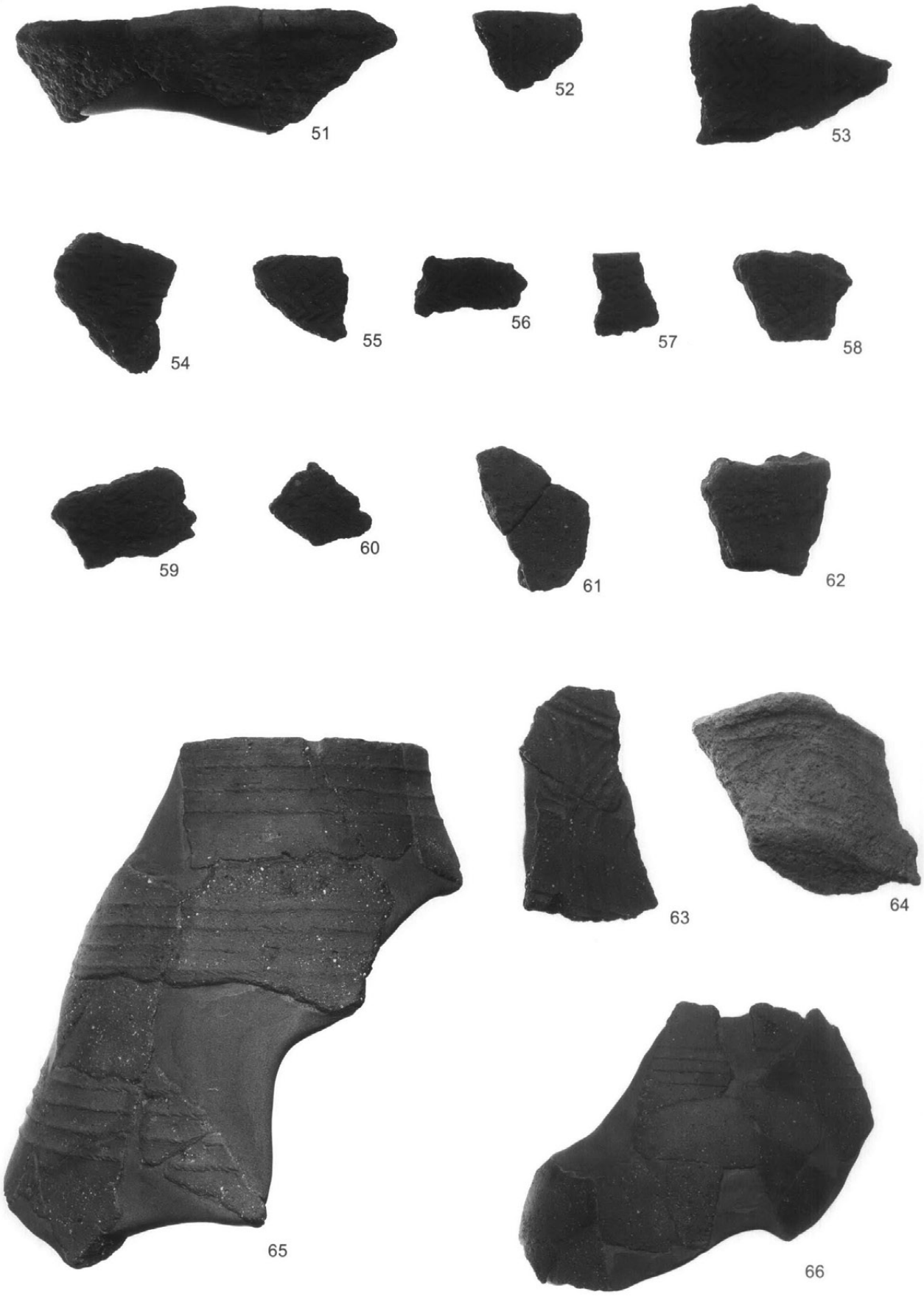
写真図版37　遺構内出土遺物②



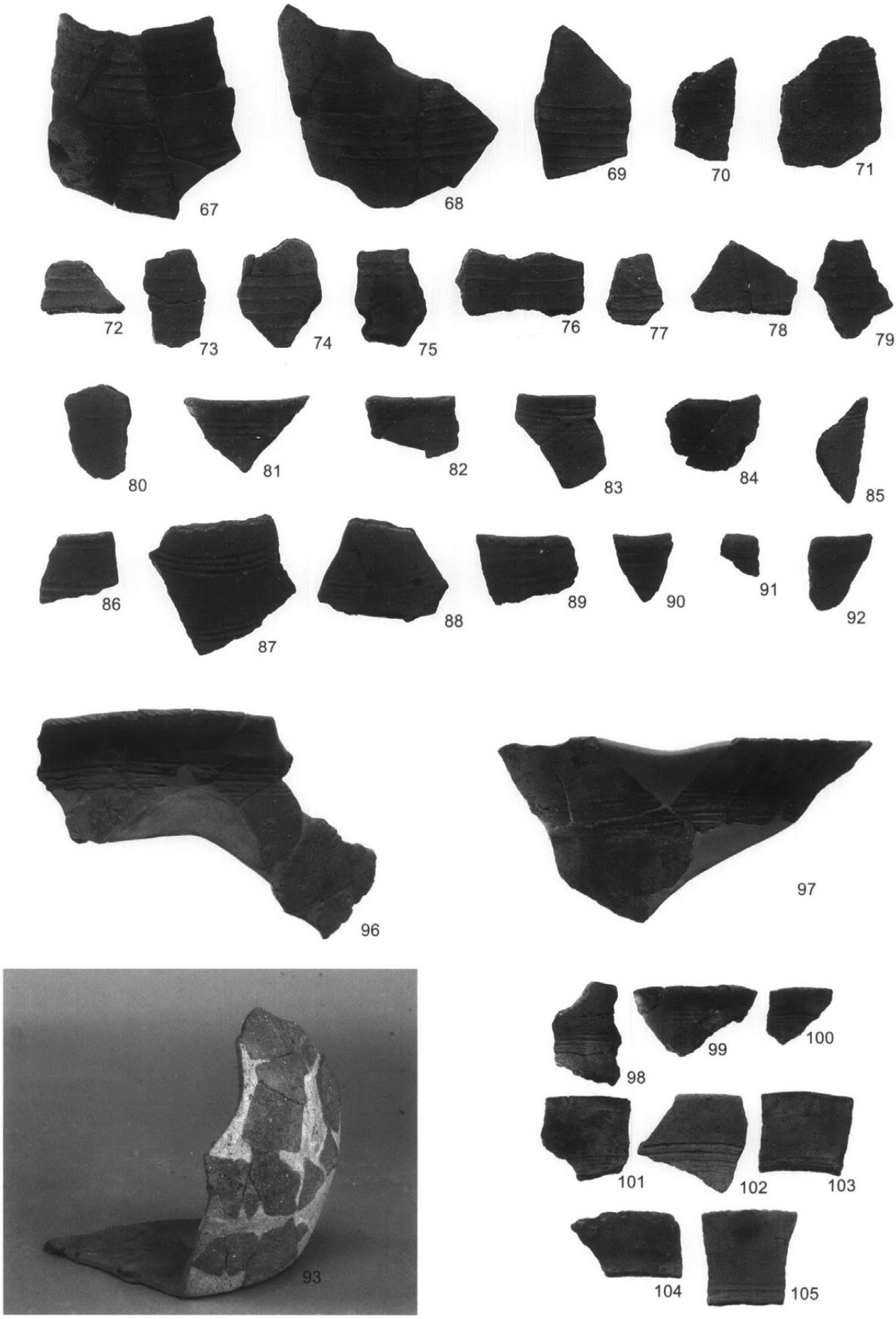
写真図版38　縄文時代草創期遺物包含層出土土器



写真図版39　縄文時代早期遺物包含層出土土器①

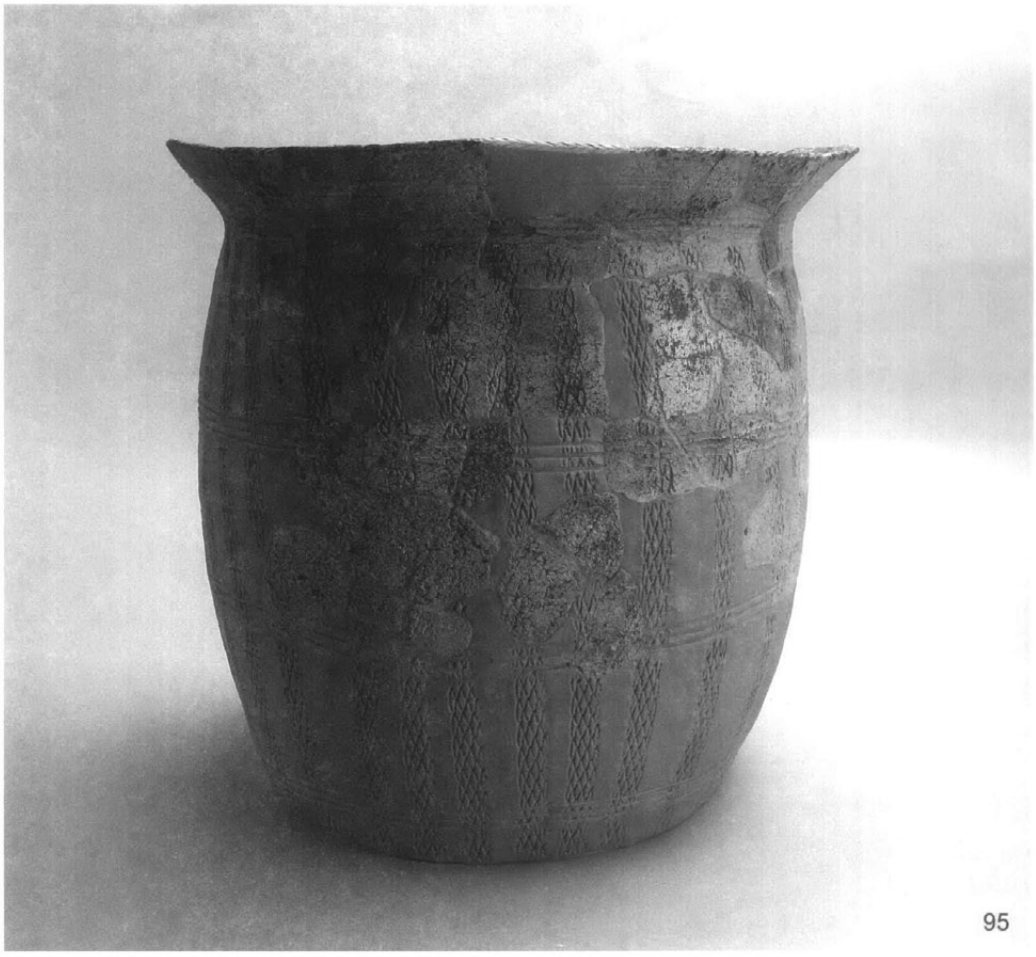


写真図版40　縄文時代早期遺物包含層出土土器②



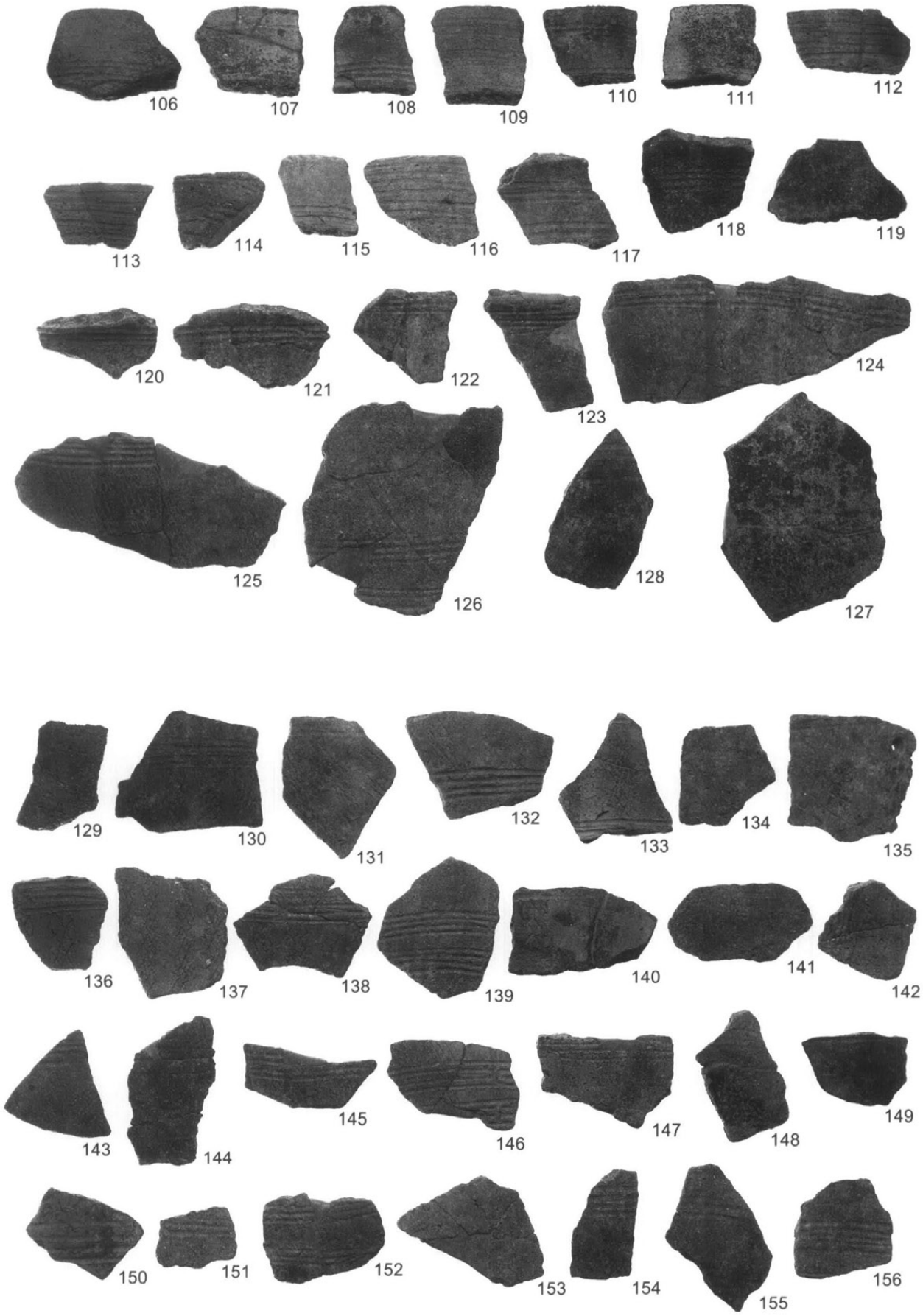
写真図版41　縄文時代早期遺物包含層出土土器③

94

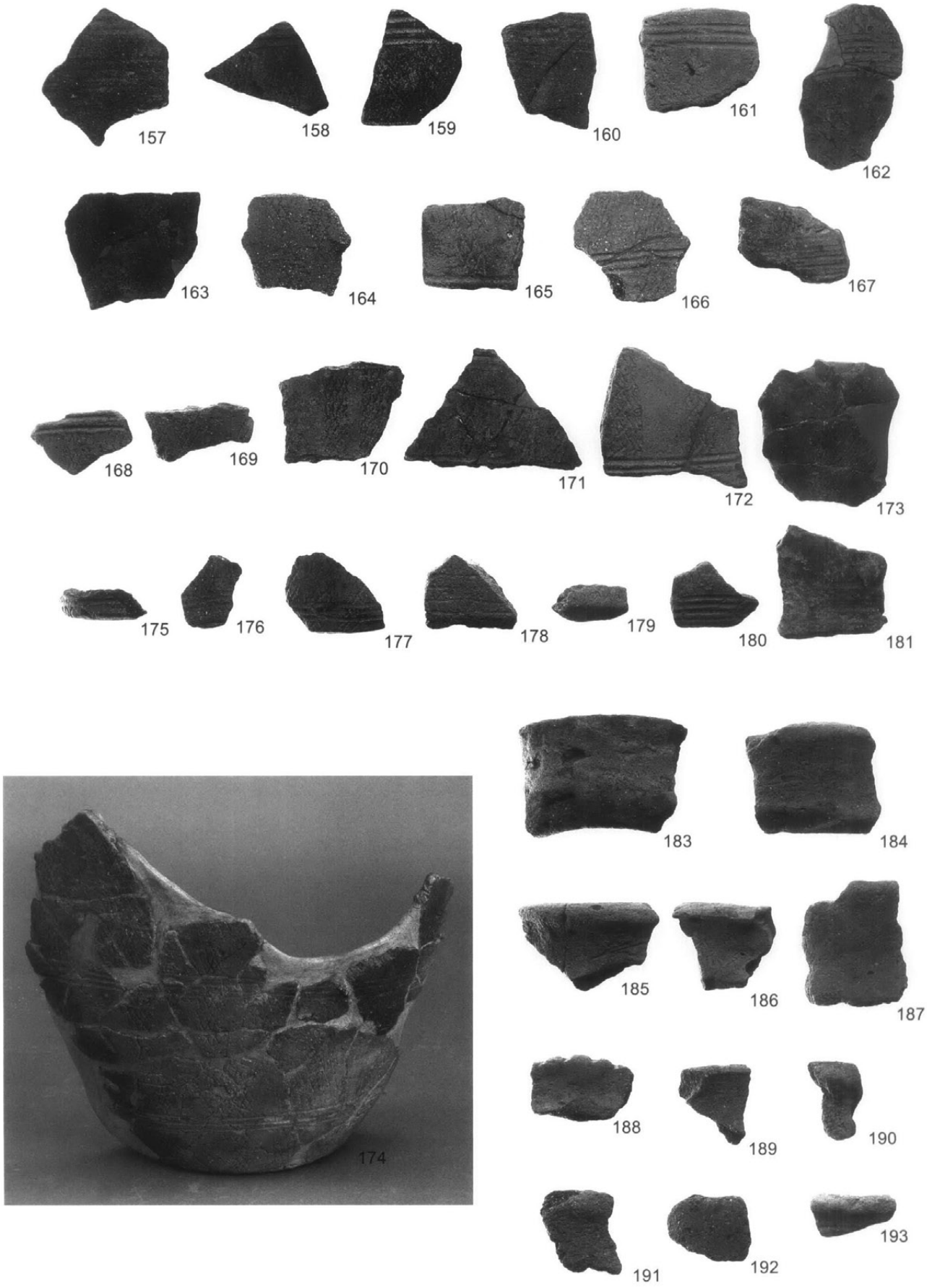


95

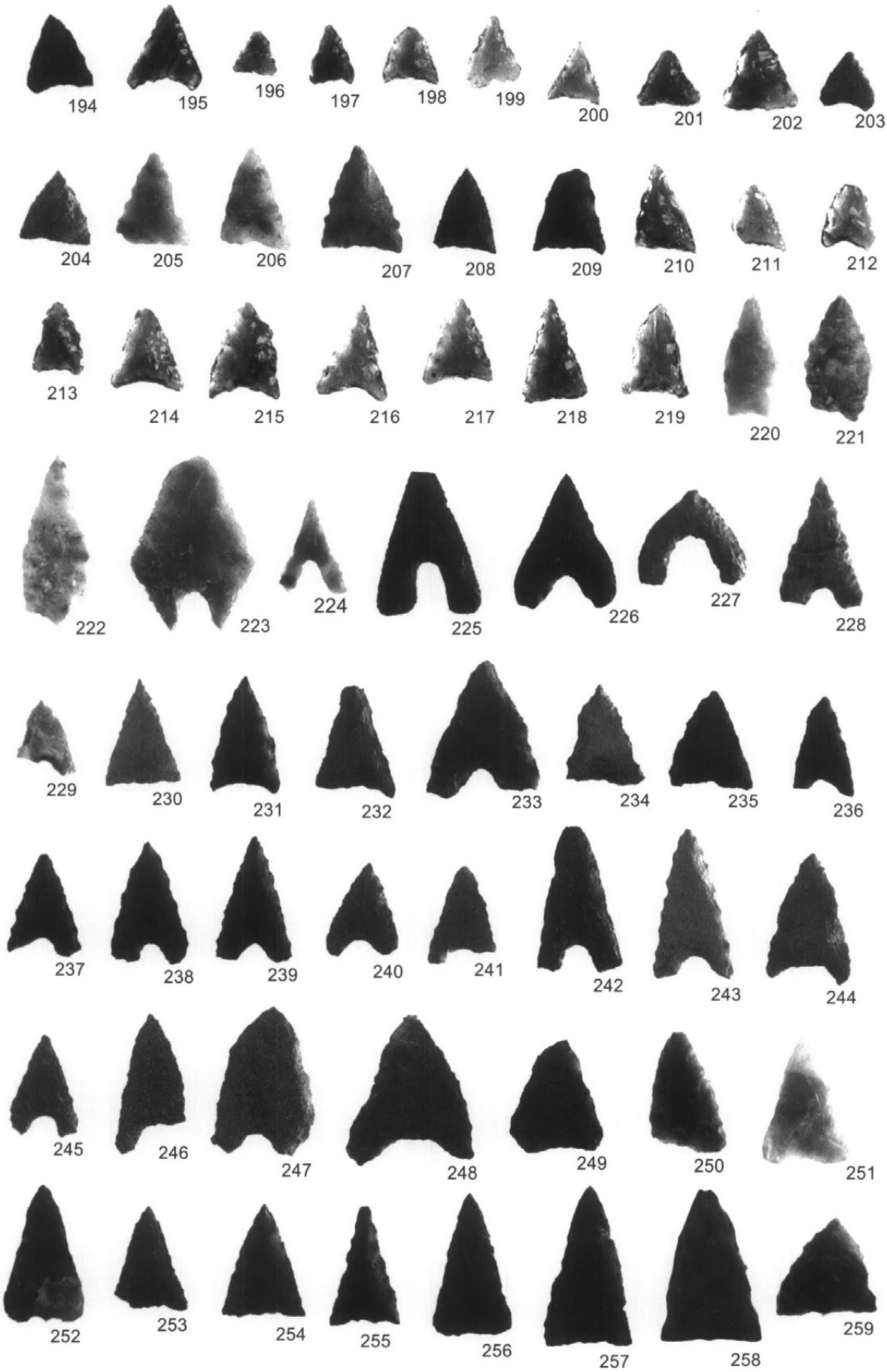
写真図版42　縄文時代早期遺物包含層出土土器④



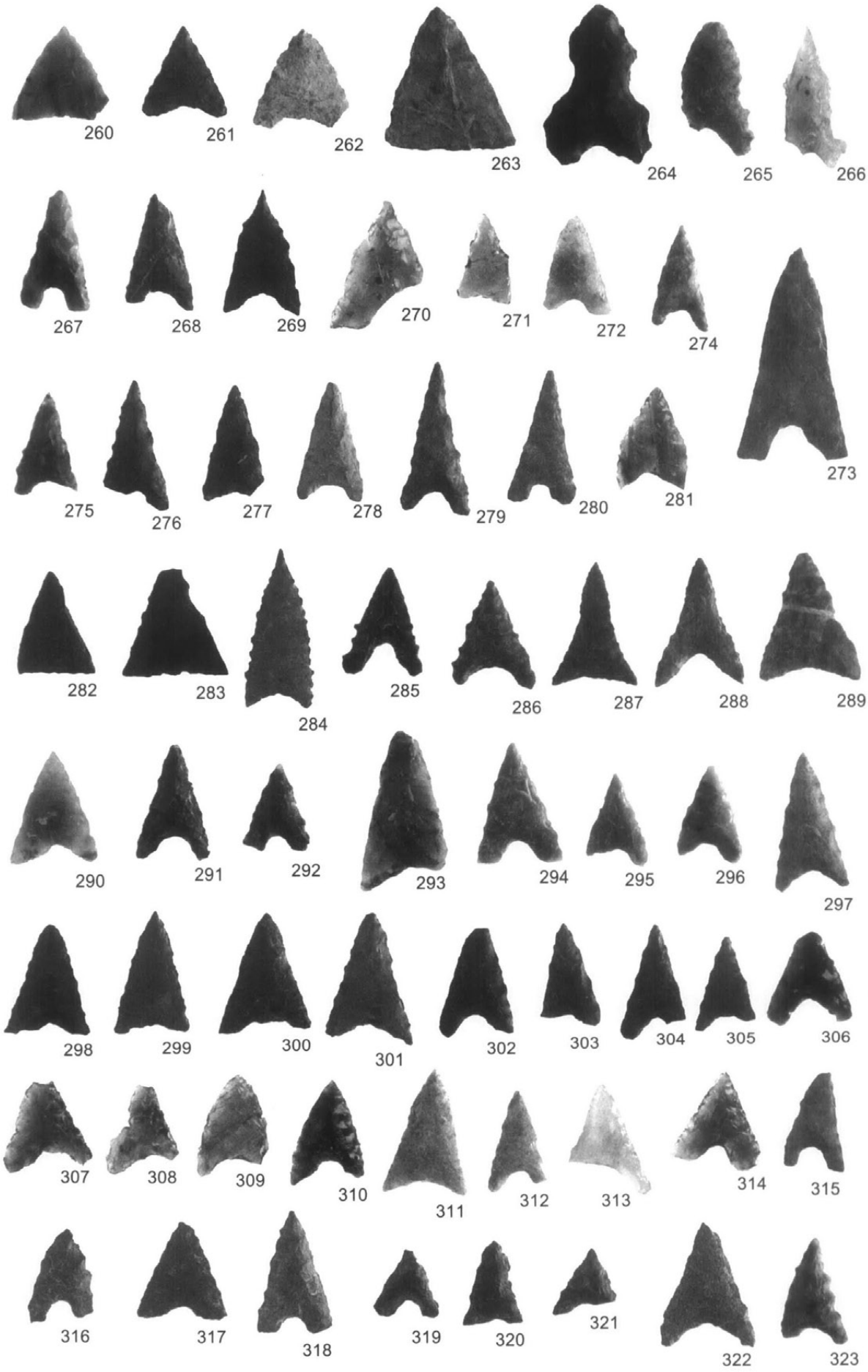
写真図版43　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑤



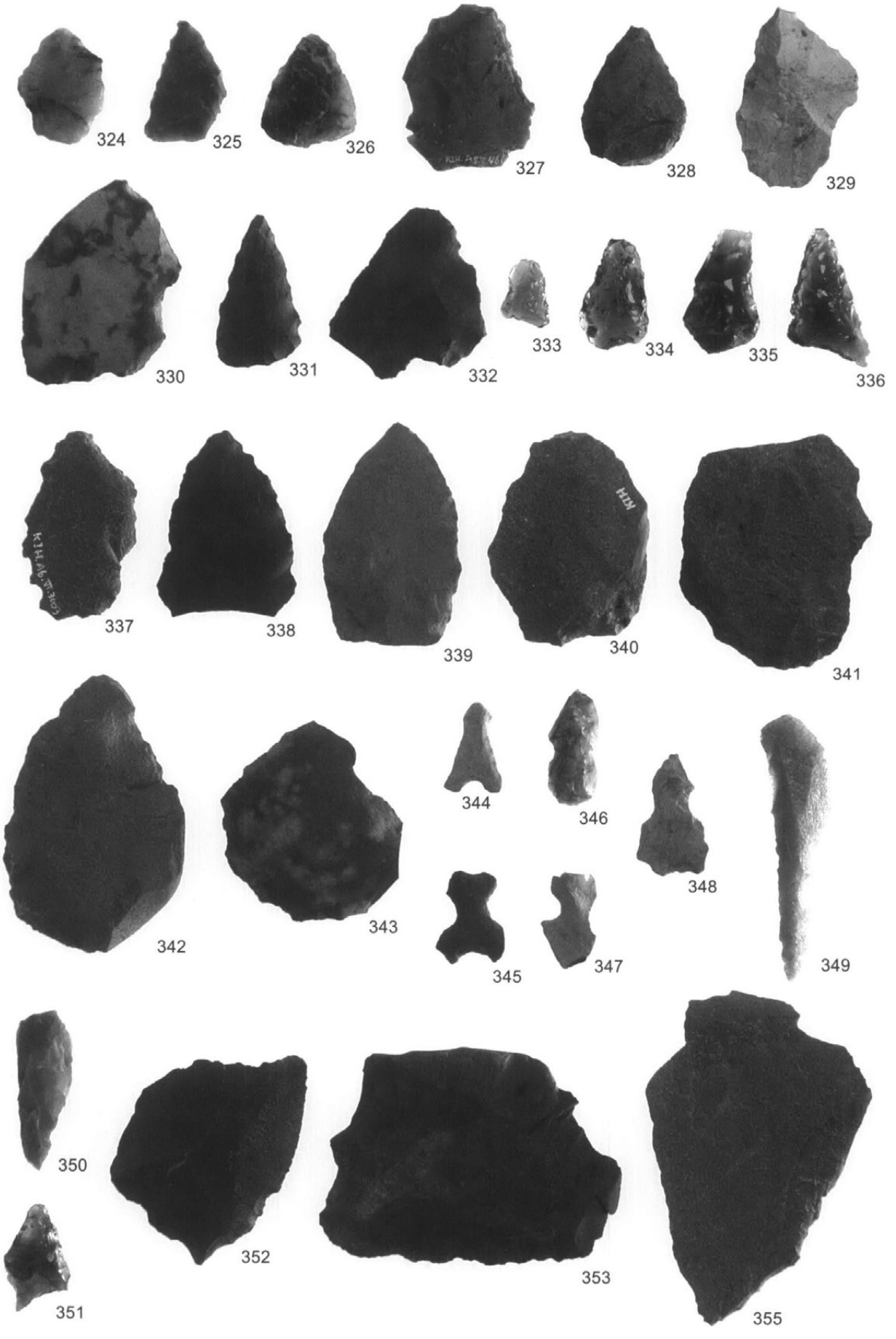
写真図版44　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑥及び土製品



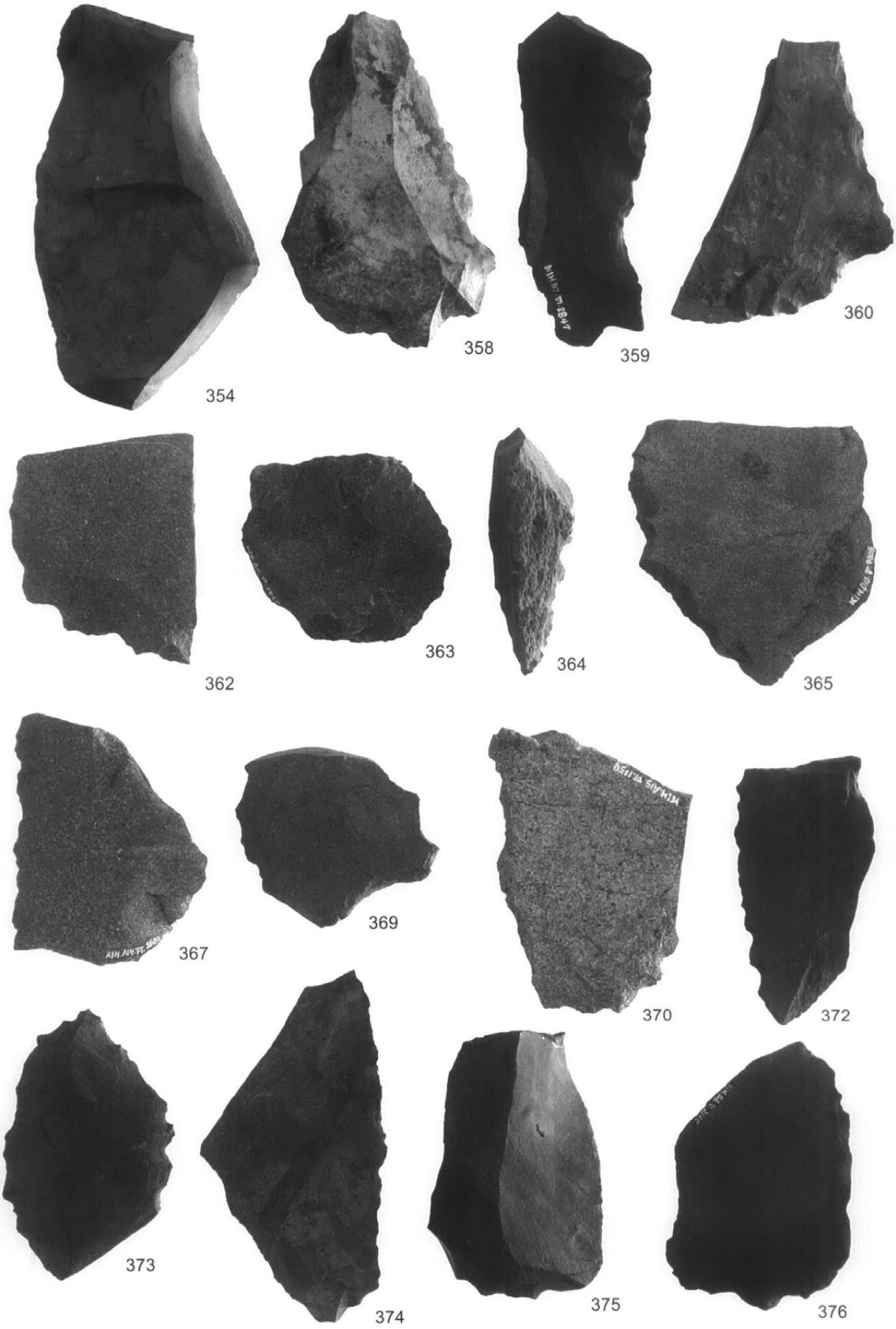
写真図版45　縄文時代早期遺物包含層出土石器①



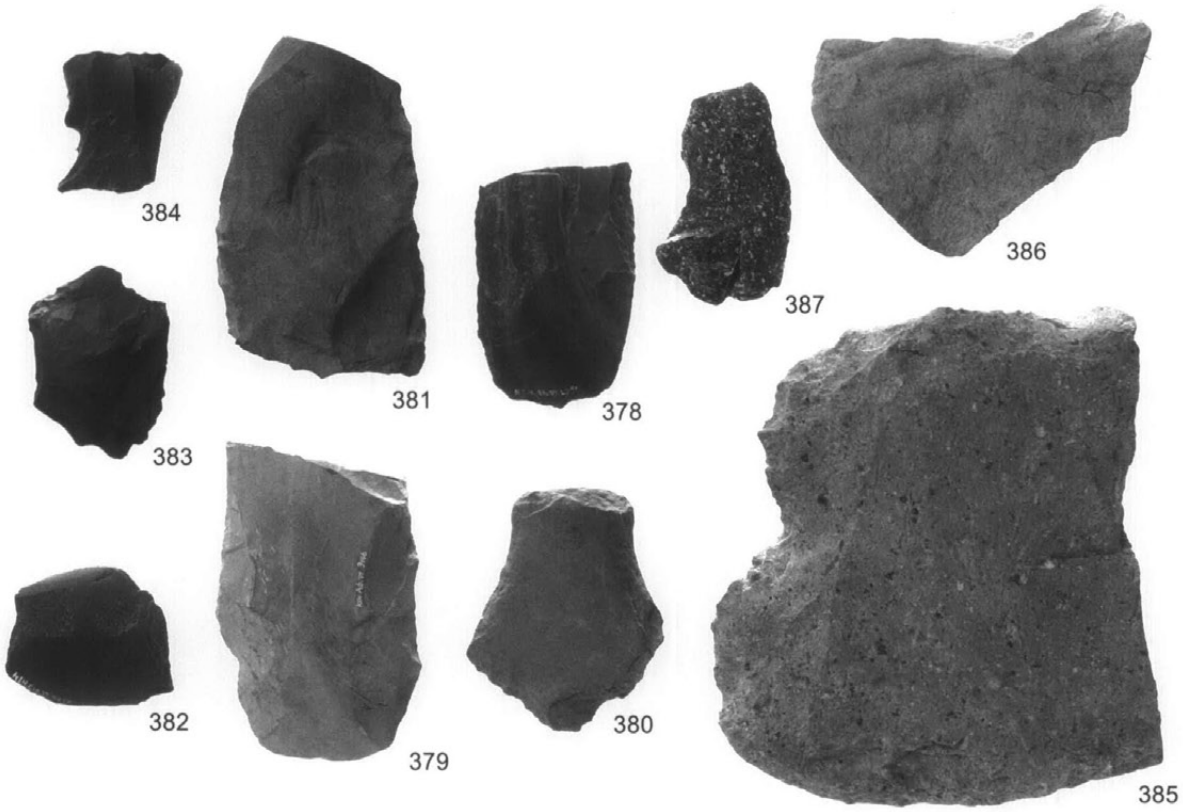
写真図版46　縄文時代早期遺物包含層出土石器②



写真図版47　縄文時代早期遺物包含層出土石器③



写真図版48　縄文時代早期遺物包含層出土石器④



写真図版49　縄文時代早期遺物包含層出土石器⑤